

DAILY[®] PROGRAM

高校

世界史

《見本》

1

人類は、その出現以来ひじょうに長い年月をかけて文明を築きあげました。この巻では、人類の出現と、専制的なオリエント世界の文明および、自由で民主的な地中海世界の文明を学習します。

古代 1

先史，オリエント・地中海世界

第 1 日	文明のはじまり，オリエントと地中海世界……………2
第 2 日	人類の進化……………10
第 3 日	文明の誕生……………18
第 4 日	メソポタミア・小アジアとエジプト……………26
第 5 日	地中海東岸の民族・古代オリエントの統一……………34
第 6 日	古代オリエントのまとめ……………42
第 7 日	ギリシア世界 I ……………50
第 8 日	ギリシア世界 II ……………58
第 9 日	ギリシア世界 III ……………66
第 10 日	ヘレニズム世界……………74
第 11 日	ローマ帝国と地中海世界 I ……………82
第 12 日	ローマ帝国と地中海世界 II ……………91
第 13 日	ローマ帝国と地中海世界 III ……………100
第 14 日	キリスト教の成立と発展……………108
第 15 日	イラン古代文明の発展……………116
第 16 日	確認テスト……………124
付 録	入試問題コーナー……………132

〈1日に1日分ずつ学習していこう〉

- 高校世界史の学習内容を十分身につけられるようになっています。
- 巻の構成と内容は、表紙裏の“学習予定表”に示してあります。
- 1巻は、10日～20日前後の学習日にわけてあります。
- 学習日には、通常の学習のほかに、次の特色を設けてあります。
 - 1 各巻の最初に、概説の日があります。
→その巻の内容の大きな流れをつかもう
 - 2 各巻の途中に、主題学習をつくってあります。
→通常学習とは異なった目で歴史をつかもう
 - 3 10日程の学習のまとめりごとに、確認テストの日があります。
→そこまでの学習内容が確実に身についたかチェックしよう
 - 4 各巻の末尾に、付録として入試問題コーナーがあります。
→基本的な入試問題を収めてあります。余裕があれば取り組もう

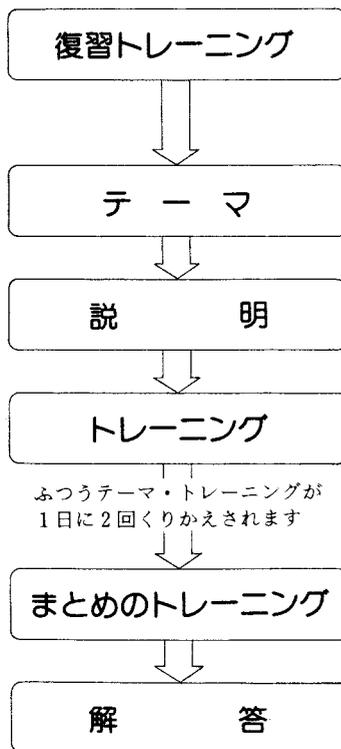
〈トレペの用語の使い方〉

世界史トレーニングペーパーでは、外国語の表記をなるべく原音に近く、同時に読みやすいカタカナで表わしています。また、歴史の用語についても、一般によく使われている表記を採用しています。

使っている教科書や学校の授業と異なる場合には、教科書（授業）で習った用語で勉強を進めてかまいません。

〈1日の学習を効果的に進めよう〉

(1日の構成例)



すでに習ったことで、きょうの学習のもとになることがらを復習します。

→答え合わせをしてから先に進もう

どんなことを学習するのか、学習のねらいを示してあります。

→目標をはっきり見すえて、学習を進めよう

図や表を使って、「テーマ」の中身をわかりやすく解説します。

→よく読んで、理解を深めよう

「テーマ」「説明」の内容を身につけるための学習です。やさしい問題からむずかしい問題へ、ステップをふんでつくられています。

→どんどんトレペに書きこみながら進めよう

トレーニングで養った実力を、さらに高める練習です。

→学習のひとまとめりごとに、実力を高めよう

復習トレーニングと概説の日のトレーニングの解答はそのページの下、そのほかのトレーニング、確認テスト、付録の解答は巻末にあります。

→答え合わせも学習のうち、1問1問しつかり答え合わせをしよう

文明のはじまり, オリエントと地中海世界

この巻では、人類史の概観と文明の発生による古代社会（オリエント・ギリシア・ローマ・イラン）の展開をながめてみよう。人類は400万年にもものぼる歴史を有するが、大部分は自然に依存する狩猟・採集の生活であった。この間に人類は類人猿から進化し、文化を発展させていったのである。人類は農耕・牧畜を開始することによって社会組織を形成するが、これは同時に文明社会への展開でもあった。生産力の増強により貧富の差が生じ、これを前提に階級国家が登場する。エジプトとメソポタミアでは大河の治水灌漑かんがいを通して専制的国家が成立し、のちにオリエントとして統一された。イランの歴史も基本的にはオリエントを継承するものであった。ところがギリシア・ローマは専制国家の形態をとらず、自由な市民の共同体である都市国家の形態をとった。のちにローマ帝国として地中海世界が形成されると、オリエント的専制国家になっていくが、そこに形成された合理的文化（ヘレニズム）はユダヤ教から発展したキリスト教（ヘブライズム）とともに、ヨーロッパの基本精神となっていたのである。

プロローグ

◆古代社会を支えた奴隷制

人類が農耕・牧畜を開始して定住生活にはいったころは、生産力が低いためみんなが協力して働かなければならなかった。ところが生産力があがって分業が進み、周囲との交易がおこると貧富の差が生じてきた。その結果、古代社会では、支配者として強大な権力をもつ王、それにつかえる官僚、宗教を司る神官がおり、被支配階級として国王に従属する一般人民や奴隷がいた。とくにギリシアやローマは自由民と奴隷を基本として成り立っていた。ギリシア・ローマは合理的文化を生み出したが、それは自由民が奴隷を物とみなして彼らに労働をまかせていたからである。この時代の建造物として今も残っているエジプトのピラミッドやアテネのパルテノン神殿、ローマのコロッセウムなどはすべて奴隷の強制労働と人海戦術のもとにつくられたものである。あのクフ王のピラミッドはギリシアの歴史家ヘロドトスによると、10万の奴隷を3か月交代で常時働かせて40年の歳月をかけてつくられたという。またローマの市民（とくに没落中小農民の最下層である無産市民）は、コロッセウムにおいて奴隷剣闘士同士や野獣との死をかけた争いを見ることによって、日ごろの不満を解消したのである。奴隷の存在はこの時代の経済、文化を根底で支えていたといえるのではないだろうか。

西 ア ジ ア	2550	エ	ラ	ム	王	国	イラン民族 625	メ デ イ ア	330	ヘ レ ニ ズ ム 諸 国 家 ア レ ク サ ン ド ロ ス の 帝 国				
	1650	ヒッタイト	1200	800	フリギア	リディア	640	547	ベル シ ア 帝 国					
フ エ ト ジ	2371	2230	2113	2096	1894	ア ッ シ リ ア 帝 国	680	612	新 バ ビ ロ ニ ア	マ ケ ド ニ ア				
	1545	1115	710	732	アラム	アラム王国	928	677	ユ ダ 王 国					
地 中 海 世 界	2686	エ	ジ	2181	2010	中 王 国	1786	1567	新 王 国	1200	統一王国	664	325	サイ ス 王 朝
	初期王朝	古王国時代	ク レ タ 文 明	ミ ケ ー ネ 文 明	ギリシア都市国家	エトルリア	753 (王政)	509	ローマ (共和政)	814	カ ル タ ゴ			

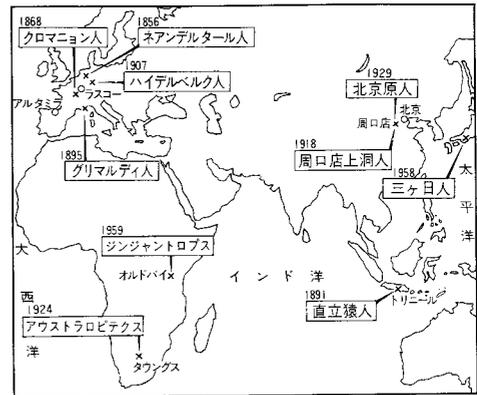
古代オリエント・地中海世界年表

先史時代と文明の発生

※人類史の大半は先史時代

人類の400万年にのぼる歴史は、文字の発明を通して前半を先史時代、後半を歴史時代と分ける。しかし、文字の発明がなされたのは数千年前にすぎないので、人類史の大部分は先史時代といってよい。

この間、人類は類人猿から進化し、そのあかしとして文化を発展させてきた。とくに道具の発展過程は文化の発展と軌を一にするものであり、この点から歴史を概観すると、先史時代に対応するのは石器時代、歴史時代に対応するのは金属器時代である。人類は長い間の道具の改良を通して生産力を高め、今日に至ったといえる。なお、文字の発明は貧富の差を前提とする国家の成立や金属器の使用と同時代である。



化石人類が最初に発見された場所

化石人類とは更新世に生存していた人類のことをいい、古生人類ともいう。

※人類の誕生と進化

19世紀後半、イギリスのダーウィンによって、人類を含む生物の進化が種の保存を通してなされることが明らかとなった。それ以来、化石人骨の発見・研究を通して、現在のところ人類は400万年にのぼる歴史をもっていることがわかる。いうまでもなく人類は類人猿から進化し、その過程は、古生人類と現生人類の2つに分けることができる。古生人類はまた、猿人・原人・旧人の過程を経るが、この時代は気候の変動の激しい更新世(洪積世)であったため、進化は実にゆったりしていた。

ところが5～3万年前になると、現代人に直接連なる現生人類(新人)が登場した。彼らは豊かな知能をもとに経済・文化を充実させた。アルタミラ・ラスコーの洞穴絵画はその一端をよく示すものといえるが、この時代は人類の進化と同時に道具・火・言葉などを使用して文化を発展させた時代でもある。道具は打製石器を使用した関係で、この時代は旧石器時代と呼ばれている。また群社会を構成しながら、自然に依存する狩猟・採集生活を送っていた。

※農耕・牧畜生活の開始と文明の発生

磨製石器を使用した新石器時代にはいると、人類は農耕・牧畜による定住生活を開始した。この画期的な出来事を、食料生産革命と呼んでいる。この定住生活を反映して、氏族社会が同一の血縁のもとに形成された。そしてこの社会を維持するため、各成員は協力しあい、またそのために原始宗教(アニミズム・トーテミズム・シャーマニズム)が利用された。この時代を代表する遺物として、巨石記念物や貝塚がある。日本の縄文文化もこれに属している。

オリエン特で開始されたこの生活様式は各地に伝えられていくが、時代的には前8000～前7000年のこととされている。氏族社会に生産力が発展してくると分業が登場し、周囲との交易が活発化してきた。この結果、貧富の差が大きくなって階級が成立し、神殿を中心に都市国家が形成された。



巨石記念物

青銅器が使用され、文字が発明されたのもこの時期で、こうして人類は歴史時代へ突入していったのである。世界最古の四大文明やアメリカ大陸の古代文明は、この歴史時代の最初のものといえることができるだろう。

古代オリент社会

◆地理的条件と文明 —オリент—

エジプトとメソポタミアを通して世界最古の文明が展開した。この地域はオリент世界を形成するが、ともにナイル川とティグリス・ユーフラテス両河の定期的氾濫^{はんらん}を利用して農耕生活を展開し、その治水・灌漑^{かんがい}を促して強大な専制国家を形成していった。オリентでは一般に専制君主の権力と宗教、およびそれを司る神官の権威が強くと、人民の自由は著しく制限され、その下には奴隷も存在した。実用科学は早くから発達したが、真の科学が生まれなかったのはそのためである。

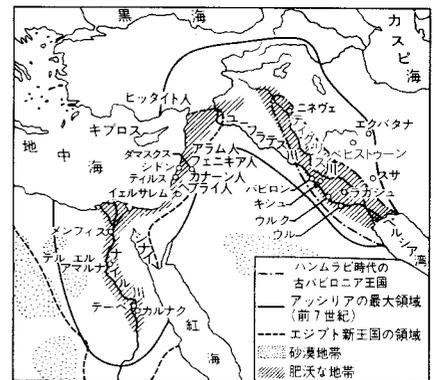


楽器を演奏する女たち

◆ナイル川とエジプト王国

エジプトでは、ナイル川支流の治水を通して形成された都市国家が、ナイル川の大規模な治水・灌漑を統率した強大な王権によって統一された。エジプトの歴史は、まさに、「ナイルの賜^{たまもの}」であったのである。エジプトの統一国家の歴史は、前525年にペルシアに征服されるまで、約2500年続き、この間26王朝が交替した。通常これを古王国・中王国・新王国に区分する。

古王国はピラミッドに代表され、中王国はテーベの連合政治の時代である。異民族のヒクソスの侵入を許したのもこの時代であった。新王国はテーベの貴族がヒクソスを撃退し、シリア方面を侵略したので「帝国時代」とも呼ばれる。この時代の特徴は、テーベの神官勢力とアメンホテプ4世の権力争いを生んだ、王の一代かぎりで失敗に終わった宗教改革運動に求められる。なお、ナイル川の定期的洪水の観察から生まれた太陽暦は、現在わたしたちが使っている暦のもとになっている。



古代オリент

◆メソポタミアの諸国家

メソポタミアは開放的な土地のため多くの民族が活躍し、民族国家の興亡の歴史を展開した。まずシュメール人が登場し、ティグリス・ユーフラテス両河下流域に神殿中心の多数の都市国家を形成した。しかし、彼らはアッカド人の支配を受け、その両文化の融合のもとにメソポタミア文明の基礎ができあがった。その後、一時シュメールが復活したが、アムル人がバビロニアを舞台に台頭し、ハンムラビ王のもとに全メソポタミアを統一した。彼はこの大専制国家を統治するために、ハンムラビ法典を制定したが、この法典の刑法は復讐^{ふくしゅう}法に基づくものであった。この時点までは、エジプトとメソポタミアは別個の歴史を展開してきたが、インド=ヨーロッパ語族が侵入してきたことによって両者の厚い壁は取り払われて、オリентの統一を促進することになった。とくにヒッタイトの使用した鉄製の武器とその生産への応用は、オリентの統一を予告するものであった。

◆地中海東岸における弱小民族の活躍

前10世紀前後の数世紀は、大国が姿を消したので、地中海東岸のセム系弱小民族は特色ある活動をするようになった。この地域はシリア地方と呼ばれ、エジプト・メソポタミアのオリент世界と小アジアを結び、また西アジアと地中海を結ぶ接点に位置していたことがこれを可能にした。

アラム人はダマスクスを中心に陸上貿易で活躍したが、彼らとその商業活動の必要から作成した音標文字のアラム語は、後世の諸民族の文字文化に大きな影響を与えることになった。フェニキア人は地中海を舞台に航海民族として活躍し、沿岸各地に多くの植民市を建設した。とくに北アフリカに建設したカルタゴは強大となって、のちにローマと大戦争をひきおこすことになった。フェニキア人の歴史上の功績は、アルファベットをギリシアに伝えたことである。またヘブライ人は他民族支配下の長い歴史の中から、唯一神ヤハウェ（エホヴァ）と契約を結び、倫理的なユダヤ教を成立させた。これは多神教の古代社会においてきわめて特異な現象であり、古代社会が行きづまったとき、選民思想の民族宗教ユダヤ教から世界宗教としてのキリスト教として脱皮することになった。

※オリエントの統一

ティグリス川上流におこったセム系民族のアッシリアは、ヒッタイトから鉄器を学び、それをもとに全オリエントを統一した。しかし、その政治は武断政治であったために諸民族の反抗を招き、まもなく滅んでしまった。その後オリエントは、メディア・リディア・エジプト・新バビロニアの4国分立時代を展開していった。しかしメディアから独立したアケメネス朝ペルシアが諸国を次々に征服し、オリエントを再び統一した。この帝国の最盛期はダレイオス（ダリウス）1世の時代で、西はエーゲ海北岸、東はインダス川に及び、彼は巧みな政治を通して帝国を維持した。とりわけ、アッシリアとくらべ異民族に対して寛大な態度でのぞんでいることは重要といえる。また、この帝国のゾロアスター教は善悪の神の闘争を説き、ユダヤ教に大きな影響を与えた。

ギリシアとヘレニズム世界

※オリエントとギリシアを結ぶエーゲ文明

オリエント文明の影響を受けながらエーゲ海一帯にエーゲ文明が展開したのは、前20～前12世紀にかけてのことである。この文明はクレタ文明（ミノス文明）とギリシア人（アカイア人）の担ったミケーネ文明から構成される。このエーゲ文明は、19世紀末からシュリーマンやエヴァンズらによって発掘された結果、青銅器段階の都市文明で、オリエント的専制国家であることが明らかになった。しかし、ギリシア人（ドーリア人）の侵入によってミケーネ文明は徹底的に破壊され、ギリシアは数世紀にもおよぶ暗黒時代を経験することになった。

※ポリスの成立

この長い暗黒時代はギリシア人自らの手によって克服された。彼らは自由と平和を維持していくためにギリシアの風土を最大限に利用し、小地域ごとの氏族共同体を形成した。オリエントとちがいで、権力の弱い王に統率され、全自由民は平等の土地を所有した。しかし果樹は豊かであったが、穀物が不足しがちなため貿易が発達した。その結果、階級分化がおこり、貴族（のちに平民も）は奴隷から自分たちの利益を守るためにその地方の中心地に集住（シノイクスモス）した。ここに多くのポリスが成立することになったのである。ポリスの成立は王政から貴族政への移行でもあった。ポリス間の対立によって古代ギリシアでは統一国家をつくることはなかったが、市民はポリスの防衛と公共生活の充実に専念し、そのため生産活動は一切奴隷にまかせるという分業体制ができあがったのである。ここにギリシア文明の母胎ができあがったといえる。また、この文明は、異民族との接触の過程でギリシアの共有財産（オリンポス12神、オリンピアの競技会など）によってギリシア人を結集させ、この結果、ギリシア人は自分たちをヘレネスと呼び、異民族をバルバロイと呼んで軽蔑することになった。

※民主政治の展開と完成

前8～前6世紀にかけてギリシア人は人口の増加や政争などにより、地中海や黒海沿岸にたくさんの植民市を建設した。この過程は、同時に商工業の発展を意味するものであり、各ポリスでその恩恵に浴する平民が登場した。平民は自ら重装歩兵として武装することによってポリス防衛の主体となり、騎兵として政権を独占する貴族に挑戦することになった。他方では没落平民が奴隷となり、海外より流入する購買奴隷とともに奴隷制度に拍車をかけた。しかし、前6世紀初めアテネを中心に市民の奴隷化が防止され、奴隷制度に立脚した市民共同体が確立していった。多数のポリスのなかでも、例外的にとくに大きいアテネとスパルタは離合集散をくり返して、ギリシアの歴史を展開していった。アテネは財産政治、僭主政治^{せんしゆ}を通して貴族政治を打破し、重装歩兵民主政治を形成していった。スパルタは先住民を支配する過程で少数のスパルタ人が結束し、軍国主義体制をつくっていったが、スパルタ人自身をみれば、これまた徹底した重装歩兵民主政治のもとにあったといえる。他の多くのポリスもだいたい同じような過程を通して民主化していったのである。

この状況の中でペルシア戦争（前500～前449）が起こり、ギリシア軍はアテネ・スパルタを中心によく戦い、ペルシアを撃退した。この勝利は、オリエン트의専制政治に対するギリシア市民団の結束にあったといえる。この戦争で、主役を果たしたアテネはペルシアの復讐にそなえてつくられたデロス同盟の盟主としてギリシア世界に君臨することになった。そして、ペルシア戦争で活躍した無産市民の政治参加は、デロス同盟の資金を流用することで可能となり、ここに民主政治が完成したのである。

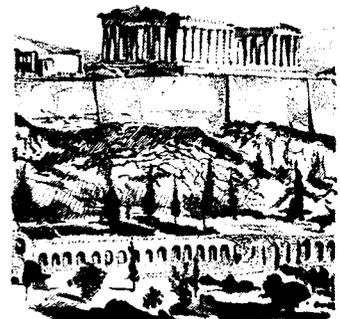
この民主政治の実体は奴隷・婦人・在留外国人を排除したものであるが、両親がアテネ人であれば、成年男子ならだれでも参加できる直接民主政治であった。

※民主政治の衰退とマケドニアの台頭

スパルタはアテネの繁栄をねたみ、ギリシアを二分したペロポネソス戦争をひきおこした。その当時のアテネは民主政治がくずれ、衆愚政治化^{しゆうぐ}していたためスパルタに敗れ、スパルタがギリシアの覇権を握った。しかしその覇権も長続きせず、テーベにその地位を奪われた。こうしたポリス間の激しい対立は農業を荒廃させ、貨幣経済の発展とあいまって、市民格差をつくりだしていった。この結果、ポリスは有産市民に私物化され、ポリスの防衛も市民皆兵から傭兵制度^{ようへい}に変わっていった。このようなポリスの衰退の中で、北方のマケドニアが台頭し、ギリシアを征服したのであった。

※アレクサンドロス大王とその時代

アレクサンドロス（アレクサンダー）大王に率いられたマケドニア・ギリシア連合軍は老大国ペルシアを征服し、ここに大帝国を形成した。そして、東西文化を融合したヘレニズム時代（前334～前30）を展開したが、大王が早死にしたため、この帝国は後継者によって分割された。この結果成立したのが、マケドニア・シリア・エジプトのヘレニズム3国である。しかし、結束を怠ったため、ローマによって次々と征服されていった。



アクロポリス

※ギリシア文化の背景

ギリシア文化は合理精神としてヨーロッパの基本精神になったが、それはすべてポリスとしての市民共同体を通して展開したものであり、その根底には奴隷制度が深くかかわっていたのである。ポリスの没落により、その規制のなくなったヘレニズム文化が、それと対照的な発展を示したのは必然的なことであったといえよう。

ローマ世界

◆拡大する軍事大国ローマ

前8世紀ごろのイタリア半島は様々な民族が分布していたが、その中のイタリア人の一派であるラテン人が都市国家ローマを形成した。そして前6世紀末にエトルリア人の支配を脱して、貴族共和政を確立した。ローマ社会は自由民と奴隷から構成されていたが、自由民のうちでも、貴族(大土地所有者)と平民(中小農民)の身分差は歴然としており、貴族が政権を独占した。平常時は二人の執政官(統領, コンサル)によって政治が行われ、非常時には独裁官が選出された。そして、貴族の終身議員からなる元老院が共和政の最高機関となった。この巧みな政治が、ローマをして大帝国を形成させたのである。

財力をつけ重装歩兵としてローマの維持, 拡大に貢献した平民は、貴族政治に対して参政権を要求する身分闘争をひき起こした。イタリア半島の征服過程は、民主政治への展開過程でもあった。しだいに平民は法律上の平等を勝ちとり、ローマは市民皆兵のもとに地中海世界の征服に乗り出していった。西地中海をめぐってカルタゴを3回のポエニ戦争(前264～前146)で破り、次いで東地中海のヘレニズム諸国を征服していった。

しかしこの大発展の裏には、ローマ市民団の分裂が起きていた。戦争の連続で中小市民は没落し、有力者は奴隷制農業にもとづき、大土地所有者として政治的・経済的実力を身につけていったのである。ここに共和政の危機が生じ、内乱の時代が始まった。グラックス兄弟は共和政の再建に努力したが、有力者の反対で失敗した。属州の反乱, 奴隷反乱などに対応するための軍事力の再建が急務となり、ここに市民皆兵に代わる傭兵制が導入された。無産市民を私兵とした有力者は軍閥となり、彼らは元老院を尊重するかいなかで閥族派と平民派に分かれて対立した。第1回三頭政治の勝利者カエサルは、この内乱を收拾したかにみえたが元老院の一派によって暗殺された。その後、彼の養子オクタヴィアヌスが第2回三頭政治を通して、エジプトのクレオパトラと結んだアントニウスの連合軍を破って地中海世界を統一し、内乱に終止符を打った。

◆「ローマの平和」とその解体

オクタヴィアヌスは、前27年元老院よりアウグストゥスの称号と全権を与えられ、元老院との共同統治の形式(元首政)をとったが、事実上は独裁君主であったので、ローマは帝政時代に入った。帝政期前半は五賢帝時代(96～180)に代表されるように、「ローマの平和」時代であった。「すべての道はローマに通ずる」といわれたこの時代は経済活動も盛んで各地に都市も建設され、諸外国との交易も活発であった。

しかし、一方では帝国崩壊のきざしもみえはじめ、奴隷制農業のゆきづまりの結果、ローマは商業経済が衰え、小作人

(コロヌス)を主体とする自然経済へ移行していった。帝国の統一は困難となり、軍人皇帝時代(235～284)となった。ディオクレティアヌス帝はこの現象をくいとめるために、元首政に代わってオリエン的な専制君主政を導入した。ここにギリシア・ローマの自由は完全に消滅したのである。彼は帝国を4分して統治したが、コンスタンティヌス帝は再度ローマ帝国を統一し、それまで迫害してきたキリスト教を公認して帝権の神聖化をはかった。その後、キリスト教はローマ帝国の国教とされ、世界的な宗教として発展していくが、その一方で、ローマ帝国の解体はいかんともしがたく、ついに395年、東西に分裂した。地中海を内海として大いに繁栄したローマ帝国の分裂は、ひとつの古代社会の終わりを意味するものでもあった。



ローマ帝国の最大領域

※キリスト教の成立と発展

小国ユダヤは、ユダヤ教のもとにその政治的な悲劇を克服しようとした。しかし、大国ローマの苛酷な搾取支配のなかでメシア（救世主）が待望された時、イエスが現れ、ユダヤ教の選民思想を批判し、民族を越えた愛の教えを説いた。この教えは彼の死後、弟子たちによって世界宗教であるキリスト教へと発展していくのである。

ローマへの反逆者としてイエスが十字架の刑に処せられたことと、キリスト教が成立し、それが広まっていったこと背景には、ローマ市民の共同体の解体という状況があった。そして、イエスの死が人類の罪をあがなしたとして、その復活が信じられた時、ペテロ・パウロらによるキリスト教の伝道が開始されたのである。

しかし、彼らを待ち受けていたのは、ローマ帝国による迫害であった。現世的な生き方を至上とするギリシア・ローマの世界観や皇帝崇拜との衝突が、250年におよぶ（ネロ帝～ディオクレティアヌス帝、64～313）迫害を生み出したのであった。

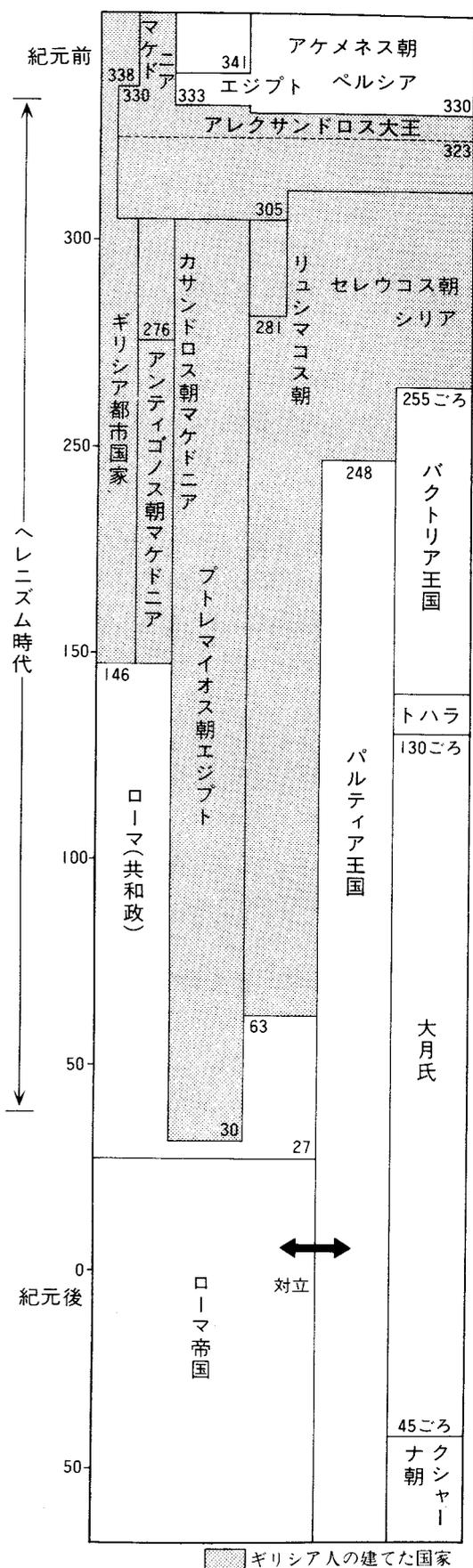
しかし、迫害にもかかわらず、神の国を期待するキリスト教は着実に勢力を伸ばし、ついにローマ帝国に公認されたのであった。ローマ帝国は、帝国の解体をくいとめるためにキリスト教の力を利用しなければならなかったのである。ローマ帝国とキリスト教の結びつきは、古代社会の終わりとキリスト教中心の中世ヨーロッパ社会の始まりを意味するものであった。

イラン文明

※イラン文化の復活

アレクサンドロス帝国の分裂後、ヘレニズム3国のひとつとしてセレウコス朝シリアがあったが、前3世紀半ばにこの中からイラン人のパルティアが独立した。この国は反ギリシア的民族国家として文化をおこしたが、3世紀前半に古代アケメネス朝ペルシアの復興をめざすササン朝ペルシアに滅ぼされた。ササン朝の形成したイラン文明の中心はゾロアスター教の国教としての復活である。

ササン朝はローマ帝国、ビザンツ（東ローマ）帝国、東方のクシャーナ朝インドと争って領土を拡大し、6世紀に全盛期をむかえた。また「海の道」に位置していたため、東西文化の交流に重要な役割を果たしたが、だいに衰え、651年にアラブ人に滅ぼされたのであった。



ヘレニズム諸国の興亡

最後にこの時代の歴史の流れを確認しておこう。

トレーニング

解答はこのページ

1 (先史, オリент・地中海世界) 次の問いに答えよ。

- (1) 農耕・牧畜の開始によって新石器時代に入るが、人類史400万年の中で1万年足らず前のことにすぎない。この時代の人々は、旧石器時代の打製石器に対してどのような石器を用いていたか。
[]
- (2) ナイル川流域のエジプトとティグリス・ユーフラテス川流域のメソポタミアには早くより都市国家が形成されたが、東方を意味するこの地方一帯の呼び名は何か。[]
- (3) 開放的な地形のため、諸民族の興亡がくり返されたメソポタミアで、バビロニアは法律によって帝国を統一した。この復讐法の原則に立つ成文法は何か。[]
- (4) 長い間ミタンニに服属していたアッシリアが、ヒッタイトから鉄器を学び、前7世紀前半に(2)の地域をはじめて統一したが、その後、この地方を統一した国はどこか。
[]
- (5) 前20～前12世紀にかけてクレタ（ミノス）文明とミケーネ文明から成る文明が栄えた。この文明は、オリент文明の影響を受け、それをのちのギリシア世界に伝えたことで重要である。これは何という文明か。[]
- (6) ギリシア文明は多くの都市国家（ポリス）を母胎として成り立っていたが、それらの都市国家のうち、当時最も繁栄していたアテネとの間にペロポネソス戦争を起こして、アテネを破ったのはどこか。[]
- (7) 前4世紀、ギリシア北方のマケドニアはこれらのギリシア都市国家を支配下に入れ、さらに東方の大国ペルシアをも征服して大帝国を形成した。これによって東西文化の交流がはかられ、一大文化圏が展開した。この大遠征を行ったマケドニアの王はだれか。
[]
- (8) 前6世紀末にエトルリア人の支配を脱して建国したローマは、しだいに領土を拡大し、西地中海の覇権をめぐるカルタゴと3回にわたる戦争を起こした。この戦争は何と呼ばれるか。
[]
- (9) このローマは帝国の崩壊をくいとめるために、当初迫害したキリスト教を帝国統治のバックボーンにすえた。キリスト教を公認した皇帝はだれか。[]
- (10) この時代に展開した諸文明はすべてローマに注ぎこまれた。この中で、ギリシア精神とキリスト教精神はヨーロッパを形成する二大精神となった。ギリシア精神はヘレニズムと呼ばれるが、これに対してキリスト教精神は何と呼ばれているか。[]
- (11) 3世紀前半、ヘレニズム文化の影響のもとに繁栄したパルティアを滅ぼし、古代アケメネス朝ペルシア再興をめざして建てられた国で、ゾロアスター教を国教とした国はどこか。
[]

◇トレーニングの解答◇

- 1 (1)磨製石器 (2)オリент (3)ハンムラビ法典 (4)アケメネス朝ペルシア (5)エーゲ文明
(6)スパルタ (7)アレクサンドロス大王 (8)ポエニ戦争 (9)コンスタンティヌス帝 (10)ヘブライズム
(11)ササン朝ペルシア

テーマ1 人類の進化

テーマ2 現生人類(新人)の登場

他の大型哺乳動物と同じく生態系の一員であった人類が、どのようにして急速に進化し、どのような文化をもって自然環境に対応したのだろうか。われわれと同じ種である現生人類の文化発展までの過程を学習して確かめていこう。

はじめに、人類の進化と現生人類の登場について簡単に復習しよう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (人類の出現とその進化) 次の問いに答えよ。

- (1) 最も古い(約400万年前)とされているアウストラロピテクスという猿人の化石が発見されたのはどの大陸か。 []
- (2) 人類の祖先はやがて直立歩行するようになり、自由になった手で石を打ち欠いて簡単な道具を作ったが、このような石器を何というか。 []
- (3) 約70~40万年前にあらわれたジャワ島の直立猿人や中国の北京原人に代表される人類で、火の利用や、言語の使用を始めた人類は総称して何と呼ばれるか。 []
- (4) 約20万年前から旧大陸の広い範囲に分布し、ドイツのネアンデルタール人に代表され、南アフリカのローデシア人などを含む人類を総称して何というか。 []
- (5) 更新世(洪積世)末期の4~1万年前から出現した人類で、形質的には現在の人類と同種である現生人類のうち、南フランスで発見された人類の名称は何か。 []
- (6) この現生人類はホモ=サピエンス(ちえのある人間)ともいわれるが、スペインのアルタミラやフランスのラスコーに残る彼らの残した芸術作品は何と呼ばれるか。 []
- (7) 猿人から(5)の現生人類までの、打製石器を使い狩猟や採集で食料を得ていた時代は何というか。 []
- (8) およそ1万年前から地球が暖かくなってきたが、人類が農耕・牧畜を開始し、生活が安定してきてからの時代を何というか。 []
- (9) (8)の時代に農耕生産によって生活に余裕ができたことから使われるようになった石器を何というか。 []
- (10) 四大文明とは黄河文明、インダス文明、メソポタミア文明とナイル川流域の何文明か。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)アフリカ (2)打製石器 (3)原人 (4)旧人 (5)クロマニヨン人 (6)洞穴絵画 (7)旧石器時代
(8)新石器時代 (9)磨製石器 (10)エジプト文明

まず、人類の進化と文化の発展について考えてみよう。

テーマ1 人類の進化

人類は他の動物にくらべてはるかに短い期間で進化した。人類の出現は約400万年前とされているが、われわれ現代人と同じ種の人類が登場するのは4～1万年前であり、文字の使用をともなった最古の文明の誕生は約5000年前である。その先史の世界について学ぼう。

※先史の世界 人類の出現から文明の誕生までの気の遠くなるような長い期間を、先史時代と呼ぶ。

イギリスのダーウィンによって「人間も他の動物と同じように進化して現在の姿になった」とされてから人間とサル^{サル}の祖先は共通であるという考え方がおこってきた。それではいつごろからサルとは形質的に異なり、直立歩行するという人間の特徴をもつようになったのだろうか。

地球の歴史を、地質の変化のあとを調べて区分した年代のことを地質年代という。現代は、第四紀の完新世（沖積世）、その前は第四紀の更新世（洪積世）で、4回の氷期（氷河期）があった。その前が第三紀である。

現在のところ、最古の人類は猿人と呼ばれ、第三紀末から第四紀更新世の初期に出現したとされている。更新世の後半には原人が、ついで旧人が出現した。旧人は毛皮の服を着ることによって寒冷地へと進出し、旧大陸の大部分に生活地域を拡大した。

更新世の末期になって、ようやく、われわれと同じ形質と同程度の脳容積をもった現生人類（新人）が登場した。彼らは、道具の発明を主とする文化的発展によって自然環境に適応する能力を向上させ、南極大陸を除くすべての大陸に生活地域を拡大していった。

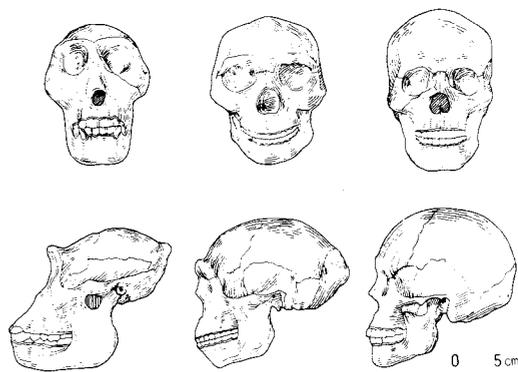
最後の氷期が去って完新世に入ると、気候は温暖になったが一部の地域では乾燥が始まった。このような変化する自然環境に対して、人間は農耕・牧畜の開始という文化的発展によって適応していった。

農耕・牧畜の発達は定住を可能にし、定住生活を営むことによって、人間は文明の誕生を準備することになった。そして、長い長い先史時代に別れを告げることになったのである。

※人類の出現 サルと人間は、何を基準にして区別すればよいのか。頭骨が大きければ脳が発達しているのだから、人間ということになる。しかし、猿人の場合は頭蓋容積が600cc程度でゴリラとほぼ同じであった。また、旧人のなかには身長はもとより頭蓋容積でも現代人にまさるものもいた。だから頭脳の大きさだけでは判断できない。

それでは、文化をもっていたかどうかで判断してはどうか。しかし、道具を使うという文化は、チンパンジーなどにもみられる。

結局、はじめて登場した人間から現代人に至るまでの形質的進化と文化的発展の基礎となり得るもの、すなわち、直立二足歩行、道具の作製・使用をしていたかどうか判断の基準になってくる。これに火の使用、言語の使用が加わることによって進化と文化の発展が一層促進されたのである。



頭骨の比較

左から、ゴリラ・北京原人・現代人。頭蓋容積は、ゴリラ505cc、北京原人1075cc、現代人1450cc平均である。

※猿人 1924年以降、南アフリカ各地で、直立二足歩行、道具の作製・使用という人類の特徴をそなえた霊長類の化石が発見され、アウストラロピテクス（南方のサル）群と名づけられた。その出現年代は、発見が進むごとに古くなり、現在では約400万年前と推定されている。また、1959年にはジンジャントロプス（くるみ割り人）が、1964年には約200万年前の地層からホモ=ハビリス（能力ある人）が発見された。これら最初の人類は総称して猿人と呼ばれている。

アウストラロピテクス群などが使用していた道具は、きわめて原始的な礫石器と呼ばれる打製石器で、自然石との区別が困難なものも多い。

※原人 約70～40万年前になると、猿人の倍近い脳容積をもち、簡単な言語を使用した原人が出現する。

1891年、オランダ人デュボワがジャワ島で発見した直立猿人(ピテカントロプス=エレクトゥス)が最初に見つかった原人(ジャワ原人)で、その後、中国の北京郊外にある周口店で洞穴ごと発見された北京原人(シナントロプス=ペキネンシス)は、火を利用し、獣肉を焼いて食べていたことが確認された。ほかに、ドイツで発見されたハイデルベルク人は、北京原人よりやや進化した骨をもつことで知られている。

彼らの代表的な道具は、^{にぎりおの}握斧(ハンド=アックス)と呼ばれる打製石器で、進歩のあとがうかがえる。

※旧人 約20万年前になると、旧大陸の広い地域に旧人が出現する。その代表的なものは、最初にドイツで発見されたネアンデルタール人(ホモ=サピエンス=ネアンデルターレンシス)で、その学名が示すように、骨格や脳容積は現生人類(新人)に接近している。洞穴に住み、衣服を使用したものもあり、一部は死者の埋葬を開始するなど、文化的にも進んだ面を示している。

彼らの道具は、^{はくへん}剥片石器と呼ばれるかなりすぐれた形式の打製石器で、道具の進歩にともなって狩猟方法も大いに進んだと思われる。また、狩猟の成功を祈る呪術的な儀式という形で、宗教も始まったとされる。

人類の進化について理解できましたか。ではトレーニングに進もう。

トレーニング

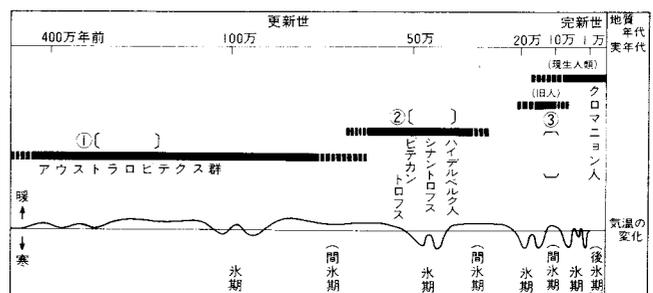
解答は139ページ

1 (人類の進化：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 人類の出現から文明の誕生までの長い期間を〔① 〕と呼ぶ。人類の、サルとは異なる主な特徴をあげると直立二足歩行、〔② 〕、〔③ 〕、〔④ 〕の4つがある。
- (2) 最古の人類である〔⑤ 〕は、地質年代でいうと〔⑥ 〕の初期には出現していた。〔⑦ 〕がその代表である。ついで〔⑧ 〕が登場したが、ジャワ島で発見された〔⑨ 〕、中国の北京郊外の周口店で発見された北京原人、ドイツで発見されたハイデルベルク人などがそれである。
- (3) 約20万年前から旧大陸に広く分布していた人類は〔⑩ 〕と呼ばれ、ドイツで発見された〔⑪ 〕(ホモ=サピエンス=ネアンデルターレンシス)が最も有名である。彼らは埋葬の風習をもった最初の人類である。

2 (年表で見る人類の進化) 次の年表を見ながら、問いに答えよ。

- (1) ①は、直立歩行し、道具の作製・使用を行ったとされる更新世初期には出現していた人類の祖といわれるものである、これは何か。〔 〕
- (2) ①の倍近い脳容積をもち、約70～40万年前に出現した②は何か。〔 〕
- (3) ③は、約20万年前にユーラシア・アフリカ大陸に出現した旧人の代表的なもので、最初にドイツで見つかっている、これは何か。〔 〕



3 (人類の出現と進化) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

(1) (a)更新世の初期には、猿人と呼ばれる人類が現れていた。その猿人の化石がはじめて見つかったのは1924年で、その後もアフリカの南部と東部から猿人の化石はつぎつぎに発見されており、〔① 〕群と呼ばれている。彼らは〔② 〕歩行し、(b)道具の作製・使用といった人類の特徴をそなえていた。

約70～40万年前になると、原人が登場した。彼らはユーラシア・アフリカの旧大陸の広い範囲に生活していたが、なかでも、住んでいた洞穴ごと発見された〔③ 〕が最も有名で、火を日常生活に利用し、〔④ 〕も使用していた。ほかにも、ジャワ島で〔⑤ 〕が、ドイツでは〔⑥ 〕人が発見されている。

(2) 約20万年前に現れた旧人は、旧大陸の広い範囲に分布していた。ドイツのデュッセルドルフの郊外で、1856年に発見された〔⑦ 〕人がその代表で、氷河の発達したヨーロッパでは、寒さをしのぐために〔⑧ 〕に住み、獣の毛皮を身にまとっていた。彼らは現代人とほぼ同じ大きさの脳容積をもち、かなり精巧な道具をつくり、宗教的儀礼や死者の〔⑨ 〕の風習をもった(c)最初の人類であった。ほかには南アフリカで発見されたローデシア人が有名である。

(A) 下線(a)について、この地質年代には、寒冷な氷期と比較的温暖な間氷期とが交互にくり返された。氷期は何回くり返されたか。〔 〕

(B) 下線(b)について、彼らが使用した道具は、きわめて原始的な打製石器であった。この石器の名称は何か。〔 〕

(C) 下線(c)について、このことから⑦人の学名を何というか。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

地 質 年 代

地球に地殻ができはじめてから今日にいたるまでを地質年代という。地質年代は、(1)始生代 (2)原生代 (3)古生代 (4)中生代 (5)新生代に区分する。このうち、ここで問題にしたいのは(5)の新生代であって、これをさらに区分すると右の図のようになる。

かつて、1924年以降、南アフリカ各地で発見されたアウストラロピテクス群の調査・研究にもとづき、最古の人類の出現は第四紀更新世の初期、すなわち現在から約200万年前と考えられていた。ところが、その後も調査・研究は続けられ、人類の出現は第三紀鮮新世の末期、今から400万年前にまでさかのぼることとなった。



いよいよ君たちの祖先となった人類が登場する。

テーマ2 現生人類（新人）の登場

更新世末期になって、ようやくわれわれの直接の祖先である人類が登場した。彼らは道具を飛躍的に進歩させ生態地域を新大陸にまで拡大していった。ここでは文化の発展を、農耕・牧畜がはじまるまでの準備期間としてとらえ、道具の進歩を中心にすえながら学習しよう。

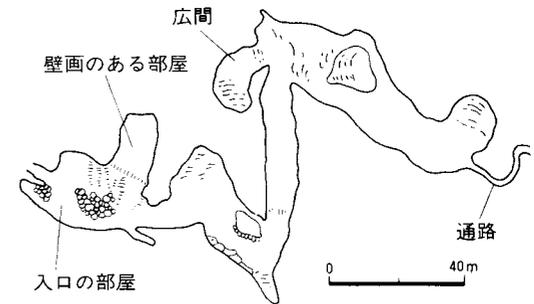
※現生人類の登場 更新世末期、4～1万年前、最後の氷期から後氷期にかけて現代人と同じ人類が登場した。これが現生人類（新人）である。学名も現代人と同じホモ=サピエンスである。ヨーロッパ各地で見つかったクロマニオン人がその代表格として知られている。ほかに北西イタリアで見つかった、黒人に似ているといわれるグリマルディ人、北京原人が発見された洞穴の上の竜骨山の洞穴から発見され、黄色人種の特徴をもつといわれる周口店上洞人など多数見ついている。

高い知能をもっていた現生人類は、すぐれた道具をぞくぞくとつくり出し、狩猟技術を進歩させ、厳しい自然環境に対応して生態地域を拡大していった。更新世の末期には、アメリカ大陸やオセアニアにも進出し、各地域に特色ある文化圏をつくりあげていった。

※現生人類の生活と文化 右の図は、1879年にスペインで発見されたクロマニオン人の遺跡アルタミラ洞穴である。このような洞穴は各地で見ついている。現生人類はこのような洞穴もしくは岩かげに住み、男は集団でマンモス・トナカイ・牛・サイなどの大型獣の狩猟を分担し、女は育児・採集・調理などを分担するという分業が行われていた。道具作製の技術も進歩し、石刃と呼ばれる石の剥片をつくり、これを加工してさまざまな刃器をつくった。そして刃器を使って動物の骨や歯を加工して、投槍・鋸・釣針などの骨角器がつくられた。道具の進歩を背景に狩猟・採集の獲得経済が安定してくると、精神文化の面でも新しい現象があらわれはじめた。芸術作品の製作が開始されたのである。「ヴィーナス像」と呼ばれる女性裸像がそれであり、もっとも壮観なものはアルタミラやラスコー（フランス）その他で見つかった洞穴絵画である。それらの作者は鑑賞してもらうつもりで制作したのではなく、製作することによって多産や狩猟の成功を願う呪術的効果をねらったものらしい。人間の死に関しても、現代人と同じように、悲愴感、恐怖感をもっていたらしく、それゆえに埋葬に際しての副葬品も多種多様となり、遺体も丁寧に扱われ、両脚をそろえて折り曲げる屈葬が増加した。



アルタミラの洞穴絵画



アルタミラ洞穴平面図（スペイン）

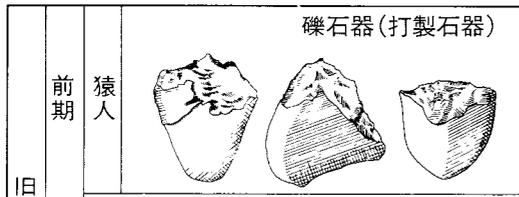


先史時代の世界

※文化の発展と環境 自然環境の変化に対して生物は進化することによって適応していく。人類の場合はどうであったか。化石人類（猿人・原人・旧人）までは形質（体形・体質）の進化をおこないながら、もう一つの方法として道具作製の技術を進歩させ変化する環境に適応していった。現生人類（新人）が登場してからは、人類の形質的進化はほとんどなくなる。その

かわりに道具作製の技術の進歩とそれに基づく生活技術の進歩によって文化的発展をおこない、環境に適応していった。そして完新世になり、気候も次第に温暖になり現代に近づいてくると、細石器や打製石斧などの石器をつくるだけでなく、犬を家畜化して狩猟の道具とし、新しい環境に適応していった。乾燥の進んだ西アジアの一部では、乾燥に対応して野生の山羊・羊・牛・豚などの家畜化、野生の麦の栽培をはじめて農耕・牧畜を準備していった。

人類の文化の発展を時代区分する場合、道具の進歩を基準にして、石器時代・青銅器時代・鉄器時代に三区別する。石器時代は、旧石器時代（前期・中期・後期）・中石器時代・新石器時代に細分される。旧石器時代は、人類文化史の99%以上を占め、現生人類は、後期旧石器時代以後の文化を担っていた。旧石器時代の石器はすべて打製石器で、石を打ち欠いて作製することが基本になっていた。



石器時代	原人	核石器(握斧)	剥片石器
	中期	旧人	剥片石器 埋葬
後期	現生人類(新人)	加工して 石刃 刃器ナイフ 打製石斧 骨角器(投槍器) 細石器 彫刻、造形、装飾品 洞穴絵画、女性裸像	
	中石器時代	家畜の飼育 すぐれた道具(細石器、磨製石器、骨角器など)舟やそりの製作	
新石器時代	農耕牧畜開始 定住生活へ 土器も出現		磨製石器を常用

それでは、年表や地図もよく見てからきょうのトレーニングにはいろう。

トレーニング

解答は139ページ

4 (現生人類の登場：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 現代人と同じ種類の現生人類が登場したのは更新世の末期である。学名は〔① 〕で現代人と同じである。この現生人類のうち、約4～1万年前にヨーロッパで活躍したのは〔② 〕で、彼らはスペインの〔③ 〕やフランスの〔④ 〕の洞穴にすぐれた洞穴絵画を残した。
- また、彼らは石刃を加工して作った刃器で、槍・銛・釣針などの〔⑤ 〕を作り、狩猟・採集の〔⑥ 〕を安定させていった。現生人類が残した洞穴絵画やヴィーナス像などは、狩猟の成功や多産を願う呪術的行為の産物である。埋葬には、死体を折り曲げて葬る〔⑦ 〕が増加した。
- (2) 人類の文化発展を時代区分すると、道具の進歩をもとに、石器時代・〔⑧ 〕・〔⑨ 〕と3つに分けることができる。石器時代はさらに、旧石器時代(前期・中期・後期)・〔⑩ 〕・〔⑪ 〕に分けられる。旧石器時代に作られた石器は、〔⑫ 〕で、石を打ち欠いて作製することが基本となっていた。

5 (年表で見る現生人類の登場) 年表を見ながら問いに答えよ。

- (1) ①は、石の鋭い尖端や縁を利用した石器である。何と呼ぶか。〔 〕
- (2) ②は、約20万年前に出現したと推定されているが、何と呼ばれているか。〔 〕
- (3) ③は、中国で発見されたものであるが何と呼ばれているか。〔 〕
- (4) ④は、アルタミラ、ラスコーなどに残っているものが有名で、狩猟の成功を祈った呪術的所産と思われるが、これは何というか。〔 〕
- (5) ⑤は、砂や砥石^{といし}で研磨した石器であるが、新石器時代に多く作製されるようになる。これは何か。〔 〕
- (6) ⑥によって、狩猟・採集にくらべ、生産が増大するが、この生活物資取得の形態は何か。〔 〕

旧石器時代	前期	猿人 原人	アウストラロピテクス 北京原人 直立猿人	礫石器 〔①〕火 言語
	中期	〔②〕	ネアンデルタール人	進歩した核石器 剥片石器 埋葬
	後期	現生 人類 (新人)	クロマニヨン人 グリマルディ人 〔③〕人	石刃を加工 骨角器 弓矢 〔④〕 女性裸像
中石器時代				家畜の飼育開始 〔⑤〕登場
新石器時代				〔⑥〕開始 原始宗教成立

6 (現生人類の登場) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

- (1) われわれと同じ種(ホモ=サピエンス)に属する現生人類は、最後の氷期が終わりに近づく4~1万年前、地質年代でいえば〔① 〕末期に登場した。最も知られている現生人類はヨーロッパで活動していたクロマニヨン人だが、(a)ほかの現生人類の人骨や遺跡も旧大陸だけではなく、アメリカ大陸でも見つっている。現生人類はすぐれた知能をもって自然環境に対応し狩猟・採集の〔② 〕経済を安定させ、これを背景にしてすぐれた文化を築いていった。たとえばスペインの〔③ 〕や〔④ 〕のラスコーにみられる〔⑤ 〕や女性裸像、そして装身具・彫刻などがそれである。
- (2) 人類の文化の発展段階を道具の進歩によって分けると、石器時代・〔⑥ 〕時代・〔⑦ 〕時代の3つに区分できる。石器時代は、(b)旧石器時代・〔⑧ 〕時代・新石器時代の3つに大別される。旧石器時代を特色づける石器は加工の少ない〔⑨ 〕であり、この石器の代表的なものとして石のしんを利用した〔⑩ 〕と石の剥片を利用した剥片石器があげられる。(c)現生人類が登場してからは石器製造の技術は急速に進歩していった。

- (A) 下線(a)について、中国で見つかった現生人類は何と呼ばれるか。〔 〕
- (B) 下線(b)について、旧石器時代と先史時代ではどちらが長い。〔 〕
- (C) 下線(c)について、旧石器時代は前期・中期・後期に3分できる。現生人類はこの3つの中のどの時期の文化をつくっていったか。〔 〕

1 (人類史のほとんどを占める先史時代) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

人類が地上に姿をあらわしたのは、地質学上の第三紀から第四紀〔① 〕の初期にかけてで、今から約400万年前のことと推定される。今日われわれが知っている最古の人類は、南アフリカで発見された〔② 〕群であるが、彼らは(a)類人猿なみの脳容積しかもたない一方、すでに完全な直立二足歩行を開始しており、(b)粗末ながらも石器すなわち道具を使用していたと考えられる点で、類人猿と異なる人類である。こうして彼らは〔③ 〕と呼ばれるが、これについてあらわれた(c)原人は、すでに火を利用し、言語を話す能力をもち、狩猟や採集を行っていた。ついで最初にドイツで発見された〔④ 〕人は、現生人類(新人)にかなり近い特徴をもつところから、学名を〔⑤ 〕といい、原人とは区別して〔⑥ 〕と呼ばれる。彼らは、火や言語の使用のみならず、石器作製の技術にもかなりの進歩を示しており、とくに注目すべきことは、死者を〔⑦ 〕する風習も始まっていたことである。

われわれの直接の祖先である現生人類が登場したのは今から約4～1万年前であり、その代表格はヨーロッパ各地で発見された〔⑧ 〕人である。彼らはすぐれた頭脳を武器にして最後の〔⑨ 〕をのりこえ、〔⑩ 〕やオーストラリアにまで進出していった。とくに道具の進歩が著しく、精巧な石器や動物の骨や角を加工した〔⑪ 〕が盛んにつくられ、一部の地域では槍や矢にはめ込んで使う〔⑫ 〕もつくられた。やがて地質学上の〔⑬ 〕の時代に入り、気候も温暖になり環境も変化すると、(d)彼らもそれに対して文化的な適応をおこない、次にきたるべき農耕・牧畜を主とする時代への準備をおこなった。

- (1) 下線(a)で示した類人猿とはどのような動物をいうか。1つだけあげよ。
〔 〕
- (2) 下線(b)について、旧石器時代に使われた石器を総称して何というか。〔 〕
- (3) 下線(c)の原人のうち、①ジャワ島で発見されたものは何と呼ばれるか。〔 〕
また、②中国で発見されたものは何と呼ばれるか。それぞれ通称で答えよ。〔 〕
- (4) 〔⑧ 〕人について、①スペインで発見された彼らの遺跡は何か。〔 〕
また、②死体の扱い方における彼らの特徴は何か。〔 〕
- (5) 下線(d)について、農耕・牧畜が開始されるのは石器時代の何時代か。〔 〕
- (6) 上の問題文の中から他の動物と人類を区別する基本的特徴を4つあげよ。
〔 〕〔 〕〔 〕〔 〕
また、(6)の基本的特徴を使って人類の進化に占める意味を100字程度で述べよ。

文明の誕生

テーマ1 農耕・牧畜のはじまり

テーマ2 文明の誕生

人類は、完新世にはいると暖かくなってくる気候に対応して農耕・牧畜を開始し、自分で食料をつくりだすようになった。この結果としての社会・文化の発達と文明誕生への過程をみていこう。

はじめに人類の進化と現生人類の登場について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (人類の進化) 次の問いに答えよ。

- (1) 人類の出現から文明が誕生し文字が使われるようになるまでの長い時代を何というか。
[]
- (2) 人間をサルと区別する特徴として考えられるのは、直立二足歩行、道具の作製・使用、火の使用とあと1つは何が考えられるか。
[]
- (3) (2)の特徴をもつ最古(約400万年前)の人類とされる猿人の化石が南アフリカで発見されているが、この猿人は何と呼ばれているか。
[]
- (4) 70~40万年前には猿人の倍近い脳容積をもつ人類が出現した。ジャワで発見された直立猿人、中国の周口店で発見された北京原人などに代表される人類を総称して何と呼ぶか。
[]
- (5) 約20万年前になると、旧大陸の広い地域に旧人が出現したが、そのうち最初にドイツで発見され、埋葬の習慣をもっていたとされるものは何と呼ばれるか。
[]
- (6) その後、更新世末期(約4~1万年前)に現代人と同じ人類が登場する。学名をホモ=サピエンスというが、これは何か。
[]
- (7) (6)は高い知能を持ち、すぐれた道具をつくり出していったが、ヨーロッパ各地で見つかった代表的なものは何と呼ばれるか。
[]
- (8) (6)は石刃などの道具を進歩させ、狩猟・採集の獲得経済を安定させてきたが、彼らは狩猟の成功を願って洞穴絵画を残したといわれる。スペインで発見された遺跡は何か。
[]
- (9) 人類文化の第一段階である旧石器時代に、石を打ち欠いて作製された石器は何と呼ばれるか。
[]

◇復習トレーニングの解答◇

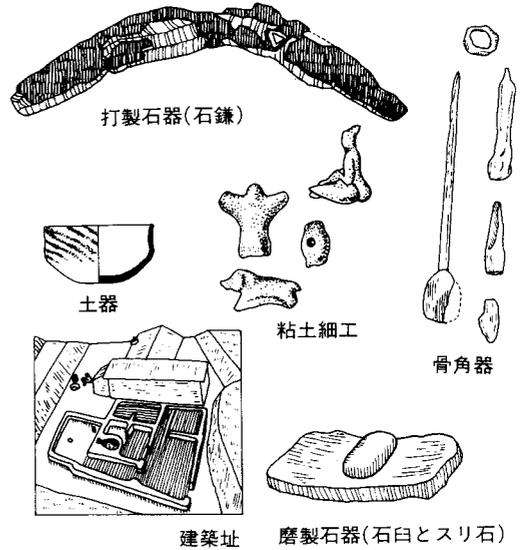
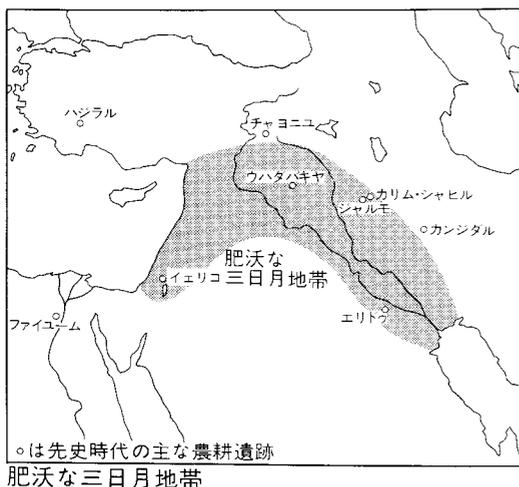
- 1 (1)先史時代 (2)言語の使用 (3)アウストラロピテクス (4)原人 (5)ネアンデルタール人
(6)現生人類(新人) (7)クロマニヨン人 (8)アルタミラ (9)打製石器

狩猟・採集の獲得経済にたよってきた人類は、農耕・牧畜の生産経済を開始する。これは、人類の生活を根底から変え、社会および文化を飛躍的に発展させる大前提となった革命的な出来事であった。ここでは、農耕・牧畜開始の要因、社会・文化に与えた影響を考えてみよう。

◆農耕・牧畜のはじまり 更新世（洪積世）の末期になると気候が温暖になるにつれて自然環境も変化してきた。人類はこれに適応し、生活技術を発達させ、農耕・牧畜を準備していった。これを中石器時代といい、前1万年から前9000年くらいまでの期間をさす。細石器で各種の武器や道具をつくり、打製石斧を用いて木材を伐採し舟やそりをつくり、後半には磨製石器や土器も出現し、犬が家畜となり大麦などの穀物の栽培方法も知るようになった時期である。

完新世（沖積世）にはいり現代とほぼ同じ気候になると、狩猟採集の不安定な獲得経済から、農耕・牧畜に基礎をおく生産経済に移行した。そして、定住生活が可能になった。このことは、人類の生活の安定と文化の発展、経済・社会の急速な発展を可能にした。それゆえに、農耕・牧畜のはじまりは人類史上まさに革命的な出来事であり、現代の機械文明の前提となった「産業革命」に匹敵するとされ、「食料生産革命」とも呼ばれる。また、新石器時代とは精巧な磨製石器や土器の常用という文化面の発展段階を示すだけでなく、経済・社会の面の発展段階を含んだ時代区分ということになり、農耕・牧畜のはじまりはまさに「新石器革命」でもあったわけである。

では、どこで最初に農耕・牧畜がはじまったのだろうか。まず農耕・牧畜を行えるような文化水準をもつ人々がいたこと、そして栽培可能な野生の穀物や飼育可能な野生の動物が存在していたこと。これが条件になるだろう。その場所は、古代オリエント地方のいわゆる「肥沃な三日月地帯」であり、時期は前7000年ごろと推定される。



ジャルモ遺跡

1951年イラク北部で発掘、前7000年ごろの遺跡

◆原始農村の形成と新石器文化 農耕・牧畜がはじまり人々は原始農村と呼ばれる集落を形成して定住生活にはいった。そして、貯蔵がきき多数の人間を扶養することのできる大麦などの穀物を栽培し、乳や肉を供給する山羊・羊・牛・豚などの家畜を飼育し経済を発展させた。また、旧石器時代に数家族で形成されたホルド（群）と呼ばれる社会集団にかわって、祖先を同じくするという信仰と血縁にもとづいて氏族社会が形成され、共同体としての秩序もつくられていった。

このような経済・社会の発展を背景にして新石器文化が発展した。住民は洞穴から竪穴住居に、そして泥れんがづくりに、石器は精巧な磨製石器が普及した。衣服も毛皮だけではなく、羊毛や麻からもつくられるようになった。また、調理や穀物の貯蔵に不可欠なものとして土器も普及した。製作技術も進歩し、彩色や模様をほどこしたものも現れた。オリエントの彩文土器、ユーラシア北部の櫛目文土器くしめもんがそれである。

しかし、当時の農法はまだ原始的で、天水（雨水）にたよる乾地農法であつたうえ、肥料をほどこさない略奪農法であつたため、村落はつねに移動をしなくてはならず、大集落に発展することはできなかった。

〔①〕経済から〔②〕経済に移ることによって、群単位で移動していた人々は〔③〕を営むことができるようになった。この結果、人間の生活が急速に進歩し文明が成立して、先史時代の文化発展のおそさに比べると光のようなスピードで一直線に現代文明へとつき進んだ。ゆえに農耕・牧畜のはじまりは、18世紀におこり現代機械文明の前提となった〔④〕に対比されて〔⑤〕とも呼ばれる。

では、農耕・牧畜はいったいどこでおこったのだろうか。(a)細石器を発達させ、犬などの家畜の飼育方法を知り、穀物の栽培方法まで知るとい文化水準をもった人々がいたことや、家畜化できるような野生の動物、栽培可能な野生の植物(穀物)が存在していたことがまず条件になるだろう。この条件に合致するところは多くあるが、それが最初におこったのはどこだろう。今のところ、西南アジア、いわゆる〔⑥〕地方の、(b)肥沃な三日月地帯となっている。

農耕・牧畜のはじまり、〔⑦〕のような精巧な石器や(c)土器が普及した時代を〔⑧〕という。この時代の特徴は、社会がホルド(群)による群社会から〔⑨〕に変化したこと、(d)住居や衣服などの生活面にも大きな進歩があったことである。

- (1) 下線(a)について、この時期の名称を書け。〔 〕
- (2) 下線(b)について、この地方に農耕・牧畜がはじまったのは、およそ何年ごろのことか。〔 〕
- (3) 下線(c)について、後半には⑥地方で彩色された土器も出現した。その名称を書け。〔 〕
- (4) 下線(d)について、住居は洞穴住居から何に変わったか。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

農耕文化の起源地と伝播

世界中で栽培される農作物は約3000種、そのうち食糧作物が約900種、工芸作物が約1000種、飼料・緑肥作物が約400種ある。

人類は野生の植物のなかから有用な品種を選び出し栽培植物に育てあげてきた。そして地域ごとの環境にたくみに適応しながら、豊かで安定した農耕文化をつくりあげたのである。

図は、栽培植物のルーツを示したものである。

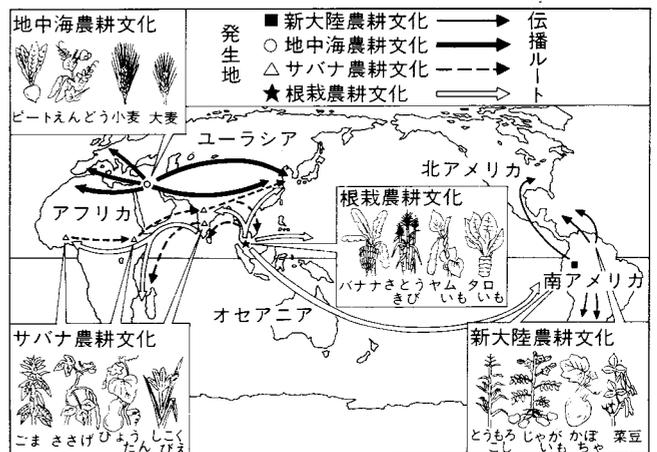
歴史を学ぶうえで農耕文化の起源を考えた場合、文明の発生にもっとも重要な役割を果たした穀物、しかも麦を重視しなければならないだろう。麦はやはり西南アジアの「肥沃な三日月地帯」に起源があるという説が有力である。

牧畜も文明の発生に重要な役割を果たしている。動物の飼育だけを考えれば東南アジアが早かったかもしれない。しかし家畜化ということについてみた場合は、やはり「肥沃な三日月地帯」になるようである。

西南アジアに麦の栽培・牧畜がどうして最初におこったのだろうか。ひとつの説は、ヨーロッパの氷

河が後退すると西南アジアが乾燥し、森林が後退して狩猟・採集生活が困難になり、農耕・牧畜を開始したという説。

もう一つは、旧石器末期から中石器時代に、狩猟・採集の獲得経済の急激な発展があり、これがさらに進んで手近な野生の動植物を人間が利用しやすいように改良していったという説である。



農耕文化の起源地と伝播ルート (中尾佐助)の説による

農耕・牧畜の人間生活に与えた影響をおさえておいて次に進もう。

テーマ2 文明の誕生

定住生活が始まり、都市が形成されて文明が成立したこの過程と要因について考え、社会・経済・文化がどのように発展したかを理解しよう。また、オリエントの新石器文化の地方への伝播や、これから登場する民族や語族についての知識も深めていこう。

※都市国家の成立 原始農村は氏族共同体的な性格をもち、土地は氏族の共有で共同労働による耕作がおこなわれていた。農業技術が進歩すると、少人数の労働（家族労働）でも生産が可能になり家族単位に分かれ氏族成員間の血縁意識がうすれていった。そして土地が人と人とを結びつける要素となり、地縁に基礎をおく村落共同体の性格が強まっていった。土地・家屋・農産物の家族による私有も認められるようになり私有財産制も成立した。紀元前5000年ごろには所有を表す印章も出現している。私有財産制が進展すると貧富の差が生じ、有力者は土地・家畜・農具などの財産をふやし、経済力と権力を高めていった。

そしてこれを背景に他の人々を支配するようになり貴族と呼ばれる支配階級を形成した。一方では奴隷に転落するものも現れ、貴族・平民・奴隷の階級制度が発生した。とくに高い生産をあげることでできる灌漑農業が発展する条件をそなえていた地方にこの傾向は顕著であった。

人々が血縁よりも地縁で結ばれるようになると、より大集団、より広い地域を単位としてまとまるようになり、その地域の中心的な場所に神殿をつくり周囲に城壁をめぐる都市が成立した。都市においては神殿につかえる神官、都市を防衛する軍人、そして貴族が支配階級を構成して政治権力を強化し経済力を強化した。そして、住民を統治するための強力な軍事・政治組織が発達し国家が成立した。

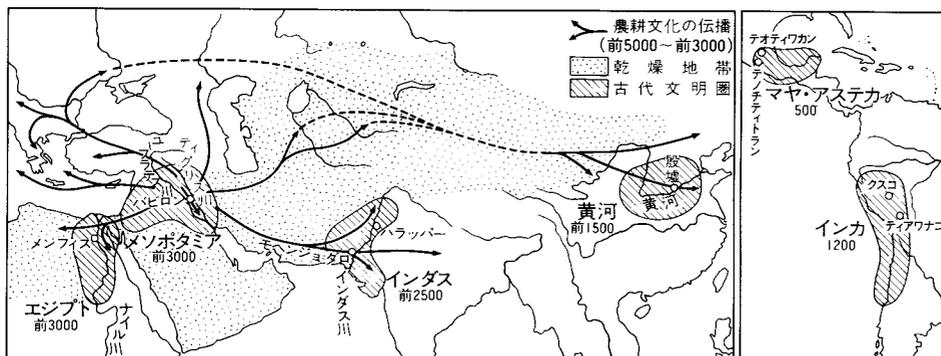
このころになると冶金術も発達し銅と錫を溶かして合金した青銅器が道具として普及した。また神殿の財

産を記録し、神殿や支配者への貢物を記録する必要から文字が発明された。

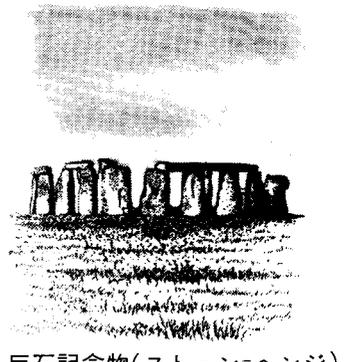
このように、都市（神殿・城壁）、国家（政治組織・軍隊・階級制度）、金属器（青銅器）、文字が出そろった段階を文明という。それゆえに都市国家の成立は文明の成立を意味し、都市国家と都市文明は同義語になる。また、長かった先史時代に告別し歴史時代にはいることになり、文化の発展段階からみれば青銅器時代にあたることになる。

※四大文明の発生 最初に文明が発生したのはどこであったのだろうか。乾燥地帯で灌漑農業の必要が生ずるところ、大河川の流域であり、定期的氾濫によって肥料がほどこされ永続的に農業ができる場所、大集団がまとまれるような広い平坦な地形、すでに高い文化をもった人々が存在していることなどの条件を満たす場所に発生する必然性があった。そして、その場所はティグリス・ユーフラテス川流域のメソポタミア、ナイル川流域のエジプト、そしてインダス川流域、黄河の流域であった。

※原始農耕文化の伝播 「肥沃な三日月地帯」の原始農耕文化は紀元前5000年～前3000年にかけて旧大陸の大部分に伝播し、それぞれの地方の自然環境に適応した地方色豊かな農耕文化、牧畜を基礎とする遊牧民の文化、狩猟、漁撈民などの新石器文化が発達した。ヨーロッパでは、巨石建造物やチューリヒ湖の湖上住居跡などが文化遺産として残されている。



農耕の伝播と古代文明

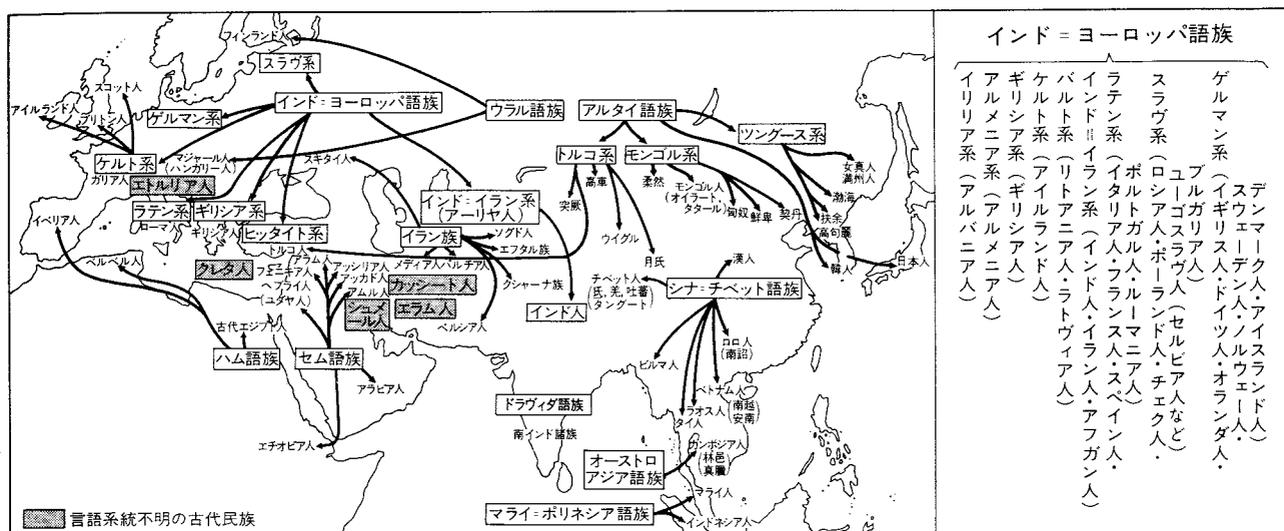


巨石記念物(ストーン=ヘンジ)

※人種・民族・語族の分化 人種とは人類を形質で分類する場合に用い、白色人種(コーカソイド)・黄色人種(モンゴロイド)・黒色人種(ネグロイド)に分類する。語族は、人類をその使用する言語によって分類する場合に用いる。下の図で確認しておこう。

民族とは、言語や社会・経済生活や習俗など、広い意味の文化で分類する場合に用いる。

いずれも人類の歴史の複雑さ、地方色豊かな文化の発展とそのからみ合いから生じたものであろう。



歴史上のおもな民族(語族による分類)

ではトレーニングに進もう。

トレーニング

解答は140ページ

4 (文明の誕生：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) 原始農村において生産力が発展すると家族単位の社会となった。また、はじめは土地も共有で平等という社会であったが、しだいに〔①〕が成立し、貴族・平民・奴隸という〔②〕ができあがった。このような生産力の発達した場所は〔③〕という農業技術の発達した場所でもあった。

氏族が崩壊し、大集団にまとまり、都市国家を形成していくと、強力な軍事・政治組織をつくりあげ、文明が成立し、〔④〕にはいる。これは文化の発展段階では青銅器時代にあたる。

(2) 大河の流域に文明が発生したが、一般に四大文明といわれるのは、ティグリス・ユーフラテス両河流域の〔⑤〕文明、ナイル川流域の〔⑥〕文明、インダス川流域のインダス文明、黄河流域の黄河文明である。これらはいずれも乾燥地帯で、地理的には定期的氾濫をおこす大河があるため、灌漑農業が必要であった地域である。

(3) 人類をその使用する言語で分類する場合は〔⑦〕という用語を使い、言語や社会・経済生活や習俗など広い意味の文化で分類する場合は〔⑧〕という。

また、人類を白色人種・黄色人種・黒色人種というように、その形質で分類する場合は〔⑨〕という。

5 (地図で見る文明の誕生) 次の地図を見ながら、問いに答えよ。

(1) ナイル川流域の①の文明は何か。

[]

(2) ティグリス・ユーフラテス両河流域の②の文明は何か。

[]

(3) ①②にややおくれてインドで発生した③の文明は何か。

[]

(4) 中国で発生した④の文明は何か。

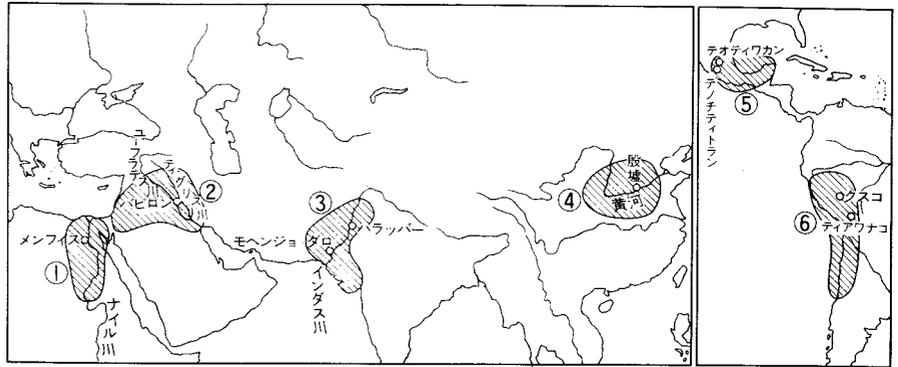
[]

(5) 以上の四大文明よりおくれて、中央アメリカで形成された⑤の地域を中心とした2つの文明は何か。

[]

(6) 南アメリカのアンデス山地で形成された⑥の文明は何か。

[]



6 (文明誕生の過程) 次の [] にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

原始農村が〔①〕を中心にした都市にまで発達したのは(a)〔②〕が行われるようになった結果、農業生産が急激に増大し、大人口の集住が可能になったためである。都市においては(b)支配するもの、支配されるものが厳然と区別される〔③〕が確立され、これを維持するための政治組織が確立され(c)〔④〕が成立した。

(1) 下線(a)について、それは次の語群の中のどの時期にあたるか。選んで1つ書け。

〈語群〉 ①旧石器時代 ②新石器時代 ③中石器時代 []

(2) 下線(b)について、支配されるものはどのような階級か。2つ書け。 [] []

(3) 下線(c)について、そのころどのような形態のものであったか。 []

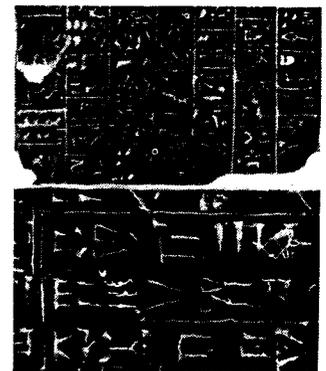
-----ひとくちメモ-----

文字の発明

きみたちがごくあたりまえに利用している文字は、いつごろ、どのようにして発明されたのだろうか。文字は人間がつくりあげた文明を維持し、後世に伝えるために不可欠だった。

最古の文字は、メソポタミアに最古の都市文明を築きあげたシュメール人が、財産を記録するために使った絵文字であり、紀元前3100年ごろに発明されたらしい。粘土でつくられた書き板に先をとがらせた葦の棒(スティルス)で絵文字が書かれた。この場合、しめった粘土板にきたない盛り上がりが残るのが難点だった。字を書いて記録を残す専門家たち(書記)は、先端が

三角形のスティルスを用い粘土がはみ出ないように押し込むよう書き込んだ。早く書く必要上からも絵そのものから抽象的記号に発展した。これが楔形文字である。紀元前2500年代初期に楔形文字が完成したといわれる。

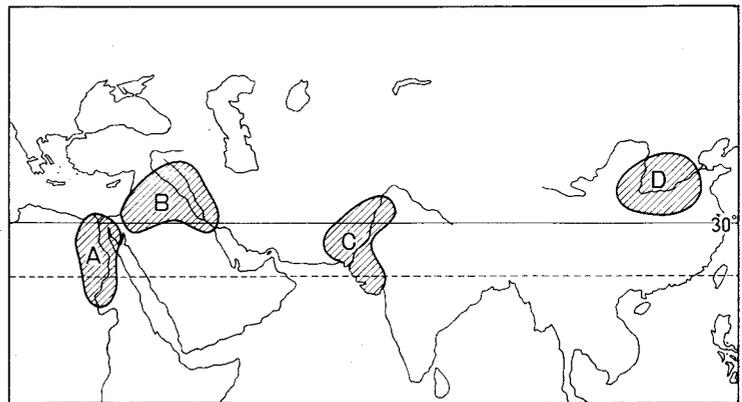


楔形文字

- 1 (農耕・牧畜のはじまりと文明の誕生) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、地図を見ながら問いに答えよ。

完新世にはいり現代とほぼ同じ気候になると、(a)人類は農耕・牧畜を開始し定住生活をはじめた。このころになると道具も精巧な〔① 〕や土器が普及したので考古学的には新石器時代といい、人類が定住生活をはじめたことにより社会もこれまでのホルド(群)による群社会から血縁などにもとづく〔② 〕社会に変化した。そして人々が定住生活を営む原始農村は氏族共同体的な性格をもっており、〔③ 〕は氏族の共有であった。しかも生産力が低かったので全氏族員の〔④ 〕作業を必要としていた。ところが生産力が発展すると〔⑤ 〕単位の個別労働が行われるようになり、生産物や土地の〔⑥ 〕がはじまった。こうして社会の内部に〔⑦ 〕の差が生じ、対立もはじまった。こうしたなかで成長してきた有力者は土地を兼併して大土地所有者となり、交易なども行って経済力を高め、直接生産から離れて、政治・宗教・〔⑧ 〕などに専念するようになり、一般住民を支配するようになった。住民の中には〔⑨ 〕に転落する者も現れた。このような傾向が顕著に現れたのが〔⑩ 〕と呼ばれる農業技術の発展した(b)メソポタミアであった。メソポタミアなどでは、人口の増加や経済の発達につれて、原始農村は都市へと発展し、周辺地域を併合して領土を拡大し、強力な軍事・政治組織が発達し、〔⑪ 〕が成立した。都市の中心にあった〔⑫ 〕には財物が貯蔵されていたが、その記録の必要から〔⑬ 〕が発明された。また、このころ〔⑭ 〕の使用もはじまった。こうして人類の歴史は(c)文明の段階にはいったのである。

- (1) 下線(a)について、もっとも古くから農耕・牧畜のはじまった場所は図のどこか。記号で書き入れよ。〔 〕
- (2) 下線(b)について、メソポタミアは図のどこに含まれるか。記号で書き入れよ。〔 〕
- (3) 下線(c)について、図のA～Dの文明の名称と、この地域を流れる大河の名称を書き入れよ。



- A〔 〕文明〔 〕川
- B〔 〕文明〔 〕川
- C〔 〕文明〔 〕川
- D〔 〕文明〔 〕川

- (4) 上の図を参考にして、四大文明発祥地の共通した特徴を、文明発生の条件にふれながら100字前後で述べよ。

メソポタミア・小アジアとエジプト

テーマ1 メソポタミアと小アジア

テーマ2 エジプト

ティグリス・ユーフラテス川のほとりメソポタミア, そしてナイル川のほとりエジプトに人類最古の文明が誕生した。

今回は, この古代文明の特色, 専制国家成立の要因などについて考えていこう。

はじめに文明の誕生について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (文明の誕生) 次の問いに答えよ。

- (1) 後氷期にはいると気候は温暖になり現代の気候に近づく。この時期は旧石器時代の次の時代で、人類の農耕・牧畜の準備段階の時代であった。この時代は何か。 []
- (2) 農耕・牧畜がはじまると新石器時代にはいった。この時代に常用されるようになった石器を何というか。 []
- (3) 農耕・牧畜が最初にはじまった場所は、現代のイラクからイスラエルにかけての三日月状の地域であった。この地域を何というか。 []
- (4) 人類が農耕・牧畜を開始し定住するようになると、社会は旧石器時代のホルド(群)による群社会からどのような社会になったか。 []
- (5) 自然だけにたよる農業とちがひ、人間が溜池ためいけや川の水を利用して行う生産力の高い農業を何というか。 []
- (6) 神官・貴族・軍人などの支配階級が住民を統治するために強力な軍事・政治組織をつくりあげていったが、これを何というか。 []
- (7) 文明の段階にはいり、文字が使用されるようになると何時代と呼ぶか。 []
- (8) 文明の段階にはいり、青銅器が道具として普及すると新石器時代とは呼ばない。ではこれを何と呼ぶか。 []
- (9) 四大文明の発祥地の共通している特徴は、まず乾燥地帯であること。もう一つは何か。 []
- (10) 人類をその使用する言語によって分類する場合は、何というか。 []
- (11) 人類を言語や宗教・習俗, 社会・経済生活で分類する場合は何というか。 []
- (12) 中国におこった古代文明の名称は何か。 []
- (13) ティグリス・ユーフラテス川の流域におこった古代文明の名称は何か。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)中石器時代 (2)磨製石器 (3)肥沃な三日月地帯 (4)氏族社会 (5)灌漑農業 (6)国家 (7)歴史時代 (8)青銅器時代 (9)大河の流域 (10)語族 (11)民族 (12)黄河文明 (13)メソポタミア文明

まずメソポタミア文明の特色と小アジアで活躍した民族についてみていこう。

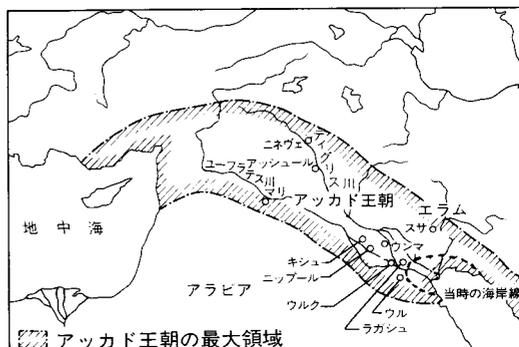
テーマ1 メソポタミアと小アジア

今のイラクにあたる地に、最古の文明「メソポタミア文明」が成立した。この文明は他の地域に大きな影響を与えるとともに、のちのオリエント文明の基礎になった。小アジアを舞台にして活動した民族とあわせて、メソポタミア文明の特色について考えてみよう。

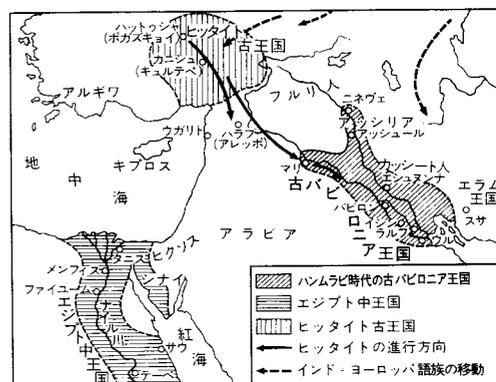
※オリエントおよびメソポタミアの概観 古代ローマ人が太陽の昇る方向、すなわち東方を「オリエント」と呼んだことから、現在のエジプト・トルコ・イランを外縁とする内側の地域をオリエントというようになった。オリエントの大部分は乾燥地帯で、しかも山岳・高原・砂漠が大部分を占めているが、ティグリス・ユーフラテス川やナイル川の流域は緑豊かな平野地帯であり、灌漑農業を基礎に古代文明が成立した。ここでは、治水（氾濫した河水の調節）・灌漑（耕地への配水）が重要であり、このための大土木工事を管理・統制する官僚制度が発達した。また、自然崇拝の宗教も発達し、これをつかさどる神官は神殿の祭祀を行い神の意志を伝えるだけでなく、治水・灌漑と重要な関連をもつ天文や暦法もつかさどり大きな勢力をもっていた。そして官僚や神官の頂点にたつ王は専制君主として人民に臨み、「神の子」もしくは「神」そのものとする宗教的権威をもって専制政治を行った。

ティグリス・ユーフラテス川流域（メソポタミア）では、前5000年ごろから北方の農耕民が移住・定着し、彩文土器をもつ新石器文化が成立していたが、前3000年ごろからはシュメール人によるメソポタミア文明が形成されていった。一方、周辺の高岳・高原地帯の遊牧民は交易を行い文化の伝播に一役かっていたが、地形が開放的で侵入しやすいメソポタミアにしばしば侵入し、メソポタミア文明を継承し発展させた。

※シュメール人とアッカド人 メソポタミア南部に移住したシュメール人（言語系統・原住地不明）は、先住農耕民の文化を基礎に最古の都市文明を形成した。前2700年ごろから約500年間、シュメール都市国家は南メソポタミア（シュメール地方）の覇権をめぐって激しく争って、ウル、ウルク、ラガシュ、ウンマなどの諸都市が興亡した。この時期は戦争が常ではあったが活気にあふれており、メソポタミア文明の基礎が確立された時代でもあった。各都市国家では、中心部に都市の守護神を祭る神殿が築かれ、王（前3000年ごろ王政が確立）のもとに神官・官僚・軍人などの支配階層が形成され、すべて神の名において政治が行われていた。そして各都市国家の経済的基盤は、灌漑農業と外国との交易による収入であった。



前24～前23世紀のメソポタミア



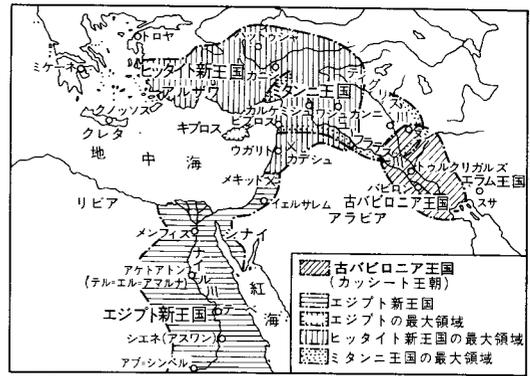
古バビロニア王国(前18世紀)

前3000年ごろメソポタミア中南部（アッカド地方）に西方から移住したアッカド人（セム語族）は、サルゴン1世（前24世紀）の登場とともに急激に発展した。そしてシュメール地方も支配下において、王朝を建てた（前24～前23世紀）。アッカド王朝は、はじめてメソポタミア全域の統一にも成功して、シュメール・アッカド文化はメソポタミア全域に拡大した。アッカド語がオリエントの国際語として使用されるようになったのはこの時期からである。

メソポタミア北東の山岳遊牧民の侵入でアッカド王朝が滅ぶと、シュメール人の都市国家ウルがメソポタミアを支配下においた（ウル第3王朝、前22～前21世紀）。しかし内紛と、西方からアムル人（セム語族）、東方からのエラム人の侵入で滅亡し、シュメール人は歴史の舞台から消えていった。しかし、10世紀にわたる彼らの文明は、以後オリエントに興亡するすべての文明に大きな影響を与えた。

◆古バビロニア王国 セム系遊牧民のアムル人は、前19世紀初めにバビロンを占領しシュメール文化を吸収しながら発展し、古バビロニア王国（バビロン第1王朝，前19～前16世紀）をおこした。この王国はハンムラビ王（前18世紀）のときに最盛期をむかえ、メソポタミア全域を支配した。バビロニアの文化は、法律・制度・宗教・文学・芸術などすべてシュメール人から受けつぎ発展させたものであった。例えば、ハンムラビ王の制定したハンムラビ法典はウル第3王朝期に整備されたシュメール法を継承し集大成したものである。バビロニアの文化は周囲の諸民族を刺激しただけではなく、のちのオリエント文化に大きな影響を与えた。

◆小アジア・イランなどの民族の活動 前20世紀になると西アジア北方のインド=ヨーロッパ語族の動きが活発になった。彼らの一部は小アジアやイランに移動し、原住民を征服したり、その文化を吸収したりして勢力を伸ばし国家を形成した。そして前15世紀ごろにはメソポタミアからシリアに進出した。



オリエント(前15～前13世紀)

ヒッタイト人は鉄器をはじめて使用した民族で、前18世紀ごろ小アジアに建国、前16世紀初めには古バビロニア王国を滅ぼした。その後にメソポタミアに侵入したカッシート人はバビロニアを4世紀にわたって支配し（カッシート王朝）、フルリ人（インド=ヨーロッパ語族が支配階級）はミタンニ王国（前15～前14世紀）を建てた。前15～前14世紀はこの3大国にエジプトが加わって複雑な国際関係が形成された。

-----ひとくちメモ-----

ハンムラビ法典

ハンムラビ法典の刑法は復讐法にもとづいており、外科医が目の手術をし、それが失敗して患者の目がつぶれると、その医者は手を切り落とされるというような細かい規定まであった。

全文282条から成り、「法」によって、社会秩序の維

持・安定をはかり、全土のすみずみまで支配しようとする王の統治姿勢がよくあらわれている。

ハンムラビ法典の原文は、1901年にペルシアの古都スサで、石碑に刻まれたものが発見されている。

トレーニング

解答は140ページ

❶（メソポタミアと小アジア：概要） 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ティグリス・ユーフラテス両河流域のメソポタミアと、ナイル川のほとりのエジプトでは沃土が広がっているが、この地方は〔① 〕と呼ばれ、いち早く灌漑農業を基礎に古代文明が成立した。メソポタミアに文明の扉を開いたのは〔② 〕人であり、南メソポタミアに多数の都市国家を建てた。また、セム語族の〔③ 〕人は前24世紀に登場したサルゴン1世の時に、メソポタミア全域を征服した。
- (2) シュメール人の都市国家ウル第3王朝が前21世紀に崩壊したあと、アムル人は〔④ 〕を建てた。この王国は、ハンムラビ王の時代が最盛期で、この王の治世に制定された〔⑤ 〕は、シュメール法を継承・集大成したものである。
- (3) 前2千年紀になると、インド=ヨーロッパ語族の動きが活発になった。鉄器を初めて使用した〔⑥ 〕人は、小アジアに建国し、カッシート人は、バビロニアを前16世紀から前12世紀にかけて支配した。

2 (年表・地図で見るメソポタミアと小アジア) 次の地図・年表を見ながら問いに答えよ。

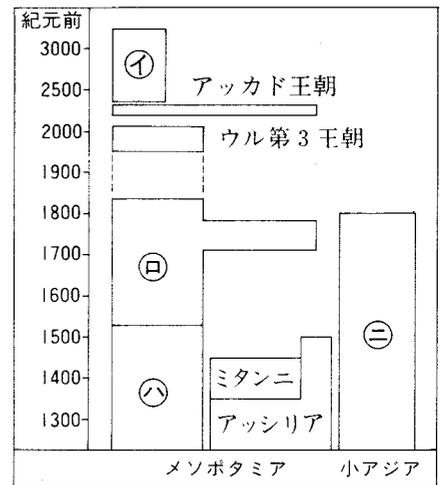
(A) 地図を見ながら次の問いに答えよ。

- ① ミタンニ王国を建てた民族は何か。 []
- ② 古バビロニア王国 (バビロン第1王朝) を建てた民族は何か。 []
- ③ 鉄製武器を初めて使用したのは何という民族か。 []
- ④ 古バビロニア王国 (バビロン第1王朝) の最盛時の王はだれか。 []



(B) 表はメソポタミア・小アジアを中心におこった王国 (都市国家) の年代を示したものである。次の問いに答えよ。

- ① ㊦はメソポタミアに最古の文明を築いた民族が対立・抗争をしていた時代である。この民族とは何か。 []
- ② ㊧はセム語族のアムル人が建てた国である。何か。 []
- ③ ㊨は㊧と同じ王国だが、王朝をつくっていた民族は何か。 []
- ④ ㊩の国は何か。 []
- ⑤ アッカド王朝の最盛期の王はだれか。 []



3 (メソポタミアと小アジア) 次の [] にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

(a)メソポタミアでは、前5000年ごろに〔①〕土器をもつ新石器文化が成立し、前4000年ごろには、シュメール人が南メソポタミアに定着し、前3300年ごろには青銅器・絵文字を有する都市文明を形成した。各都市国家では、中心に都市の守護神を祭る〔②〕が築かれ、最高の神官でもある〔③〕のもとに神官・〔④〕・軍人などの支配階層が形成され、人民を支配していた。都市の経済基盤は灌漑農業と外国との〔⑤〕による収入であった。メソポタミアは開放的な地形のため、東・北・西の三方から常に遊牧民が侵入した。西方から侵入した(b)アッカド人はアッカド王朝を建て〔⑥〕のときには全メソポタミアを統一した。前19世紀になると(c)アムル人がシュメール・アッカド文化を吸収しながら発展し〔⑦〕(バビロン第1王朝)を建てた。最盛期は前18世紀のハンムラビ王の時代で、全メソポタミアを統一し、(d)ハンムラビ法典を制定して法による統治を行った。また都の〔⑧〕は、以後1000年の間メソポタミアの文化の中心となった。

- (1) 下線(a)について、現在の何という国に含まれるか。 []
- (2) 下線(b)について、この民族が属する語族は何か。 []
- (3) 下線(c)について、この民族が属する語族は何か。 []
- (4) 下線(d)について、ハンムラビ法典の刑法の基本原則は何か。 []

◆新王国時代 前16世紀にヒクソスを追放して成立した第18王朝から第20王朝までを新王国時代という。古代エジプトにおける最も華やかな時代であり、強力な王権とヒクソスから学んだ軍備を背景にして対外遠征が活発に行われた。最盛期には勢力圏をシリアにまで拡大しヒッタイト王国と対峙した。一方、都テーベの守護神にすぎなかった神アモンは中王国時代からエジプトの主神としての崇拜をうけるようになり、新王国時代には国家の守護神としての地位を固めた。そしてアモン神殿は全土の3分の1を所有し、神官勢力は王権をも左右するようになった。これに対しアメンホテプ4世は、神アモンをはじめとするエジプトの神々を超越する唯一神アトンを奉じ、自らをイクナートン

(アトンの意にかなうもの)と改称し、都もテーベからテル=エル=アマルナ(現代名)に移し、アモンの影響力と神官の勢力をおさえて王権強化をはかった。これは一つの「宗教改革」であったが、彼の死で挫折した。しかし一時的ながら、従来の神々中心の文化の伝統が破られ、自然主義的・写実的なアマルナ芸術がおこった。

前12世紀から地中海からの異民族(海の民)やリビア人の侵入で王権が衰退しはじめ、前11世紀になると分裂の末期王朝時代にはいった。そして、リビア人、ヌビア人の王朝も登場し、前7世紀にはアッシリアに征服され、ついで前6世紀にはアケメネス朝ペルシアに征服されるなかで、エジプト文明は衰退していった。

トレーニング

解答は140ページ

4 (エジプト：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) 前5世紀にエジプトを旅したヘロドトスは、エジプトは〔① 〕と述べている。エジプトでは早くから、ナイル川流域に〔② 〕と呼ばれる小部族国家が分立していたが、治水、灌漑の規模の拡大に伴って、労働力を確保し組織・指揮するに足る権威と権力が生じ、メソポタミアより早く王=〔③ 〕による統一国家が誕生した。

(2) 前3100年ごろにエジプトを統一したメネス王はメンフィスに都をおいた。王権の急激な伸長と神格化がみられた〔④ 〕時代には、その王権の強大さを象徴するものとして、王の墳墓である〔⑤ 〕が多数つくられた。

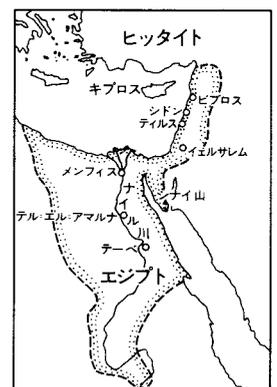
次にテーベを都とした〔⑥ 〕時代には、前18世紀ごろから王権が衰えたが、この時期にエジプトははじめて異民族の〔⑦ 〕に支配された。

前16世紀から約500年間続いた〔⑧ 〕時代には、対外遠征が盛んに行われた。また、前14世紀にはアモン神殿の神官をおさえるために〔⑨ 〕が唯一神アトン信仰を強制したが、この宗教改革は王の死とともに終わりをつげた。しかし、この時代には従来みられなかった写実的な芸術が開花し、これを新都の名にちなんで〔⑩ 〕芸術と呼ぶ。

5 (年表・地図で見るエジプト) 次の地図・年表を見ながら、問いに答えよ。

(A) 地図を見ながら問いに答えよ。

- ① 古王国時代に都がおかれたのはどこか。〔 〕
- ② 中王国時代と新王国時代に都がおかれたのはどこか。〔 〕
- ③ 地図はエジプトの最大領域を示している。この時代は何か。また境を接した小アジアの大国の名称は何か。〔 〕〔 〕
- ④ アメンホテプ4世が、一時都をおいたのはアクトアトンだが、現在の名称は何か。〔 〕



(B) 年表を見ながら次の問いに答えよ。

- ① 年表中の①にはいる語句を記せ。〔 〕
② 年表中の②にはいる語句を記せ。〔 〕
③ 前3100年ごろ上下エジプトを統一した王はだれか。
〔 〕
④ 古王国時代に王の墳墓として多数つくられたものは何と
呼ばれるか。〔 〕
⑤ 第2中間期にエジプトをはじめて支配した異民族は何か。
〔 〕
⑥ 唯一神アトン信仰を強制し、アマルナに遷都した王はだ
れか。〔 〕
⑦ 前671年にオリエントを統一した国はどこか。〔 〕
⑧ 前525年にオリエントを統一した国はどこか。〔 〕

前3100～2686	初期王朝時代
前2686～2181	古王国時代
前2040～1786	〔①〕
前1786～1567	第2中間期
前1567～1085	〔②〕
前1085～341	末期王朝時代

6 (古代エジプト) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

「エジプトを見る人は誰でも、それについて聞いたことがなくても、……ギリシア人が船で
着くエジプトは、獲得された土地、河の賜物であることを悟るに相違ない。……アラビアや
ギリシアの土地は岩石質でまた粘土質であるが、エジプトの土地は、エチオピアから河によ
って運搬された泥でできている沖積土であるため黒くて砕けやすいのである。」

(「史料世界史」上 史学会編)

- (1) 上の文章は古代ギリシア人の著した「歴史」の一節である。作者はだれか。〔 〕
(2) 下線部分について、この河は何か。〔 〕

7 (エジプト) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

エジプトでは〔① 〕の氾濫を調節したり灌漑を行うための(a)社会組織が早くか
ら生まれ、官僚制度が発達し、王権が増大して専制政治が行われていた。

古代エジプトの歴史を概観すると、(b)古王国時代、(c)中王国時代、(d)新王国時代という王権が強
く中央集権的支配が行われていた時代と、中間期と呼ばれる王権が衰退した地方分権的な時代のく
り返しであった。しかし、エジプトの歴史全体を通して王=〔② 〕が神官・官僚
の頂点に立つ専制政治を行うという政治体制の基本に変化は生じなかったといえよう。

この政治体制が崩壊していくのは、前7世紀に〔③ 〕に征服され、ついで
前6世紀に〔④ 〕に征服されてからである。

- (1) 下線(a)について、エジプトの社会組織である小部族国家は何と呼ばれるか。〔 〕
(2) 下線(b)について、この時代の強大な王権の象徴とされるものは何か。〔 〕
(3) 下線(c)について、前20世紀前後から勢力を伸ばし、この中王国時代と次の新王国時代の都とな
ったのはどこか。〔 〕
(4) 下線(d)について、この時代に勢力を拡大しエジプトと対抗した、小アジアからシリア地方を支
配した国は何か。〔 〕

1 (メソポタミア・小アジアとエジプト) [] に適当な語句を記入し、あとの問いに答えよ。

オリエントの大部分は乾燥地帯であるが、(a)メソポタミアとエジプトには大河の定期的氾濫による沃土がひらけ、人類最古の文明が誕生した。エジプトは砂漠によって隔離されているため異民族の侵入の心配もなく、王や多神教の神々中心の文明を展開した。ナイル川流域でかつ定期的氾濫の及ぶ場所にしか生活できないエジプトでは、人間が分業化・画一化されやすく、早くから社会的組織が成立し、これを統轄する〔①〕が王のもとに成立し中央集権的統一国家が形成された。王権が強力で中央集権体制が確立していた時代は〔②〕,〔③〕と新王国時代であり、王権の弱い分権体制の時代が(b)第1・第2中間期及び異民族侵入が顕著になった〔④〕であった。エジプトでは自然崇拜を基調とする多神教が盛んで、王はこれらの神々の子もしくは神そのものであった。したがって王権の強大化に伴って神々を祭る神殿の財産やこれに仕える〔⑤〕の勢力も増大した。新王国時代には、この傾向が強くなってきたため、〔⑥〕は宗教改革を断行して王権を脅かすものを排除しようとしたのであった。

一方、メソポタミアはエジプトと異なり、地形が開放的で一つの国家にまとまりにくいうえに、小アジアやイランの山岳・高原地帯から遊牧民が絶えず侵入していた。しかしこれらの侵入者がメソポタミア文明を継承・発展させていったところに特徴がある。前3300年ごろにメソポタミア文明を築きあげた〔⑦〕も外部からの侵入者であった。彼らは都市国家を各地につくり抗争をくり返し、統一王朝は成立しなかったが、各都市国家は灌漑農業と〔⑧〕を経済的基盤にして繁栄した。(c)メソポタミアが統一されたのは、前24世紀で、エジプトより遅い。しかも王が全土を中央集権的に支配したのはわずかな期間であった。前22～前21世紀の〔⑨〕も同様であった。前19世紀に出現した古バビロニア王国(バビロン第1王朝)も同様で、前18世紀のハンムラビ王時代に中央集権的支配が行われたにすぎなかった。

前16世紀ごろからオリエントの状況は一変する。それは〔⑩〕を主とする遊牧民の活動によってもたらされた。小アジアを根拠地にシリアからメソポタミアをねらうヒッタイト王国、メソポタミア北部にはフルリ人の建てた〔⑪〕,メソポタミア南部には〔⑫〕人による王朝が成立したのである。そして新王国時代のエジプトがこれに加わって4大国間に複雑な国際関係がかもし出された。エジプトが孤立の伝統を破って領土を拡大したのも、国際関係を有利に展開するためであった。

- (1) 下線(a)について、メソポタミアを流れる大河とは何か。
[]
- (2) 下線(b)について、第2中間期に侵入し、エジプトを支配した民族は何か。 []
- (3) 下線(c)について、この国を何というか。またその時の王はだれか。
[] []
- (4) 上の文を参考にして、オリエントに専制国家が出現した理由を100字程度で書け。

テーマ1 地中海東岸の民族
 テーマ2 古代オリエントの統一

オリエントの複雑な国際環境の中で成長した地中海東岸の諸民族の活動と歴史的役割について考えてみよう。また、アッシリア、ついでペルシア帝国によってオリエント世界が統一されるが、その過程、意義などについて考えていこう。

はじめにメソポタミア・小アジアとエジプトについて復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (メソポタミア・小アジアとエジプト) 次の問いに答えよ。

- (1) メソポタミア文明は、ティグリス・ユーフラテス両大河のほとりにひらけたが、その文明を最初に築いた民族は何か。 []
- (2) ついでセム語族のアッカド人が統一国家をつくったあと、同じセム語族のアムル人が勢力を得、古巴ビロニア王国が成立したが、前18世紀ごろ即位した王によってメソポタミア全域が支配された。その王の名を冠せられた法典は何か。 []
- (3) この法典の刑法の基本法則は何か。 []
- (4) 小アジアでは、インド=ヨーロッパ語族の侵入者が前1650年ごろ統一国家をつくり、独自の文化をうみだした。その民族はまた、はじめて鉄の武器を使用したことで知られているが、その民族とは何か。 []
- (5) エジプトではナイル川流域に、前3000年ごろ統一国家ができ、前6世紀にペルシアに征服されるまで、ほぼ独立を維持する。その間多くの王朝が交替するが、これらはふつう3つの時期に分けられる。それら3つの時期を書け。 []・[]・[]
- (6) エジプトの王はファラオと呼ばれ、神として絶大な権力を有したが、古王国時代につくられたファラオの墓を何というか。 []
- (7) 前1700年ごろ、アジアからの遊牧民がエジプトに侵入し、1世紀あまりエジプトを支配し、中王国時代は終わることになるが、この遊牧民は何か。 []
- (8) エジプトの宗教は多神教で、また靈魂の不滅が信じられてミイラをつくり、「死者の書」を今日に残しているが、新王国時代に多神教をすてて唯一神アトンの一神教をおこそうとし、自らイクナートンと改名した王はだれか。 []
- (9) エジプトのナイル川は水と緑と肥沃な土壌、そして交通路を同時に提供してくれたため、エジプト人に讃えられた。このナイル川とエジプト人とのかかわりをひと言で表したヘロドトスの有名な言葉をあげよ。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)シュメール人 (2)ハンムラビ法典 (3)復讐法 (4)ヒッタイト人 (5)古王国, 中王国, 新王国
 (6)ピラミッド (7)ヒクソス (8)アメンホテプ4世 (9)エジプトはナイルの賜

前13世紀末ごろバルカン半島方面からの民族移動がはじまり、このためエジプトは弱体化し、ヒッタイト王国は滅んだ。この結果、両大国の支配から解放された地中海東岸の諸民族の活動がはじまった。今回は、このセム系諸民族の果たした役割についてみていこう。

※地中海東岸の概観 第二次世界大戦後、紛争の多発しているイスラエル・ヨルダン・レバノン・シリアなどの国々のある地域をさす。砂漠と海にはさまれ、狭いうえに地形の複雑な地域で統一国家は成立しにくかった。しかし地中海に面し、東にメソポタミア、南西にエジプトをひかえて、セム語族に属する諸民族は各地に都市国家を建て、交易を発展させた。したがってエジプトやメソポタミア、小アジアの大国家の進出が盛んであった。

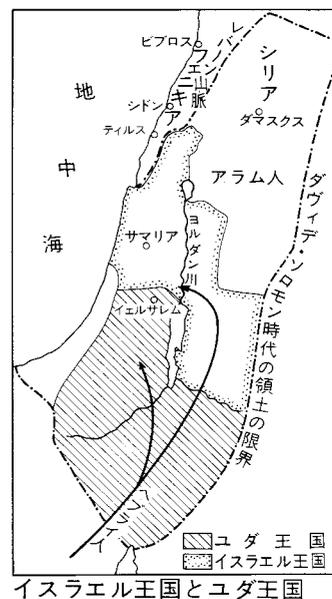
前13世紀末から前12世紀にかけて、オリエントの状況は大きく変化した。ミタンニ王国は崩壊、カッシート朝バビロニアは弱体化、またバルカン半島方面から移動してきた「海の民」の略奪でエジプト新王国・ヒッタイト王国も衰退した。この結果、これまでエジプトやヒッタイトの支配下にあった地中海東岸のフェニキア人・アラム人・ヘブライ人（いずれもセム語族）などが特色ある活動を展開した。

※フェニキア人 良質な船舶材レバノン杉と天然の良港に恵まれたフェニキアは、シドン・ティルスなどを拠点に、前12～前6世紀の地中海貿易を独占した。植民活動も活発に行い、ローマとの抗争で知られるカルタゴなどの植民市を地中海沿岸に建設した。彼らが文化史において果たした大きな役割は、彼らが使用していた22の子音からなるアルファベットをギリシア人に伝えたことであった(前9世紀)。ギリシア人はこれに母音を加えて改良し、これが現在のアルファベットの起源となった。

※アラム人 一方アラム人は、エジプト、メソポタミア、小アジアを結ぶ商業路が交差するシリアをおさえ、ダマスカスを中心に全オリエントにおよぶ内陸貿易で活躍した。このためアラム語はアッカド語にかわってオリエントの国際語となり、アラム文字は東方の多くの文字の源流となった(ヘブライ文字・ウイグル文字・モンゴル文字・満州文字に影響)。

※ヘブライ人 ヘブライ人は前1500年ごろカナーンに侵入、定住した。一部はエジプト新王国に移住したが、迫害を受け、モーセに率いられて脱出した(出エジプト)。このとき唯一神ヤハウェ(エホヴァ)を信仰する一神教が成立した。

前1000年ごろにヘブライ王国を建てて民族統一を成しとげ、**ダヴィデ王**ついで**ソロモン王**の時代に最盛期(ソロモンの栄華)をむかえたが、王の死後、北の**イスラエル王国**と南の**ユダ王国**に分裂した。前722年、イスラエルはアッシリアに滅ぼされた。ついで前586年、ユダは**新バビロニア**に滅ぼされ、多くの住民がバビロン



に連行された(バビロン捕囚)。ヘブライ人はこれらの苦難を経て、ヤハウェとの契約によってユダヤ人だけが救われるという選民思想や、救世主(メシア)待望の観念を強固なものにしていった。前538年、新バビロニアを滅ぼしたアケメネス朝ペルシアによって解放されると、彼らは帰国してエルサレムに神殿を再建し、儀式・祭祀の規則を定めて**ユダヤ教**を成立させた。

オリエントの諸民族は多神教を信じ、神に支配されるという観念をもっていたため、国家・神が滅べば民族も滅んだ。しかしヘブライ人の場合は、国が滅んでも民族の神は個々人の神として生きつづけ、民族の滅亡を防いだ。ユダヤ教はキリスト教の母胎となり、経典の「旧約聖書」は「新約聖書」とともにキリスト教の経典となり、ヨーロッパ文化の形成に大きな影響を与えた。



オリエントの民族(紀元前20世紀)

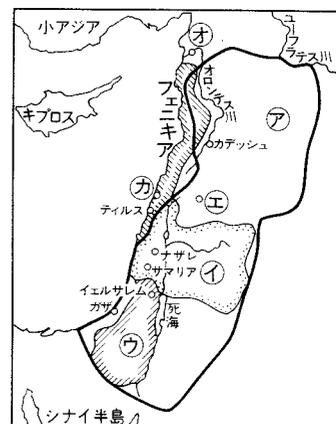
1 (地中海東岸の民族：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 前13～前12世紀ごろからエジプト新王国やヒッタイト王国が衰退すると、地中海東岸地域ではセム語族に属するフェニキア・アラム・ヘブライの諸民族の活動が活発になった。
 フェニキア人はティルス・〔① 〕などの都市国家を拠点に地中海貿易を独占し、ギリシア人に〔② 〕を伝えた。アラム人はシリアのダマスカスを中心に全オリエント規模の内陸貿易で活躍し、彼らが用いた〔③ 〕は国際語として用いられ、その文字は遠く東アジアの諸文字にまで影響を与えた。
- (2) ヘブライ人は前1500年ごろカナーンに侵入・定住した。一部はエジプトに移住したが迫害されて脱出した。これを〔④ 〕という。彼らは前1000年ごろにヘブライ王国を建て、〔⑤ 〕についてソロモン王の時代に最盛期をむかえた。しかしソロモン王の死後、北の〔⑥ 〕と南の〔⑦ 〕に分裂し、前者は前722年に〔⑧ 〕に滅ぼされ、後者は前586年に新バビロニアに滅ぼされた。このとき多数の住民が連行され、アケメネス朝ペルシアによって解放されるまで捕囚されていた。これを〔⑨ 〕という。ヘブライ人は唯一神〔⑩ 〕を信仰する〔⑪ 〕を成立させた。この宗教はヘブライ人のみが救われるとする選民思想やメシア待望の観念に特徴がある。経典は〔⑫ 〕である。

2 (年表・地図で見る地中海東岸の民族) 次の地図・年表を見ながら問いに答えよ。

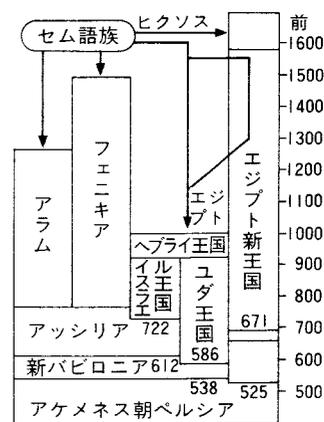
(1) 次の文にあてはまる都市名もしくは国名を答え、その場所を右の地図上から選び記号で答えよ。

- ① アラム人の都であり、ここを拠点にして彼らは内陸貿易を展開した。〔 〕()
- ② 地中海貿易で活躍したフェニキア人の都市国家で、前12世紀以降繁栄した。〔 〕()
- ③ ヘブライ王国にひきつづいてエルサレムを首都とした国で、新バビロニアに滅ぼされた。〔 〕()
- ④ この国はサマリアを首都とし、前722年にアッシリアによって滅ぼされた。〔 〕()



(2) 次の年表は、地中海東岸の民族の活動を中心としたものである。下の問いに答えよ。

- ① エジプトに移住して迫害をうけたヘブライ人は、モーセに引率されて逃れたが、これを何というか。〔 〕
- ② ヘブライ王国最盛期の王は、ダヴィデ王ともう1人はだれか。〔 〕
- ③ ユダ王国が滅ぼされた時、多くの住民がバビロンに強制移住させられたが、これを何というか。〔 〕
- ④ 新バビロニアを滅ぼし、ヘブライ人を解放した国の名を書け。〔 〕



3 (ヘブライ人の宗教) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

神はこのすべての言葉を語って言われた。「わたしはあなたの(a)神、主であってあなたを(b)エジプトの地、奴隷の家から導き出したものである。あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。あなたは自分のために偶像を刻んではならない。」

(『旧約聖書』「出エジプト記」, 「世界史資料」上 東京法令)

「われらはバビロン川のほとりにすわり、シオンを思い出して涙を流した。われらはその中の柳にわれらの琴をかけた。(c)われらをとりにした者が、われらに歌を求めたからである。」

(『旧約聖書』「詩篇」, 「世界史資料」上 東京法令)

- (1) 上記の「詩篇」が示しているヘブライ人の民族的苦難は何か。 []
- (2) 下線(a)について、この神の名称を書け。 []
- (3) 下線(b)について、この時代のエジプトは何という時期か。 []
- (4) 下線(c)について、とりにした国はどこか。 []

4 (地中海東岸の民族) 次の [] にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

前13～前12世紀にかけてバルカン半島からオリエントに〔①〕と呼ばれる民族が侵入し、地中海東岸の国際環境は大きく変化し、これまで(a)大国の支配を受けていたセム語族に属する少数民族が特色ある活動を展開した。〔②〕は(b)船舶材とシドン・〔③〕などの天然の良港に恵まれ、地中海に進出した。彼らの用いたアルファベットは前9世紀に〔④〕に伝わった。〔⑤〕は、オリエント諸地域からの商業路の交差するシリアをおさえ内陸貿易で活躍した。ヘブライ人は民族的苦難のなかにあっても唯一神〔⑥〕の信仰を守りつづけ、〔⑦〕から(c)解放されたあと〔⑧〕に神殿を再興し、儀式、祭祀の規則を定め〔⑨〕を成立させた。それには、〔⑩〕の禁止、律法の厳守、〔⑪〕思想、救世主(〔⑫〕)による救済などの考えがある。その經典である〔⑬〕は、「新約聖書」とともにのちのヨーロッパ文化・思想に大きな影響を与えた。

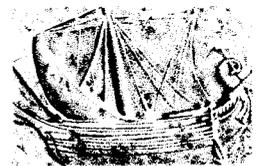
- (1) 下線(a)について、インド=ヨーロッパ語族が小アジアにつくった大国は何か。 []
- (2) 下線(b)について、それは何という名称の木材か。 []
- (3) 下線(c)について、解放した国名を書け。 []

-----ひとくちメモ-----

航海民族フェニキア人

フェニキア人はクレタ・エジプトの両先進文明から造船や航海術を学んだ。彼らが地中海貿易において海上権を独占するのは、クレタ・ミケーネの没落(前12世紀)のあとであった。アッシリア、ついでペルシアに本国が征服されても、これら征服者の海軍、商業の

担い手として、彼らの活動は衰えることはなかった。



フェニキアの船

諸地域には互いに交流がありながらも独特の文明が成立・発展したが、アッシリアついでペルシアの登場で全オリエントは統一され、一つの文明圏としてのまとまりをもったオリエント世界が成立した。ここでは、統一の過程・意義・文化などについてみていこう。

※アッシリア セム語族のアッシリア人は前3千年紀後半には北メソポタミアに定着し、アッシュール・ニネヴェなどの都市国家を建設した。中継貿易で繁栄し、また巧みな外交によって存続しつづけた。前15世紀にはフルリ人のミタンニ王国の支配をうけたが独立し、しかも馬にひかせる戦車や鉄製の武器を用い、強力な軍事国家に成長していった。前12世紀ごろから周囲を征服しはじめ、前8世紀後半にはメソポタミア・シリアを征服して大国家に発展し、前7世紀にはエジプトを征服してオリエントの中心部分を統一、最初の世界帝国を建設した。アッシリア帝国は過酷な武力統治をもって被征服民にのぞんだので、各地に反乱がおこり分裂した。そして前612年、メディア・新バビロニアの連合軍によって首都ニネヴェが陥落し滅亡した。アッシリア王は神の名において軍事・政治・宗教を統括し、全国を州に分け総督を派遣し、駅伝制を整備して統治した。また属国からは貢租を徴収した。

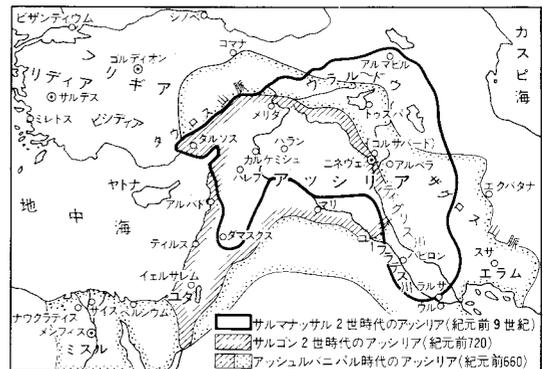
※4国分立 アッシリア以降のオリエントには、エジプト、新バビロニア(カルデア)、メディア、リディアの4王国が分立した。このうちメソポタミア・シリアをおさえた新バビロニアは、ネブカドネザル2世(在位前604～前562)時代に最盛期をむかえ、都のバビロンはオリエントにおける商業・文化の中心として繁栄した。リディアでは、前7世紀後半に最古の鑄造貨幣が使用された。これがギリシアに伝わり、ギリシアの商工業の発展に大きな影響を与えた。

※アケメネス朝ペルシア 前550年、メディアを滅ぼして独立したインド=ヨーロッパ語族のペルシア人はアケメネス朝を建て、リディア・新バビロニア・エジプトを滅ぼしオリエントを統一、3代目のダレイオス(ダリウス)1世(大王)(在位前522～前486)のとき最大領域に達した。王はアッシリアの諸制度を踏襲して大帝国の統治にあたった。全土を20州に分け、各州に知事(サトラップ)を配置し、さらに“王の目・王の耳”と呼ばれる監察官を派遣して動静をさぐらせた。また“王の道”などの公道を整備して駅伝制度を設け、貨幣を統一し中央集権の実をあげ、商業活動を活発にした。また王はペルセポリスに王都を建設した。1833年にイランのベヒストゥーンで、このダレイオス1世の治世をたたえる磨崖碑が発見され、ローリンソンが

楔形文字を解読する手がかりとなった。

アケメネス朝は国内の諸民族に対し比較的寛容な政策でのぞみ、200年にわたってオリエントを支配したが、前5世紀初めにギリシアと衝突して敗れ(ペルシア戦争)、前4世紀後半には衰退がはじまり、アレクサンドロス大王によって、前330年に滅ぼされた。

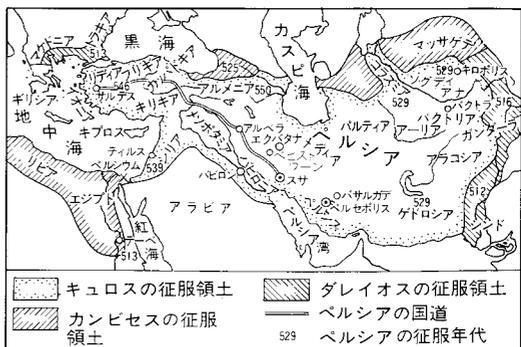
ペルシア人の信仰したゾロアスター教(拝火教)は、この世を善(光明)神アフラ=マズダと悪(暗黒)神アーリマンの闘争であるとし、善神の保護を求めべしとして、その象徴である火を拝した。この善悪二元論はユダヤ教やキリスト教、イスラム教に影響を与えた。



紀元前8・7世紀のオリエント(アッシリアのオリエント統一)



紀元前600年ごろのオリエント(アッシリア滅亡後の4国の対立)



紀元前500年ごろのオリエント(アケメネス朝ペルシアの統一)

5 (古代オリエントの統一：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) セム語族に属する〔① 〕は前15世紀にミタンニ王国の支配から独立し、前7世紀にはオリエントの中心部分を統一し、最初の世界帝国を建設した。
- (2) アッシリア滅亡後、オリエントは〔② 〕・〔③ 〕
〔④ 〕・〔⑤ 〕の4国に分立した。
- (3) ペルシア人は前550年にメディアを滅ぼして独立し、ついで残りの3国を征服した。これが〔⑥ 〕であり、3代目の〔⑦ 〕の時代に最大領域となった。王は全土を20州に分け、各州に〔⑧ 〕を配置し、“〔⑨ 〕”と呼ばれる監察官を派遣し、公道を整備して〔⑩ 〕制度を設け中央集権の実をあげた。またペルシア人の信仰した〔⑪ 〕(拝火教)は、善悪二元論として、ユダヤ教やキリスト教、イスラム教に影響を与えた。

6 (年表・地図で見る古代オリエントの統一) 次の地図・年表を見ながら問いに答えよ。

(1) 次の地図を見て問いに答えよ。

- ① ㉠は世界最古の鑄造貨幣を使用した国である。国名を書け。〔 〕
- ② ㉡は世界最古の農耕文明が発生した地の1つである。国名を書け。〔 〕
- ③ ㉢の都は当時の商業・文化の中心地バビロンである。国名を書け。〔 〕
- ④ アケメネス朝は㉣を滅ぼして独立した。㉣の国名を書け。〔 〕
- ⑤ 図のようにアケメネス朝の最大領域を現出した王はだれか。〔 〕



(2) 次の年表を見て問いに答えよ。

- ① ㉠について、アッシリアはどこを征服して、最終的にオリエント統一を成しとげたか。〔 〕
- ② ㉡について、どこから独立したのか。〔 〕
- ③ ㉢について、オリエント統一による大帝國建設の結果、第3代の王のときに中央集権による統治のための手段の1つとして、中央から監察官が送られた。それは何と呼ばれているか。〔 〕
- ④ ㉣について、その戦争でペルシアを指揮した第3代の王はだれか。〔 〕

前 671	㉠アッシリアのオリエント統一。
前 612	アッシリア滅亡。
前 550	㉡アケメネス朝ペルシアの独立。
前 547	アケメネス朝、リディアを滅ぼす。
前 539	アケメネス朝、新バビロニアを征服。
前 525	㉢アケメネス朝、エジプトを征服し、オリエントを統一。
前 492	㉣ギリシアとの間にペルシア戦争開始。(～前479)
前 330	アレクサンドロス大王によってアケメネス朝滅亡。

7 (古代オリエントの統一) 次の史料の〔 〕に適切な語句を記入し、あとの問いに答えよ。

「朕はダリウス(ダレイオス)大王、偉大なる王、諸王の王、ペルシアにおける王、諸国の王、ヒュスタスペスの子、アルサメスの孫、〔①〕家の生まれなり。

王ダリウスはかく語る。朕が支配に帰したる地方下記の如し。〔②〕

〔 〕の神慮によりて朕はその王となれり。ペルシア、エラム、バビロン、アッシリア、アラビア、エジプト、……バクトリア、ソグディアナ、アラコシア、マカ、全部で23国なり。(杉勇訳「西洋史料集成」平凡社)

- (1) この碑文が刻まれた断崖のある土地の名を書け。〔 〕
(2) この碑文を解読し、楔形文字を解読するための手がかりをつくった人物の名を書け。〔 〕

8 (2つの世界帝国) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

セム語族に属するアッシリア人は、〔①〕の武器と強力な騎馬隊を使って周囲を征服し、前671年には〔②〕を征服してオリエントの統一を達成し、最初の世界帝国となった。しかし、征服地に対する過酷な武力支配のために、各地で民族反乱が起こり前612年に滅んだ。そしてオリエントは(a)4国分立の時代にはいった。

前550年、〔③〕を滅ぼして独立したペルシア人はアケメネス朝ペルシアを建て、前525年には全オリエントを統一した。〔④〕の時代に最盛期をむかえた。王は広大な国土を20の州に分け、〔⑤〕と呼ばれる知事を配置し、(b)監察官を派遣して州の統治を監視させた。アッシリアと異なり諸民族の習慣や宗教に対して寛大で、〔⑥〕人や〔⑦〕人の商業活動も保護した。ペルシア人の信仰した〔⑧〕はユダヤ教などにも影響を与えた。また彼らは楔形文字を表音文字化したペルシア文字をつくり、(c)壮大な建築やすぐれた彫刻を残した。しかしギリシアとの戦争に敗れたあと、前330年にはアレクサンドロス大王に滅ぼされることになる。

- (1) 下線(a)について、はじめて鑄造貨幣を使用したのは何という国か。①〔 〕
またオリエントの中心部を支配し、最も繁栄したのはどの国か。②〔 〕
(2) 下線(b)について、これは通常何と呼ばれていたか。〔 〕
(3) 下線(c)について、王都として建設した都市の名称を書け。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

楔形文字の解読

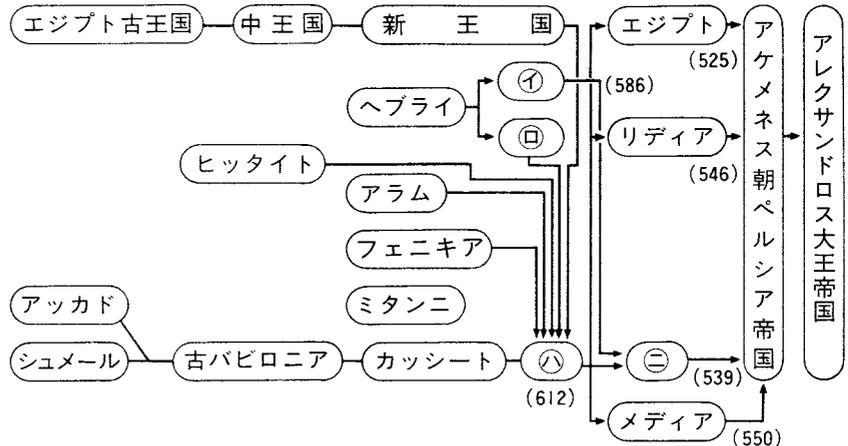
ペルセポリスの建物に刻まれている3種類の楔形文字の解読を試みたのは、ドイツ人グローテフェントであった。3種類のうち、比較的やさしい古代ペルシア文字の一部解読に成功した。30年後イギリスのローリンソンは、より長文のテキストをベヒストゥーン近郊の岩山の断崖にもとめた。ここには幅18m、高さ33m

におよぶ長文の3種類の文字が刻まれていた。彼は10数年を費やして、危険な断崖によじ登って拓本を集め、1847年、古代ペルシア文字の解読に成功した。他の2種類も解読され、シュメール文字も解読された。

こうしていきいきとしたメソポタミア文明が明らかにされていったのである。

1 (地中海東岸の民族・古代オリエントの統一) 次の〔 〕をうめ、あとの問いに答えよ。

いわゆる「海の民」の侵入で、エジプト新王国や、〔①〕が衰えると、地中海東岸のセム語族に属するフェニキア人・アラム人・ヘブライ人の活躍がはじまった。フェニキア人は現在の〔②〕に都市国家を建設して地中海貿易で活躍し、アラム人はシリアで〔③〕などの



オリエント諸国の興亡図(年代は紀元前)

都市国家を建設して内陸貿易で活躍した。ヘブライ人は前1000年ごろヘブライ王国を建て民族統一を成しとげたが、〔④〕の死後、イスラエル王国とユダ王国に分裂した。その後イスラエルはアッシリアに滅ぼされ、ユダは新バビロニアに滅ぼされた。ヘブライ人は、(a)民族統一にいたるまでの苦難、滅亡の苦しみの中から独特の思想を創造し、〔⑤〕を成立させた。

はじめてオリエントを統一し最初の世界帝国をうちたてたのはアッシリアであったが、その統治は過酷をきわめ、諸民族の反乱をまねいて滅亡した。その結果、オリエントにはエジプト・新バビロニア・リディア・メディアの4国が分立した。このうち最も繁栄したのは新バビロニアで、都の〔⑥〕は商業や文化の中心としてにぎわった。ついでオリエントを統一したのは、〔⑦〕語族に属するペルシア人の建てたアケメネス朝ペルシアで、〔⑧〕の時代に最大領域に達した。王は全土を20州に分け、各州に〔⑨〕(知事)を配置し、〔⑩〕と呼ばれる監察官を派遣して中央集権の実をあげた。また公道を整備し〔⑪〕を実施した。王は地中海の独占をくわだてたが(b)ギリシア人の抵抗で失敗した。200年間オリエントを支配したこの帝国も前4世紀後半になると分裂がはじまり、前330年にアレクサンドロス大王に征服された。

- (1) 上図の①～⑦に該当する国名を書け。

① {	}
② {	}
③ {	}
④ {	}
⑤ {	}
⑥ {	}
⑦ {	}
- (2) 下線(a)について、民族的苦難の代表的なものを2つ書け。

〔	〕
〔	〕
- (3) 下線(b)について、この戦争の名称を書け。

〔	〕
---	---
- (4) フェニキア人とアラム人の文化史上果たした役割について120字程度で書け。

主 題 1 古代オリエントの政治史

主 題 2 古代オリエントの文化史

これまで古代オリエント世界を概観してきたが、きょうは角度を変えてオリエント文明をメソポタミア文明とエジプト文明に分け、その両者の政治面、文化面の比較をしながら復習、整理してみよう。

まず、オリエントの政治の分野から学習していこう。

主題1 古代オリエントの政治史

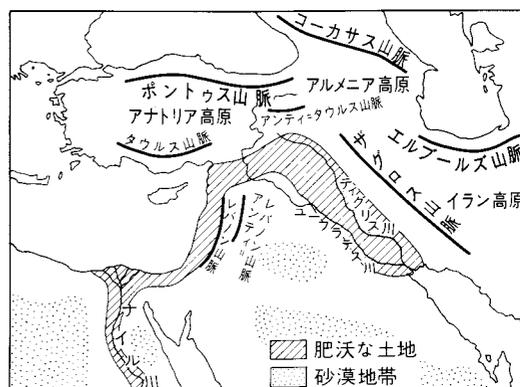
古代オリエントといってもメソポタミアとエジプトでは地形上の条件から、政治史上に差異が生じた。つまり、メソポタミアは開放的な地形で、エジプトは閉鎖的な地形であるために、都市と王権、法制、経済などにちがいが存在する。この主題では政治的分野にしぼってみていこう。

◆地形上の相違 地図を見てほしい。メソポタミアはティグリス・ユーフラテス両河に囲まれた肥沃な沖積平野部分をさすのだが、周囲に外敵の侵入を防止できる障害物が存在しないことがわかるだろう。したがってメソポタミアでは沖積平野に居住する農耕民と、絶えず侵入してくる西方の遊牧民やザグロス山脈、イラン高原から侵入してくる山地民との戦いのくり返しであった。この意味でメソポタミアは開放的な地形を有していたといえる。それに対してエジプトは、細長いナイル川流域のみが肥沃な土地で、農耕可能地であり、その周囲は大きな砂漠地帯が広がり天然の障害物になっていた。またエジプトに侵入するには現在スエズ運河が通っている狭く、湖沼地帯となっているデルタの東方か、海上からしか方法がなかった。そのためエジプトでは中王国を滅ぼすヒクソスまで異民族の侵入を受けることがなく、神格化されたファラオを頂点とする統一王朝が存続した。この意味でエジプトは閉鎖的な地形を有していたといえる。

◆洪水の問題 洪水はオリエント世界の文明化にとって必要不可欠の自然現象であった。この洪水によってもたらされた新しい肥沃な土地が農業の生産力を拡大せしめ、また灌漑や治水の必要性が統一国家を成立させたのであった。ところが、メソポタミアとエジプトでは洪水に対する考え方が全く正反対であった。というのは、メソポタミア地方の洪水は北部山岳地帯やザグロス山脈の雪どけ水や雨水によってひきおこさ

れるが、それは日本人には想像もできないような急激で大規模な洪水であったという。1日で4メートルも水位が増加するのも珍しいことではなく、最低水量と最高水量の差が10倍もあるため、沖積平野で標高差のないメソポタミア平原はひとたまりもなく洪水にのみ込まれたのであった。古代バビロニアの「ギルガメシュ叙事詩」の中には恐ろしい洪水をもとにした話のっていて、「旧約聖書」のノアの方舟の原型となったといわれる。したがって、メソポタミアでは洪水は「神の罰」として恐れられたのであった。

それに対してエジプトでは、「神の恵み」として感謝され、ギリシア人ヘロドトスによって「ナイルの賜」と表現されたのであった。エジプトの洪水は遠いアビシニア高原の春の大雨と雪どけが原因であるため定期的なものであり、上流の肥沃な土壌が下流にもたらされるので、肥料なしで、年2～3回の収穫が保障されるという性質のものであった。



※都市国家と統一国家 前述した地形、洪水の問題は、当然のことながら両地域の国家形態にちがいを作り出すことになった。メソポタミアでは開放的な地形のため、遊牧民や山地民の侵入があいついだし、また洪水による一瞬にしての国家滅亡もあった。シュメール人、アッカド人、アムル人、ヒッタイト人、フェニキア人、ヘブライ人、アラム人、アッシリア人などと、まさに諸民族の宝庫であった。したがって、農耕民だけでなく、陸上、海上貿易に従事する民族、遊牧生活を送る民族というように生活形態も多様であった。また、他民族の侵入に対する防衛のために都市はレンガの堅固な城壁で囲まれた都市国家であり、アッカドがメソポタミア最初の統一国家を建設したといっても、あくまでも面ではなく、都市国家という点の集合体としての国家であった。

それに対しエジプトは、閉鎖された地形であるために異民族の侵入は少なく、洪水もおだやかであったために、前3000年ごろから村落集合体としての小部族国家であるノモスを行政単位として、メネス王の統一国家が誕生し、存続したのであった。

※法制の相違 メソポタミア地方における支配形態の特徴に法典の整備がある。ここではハンムラビ法典を代表として、数多くの法典が出土している。

それでは、メソポタミアとエジプトのちがいをしっかり整理して、トレーニングに進もう。

トレーニング

解答は142ページ

1 (古代オリエントの政治：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) メソポタミアとエジプトのちがいは地形にあった。メソポタミアは諸民族の侵入を許しやすい〔① 〕な地形であり、エジプトは侵入しにくい〔② 〕な地形であった。
- (2) ギリシア人の歴史家ヘロドトスによれば、エジプトは「〔③ 〕」という。これはナイル川の洪水がメソポタミアの洪水に比べて穏やかで、「神の恵み」として感謝される性質のものだったからであった。一方、メソポタミアの洪水は急激で、住民から「神の罰」として恐れられる性格のため、〔④ 〕叙事詩の中にもすさまじい洪水の話が出てくる。
- (3) メソポタミアの統一国家といっても堅固な城壁で囲まれた〔⑤ 〕の集合体であり、それに対してエジプトではノモスを行政単位として面を支配する〔⑥ 〕であった。
- (4) 支配者の交代が激しいメソポタミアでは、契約の観念がはやくから発達したため、古バビロニア王国の〔⑦ 〕法典にみられるように、法典の整備が行われた。その一方エジプトでは〔⑧ 〕(王)が神格化されて、彼の命令が即、法律であったため、法典の類は整備されなかった。



ハンムラビ法典

楔形文字で刻んだハンムラビ法典の一部。



ハンムラビ法典をきざんだ石柱の頭部

正義をつかさどる太陽神シャマシュ(右)より法典を受けるハンムラビ王。

ところが、エジプトでは法典がまったく出土していない。なぜだろうか。その原因も地形と洪水の問題に帰納できるのである。

メソポタミアは前述のように支配者が次々と交代した。その結果、諸民族の多様な経済生活が導入されたので、農業だけでなく商工業が発達し、民族・職業・社会階級も複雑になり、貴金属を基礎とする交換経済が発達し、契約の観念が生じ、法典が整備された。

これに対しエジプトではファラオ(王)は神の化身と信じられていたため、王の命令が即、人間社会の法律として実施されたのである。したがってエジプトでは法典を必要とせず、法典の整備も行われなかったのであった。

2 (年表で見るエジプトとメソポタミア) 次の表を見ながら、問いに答えよ。

	前4000	前3500	前3000	前2000	前1500	前1000	前500	
メソポタミア		都市文明の成立	(2) 八つの都市国家	アッカド王朝	(4) 第1王朝成立	カッシート王朝	(6) 新バビロニア王国	アケメネス朝ペルシア
エジプト	(1) の形成	エジプト第1王朝成立	(3) の時代	中王国時代	(5) の侵入	新王国時代	帝国	サイス朝

- (1) ①は、エジプトの行政単位のことであるが、何と呼ばれるか。 []
- (2) ②は、メソポタミア最古の住民といわれているが、これは何か。 []
- (3) ③の時代はファラオの墳墓であるピラミッドが造営されたが、この時代は何と呼ばれるか。 []
- (4) 復讐法にもとづく刑法をもつ成文法、ハンムラビ法典が発布された④は何という国か。 []
- (5) ④の国の英雄詩で、この地方の恐ろしい大洪水の話をのせているものは何か。 []
- (6) 閉鎖的な地形のため、異民族の侵入をほとんど受けなかったエジプトに侵入し、中王国を滅ぼした⑤の異民族は何か。 []
- (7) ⑥は、ティグリス川中流域に建てられた国で、はじめてオリエントを統一した国であるが、これは何か。 []

3 (メソポタミアとエジプト) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

(A) ……いやしくも物の解る者ならば、たとえ予備知識を持たずとも一見すれば明らかなことであるが、今日ギリシア人が通航しているエジプトの地域は、いわば河の賜ともいうべきもので、エジプト人にとっては新しく獲得した土地なのである。

(「歴史」 村川堅太郎訳 「世界の名著」 中央公論社)

(B) 196条 他人の目をつぶした者はその目をつぶされる。

197条 他人の骨を折った者はその骨を折られる。

(原田慶吉訳 「楔形文字の研究」 弘文堂)

- (1) (A)の史料はギリシア人の歴史家が残した「歴史」の一部である。この歴史家はだれか。 []
- (2) (A)の史料によれば、エジプト文明の繁栄は何によっているか。 []
- (3) (B)の史料はメソポタミアの法典の一部である。何法典のことか。 []
- (4) (B)の史料の記述から理解される、この法典の刑法の原則を漢字3文字で述べよ。 []

4 (古代オリエントの政治史) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

エジプトでは、前4000年ごろから村落の集合体としての小部族国家〔①〕が発生し、ナイル川の灌漑や治水の必要性から前3000年ごろ(a)統一国家が成立した。ここから〔②〕・中王国・新王国と区分される(b)エジプト人の国家が存続するのである。

これに対し、メソポタミアでは前3300年ごろから〔③〕人による都市国家が(c)大河の沖積平野部分に建設されたが、前20世紀に侵入したセム系のアムル人によるバビロン第1王朝、民族系統不明のカッシート人による王朝、鉄を初めて使用した〔④〕人、地中海貿易に従事した〔⑤〕人、陸上貿易に活躍したアラム人、全オリエントを最初に統一した〔⑥〕人、世界最古の鑄造貨幣を作ったリディア人、イラン高原からでて全オリエントを長期にわたって支配した〔⑦〕人など、農耕民だけでなく、遊牧民、山地民、牧畜民、商業民族というように(d)多種多様な経済生活を営む民族が興亡した。そのため諸民族間に多様な経済生活が導入され、ここに早くより契約の観念が発達し、バビロン第1王朝の〔⑧〕法典に代表される法典の整備が行われたりしたが、(e)エジプトでは法典の整備はなされなかった。

- (1) 下線(a)について、エジプトの統一国家はメソポタミアの統一国家とどのようなちがいがあるか。そのちがいが明確になるように、それぞれの統一国家の特色を20字程度で述べよ。

エジプト〔 〕
メソポタミア〔 〕

- (2) 下線(b)と(d)について、エジプトは同民族国家が存続するが、メソポタミアでは多種多様な民族国家が興亡したというちがいが生じたのはなぜか。地形の問題に限定して、その理由をそれぞれ30字程度ずつで述べよ。

(b)エジプト

(d)メソポタミア

- (3) 下線(c)について、この大河の名称を2つあげよ。〔 〕

- (4) 下線(e)について、エジプトで法典整備がなされなかった理由を、ファラオ(王)の存在を考慮して40字程度で述べよ。

-----ひとくちメモ-----

エジプト民衆の生活

エジプトは「ナイルの賜」といわれ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、葬祭殿など、後世の人々を驚嘆させる遺跡が数多く残されていて、当時の繁栄ぶりが推測される。

ところが、民衆の生活はどうであったかというところ、日常的な飢餓による慢性的な栄養失調におちいって、風土病や疾病にいつも脅かされていたのである。

当時の民衆の平均寿命は36歳位といわれ、それに対し第19王朝のラメス2世が96歳の高齢まで生き続けたことや、美食・飽食によって肥満病になった当時の女王の浮彫が現在に残っていることなどから、身分による生活格差がいかに大きなものだったかが想像されよう。わたしたちはエジプトの輝かしい文明の背後にあるしいたげられた民衆の存在を忘れてはならない。

さて、次にオリエントの文化を学習しよう。

主題2 古代オリエントの文化史

オリエント世界は専制王が民衆を支配する権威主義社会であるため、独創的で、本質追求の学問文化よりも実用面に重点がおかれた文化が発達した。このオリエント文化をここではエジプトとメソポタミア地域の比較を通じて、学習してみることにする。

※宗教 メソポタミアでは前述した自然条件から諸民族の国家が興亡したので、宗教の分野では農耕的宗教と遊牧的宗教が混り合い、複雑な神々の体系がつくりだされた。神官は文字を創造し、天体観測を通じて占星術を発達させ、また商工業にも手を出して、神殿は信仰の中心としての役割以外に財貨の蓄積による地位向上がはかられて権力を集め、政治の中心にもなった。このためメソポタミアの宗教はジググラト¹⁾のように現世的傾向が強かった。また支配者の交代は「契約」の観念を発達させて複雑な社会を統制するための種々の法典を生み出したが、この契約観念を宗教に適用し、厳格な一神教を守ったのがヘブライ人であった。彼らは、「出エジプト」や「バビロン捕囚」などの苦難を味わったにもかかわらず、ヤハウエの救済を信じ、前6世紀後半、ユダヤ教をつくりだした。

一方イラン高原では善=光明の神アフラ=マズダと、悪=暗黒の神アーリマンの対立が現世を構成するという二元論的宗教、すなわちゾロアスター教(拝火教)がアケメネス朝ペルシアの時代に生まれ、ユダヤ教、キリスト教に多大な影響を与えた。

エジプトの宗教は、その自然条件により農耕的色彩が強く、自然物を崇拜する多神教が生まれた。主神は太陽神ラーであり、新王国時代には首都テーベの神アモンの信仰と結びついてアモン=ラーの信仰として盛んになった。また、エジプトでは靈魂不滅の思想が信じられていたので、ファラオ(王)の来世の安息所としてのピラミッド、来世の生活のための埋葬品、死の神オシリスによる審判の際の弁明書(生前の善行や呪文が記されている)「死者の書」、再生を期待しての死体保存形式であるミイラ、などエジプト独特の遺物が現在に残されている。

【補足1】 ジググラト 神の現世の住居であって、ピラミッドのような来世の安息所としての墳墓とは性格を異にしている。

※建築・工芸 メソポタミアにはシュメール人やバビロニア人によって建設されたジググラトが巨大建築物として目につくが、これはメソポタミアでは石材が乏しかったため、焼きれんがを積み重ねたれんがが建築であった。その後美しいタイル壁画などが発達する。

	エジプト	メソポタミア
宗教	太陽神中心の多神教 アトンの一神教(アメンホテプ4世時)	一般に多神教 ユダヤ教(ヘブライ人) ゾロアスター教(ペルシア人)
建築・工芸	ピラミッド、スフィンクス、オベリスク 〔石材建築〕	ジググラト タイル壁画、円筒印章 〔れんが建築〕
文字	神聖文字(ヒエログリフ)、民衆文字 〔パピルス〕	楔形文字 〔粘土板〕
暦学問	太陽暦 測地術(平面幾何学利用)	太陰暦 60進法 円周分割法
美術	アマルナ美術以外は静的で形式的	

古代オリエント文化

また工芸品としては、神殿の出納と密接な関連をもち、のちに契約などの証印として使用されるようになった円筒印章がある。

エジプトでは、宗教的色彩の強い建築物が多くみられる。ピラミッド、オベリスク、スフィンクス、葬祭殿など、メソポタミアの現世的傾向とは正反対のものばかりである。また、これらはナイル川上流の石切り場から切り出された石材によってつくられた石材建築であった。

※文字 文明の成立と発展に密接な関係をもつ文字の発明はオリエント最大の遺産といえる。

メソポタミアではシュメール人が^{くまびがた}楔形文字を使用してから、バビロニア、アッシリア、ペルシアなどに受けつがれ、ローマ帝国成立期まで使用された。

一方エジプトでは、神聖文字(ヒエログリフ)¹⁾と呼ばれる象形文字が使われ、神殿や墓などに刻まれた。その他、神聖文字を簡略化し神官が使った神官文字(ヒエラティック)、神官文字を簡略化した民衆文字(デモティック)などがある。

またフェニキア人が使用した独自の表音文字は、のちにギリシアに伝えられて、アルファベットになり、アラム人の使用したアラム文字は、西南アジアの諸言語の起源となり、東方に伝播し、国際語としての重要な役割を果たした。

【補足1】 神聖文字 ナポレオンのエジプト遠征の際に発見されたロゼッタストーンをもとに、シャンボリオン（仏）が神聖文字の解読に成功し、古代エジプトの歴史を知るうえで大きな功績となった。

※学問 メソポタミア・エジプト両地域では洪水防止のための治水工事や大建築物、洪水後の土地測量の必要性から、幾何学・力学が発達したが、これらは実用的な知識の段階にとどまり、専制政治や宗教的な束縛によって自由な研究や理論的・合理的な学問の追求の姿勢はみられなかった。

それでは、文化面におけるメソポタミアとエジプトのちがいを、トレーニングでもう一度確認してみよう。

またメソポタミアでは60進法や円周分割法が生み出され、エジプトでは、平面幾何学をもとにする測地術が発達した。

※暦学 メソポタミアでは、経済生活を異にする諸民族が入りまじったことから、農耕と関係深い太陽暦だけでなく、太陰暦が生み出され、のちに融合して陰陽暦となった。それに対し、エジプトではナイルの洪水や播種・収穫時期予知のための暦法が発達したが、それは農耕生活を背景とする太陽暦であった。

※美術 学問と同じ傾向が美術にもみられ、オリエント全般にわたって、静的で型にはまった美術が多い。ところが、新王国時代のアメンホテプ4世の時だけは宗教改革の影響もあって、ダイナミック（動的）で、清新な、明るいアマルナ芸術が生み出された。

———— トレーニング ———— 解答は142ページ

5 (古代オリエントの文化：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) メソポタミアの宗教は、都市の守護神が崇拜され、信仰の中心は神殿であった。神官は占星術を発達させ、商工業に手を出して蓄財したため、エジプトにくらべて〔① 〕傾向が強かった。またヘブライ人は厳格な一神教を守り、前6世紀後半に〔② 〕教をつくりだし、アケメネス朝ペルシアでは二元論的な宗教である〔③ 〕教(拝火教)が生まれた。

一方、エジプトの宗教は農耕生活を背景として、太陽神〔④ 〕が崇拜され、霊魂不滅の思想から〔⑤ 〕のような大石材建築、生前の善行や呪文が記されている〔⑥ 〕、再生のために死体を保存する〔⑦ 〕などがつくられた。

(2) 石の少ないメソポタミアでは、ジグuratのような〔⑧ 〕建築が一般化し、石材の豊富なエジプトでは石材建築が普及した。

(3) メソポタミアの文字は、シュメール人のつくった〔⑨ 〕が一般に流布し、エジプトでは〔⑩ 〕(ヒエログリフ)と呼ばれる象形文字が使われた。また、フェニキア人が使用した表音文字は、ギリシアに伝えられ、〔⑪ 〕になった。

(4) メソポタミアでは、60進法・陰陽暦などが発達し、エジプトでは測地術や〔⑫ 〕が生み出されたが、権威主義社会であったため、自由な学問研究や芸術は生まれなかった。しかし、エジプトの新王国時代の〔⑬ 〕芸術だけは、動的で清新な文化の開花がみられた。

6 (表で見るオリエントの文化) 次の表を見ながら問いに答えよ。

	宗 教	建 築・工 芸	文 字	学 問	曆 学
メソポタミア	都市の守護神	円筒印章 れんが建築 〔③〕	〔⑤〕	円周分割法 〔⑧〕	陰陽曆
エジプト	太陽神 (ラー) 信仰, ミイラ 〔①〕	〔④〕 石材建築 オベリスク	〔⑥〕 民衆文字	測地術	〔⑨〕
その他	〔②〕 ユダヤ教 (ヘブ ライ)		〔⑦〕の起源 (フェニキア)		

- (1) ①は、オシリスの審判の際の弁明書であるが何といわれるか。 []
- (2) ②は、アケメネス朝に始まる二元論的宗教であるが何か。 []
- (3) ③は、焼きれんがを積み重ねた神の現世の住居であるが、これは何か。 []
- (4) ④は、ファラオの来世の安息所としてつくられた石材建築であるが何といわれるか。 []
- (5) ⑤は、シュメール人が使用した象形文字であるが、何と呼ばれるか。 []
- (6) ⑥は、表音、表意両方から成る文字であるが、何と呼ばれるか。 []
- (7) ⑦は、フェニキアの使用していた文字がギリシアに伝わったものであるが、それは何か。 []
- (8) ⑧は、角度・時間の単位となったものであるが、これは何か。 []
- (9) ⑨は、ナイル川の洪水や農耕生活を背景として発達した曆であるが、これは何と呼ばれるか。 []

7 (オリエント文化) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

- (A) 1 すべての嵐が大きな、ことのほかひどく、一つになってきて襲ってきて、
2 同時に洪水は聖所を^{きら}浚ってしまった。
3 七日と七夜ののちに
4 洪水は国土を浚い流した。

(「世界史資料」上 杉勇訳 東京法令)

- (B) 私は人びとに対して不正を犯したことはありません。人びとを虐待したことはありません。貧しい者の財産を削ったことはありません。神々の忌み嫌うことをしたことはありません。

(「生活の世界歴史2」 河出書房新社)

- (1) (A)の洪水伝説がのっているバビロニアの叙事詩をあげよ。 []
- (2) またこれは、後世ヘブライ人に影響を与えたが、この影響と思われる洪水伝説がのっている書物は何か。 []
- (3) (B)の史料はファラオのミイラと一緒に副葬された書物の一部である。この書物を何というか。 []
- (4) また、来世の存在を信じて、これを残したのは何人か。 []

8 (古代オリエントの文化) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

古代オリエント社会が生んだ文化遺産は全般的に実用性中心の傾向をもっているが、宗教・暦学・建築・文字の点で後世に多大な貢献をした。

宗教ではメソポタミア・エジプト両方ともに多神教を信奉したが、メソポタミアは支配者の交代が激しかったので神が一定せず、マルドゥク、アッシュールなど都市の〔①〕が信仰対象とされ、エジプトでは農耕生活に関連深い(a)太陽神が信仰対象となった。

暦学では両地方とも〔②〕が農耕の必要から生み出されたが、メソポタミアでは、遊牧民・山地民の侵入があいついだため太陰暦も発達し、のちにそれを融合した〔③〕がつくりだされた。

建築は、石材が豊富なエジプトでは(b)石材建築が造営されたのに対し、メソポタミアでは石材がなかったので粘土を固めてつくった(c)れんがを材料とする建築が一般化した。

文字では〔④〕人以来の(d)楔形文字がメソポタミアでは使用され、エジプトでは表音・表意を折衷した(e)神聖文字がパピルス紙などに記された。

(1) 下線(a)について、この神の名称は何か。〔 〕

また、新王国時代には首都テーベの神と結びついて、どのような名称で信仰されたか。

〔 〕

(2) 下線(b)について、(b)に類する建築物を3つあげよ。

〔 〕〔 〕〔 〕

(3) 下線(c)について、(c)に類する建築物を1つあげよ。〔 〕

(4) 下線(d)について、メソポタミアではこの文字は何に記されたか。〔 〕

(5) 下線(e)について、この文字の草書体で民衆の裁判記録などに使われた文字は何か。

〔 〕

また、この文字は何という遺物をきっかけに、だれが解読したか。

〔 〕〔 〕

-----ひとくちメモ-----

粘土板とパピルス

製紙法は後漢時代の中国で蔡倫によって発明されたということになっているが、それ以前、人類は何に文字を記したかという中国では木簡・竹簡、メソポタミアでは粘土板、エジプトではパピルス紙、ヨーロッパでは羊皮紙が使われていた。

メソポタミアでは、古代の遺跡から数多くの楔形文字が刻まれた粘土板が出土し、古代史研究の貴重な資料となっているが、これは粘土を固めた板に硬筆で文字を刻み、日ぼし、または素焼きにして保存したものであった。アッシリアのアッシュルバニパル王は大図書館を建設したことで有名であるが、そこには粘土板がうず高く積み重ねられていて、現代の図書館とはまったく異なっていたことが想像される。

一方エジプトでは、ナイル川下流の川岸に生育する葦の一種であるパピルス草(papyrusは英語のpaperの語源になった)の茎を縦に切って、数枚ずつ直角にはり合わせて作った紙、すなわちパピルス紙を使った。エジプト人は、これにインク(ゴム液に煤を混ぜる)で神聖文字・神官文字・民衆文字を記した。乾燥した気候のため、現在まで多数のパピルス紙が残され、貴重な資料となっている。



パピルス草

ギリシア世界 I

テーマ1 エーゲ文明

テーマ2 ポリスの成立と植民活動

オリент文明の影響を受けたエーゲ文明は、やがて南下したギリシア人に受け継がれた。

今回は、このエーゲ文明の展開とギリシア文明の基礎となったポリスの成立について、考えてみよう。

はじめに、古代オリントの統一について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (古代オリントの統一) 次の問いに答えよ。

- (1) メソポタミアとエジプトの合体を促したインド=ヨーロッパ語族の中で、鉄器を使用した民族は何か。 []
- (2) フェニキア人は、前13世紀ごろから地中海貿易に活躍したが、当時栄えたフェニキア人の都市国家のうち代表的なものを1つあげよ。 []
- (3) フェニキア人は、表音文字であるフェニキア文字をつくり、ギリシアに伝えたが、この文字はのちに何と呼ばれるようになったか。 []
- (4) 前7世紀前半にオリントをはじめて統一したのは、どの国か。 []
- (5) この帝国が滅びると、オリントは4国分立時代となった。4つの国名をあげよ。
[] [] [] []
- (6) 世界ではじめて鑄造貨幣をつくってギリシアに伝えたのは、どこの国か。 []
- (7) 新バビロニアはユダ王国を滅ぼしユダヤ人を連れ去ったが、この事件を何と呼ぶか。
[]
- (8) 前525年にオリントを統一したのはペルシア帝国である。この帝国を支配した王朝を何と呼ぶか。 []
- (9) この帝国の最盛期の王で、各州に知事(サトラップ)を置いて統治させた王はだれか。
[]
- (10) 前5世紀初めにこの国はペルシア戦争で敗北したが、相手国はどこか。 []
- (11) この帝国を滅ぼしたマケドニアの王はだれか。 []
- (12) この帝国の宗教で、拝火教とも呼ばれ、ユダヤ教やキリスト教にも影響を与えた宗教は何か。
[]

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)ヒッタイト人 (2)シドンまたはティルス (3)アルファベット (4)アッシリア (5)エジプト・リディア・新バビロニア(カルデア)・メディア(順不同) (6)リディア (7)バビロン捕囚 (8)アケメネス朝 (9)ダレイオス(ダリウス)1世 (10)ギリシア (11)アレクサンドロス(アレクサンダー)大王 (12)ゾロアスター教

エーゲ文明はオリエント文明の影響を受けながら、東地中海の一角であるエーゲ海を中心に展開した。

それでは、オリエント文明とギリシア文明の間に介在するエーゲ文明について考えてみよう。

◆地中海の風土的特色 地中海世界の歴史（エーゲ文明、ギリシア・ローマ文明）を考えると、どうしてもこの地域の風土を理解しておく必要がある。この地域は一般に地中海性気候で、雨量が少なく（とくに夏）、そのうえ山地が多く、ギリシアでは平地が全体の20%足らずである。

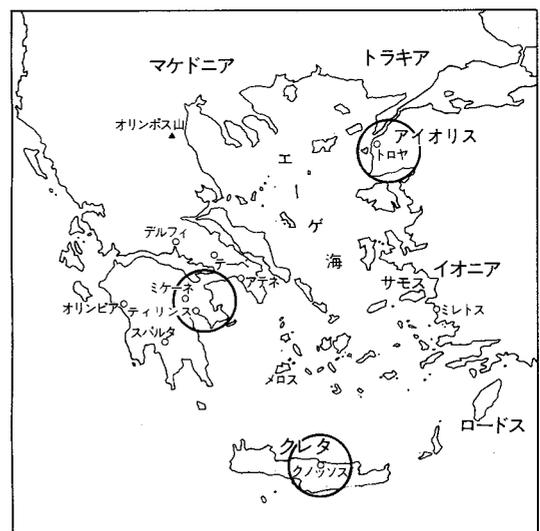
果樹（オリーブ・ぶどう・いちじくなど）は豊富であるが、穀物が不足するため、オリーブ油を輸出することによって穀物を得ていた。したがって、この世界では波静かな地中海を通して早くから商業活動が展開していたのである。そのうえ、この地域の人々は、地形の複雑さから小さな都市をつくらざるをえず、人口が増大したりすると地中海沿岸の各地に植民市をつかった。この都市間の交流が商業活動に拍車をかけ、文化の交流を促したのである。

◆エーゲ文明の展開 前20～前12世紀にかけて、オリエント文明の影響を受けながら、エーゲ海一帯にエーゲ文明が展開した。まず、クレタ島を中心にクレタ文明（ミノス文明）が発展したが、民族系統が不明なことや文字（絵文字・線文字A）の未解読もあって、その社会組織は明らかではない。しかし、クノッソス宮殿の規模から、国王は強大な権力をもってエーゲ海を支配していたと思われる。また、この文明は青銅器の段階であったが、壁画や陶器に描かれた海棲動物や植物は、オリエント美術とは異なった運動表現に富み、いきいきとした特色をもっている。

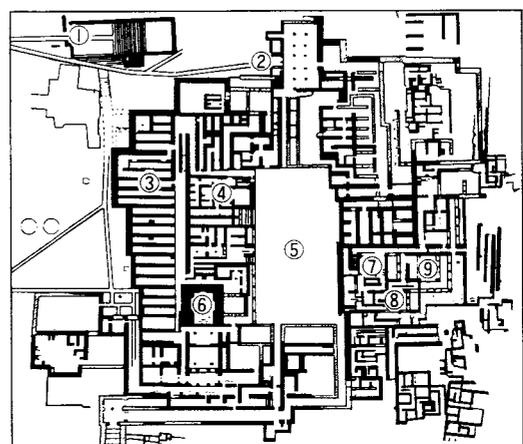
ミケーネ文明は、すでにギリシアに侵入・定住していたギリシア人であるアカイア人がクレタ文明の影響を受けて生みだしたもので、前15～前13世紀ごろにかけてミケーネ・ティリスを中心に繁栄したものである。この文明は、城砦国家でオリエント的な性格を有していた。この文明は小アジアのトロヤと戦争してこれを滅ぼす（ホメロスの叙事詩¹⁾の題材）が、前12世紀ごろギリシア人の第2波の南下者であるドーリア（ドーリス）人に滅ぼされ、ギリシアは暗黒時代にはいる。

【補足1】ホメロスの叙事詩「イリアス」と「オデュッセイア」の二大叙事詩がある。このうち「イリアス」がアガメムノンを総大将としたトロヤ戦争を題材とし、英雄アキレウスのトロヤ攻略を劇的にうたっている。

◆エーゲ文明の発掘 ホメロスの叙事詩を信じたシュリーマンは、苦難な人生の中で、トロヤ・ミケーネなどの発掘に成功し、彼の弟子エヴァンズが師の果たせなかったクレタ文明を発掘した。そして、エヴァンズの「だれにも読めない文字の話」という講演を聞いたヴェントリスが、ミケーネ文明の線文字Bを解読した。エーゲ文明のすがたはこの3人によって明らかにされたといつてよい。



エーゲ文明の世界



①劇場風の区域 ②北入口 ③倉庫 ④玉座の間 ⑤中央の中庭 ⑥正面玄関階段 ⑦大階段室 ⑧王妃の室 ⑨双斧の間

クノッソス宮殿の平面図

それでは、きょうのトレーニングをやってみよう。

トレーニング

解答は142ページ

1 (エーゲ文明：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) 地中海の風土は〔① 〕気候で雨量が少なく(とくに夏)、オリーブ・ぶどう・いちじくなどの果樹は豊富だが穀物が不足するため、早くから商業活動が活発であった。

エーゲ文明の歴史的役割は、〔② 〕文明をギリシア文明に伝えたことであつた。

(2) エーゲ文明は、前半の〔③ 〕文明と後半の〔④ 〕文明とから成り、それと並行して小アジアにトロヤ文明が展開した。

前半の〔③〕文明は〔⑤ 〕に巨大な宮殿を有し、国王は大きな権力をもっていた。また、後半の〔④〕文明は〔⑥ 〕、〔⑦ 〕を中心に繁栄し、その国家の性格はオリエント的専制国家であつた。

〔③〕文明は〔④〕文明を形成したギリシア人の第1波の南下者アカイア人によって滅ぼされた。また、〔④〕文明は、ギリシア人の第2波の南下者〔⑧ 〕によって滅ぼされ、この結果ギリシアは暗黒時代に突入していった。

(3) エーゲ文明の発掘は、〔⑨ 〕の叙事詩を信じた〔⑩ 〕によってなされた。彼はトロヤ文明と〔④〕文明の存在を究明したが、〔③〕文明は1900年に彼の弟子〔⑪ 〕によって発掘された。

エーゲ文明には3種の文字(絵文字・線文字A・線文字B)があるが、そのうち線文字Bはイギリスのヴェントリスによって解読された。

2 (地図で見るエーゲ文明) 次の地図を見ながら、あとの問いに答えよ。

(1) ①・㊸・㊿の文明の名を記せ。

①〔 〕

㊸〔 〕

㊿〔 〕

(2) ㊱・㊲・㊳・㊴の都市名を記せ。

㊱〔 〕

㊲〔 〕

㊳〔 〕

㊴〔 〕

(3) ホメロスの叙事詩にうたわれた文明の場所はどこか。㊱～㊴までの記号から1つ選べ。〔 〕

(4) ホメロスの叙事詩にうたわれた戦争はどことどここの文明の争いか。①～㊿の記号で記せ。

〔 〕と〔 〕

(5) シュリーマンの発掘した文明はどことどこか。①～㊿の記号で記せ。

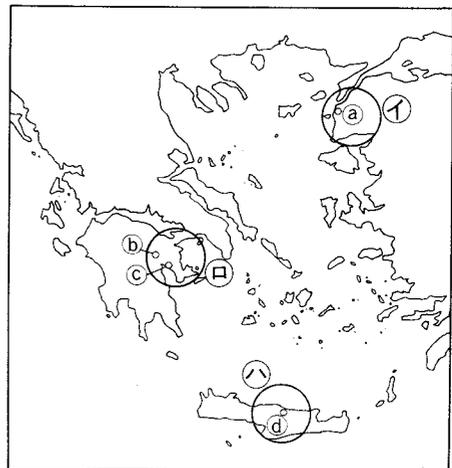
〔 〕と〔 〕

(6) エヴァンズの発掘した文明はどこか。①～㊿の記号で記せ。

〔 〕

(7) ヴェントリスの解読した線文字Bはどの文明に属するか。記号で記せ。

〔 〕



3 (エーゲ文明) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部について問いに答えよ。

ギリシア本土は山地が多く、土地がやせていて空気が乾燥していたため、〔① 〕の栽培には適さなかった。それに対して、このような気候は(a)果樹栽培には適していた。そのため、〔①〕の不足を補うため、海外にそれを求めたのである。

小アジアとギリシア本土には含まれた〔② 〕は大小の島々が点在し、海岸線が複雑で良港にめぐまれていたので、貿易や植民活動に適していた。そしてこのことが、ヨーロッパ大陸最古の文明がギリシアにおこり、広くその文明が広まることとなった原因と思われる。

前〔③ 〕世紀から前12世紀にかけて、東地中海の一角のエーゲ海を中心に〔④ 〕

〕文明の影響を受けながら(b)エーゲ文明が発展した。この文明の存在は19世紀後半に、ドイツ人のシュリーマンによって、まず〔⑤ 〕が発掘され、ついでギリシア本土のミケーネ、〔⑥ 〕などが発掘された。彼はこれらの発掘を通してエーゲ文明とエジプトの交流をつきとめ、両者の交流の中継地としてクレタ島を考えたが果たせず、結局彼の弟子〔⑦ 〕

〕によってクノッソス宮殿が発掘された。エーゲ文明には3種の文字があるが、そのうち線文字Bが〔⑧ 〕によって解読されている。

以上のことから、エーゲ文明を簡単にまとめると、前半はクレタ島を中心に展開した〔⑨ 〕

〕文明であり、後半はギリシア本土を中心に展開した(c)ミケーネ文明である。そしてこの(d)ミケーネ文明に滅ぼされたのが小アジアの〔⑩ 〕文明である。

(1) 下線(a)について、ギリシアで栽培されていた代表的な果樹を2つあげよ。

〔 〕〔 〕

(2) 下線(b)について、この文明は道具の観点からは、何を使用していたか。〔 〕

(3) 下線(c)について、ミケーネ文明はギリシア人の一派である何人によって担われたか。また、何人によって滅ぼされたか。〔 〕〔 〕

(4) 下線(d)について、このできごとを題材にしてつくられ、シュリーマンの発掘に重要な役割を果たしたのは、だれの叙事詩か。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

アリアドネの糸 (ギリシア伝説より)

ギリシア伝説によると、大昔クノッソスには、ミノス王という強大な権力をもった王がおり、宮殿(迷宮・ラビリントス)に牛頭人身の怪物ミノタウロスを棲まわせていたという。

ところがこの怪物は人間を食べるので、ミノス王の支配下にあったアテネでは、毎年7人の少年少女を人身御供として送らなければならなかった。そこでアテネの王子テセウスは、禍根を絶つためにクレタにおもむいた。テセウスは、ミノス王の娘アリアドネの好意を得て糸を与えられたが、この糸の端を迷宮の入口に結びつけたことで道に迷わずに怪物を退治できた。

2人はこれを機に結婚したが、アリアドネの幸福は長く続かなかった。テセウスは彼女を捨てたのである。



アリアドネの糸

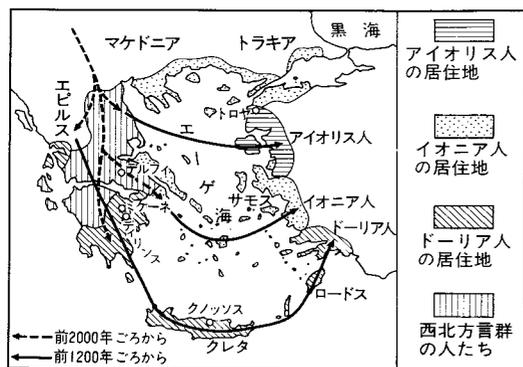
その因果か、首尾よく帰るときには船に白い旗を掲げるという約束をテセウスは忘れてしまい、悲しんだ父王アイゲウスは、海に身を投げてしまった。それ以後、父王の名にちなんで、この海をエーゲ海と呼ぶ。

エーゲ文明は、オリエント文明をギリシアに伝えたことを頭に入れて、次に進もう。

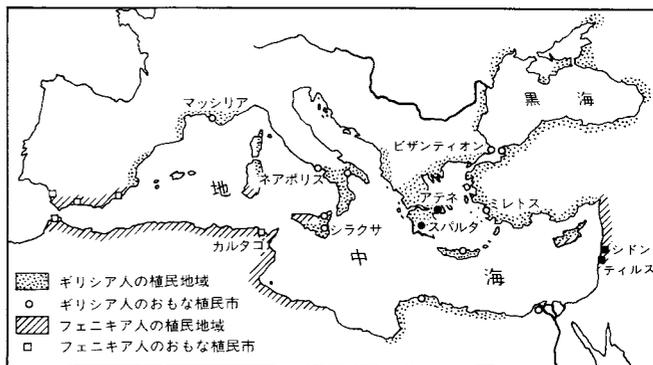
テーマ2 ポリスの成立と植民活動

ドーリア人の侵入によって、ギリシア世界は長い暗黒時代を経験する。これを自らの手で克服したギリシア人は、オリエントとはまったく異なった市民共同体ポリスを成立させる。

ここでは、ギリシア文明の母胎となったポリスの成立と植民活動を考えてみよう。



ギリシア人の南下



ギリシア人の植民活動

※ギリシア人の南下 前20世紀ごろから南下・定住していたアカイア人（のちにアイオリス人とイオニア人に分かれた）は、クレタ文明を破壊しその文明の影響を受けながらミケーネ文明を形成した。前12世紀ごろ鉄器をもったドーリア人がおこれて南下すると、ミケーネ文明を徹底的に破壊し、ここに暗黒時代ともいえるべくギリシア世界は混乱する。先住のアイオリス人やイオニア人は、東方のエーゲ海の島や小アジア西岸に移住し、ドーリア人も、のちにその南端に移住した。

※ポリスの成立とその特色 暗黒時代を克服する中で、純粋なギリシア社会がめばえてきた。最初ギリシア人は、小地域ごとに氏族共同体を形成したが、王はオリエントとちがって権力は弱く、その構成員には平等に土地が分配されていた。しかしながら、経済が発展すると階級分化（貴族・平民・奴隷）がおこり、有力者である貴族は、奴隷などから自分たちの利益を守るために、その地方の中心地に集住（シノイクスモス）し（のちに平民も移住）ここに多数のポリスが成立した。集住は同時に貴族支配の成立を意味するものでもあり、時代的には前750年ごろを前後としてギリシア各地で行われた。

ポリスの中心にはアクロポリスと呼ばれる丘があり、守護神を祭る神殿と戦時における避難場所を提供した。市民（貴族と平民）はその周囲に住み、アゴラと呼ばれる広場で交流しあつた。奴隷に労働をまかせ、ポリス防衛を主たる任務とした市民は、まさにこのアゴラを通してギリシア文明を築いたといえよう。それは専制君主や神官が支配するオリエントの社会とは、まっ

たく異なっていたのである。

ポリスは独立の都市国家としてたえず争っていたために、ギリシア人は最後まで、1つの民族国家を形成することがなかった。しかし、ギリシア人は共通の財産（言語・オリンポス12神・ホメロスの叙事詩・デルフィの神託・オリンピアの競技会など）をもっていたので、他民族と接触するうちにギリシア民族としての自覚を強め、自分たちの国土をヘラス、自分たちをヘレネス（英雄ヘレンの子孫の意）と呼び、異民族をバルバロイ（聞きぐるしいことばを話す者）と呼んで軽蔑した。ギリシアの歴史は、ポリスの成立・発展・没落の過程である。

※ギリシアの植民活動 前8～前6世紀にかけて、ギリシアは地中海・黒海沿岸にさかんに植民活動を行い、植民市を建設した。

植民活動の理由は、まず人口の増加による土地不足からで、その他としては、貴族間の政争や、商業・漁業根拠地の必要からであった。

植民市のうちで今日も繁栄している都市をあげると、ビザンティオン（イスタンブール）、ネアポリス（ナポリ）、マッシリア（マルセイユ）などがある。地域的にはとりわけ南イタリアの植民が活発に行われ、その結果、この地域はマグナ=グレキア（大ギリシア）と呼ばれた。植民市は母市と同じ政治形態をとっていたが、海を遠く隔てて存在していたので、政治的には独立していた。

こうして、ギリシア世界は地中海全体に拡大されたのである。

それでは、説明をよく読んでからきょうのトレーニングにはいろう。

トレーニング

解答は142ページ

4 (ポリスの成立と植民活動：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ギリシア人の第1次南下は、前20世紀ごろからアカイア人によってはじまった。彼らはクレタ文明を破壊し、これを継承しながら〔①〕文明を形成した。
ついで、前12世紀ごろ、ギリシア人の第2次南下者〔②〕人が侵入しエーゲ文明を徹底的に破壊した。この結果ギリシア世界は混乱し、先住の〔③〕人や〔④〕人はエーゲ海一帯や小アジア西岸に移民した。
- (2) ギリシア人は暗黒時代を克服する過程で、小地域ごとに氏族共同体を形成したが、王の権力は弱かった。政治・軍事上の理由から〔⑤〕(シノイクスモス)し、ここにポリスが成立した。ポリスの中心地には〔⑥〕と呼ばれる丘があり、その周囲には市民が住み、〔⑦〕と呼ばれる広場に集まり交流しあった。
- (3) ギリシア人は最後まで1つの国家をつくることはなかったが、ギリシア人共通の財産として、言語・〔⑧〕12神・ホメロスの叙事詩・〔⑨〕の神託・オリンピアの競技会などをもっていた。また、自分たちの国土をヘラス、自分たちを〔⑩〕と呼び、異民族を〔⑪〕と呼んで軽蔑した。
- (4) 前8～前6世紀にかけて、ギリシア人は地中海一帯にさかんに植民活動をした。代表的な植民市は、黒海入口の〔⑫〕(現在のイスタンブール)、フランスのマッシリア、南イタリアのネアポリスなどである。

5 (地図で見るギリシア人の植民活動) 次の地図を見ながら、あとの問いに答えよ。

- (1) 地図はギリシア人の植民活動を示したものである。次の問いに答えよ。

- ① ①・㊦・㊧は、ギリシア人の第2次南下者による混乱の中で移住がなされたところである。どういうギリシア人の移住したところか。

①〔 〕
㊦〔 〕
㊧〔 〕

- ② ギリシア人は、前8～前6世紀にかけて地中海沿岸各地に、多くの植民市を建設した。㊀・㊁・㊂の名前を答えよ。

㊀〔 〕

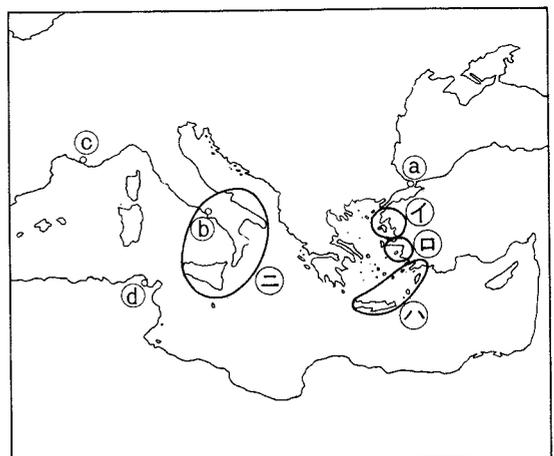
㊁〔 〕 ㊂〔 〕

- ③ ギリシア人は、とりわけ南イタリア㊃に多くの植民市を建設した。ここを何と呼ぶか。

〔 〕

- ④ ㊄はどういう民族によってつくられた植民市で、名は何と呼ばれたか。

民族名〔 〕 植民市名〔 〕



6 (ポリスの成立と植民活動) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

前〔① 〕世紀ごろ、〔② 〕人の南下がはじまると先住の〔③ 〕人と〔④ 〕人はエーゲ海から小アジア西岸に移動せざるをえず、ここにギリシアは暗黒時代に突入する。さいわいこの状況はギリシア人自らの手によって克服され、ギリシアの風土を最大限に利用した小都市国家が形成された。これがポリスである。階級分化の中で、有力者である貴族は奴隷たちから自分の利益を守るためにその地方の中心地に〔⑤ 〕(シノイクスモス)し、平民もこれに従った。この過程は、権力の弱い王政から〔⑥ 〕政治への移行でもあった。

ポリスの中心には〔⑦ 〕があり、その周囲に市民(貴族と平民)が生活した。彼らは奴隷に労働をまかせ、ポリス防衛を主たる任務としたから、平生は〔⑧ 〕と呼ばれる広場で交流しあつた。ここにオリエン特文明とはまったく異質なギリシア文明が展開するのである。

ポリスはたえず対立していたから、ギリシア人は最後まで統一国家をつくることがなかったが、(a)共通財産をもっていたので、他民族と接触する中でギリシア人としての自覚を高めた。(b)自分たちを〔⑨ 〕と称し、(c)異民族を〔⑩ 〕と呼んだのはそのためである。一方、ギリシア人は、地中海の風土から地中海沿岸各地への植民活動にのり出し、(d)今でもその名前をとどめている都市がある。

(1) 下線(a)において、具体的なものを4つあげよ。

〔 〕12神、〔 〕の叙事詩
〔 〕の神託、〔 〕の競技会

(2) 下線(b)について、⑨はどのような意味か。〔 〕

(3) 下線(c)について、⑩は異民族を軽蔑して呼んだ語であるが、どのような意味か。

〔 〕

(4) 下線(d)において、今日の都市名をあげてあるが、当時の名前を書け。

イスタンブール〔 〕 ナポリ〔 〕
マルセイユ〔 〕

ひとくちメモを読んでひと休みしてから、最後のまとめのトレーニングにはいろう。

-----ひとくちメモ-----

オリンピアの競技会

ギリシアの主神ゼウスを祭って行われた民族的祭典で、起源は前776年とされている。4年に1度、真夏の5日間競技会が行われ、この間はすべてのポリスの戦闘が中止された。優勝者はたいへん名誉なことであったが、賞品は一般にはオリーブの冠だけであった。この競技会は1000年以上続いたが、393年ローマ帝国によって廃止され、1896年近代オリンピックとして復活した。

オリンピアの競技会で特筆しなければならないこと

は、奴隷制度に立脚した民主政治と深くかかわっていたことである。奴隷に労働をまかせ、ポリス防衛を主たる任務とした市民たちは、よき戦士になるために自己をきたえ、その成果を競技会で示したので、競技種目は戦車競走、やり投げ、レスリングなど、戦争に関連するものばかりだった。しかも、競技会は全裸で、オリーブ油をぬって行われた。これは、市民権をもった男子の祭典であり、奴隷・婦人・在留外国人などが、競技会の会場から排除されていたことを意味する。

1 (エーゲ文明とポリスの成立) 次の文を読み, [] の中に適語を入れ, 下の問いに答えよ。

前20～前12世紀にかけて, オリент文明の影響を受けながらエーゲ海一帯にエーゲ文明が展開した。前半は巨大な〔①〕宮殿をもつクレタ文明(ミノス文明)があり, 後半はミケーネ・〔②〕中心のミケーネ文明であった。また小アジアにもトロヤ文明が展開した。この(a)エーゲ文明の存在は19世紀末から3人の努力によって, 明らかにされた。

前12世紀ごろ〔③〕人が南下してくると, ミケーネ文明を徹底的に破壊し, ギリシア世界は混乱する。この間(b)先住のギリシア人は小アジア方面に移動した。

さいわいこの混乱はギリシア人自らの手によって克服され, 小さな都市国家であるポリスが各地にたくさん成立した。当初は王が支配し, 自由民は平等に土地と奴隷を所有していたが, 経済が発展すると自由民に貧富の差(貴族・平民・奴隷)が生じ, 有力者である貴族は(のちに平民も)その地方の中心地に集住(〔④〕)し政治は王政から貴族政治に移行していった。

ポリスの中心には(c)アクロポリスがあり, また市民生活の中心地として〔⑤〕があった。(d)ポリスはたえず対立していたから, ギリシア人は最後まで民族国家をつくることがなかったが, 民族共通財産をもっていたので, 民族としての自覚を強めた。

また, ギリシア人は早くから(e)植民活動を地中海・黒海沿岸に行い, とくに南イタリアの植民が活発に行われ, この地域はマグナ=グレキア(大ギリシア)と呼ばれた。

- (1) 下線(a)について, 3人の名前とその業績を指摘せよ。例〔ジャンポリオン——象形文字解読〕
 []
 []
 []
- (2) 下線(b)について, 先住のギリシア人を何と呼ぶか。
 []と[]
- (3) 下線(c)について, アクロポリスの役割を2つ指摘せよ。
 [] []
- (4) 下線(d)について, ポリスの対立は市民と奴隷の分業を徹底させた。何の分業か。
 市民 [] 奴隷 []
- (5) 下線(e)について, 植民市として有名なものを3つあげよ。
 [] [] []
- (6) -----線の部分について具体的に説明せよ。共通財産を具体的にあげ, 民族の自覚をどのように表現したか, 110字を目安に書け。

しっかり答え合わせをしてから, 次の日に進もう。

ギリシア世界 II

テーマ1 民主政治の発展

テーマ2 民主政治の衰退

ギリシアの民主政治は、奴隷制度に立脚した市民の活動を意味する。今回は、その民主政治の発展と没落の過程を、ギリシアの代表的ポリスであるアテネとスパルタを中心にして、考えてみよう。

はじめに、エーゲ文明とポリスの成立などについて、復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (エーゲ文明とポリスの成立) 次の問いに答えよ。

- (1) 前20～前12世紀にかけてオリエント文明の影響をうけてエーゲ文明が発展した。まずクレタ文明(ミノス文明)が発展したが、その宮殿はどこに築かれていたか。〔 〕
- (2) ミケーネ文明はすでにギリシアに侵入・定住していたギリシア人であるアカイア人が、クレタ文明の影響をうけて生み出したもので前15～前13世紀ごろにかけて繁栄したものであるが、その主な中心地をミケーネ以外に1つあげよ。〔 〕
- (3) ミケーネ文明が滅ぼした、小アジアにあった文明とは何か。〔 〕
- (4) ホメロスの叙事詩を信じて、トロヤ・ミケーネなどの発掘に成功したのはだれか。〔 〕
- (5) 前12世紀にギリシアに鉄器をもって南下し、ミケーネ文明を徹底的に破壊した民族は何か。〔 〕
- (6) (5)によってギリシア世界は混乱し、先住民族は東方のエーゲ海の島々や小アジア西岸に移住しドーリア人も小アジアの南端に植民したが、先住民族とはアイオリス人ともう1つは何か。〔 〕
- (7) 経済発展にともなう階級分化から、前750年ごろ貴族は自分たちの利益を奴隷などから守るためにその地方の中心地に集住し、その後平民も移住して多数のポリスが成立した。人々はアクロポリスという丘を中心に住んだが、人々の交流が行われた広場は何か。〔 〕
- (8) ポリスは独立国家としてたえず争い、1つの民族的国家を形成することはなかった。しかしギリシア人は言語・宗教・ホメロスの詩などの共通の財産をもっていた。その中には戦いをやめて参加したといわれる民族的祭典も含まれるが、それは何か。〔 〕
- (9) ギリシア人は地中海・黒海沿岸に盛んに植民活動を行い(とくに前8～前7世紀)、植民市を建設したが、それらの活動などで他民族と接触するうちに、(8)の共通の財産ともあいまって、彼らはギリシア民族としての自覚を深める。そこで彼らは自分たちをヘレネスと呼んだのに対して異民族を何と呼んで自分たちと区別したか。〔 〕

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)クノッソス (2)ティリンズ (3)トロヤ文明 (4)シュリーマン (5)ドーリア人 (6)イオニア人
(7)アゴラ (8)オリンピアの競技会 (9)バルバロイ

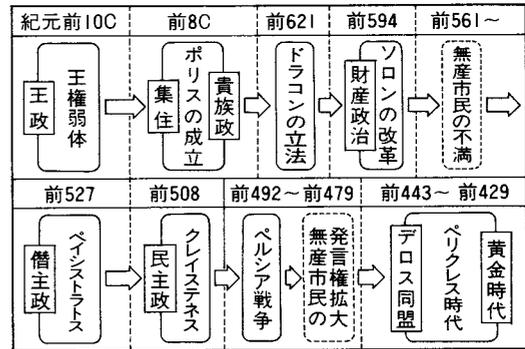
ギリシアの民主政治は、奴隷制度に立脚していた。労働を奴隷にまかせ、ポリスの防衛を主たる任務としていた市民は、どんな過程を経て、民主政治を徹底していったのだろうか。ギリシアの代表的ポリスであるアテネとスパルタを通して、そのことを考えてみよう。

◆アテネの民主政治 ギリシアのポリスの中で例外的な大きさをもっていたポリスが、イオニア人のアテネとドーリア人のスパルタである。ギリシアの歴史はこの両者の離合集散を通して展開していく。

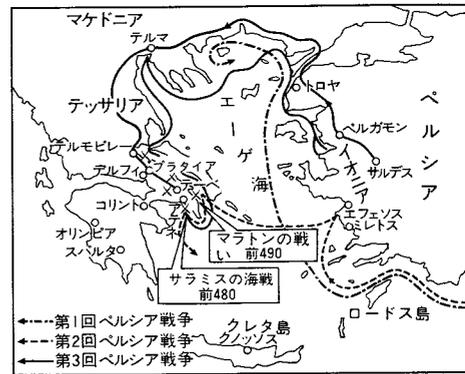
アテネでは、当初貴族が実権を握っていたが、前7世紀小アジアのリディア王国から鑄造貨幣がはいつてくると、商工業が発展しその恩恵にあずかる平民が登場した。しかも、武具が安価になり平民でもそれを買えるようになると、ポリス防衛は貴族中心の騎士戦法から平民中心の重装歩兵密集戦法へ変わっていった。その結果、平民は政権を独占する貴族に対して参政権を要求しはじめ、まずドラコンの立法(前621ころ)によって慣習法を成文化し、貴族の独裁に歯止めをかけた。

貴族と平民の対立がいつそう激しくなると、ソロンが調停者として改革を行った(前594)。彼は財産の大小に応じて市民の権利・義務を定め(財産政治の導入)、また負債を帳消しにして、市民が奴隷になることを防いだ。ここに奴隷制度に立脚した市民共同体が確立するのである。ついで貴族のペイストラトスが非合法に権力を握って、平民の権利を伸長させた(前561)。これを僭主政治^{せんしゅせいじ}というが、この政治が暴君政治に墮落したため、前508年ごろクレイステネスが徹底的な改革を行い、民主政治の基礎を固めた。また、彼は僭主^{せんしゅ}の出現を防止するために陶片追放^{とうへんついほう}(オストラキスム、オストラシズム)を定めた。多くのポリスもアテネと同様な過程を経て、民主政治を展開していった。

◆スパルタ スパルタは、少数のドーリア人が多数の先住民を征服して成立したポリスである。そのうちわけは、被征服先住民で奴隷(隷属農民)としてのヘロット(ヘイロータイ)と劣格市民としてのペリオイコイ(周辺の民の意)から成り、彼らをいかに支配するかがスパルタの課題であった。土地とヘロットを平等に分配し、それを維持するために土地の分割・譲渡の禁止はおろか、貨幣経済をおさえるために鎖国制度も行われた。そしてこの条件を維持しながら、少数のスパルタ人はきびしい教育を通してきたえられた(スパルタ教育)。これらは、この国制を定めたとされる人物の名をとり、リュクルゴス体制と呼ばれる。そのために、スパルタは内部的にみれば徹底した重装歩兵民主制であり、多数のヘロットの立場からみると、これまた徹底した軍国主義国家であったといえよう。



アテネ民主政治の発展



ペルシア戦争

◆ペルシア戦争 このようにギリシアで奴隷制度に立脚した民主政治が展開したころ、オリエントではペルシア帝国(アケメネス朝ペルシア)が大きな力を持ち、その勢力が地中海方面にはいつてきた。それに対して小アジアのミレトスを中心とするイオニア植民市が反乱を起こしたことから、ペルシア戦争がはじまった。ポリスの中にはペルシアに加担するものもあったが、総じてアテネ・スパルタを中心に結束してペルシア戦争にあたった。

まずダレイオス(ダリウス)1世の2度の遠征に対して、アテネ軍が独力でマラ톤の戦い(前490)に勝利した。次いでクセルクセス1世の陸海による大遠征に対しては、スパルタ軍がテルモビレーでよく戦い、テミстокレスの率いるアテネ海軍がサラミスの海戦でペルシアを撃破した(前480)。また翌年プラタイアの戦いで勝利し、ここにペルシアは敗北したのである。このギリシアの勝利は、オリエントの専制政治に対するギリシア市民団の勝利を意味し、世界史上意義深い。

※古代民主政の完成 ペルシア戦争で中心的な役割を担ったアテネは、戦後大きな発言権をもつことになった。ペルシアの報復に備えてつくられたデロス同盟の盟主としてエーゲ海一帯の約200のポリスを支配し、さながらアテネ帝国主義時代を展開した。そしてこの時代にアテネ民主政治は完成したのである。

まず、デロス同盟の資金を流用することによって、サラミスの海戦で軍船のこぎ手として活躍した無産市民の政治参加が可能になった。

民会が最高機関となり、両親さえアテネ市民であれば、能力・財産を問われることもなく、すべての成年男子の市民が参加できる直接民主政であった。役職もほとんどくじで選ばれ、アリストテレスの「治者と被治者は同一である」という徹底した民主政治が展開したのである。

この民主政治を指導したのがペリクレスであり、いわゆるペリクレス時代（前443～前429）を現出した。

※奴隷制度 ギリシア・ローマは、古代社会の中で特別に古典古代社会といわれる。

その意味するところは、文化面において後世に大きな影響を与えただけでなく、実は奴隷制度においても徹底したものがあつたからである。あのすばらしい文化を生みだしたポリスの市民生活は「物を言う道具」（アリストテレス）とたとえられた奴隷によって支えられていたのである。ギリシアの奴隷には、債務奴隷・購買奴隷・捕虜奴隷の3種があつたが、購買奴隷が多く、もっぱら鉱工業・農業・家事に利用された。アテネでは市民人口約15万に対して、奴隷人口は約10万であつたといわれている。

-----ひとくちメモ-----

陶片追放（オストラキスモス、オストラシズム）

民主政治の基礎を固めたクレイステネスが、非合法に権力を握る僭主の出現を防止するために定めたものである。これによれば、市民が僭主になるおそれのある人物の名を陶片（オストラコン）に記し、その数が6000以上になったとき、その人物は自動的に10年間国外へ追放される。

前5世紀初めにさかんで、のちに政争に使われるようになると、有名な政治家はことごとくその犠牲になったといわれる。例外としてはペリクレスぐらいのも

のだらうという。

サラミスの海戦を指揮したテミストクレスもこの制度の犠牲になった。そのときのエピソードに、アゴラで、テミストクレスと知らない文盲の老婆に、評判のよくないテミストクレスの名前を書いてくれとたのまれたテミストクレスは、いさぎよく自分の名前を書いてやったというのがある。

この制度は、その弊害から前417年に廃止された。

トレーニング

解答は143ページ

1 (民主政治の発展：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ギリシアの最も代表的なポリスは、イオニア人の〔① 〕とドーリア人の〔② 〕である。前者のポリスでは、財力をもった平民が〔③ 〕としてポリス防衛の主役になると、貴族政治に挑戦し、ドラコンの立法で貴族の独裁に歯止めをかけた。このように貴族と平民の対立が激しくなると、〔④ 〕が調停者として改革を行い財産政治を導入した。ついで貴族政治から民主政治への過渡期に、非合法に権力を握る〔⑤ 〕が登場するが、〔⑥ 〕は平民の権利を伸長させた。また民主政治の基礎を固めたクレイステネスは、僭主の出現を防止するために〔⑦ 〕を定めた。
- (2) スパルタのポリスは、少数のスパルタ人、奴隷としての〔⑧ 〕、劣格市民としてのペリオイコイの3者から成る。そして少数スパルタ人が多くの被征服民を支配する方法として一種の軍国主義体制（リュクルゴス体制）がとられた。

- (3) ギリシアは前492年よりペルシアと戦争を開始し、〔⑨〕の戦いで勝利をおさめ、さらに前480年には〔⑩〕の率いるアテネ海軍が〔⑪〕の海戦でペルシアを破り、ギリシア側の勝利を決定的にした。
- (4) ペルシアの報復に備え、アテネを中心とした〔⑫〕同盟が成立した。アテネはこの戦争に軍船のこぎ手として活躍した無産市民の政治参加を、この同盟の資金を流用することにより可能にした。ここにアテネの民主政治が完成したのである。そしてアテネの民主政治は〔⑬〕によって指導され、民会を最高機関とし、両親さえアテネ人であればすべての成年男子が参加できる〔⑭〕であった。

2 (年表で見る民主政治の発展) 年表を見ながら問いに答えよ。

- (1) 年表の〔 〕に適当な人物名を入れよ。
- (2) 貴族政治に平民が挑戦できたのは、ポリス防衛に大きな役割を担ったからである。平民はどのようなかたちでポリス防衛を行ったか。〔 〕
- (3) ギリシア最初の成文法を何というか。〔 〕
- (4) ソロンはどのような政治を導入することによって、貴族と平民の対立を調停したか。〔 〕
- (5) 民主政治の基礎を固めたのはだれか。彼は僭主の出現を防止するために、どのような制度を設けたか。〔 〕
- (6) ペルシアの大軍をスパルタがくいとめた戦いは何か。〔 〕
- ペルシア戦争の勝敗を決定づけた戦いは何か。〔 〕
- この戦いで活躍したアテネ市民はどのような市民であったか。〔 〕
- (7) デロス同盟は何の目的で設置されたか。〔 〕
- (8) 完成した民主政治において、役職はどのようにして決められたか。〔 〕

前8世紀	ポリスの成立
621頃	ドラコンの立法制定
594	ソロンの改革
561	〔(a) 〕の僭主政治
508頃	〔(b) 〕の改革
492	ペルシア戦争(～前479)
	マラトンの戦い(前490)
	テルモピレーの戦い(前480)
	サラミスの海戦(前480)
	プラタイアの戦い(前479)
478	デロス同盟(～前404)
443	ペリクレス時代(～前429)
	民主政治の完成

3 (民主政治の発展) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

〔①〕の立法(前621頃)	平民〔②〕としてポリス防衛の主役に。貴族の慣習法を成文化。貴族独裁に歯止め。	〔⑥〕の改革(前508頃)	民主政治の基礎を固め、僭主の出現を防止するため〔⑦〕を制定。
〔③〕の改革(前594)	貴族と平民の対立を調停。〔④〕の導入により市民を序列化。奴隷制度の確立。	ペルシア戦争(前492～前479)	アテネ・スパルタを中心にギリシア結束。〔⑧〕の戦いと〔⑨〕の海戦などで勝利。
〔⑤〕の僭主政治(前561)	非合法に権力を握って市民の権力を発展。のちに暴君政治になる。	〔⑩〕時代(前443～前429)、民主政治の完成。	〔⑪〕同盟を通してアテネ、大きな力を行使。〔⑫〕の政治参加のもとに民会中心に民主政治完成。

4 (民主政治の発展) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

アテネを中心とするギリシアのポリスは、貨幣経済の発展の中で力をつけた平民が貴族政治に挑戦するというかたちで、民主政治を展開していく。アテネでは〔①〕として国防の主力になった平民が〔②〕の立法を通して貴族独裁に歯止めをかけ、続いて、(a)ソロンが貴族と平民の階級対立を調停し、市民の奴隷化を防止した。僭主として登場した〔③〕は平民のために政治を行い、そして〔④〕は民主政治の基礎を固めると同時に、暴君政治となった僭主を防止すべく〔⑤〕を定めた。

一方、〔⑥〕人のスパルタでは、多数の奴隷〔⑦〕を支配すべく、一種の軍国主義体制がとられ〔⑧〕体制、スパルタ教育によって市民をきたえた。ペルシア戦争は、東西勢力の衝突である。ギリシアは、アテネ・スパルタを中心によく戦い、(b)前480年サラミスの海戦で事実上ペルシアを破った。

戦後のギリシアはアテネを中心に展開していった。アテネはペルシアの報復に備えた〔⑨〕同盟の盟主としてエーゲ海一帯に君臨し、その資金を利用して無産市民の政治参加を可能にした。ここに、〔⑩〕指導のもとに、(c)民主政治が完成したのである。

(1) 下線(a)について、ソロンが貴族と平民の階級対立を調停するために行った改革を何政治と呼ぶか。〔 〕

(2) 下線(b)について、この海戦でアテネ軍を率いたのはだれか。〔 〕

(3) 下線(c)について、完成した民主政治の市民の条件とはどんなものであったか。〔 〕

ギリシアの民主政治は奴隷制度に立脚しながら、市民の間に徹底したことを理解して、次に進もう。

テーマ2 民主政治の衰退

ギリシア世界を二分して争われたペロポネソス戦争を端緒として、ギリシアはしだいに覇権争いにくれていく。ここでは、市民共同体の崩壊を通してのギリシアの衰退と、それに代わるマケドニアの台頭について考えてみよう。

◆ペロポネソス戦争と覇権の争奪 デロス同盟の盟主としてアテネがギリシア世界に君臨すると、スパルタはこれに反発し、ペロポネソス同盟をバックに、ギリシア世界を二分したペロポネソス戦争(前431~前404)をひき起こした。アテネでは、ペストの流行で指導者ペリクレスを失い、また煽動政治家(デマゴグ、デマゴゴス)にあやつられる衆愚政治に化し、さらに同盟加盟市の離反もあって、スパルタに屈服した。デロス同盟は解散され、アテネの繁栄は終わった。覇権を握ったスパルタは、各地のポリスに役人を派遣し、少数の有力者による寡頭政治を強制した。

そのためにスパルタは支持をなくし、封鎖経済が崩れて貨幣が流入し、市民に貧富の差が生じて衰退していった。

スパルタに代わって覇権を握ったのがテーベである。テーベは、エパミノンドスのもとに前371年レウクトラの戦いでスパルタを破ったが、その支配も長くは続かなかった。この間、ペルシアの干渉が絶えずあり、ポリスの対立を一層助長したのであった。

◆ポリスの衰退とマケドニアの支配 前5世紀までのギリシアでは、貧富の差はそれほど大きくなかった。



ペロポネソス戦争

それは土地をもつ中産市民を中核として、市民間における平等の原理が保たれていたからである。しかし、前4世紀になると、ポリスの争いがくり返され、ギリシア世界はひどい混乱におちいついていった。この間、中産市民は土地を失い、一部有力者に土地が集中して

では、民主政治の衰退についてのトレーニングをやってみよう。

トレーニング

解答は143ページ

5 (民主政治の衰退：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) 〔① 〕同盟の盟主として、アテネはエーゲ海一帯に大きな権力をもったが、それに反発したスパルタは前431年、〔② 〕戦争を起こした。この戦争中アテネは、ペストの流行で指導者〔③ 〕を失い、また一部の煽動政治家にあやつられる衆愚政治に化し、スパルタに屈した。

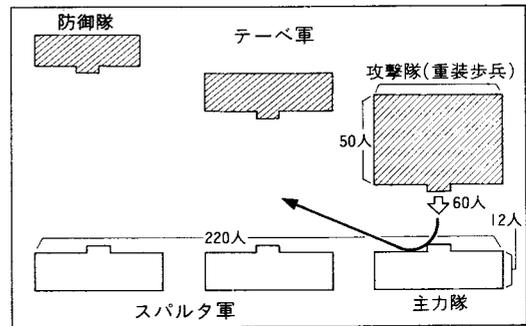
アテネに代わって覇権を握ったスパルタも前371年のレウクトラの戦いで〔④ 〕に敗れ衰退していった。

(2) ペルシアの干渉などもあって、ポリスの対立はいつそう激しくなり、ポリス内部にも市民格差が生じ、従来の市民皆兵によるポリス防衛が不可能となり、有力市民による傭兵制度が導入された。

このギリシア衰退に呼応するように台頭してきたのが、北方の〔⑤ 〕である。この国の〔⑥ 〕は、前338年〔⑦ 〕の戦いで、アテネ・テーベ連合軍を破り、ギリシア世界を支配した。

6 (年表で見る民主政治の衰退) 次の年表を見ながら、問いに答えよ。

- (1) ペロポネソス戦争は、どの同盟と同盟の戦いか。〔 〕同盟〔 〕同盟
- (2) アテネの敗北は民主政治の墮落にある。この墮落した民主政治は何というか。〔 〕



レウクトラの戦陣
隊をななめに配置した斜線陣

いった。貨幣経済がそれをさらに助長し、奴隷制度の発達も拍車をかけたのである。このような市民格差が民主政治を腐敗させ、煽動政治家のはびこる衆愚政治をつくりだしていったのであった。ポリスの防衛も市民皆兵の崩壊により、有力者による傭兵制度が導入された。こうした市民共同体ポリスの崩壊は、ギリシア世界の衰退を意味し、北方に台頭したマケドニアにギリシアは屈服していった。前338年、カイロネイアの戦いでフィリッポス（フィリップ）2世のマケドニアによって、アテネ・テーベ連合軍は敗北したのである。

(3) スパルタの覇権は、スパルタ自身に貧富の差がおこってその国制が崩れたために長続きしなかった。スパルタ人のとった一種の軍国主義体制を何というか。

{ }

(4) テーベは何と呼ばれる戦いでスパルタを破ったか。

{ }

(5) テーベの指導者はだれか。

{ }

(6) ギリシアの文化をとり入れて、マケドニアをギリシア世界に台頭させた王はだれか。

{ }

(7) マケドニアは、何と呼ばれる戦いでアテネ・テーベ連合軍を破り、ギリシア世界を支配したか。

{ }

前431	ペロポネソス戦争はじまる
404	スパルタの覇権
371	テーベの覇権
338	アテネ・テーベ連合軍敗北 (マケドニアの勝利)

7 (民主政治の没落) 次の { } にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

ポリスの成立から、奴隷制度に立脚しながらギリシア市民が営々として発展させてきた民主政治も、前5世紀後半〔①〕戦争を端緒として急速に崩れていった。〔②〕に墮落した(a)アテネを破ったスパルタは(b)ギリシアの覇権を握ったが、スパルタをささえてきた国制である〔③〕体制が崩れたため、前371年(c)テーベによって〔④〕の戦いで敗れた。

このような激しいポリス間の攻防の過程で、ギリシア世界は混乱し、しかも貨幣経済の発展の結果、市民に貧富の格差が生じた。市民皆兵の原則は崩れ、ポリス防衛は有力者による〔⑤〕使用によってなされた。ポリスが一部の有力者によって私物化されたことは、市民共同体としての機能を完全に失ったことを意味し、この結果北方より台頭した(d)マケドニアの〔⑥〕によってギリシアは征服された。

- (1) 下線(a)について、アテネ民主政治の全盛期の指導者で、この戦争中にペストで死んだのはだれか。 { }
- (2) 下線(b)について、アテネに代わって覇権を握ったスパルタが、各地のポリスに少数の有力者を派遣して行わせた政治を何というか。 { }
- (3) 下線(c)について、テーベ軍の将軍で、スパルタを破りテーベに覇権をもたらししたのはだれか。 { }
- (4) 下線(d)について、前338年のこの戦いは何というか。 { }

-----ひとくちメモ-----

デモステネス

マケドニアの台頭に対して、衰退するギリシア世界はどんな対応をしたのだろうか。ここにデモステネスとイソクラテスという2人の雄弁家が登場する。イソクラテスの立場は、ポリスの和解のうえでマケドニアの援助によってペルシアを討伐すべきである、というもの(大ギリシア主義)であり、これに対してデモステネスは、アテネ中心にポリスが結束してマケドニア

を破ることによってギリシアの危機を打破しようというもの(小ギリシア主義)であった。結果的にはデモステネスの主張が実施され、アテネはマケドニアと戦ったが、敗れた。以後の歴史はイソクラテスが予言したように展開したため、デモステネスは当代一の雄弁家としてのプライドを傷つけられ、自らの命を断った。彼はあまりにもポリス的人間だったといえる。

1 (民主政治の発展と衰退) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

ギリシアを代表するポリスは、〔① 〕人のアテネと〔② 〕人のスパルタである。ギリシアの歴史はこの両者の離合集散によって展開していった。

前7世紀小アジアのリディア王国から〔③ 〕貨幣がはいつてくると、商工業や奴隷売買がさかんになりその恩恵にあずかる平民が登場した。しかも武具が安価になり平民でもそれを買うようになるると、ポリスの防衛は貴族中心の〔④ 〕戦法から平民中心の〔⑤

〕による密集戦法へ変わっていった。その結果、平民は貴族政治に参政権を要求していったのである。アテネ民主政治の展開は、〔⑥ 〕の立法、(a)財産政治・僭主政治・民主政治の基礎という過程を経た。

先住民を征服してできたスパルタは、多数の〔⑦ 〕(奴隷)を支配するために(b)一種の軍国主義体制をつくった。

こうした中でギリシア世界とオリエントのペルシア帝国が衝突した。これがペルシア戦争である。ギリシアは、アテネ・スパルタ中心によく結集し、(c)ペルシアの3回の遠征によく耐え、ついに勝利を獲得した。

ペルシア戦争で主役を果たしたアテネは、ペルシアの報復に備えてつくられた〔⑧ 〕同盟の盟主としてエーゲ海一帯に権力を行使し〔⑨ 〕のもとに(d)民主政治を完成した。しかしアテネに反発するスパルタとの間にギリシアを二分する〔⑩ 〕戦争が起こると、ギリシア世界は急速に衰退していった。覇権争いが激しくなり、その覇権はアテネからスパルタへ、そして前371年には〔⑪ 〕に移っていった。この間、〔⑫

〕の干渉や貨幣経済の進行もあって(e)ポリス内部の市民格差が増大し、ポリスは末期的症状を呈していったのである。そして北方から台頭したマケドニアの〔⑬

〕によってギリシア世界は征服された。

(1) 下線(a)について、それぞれの政治はだれによって担当されたか。

- ①財産政治〔 〕 ②僭主政治〔 〕
③民主政治の基礎〔 〕

(2) 下線(b)について、このスパルタの国制を何というか。〔 〕

(3) 下線(c)について、ペルシア戦争の勝敗を決定づけた前480年の海戦を何というか。〔 〕

(4) 下線(d)について、この民主政治の最高機関を何というか。〔 〕

(5) 下線(e)について、この段階でポリス防衛はどのような手段でなされたか。〔 〕

(6) 下線(d)について、今日の民主政治とちがう点を説明せよ。(70字以内)

最後にきょうのトレーニングの答え合わせをしてみよう。

テーマ1 ギリシア文化(1)

テーマ2 ギリシア文化(2)

ヨーロッパ文明には絶えず2つの精神が交錯しているといわれる。つまり合理精神としてのヘレニズムと、非合理精神としてのヘブライズムである。ここでは合理精神としてのギリシア文化（ヘレニズム）の成立背景とその内容をみていこう。

はじめにギリシア民主政治の発展と衰退について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (ギリシア民主政治の発展と衰退) 次の問いに答えよ。

- (1) ギリシアの歴史を左右したドーリア人のポリスをあげよ。 []
- (2) スパルタは多数のヘロット（ヘイロータイ）を支配するために、きびしい軍国主義体制をしいたが、これを何というか。 [] 体制
- (3) 商工業の発達にともなって平民が力をつけ貴族政治に挑戦するようになった。市民の役割はポリス防衛にあったわけだが、平民はどのようなかたちで貴族に代わってポリスを防衛したか。 []
- (4) アテネで貴族と平民の対立を調停し、市民の奴隷化を防止したのはだれか。 []
- (5) 僭主政治を経てアテネの民主政治の基礎を築き、僭主防止の陶片追放制度(オストラキスマス)を定めたのはだれか。 []
- (6) ペルシア戦争の勝敗を決定づけた前480年の海戦は何か。 []
- (7) ペルシアの報復に備えてアテネがエーゲ海一帯に権力を行使することになった同盟は何か。 []
- (8) 上の同盟を背景に完成するアテネ民主政治の指導者はだれか。 []
- (9) アテネの強大化に反発し、ギリシア世界を二分してスパルタがおこした戦争は何か。 []
- (10) この戦争でアテネは敗北するが、その理由には民主政治が一部の煽動政治家にあやつられたことがあげられる。この墮落した民主政治を何というか。 []
- (11) スパルタの覇権も長続きしないが、前371年その覇権を奪ったのはどこか。 []
- (12) ポリス間の激しい対立と貨幣経済の進行は、ポリス内部に市民格差を増大させた。有力市民はポリスを私物化し、ポリス防衛のため傭兵制度を導入し、重装歩兵市民団を中核とするポリス社会の特徴が変化するなどポリス社会は変質し、やがて北方のマケドニアの王によってギリシア世界は征服される。その王とはだれか。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)スパルタ (2)リュクルゴス (3)重装歩兵 (4)ソロン (5)クレイステネス (6)サラミスの海戦
(7)デロス同盟 (8)ペリクレス (9)ペロポネソス戦争 (10)衆愚政治 (11)テーベ (12)フィリッポス2世

まず、「ギリシア文化」の特色を2つの分野についてみてみよう。

テーマ1 ギリシア文化(1)

ともに古代社会を形成しながら、ギリシア文化とオリエント文化は全く異質な文化であった。何故、のちのヨーロッパ社会に大きな影響を与える合理精神としてのギリシア文化が生まれたのであろうか。ここでは両文化の比較と、宗教・文学の分野を通じたギリシア世界を考えてみよう。

※**ギリシア文化の特色** ギリシア文化の母胎になったのはポリスである。ポリスは奴隷と市民からなり、そこには当然分業が発展した。労働を奴隷にまかせ、市民はポリス防衛と公共生活の充実に努めたのである。ポリスの平和と幸福は即市民に反映し、そのために市民は政治はどうあるべきか、また、どう生活したらよいか、絶えず考えなければならなかった。そこに人間的、現実的な合理文化としてのギリシア文化が誕生したのである。それは、オリエントのように巨大な権力をもつ専制君主と神官が支配するところでは、生まれるはずもなかったのである。

※**宗教** ギリシア人の宗教はゼウスを中心とするオリンポス12神の信仰であった。神々は人間と同じ姿をもち、情感豊かな喜怒哀楽の世界を表現した。オリエントのように特権の神官身分が発展せず、市民が交替で神官として奉仕したので、ギリシア人は自由に神々を描きだすことができたのである。神々の世界は、それをつくりだす人間社会の反映というべきであろうか。ともあれ、ギリシア神話はわたしたちに人生というものをお教える豊かな神話である。

※**文学** ギリシア最古の文学は、トロヤ戦争を題材にしたホメロスの叙事詩（「イリアス」「オデュッセイア」）で、その神々と人間の織りなす壮大な世界は、ギリシア全体だけでなくのちのヨーロッパにも大きな影響を与えた。ヘシオドス（前700ごろ）は「神統記」で神話を整理したほか、「労働と日々」で勤労の尊さをうたったが、この人生観は奴隷制度が確立するに従ってすたれたばかりでなく、軽蔑されるようになった。

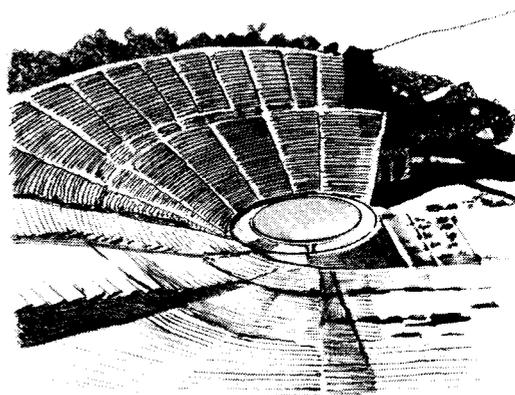
平民の実力がいちじるしく高まった前6世紀になると、ポリス生活における個人意識のめばえを反映して、抒情詩がさかんになった。サッフォーは女性の地位が低かったギリシアでは例外的な女流詩人であった。ほかに酒の徳を讃美したアナクレオンやオリンピア競技の優勝者への讃歌で有名なピンダロスがこの世界を代表している。

ギリシア文学は、かのペルシア戦争による民族的苦闘を経て勝利と栄光に輝く前5世紀に黄金時代をむかえた。それは民主政治を完成させたペリクレスのアテ

ネにおいてであった。この時代の文学様式は演劇で、酒の神ディオニソス（バックス）神の祭礼行事としておこり、その上演は国家行事となった。悲劇は神話・伝説などに題材を求めながら、神々の意志、国家の権力、運命の威力、これに対する人間生活の対立や矛盾などを悲劇的に描きだした。「アガ멤ノン」「ペルシア人」のアイスキュロス、「オイディプス王」「アンティゴネー」のソフォクレス、「メディア」の「トロヤの女」のエウリピデスは、三大悲劇詩人として有名である。喜劇の分野ではアリストファネスが活躍した。彼は「女の平和」「雲」などの作品を通して時代を風刺し、当時の民衆のかっさいを博した。

ギリシア名	ラテン名	職 掌
ゼウス	ジュピター	男神、主神、天を司る
ヘラ	ジュノー	女神、ゼウスの妻、結婚
ポセイドン	ネプチューン	男神、ゼウスの兄、海神
アレス	マルス	男神、ゼウスの子、軍神
アポロン	アポロ	男神、ゼウスの子、光・文芸・音楽・預言
ヘファイストス	ヴァルカン	男神、ゼウスの子、火・鍛冶
ヘルメス	マーキュリー	男神、神々の使者、商業
アテナ	ミネルヴァ	女神、戦争と平和、知識・美術
アルテミス	ダイアナ	女神、ゼウスの子、狩猟・月
アフロディテ	ヴィーナス	女神、美と愛
ヘスティア	ヴェスタ	女神、ゼウスの姉、炉
デメテル	セレス	女神、ゼウスの姉、農業

オリンポスの神々



円形劇場エピダウロス

トロヤの木馬

10年におよぶトロヤ戦争で決着をつけたのがこのトロヤの木馬である。トロヤ戦争とは、スパルタ王妃で絶世の美女であったヘレネをトロヤ王子パリスが誘拐したことから始まる。ギリシア側はアガ멤ノンを総大将として、アキレウスやオデュッセウスらの英雄が復讐のためトロヤを攻撃する。しかし戦いは長びくばかりで解決の糸口が見いだせない。そこでオデュッセウスを中心に考えだした計略がトロヤの木馬であった。トロヤの城門のそばにそれを置いてギリシア側は退却

したかの印象を与えたため、トロヤはギリシア側の贈り物としてこれを城に運び入れたのである。このときトロヤの運命は定まったのであった。夜陰に乗じて木馬の中のギリシア兵士と城外のギリシア兵士が呼応して全市に火を放ち、トロヤを滅ぼしたのである。

ホメロスの叙事詩「イリアス」と「オデュッセイア」はこのトロヤ戦争をうたったものである。ホメロスについては、ギリシア諸国を遍歴した盲目の吟遊詩人と伝えられるが、実在したかは定かでない。

———— トレーニング ————

解答は144ページ

1 (ギリシア文化(1): 概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ギリシア文化は現実的・人間的な合理文化として、のちのヨーロッパ文化に影響を与えたが、ギリシア人の宗教はゼウスを中心とする〔① 〕の信仰であった。
- (2) ポリスの成立期は叙事詩の全盛時代で、〔② 〕はトロヤ戦争を題材にした、「イリアス」と「オデュッセイア」をうたった。また〔③ 〕は「神統記」で神話を整理し、「労働と日々」で勤労の尊さをうたった。
- (3) 平民の実力が高まってくると個人意識のめばえを反映して抒情詩がさかんになった。女流詩人の〔④ 〕はその代表である。
- (4) 文学はペリクレス時代に黄金時代をむかえた。演劇が発達し、悲劇の分野では〔⑤ 〕・〔⑥ 〕・〔⑦ 〕の3人が活躍し、喜劇の分野では〔⑧ 〕が活躍した。

2 (表で見るギリシア文化(1)) 次の表を見ながら問いに答えよ。

- (1) オリンポス12神の主神は何か。〔 〕
- (2) ホメロスの叙事詩を2つあげよ。
〔 〕〔 〕
- (3) 勤労の尊さをうたった詩人はだれか。その作品もあげよ。
〔 〕〔 〕
- (4) 女性の地位の低かったギリシアで女流詩人として活躍したのはだれか。〔 〕
- (5) 演劇が発達したのはアテネのだれの時代か。
〔 〕
- (6) 「メディア」・「トロヤの女」を書いた悲劇作家はだれか。
〔 〕
- (7) アリストファネスが女性の立場から戦争を風刺した作品は何か。
〔 〕

宗教	オリンポスの神々	
文学	叙事詩	ホメロス
		ヘシオドス
	抒情詩	アナクレオン
		サッフォー
演劇	悲劇	アイスキュロス
		ソフォクレス
		エウリピデス
	喜劇	アリストファネス

3 (ギリシア文化(1)) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

鶴の声を聞く時は心せよ、高い雲から年ごとに鳴く
鶴は耕作の合図をし、雨の多い冬の季節を知らせる。
耕作の季節がはじめて人間にやってきた時、
その時は奴隷ども dmōes も自分も急ぎ立って、
降っても、照っても耕作時に耕せ。

(「労働と日々」「西洋史料集成」 太田秀通訳 平凡社)

- (1) この作品はだれのものか。 []
- (2) この作品はどのような分野の文学作品か。 []
- (3) この著者の作品で、ギリシア神話を整理したものとは何か。 []
- (4) この史料にあらわれる市民の労働観は、奴隷制度の確立によってすたれた。アテネで市民の奴隷化を防止し、奴隷制度を確立させたのはだれか。 []

4 (ギリシア文化(1)) 次の [] にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

ギリシア文化は〔①〕を母胎にして生まれた。労働を〔②〕にまかせた市民は共同体を通じて自分たちの幸福を追求したのである。それゆえ、その文化は人間的・現実的な〔③〕文化になったわけである。

〔④〕を中心とするギリシアの神々は、人間と同じ喜怒哀楽の世界を展開した。

ギリシア最古の文学である(a)ホメロスの叙事詩は、ギリシア民族の共通財産となり、ヘシオドスの行った(b)神々の整理は、ものを体系的・組織的に把握しようとするギリシア精神の先駆となった。彼には労働の大切さをうたった〔⑤〕という作品もある。

平民が実力をもち貴族に対決しながら政治にかかわってくると、抒情詩の世界がにわかにクローズアップされてきた。生産を完全に奴隷にまかせた今、自分たちを文化的に表現する手段をもったのである。女流詩人の〔⑥〕、酒をたたえた〔⑦〕

、オリンピア競技会の優勝者をたたえた〔⑧〕らが有名である。

ペルシア戦争を経験して、民主政治を市民共同体全体に広げたギリシアでは、アテネを中心に演劇が国家的行事として上演され、投票で優劣が決められたりした。悲劇は神話や伝説に素材を求めながら、いわゆる(c)三大悲劇詩人、すなわち〔⑨〕・〔⑩〕

・〔⑪〕が活躍した。また喜劇においては〔⑫〕

が活躍し、時代をもののみごとに風刺し、当時の民衆のかっさいを浴びた。

- (1) 下線(a)について、ホメロスの叙事詩を2つあげ、またそれが題材とした戦争名を書け。
[]・[]・[]
- (2) 下線(b)について、これがなされた書名を書け。またここでいう神々とは何をさすのか。
[]・[]
- (3) 下線(c)について、3者のうち「オイディプス王」、「アンティゴネー」などを著した悲劇詩人はだれか。
[]

また彼らが活躍したのはアテネが民主政を完成した黄金時代のことだが、それは通称何時代と呼ばれているか、またそれは何世紀か。 [], []世紀

つづいてギリシア文化の後半をみていこう。

テーマ2 ギリシア文化(2)

前述した宗教と文学を通して、ギリシア文化が奴隷制度に立脚した市民の民主政治と深くかかわっていたことを理解してもらえたと思う。ここではさらにそれを補強すべく、哲学・歴史学・美術についてみていこう。

※哲学 ギリシアの合理精神はミレトスを中心とする小アジアのイオニア植民市で開花した。この地域は早くから商工業が発展し、その上オリエント文化を吸収できる地点にあったために、自然を神から切り離してとらえることができたのである。この哲学は、宇宙万物の根源を探ることにはじまったので自然哲学と呼ばれる。タレースは万物の根源を水とし、アナクシメネスは空気と考え、ヘラクレイトスは火を本体として万物は流転するとした。また、ピタゴラスは宇宙の秩序を数に還元することを試みた。そしてこの流れを集大成したのが原子論のデモクリトスである。

ギリシアでは労働を奴隷にまかせていたので実験と観察を重んじる自然科学は発達しなかったが、数学のピタゴラスや医学のヒポクラテスはその先駆をなすものである。

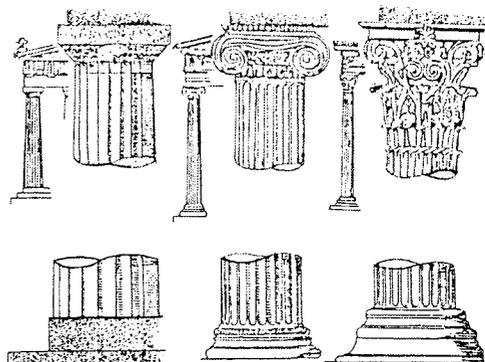
ペルシア戦争後、民主政治が隆盛を極めると人々の関心は自然から人間に移った。役職がくじで選ばれる直接民主政治において、市民である成年男子の出世条件は人々をいかに納得させるかの弁論と修辭の術であった。職業教師としてのソフィストはこのような状況下に出現し、成年男子を指導したのである。彼らの中には、プロタゴラスのように「人間は万物の尺度である」といって、国法や道徳の相対性を説き客観的真理を否定する者もでた。

これに対してソクラテスはソフィストを批判して客観的真理の存在と知徳合一を説いたが、「国家と神々を否認し青年を腐敗させた」と訴えられて死刑を宣告され、国法に従って毒杯を仰いで死んだ。彼の弟子プラトンはさらに真理の追求を行い、それをイデアに求めた。そして最高のイデアとしての善を実現すべく理想国家論を展開した。その弟子アリストテレスは学問の研究に観察と経験方法を重んじて古代の諸学問を集大成した。彼の学説は中世ヨーロッパとイスラムに大きな影響を与えた。この3人の哲学者はポリスの衰退期に登場し、ポリス人として、観念の中でその衰退をくい止めようとした。そういう意味でこの時期にポリス哲学が学問的に位置づけられたのである。

※歴史学 歴史が市民の立場から個性的な作品として書かれたのはギリシアが最初である。小アジア生ま

れのヘロドトスはオリエントの旅を踏まえながらペルシア戦争史を物語風書き、のちに歴史の父と呼ばれた。トゥキディデスは正確な史実のもとにペロポネソス戦争史を書き、科学的な歴史学への道を開いた。ちなみにオリエントでは歴史は年表風の記録であった。

※美術 ギリシア市民は共同体であるポリスを通してすべてを思考したが、ポリス哲学が一番見事に表現されているのが美術である。写実主義に立ちながら生みだされた均斉と調和の美がそれを物語っている。建築様式は柱の様式により、荘重なドーリア式、優雅なイオニア式、繊細なコリント式などに分かれた。アテネのパルテノン神殿はドーリア式の代表である。彫刻では「アテナ女神像」のフェイディアスやプラクシテレスらが活躍し、ポリス哲学を美の中で表現した。



ギリシア建築の柱の3様式
左からドーリア式、イオニア式、コリント式

自然哲学	タレース (水) ピタゴラス (数) ヘラクレイトス (火, 万物流転) デモクリトス (原子論)
人哲学	プロタゴラス (人間は万物の尺度)
ポリス哲学	ソクラテス (知徳合一) プラトン (イデア論, 「国家論」) アリストテレス (古代哲学の集大成, 「政治学」)

ギリシア哲学

5 (ギリシア文化(2):概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) 〔① 〕を中心とするイオニア植民市で開花した自然哲学は、宇宙万物の根源を探るものであった。〔② 〕はオリエントの知識を駆使し、この哲学の祖となった。彼は万物の根源を水とし、アナクシメネスはそれを空気と考え、ヘラクレイトスは火を本体として万物は流転するとした。また〔③ 〕は宇宙の秩序を数に還元しようとし、デモクリトスは世界を原子から説明しようとした。

民主政治の最盛期において、青年に弁論と修辞を教えたのは〔④ 〕たちであるが、彼らの中には〔⑤ 〕のように「人間は万物の尺度」といつて客観的真理を否定する者もでてきたが、それに対して客観的真理の存在と知徳合一を説いたのが〔⑥ 〕である。しかし彼は市民に訴えられて死刑に処せられた。彼の志を受け継いで真理を追求したのが〔⑦ 〕で、彼はイデア論と理想国家論を展開した。また〔⑧ 〕は古代の諸学問を集大成し、彼の学説は後世に大きな影響を与えた。

(2) 歴史学の分野では〔⑨ 〕がペルシア戦争史を物語風にし、歴史の父と呼ばれ、〔⑩ 〕はペロポネソス戦争史を正確な史実に基づいて書き、科学的な歴史学への道を開いた。

(3) ギリシア建築は柱の様式により、荘重な〔⑪ 〕、優雅な〔⑫ 〕、繊細な〔⑬ 〕に分けられるが、アテネの〔⑭ 〕は〔⑪〕の様式の代表である。彫刻ではアテナ女神像の〔⑮ 〕や、プラクシテレスが有名である。ギリシア美術は、写実主義に立ちながら均斉と調和の美を生みだした。

6 (表で見るギリシア文化) 次の表を見ながら問いに答えよ。

- (1) 自然哲学はイオニアのどの都市を中心に展開したか。〔 〕
- (2) プロタゴラスのように弁論術を教える職業教師のことを何というか。〔 〕
- (3) 現実世界はイデア世界の影であるとする観念哲学を説き、「対話篇」や哲人政治による理想的ポリス形態を述べた「国家論」を著した哲学者はだれか。〔 〕
- (4) 正確な史実に基づき、科学的歴史学への道を開いたトゥキディデスの「歴史」は何を描いたか。〔 〕
- (5) パルテノン神殿の建築様式は何か。〔 〕
- (6) アテナ女神像を通してポリス美を追求した彫刻家はだれか。〔 〕

哲	自然哲学	タレース (前7～6世紀) ヘラクレイトス (前6世紀) ピタゴラス (前6世紀) デモクリトス (前5～4世紀)
	人生哲学	プロタゴラス (前5世紀)
学	ポリス哲学	ソクラテス (前469～399) プラトン (前427～347) アリストテレス (前384～322)
歴史		ヘロドトス (前484頃～425頃) トゥキディデス (前460頃～400頃)
美	建築	ドーリア式 イオニア式 コリント式
術	彫刻	フェイディアス (前5世紀) プラクシテレス (前4世紀前半)

7 (ギリシア文化(2)) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

ギリシアの合理精神はイオニアを中心に開花した。自然を神からきりはなして(a)万物の根源を問う自然哲学がおこったのである。その始祖になったのは〔① 〕である。彼は万物の根源を水とし、〔② 〕は火とし、〔③ 〕は宇宙の秩序を数に還元した。

ペルシア戦争後ペリクレスの指導のもとに民主政治が全盛を極めると、ここにギリシア文化は全市民を対象に展開していった。とりわけ人間をあつかった部門が活発であった。哲学では〔④ 〕と呼ばれる職業教師が登場し、(b)青年を教育した。歴史学では〔⑤ 〕がペルシア戦争を物語風を書いて歴史の父と呼ばれた。また美術の世界でも、テロス同盟の資金を流用して(c)パルテノン神殿が建設された。柱は荘重な〔⑥ 〕式を取り、ギリシア美術の極致をなしている。

しかしポリス間の激しい対立の中で民主政治が衰退してくると、ポリスにおける人間のあり方が根本的に問い直されていった。歴史学では〔⑦ 〕が厳密な科学的態度でペロポネソス戦争史を書いた。哲学では〔⑧ 〕が真理を見失っている青年に対話を通して客観的真理を説いたが逆に訴えられ、国法に従って毒を仰いで死んだ。〔⑨ 〕

はポリスの衰退を憂え、理想国家論を展開した。そしてアリストテレスに至ってポリス哲学は最終的に位置づけられたのである。

(1) 下線(a)について、原子論を展開することによってこの哲学を集大成したのはだれか。

〔 〕

(2) 下線(b)について、何を教育したのか。

〔 〕

(3) 下線(c)について、この建築の総監督をし、アテナ女神像をつくったのはだれか。

〔 〕

-----ひとくちメモ-----

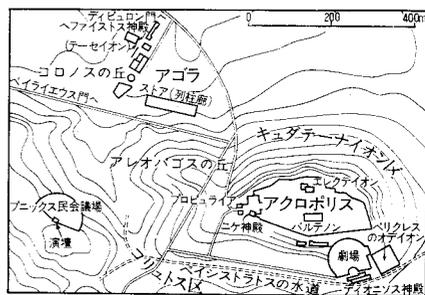
ポリスと現代

ギリシア文化は、後世ヨーロッパ文化の大きな支えになった。すなわち合理精神として機能したのである。ギリシア文化の母胎はいうまでもなくポリスである。ポリス polis ということばから英語に派生していることばに政治 politics と警察 police がある。この2つのことばを考えただけでギリシアと現在のわたしたちの連関に深く思いを致すことができよう。ギリシア市民が自分たちの幸福を政治によって達成しようとしたこと、そしてそれを邪魔だてするものを全員で排除しようとしたのがよくわかる。

またポリスの衰退に伴って、はじめてギリシア文化が集大成された。ドイツの哲学者ヘーゲル流にいえば、ひとつの社会が終わろうとするときミネルヴァのフクロウ(知識の神様)が飛ぶというわけである。ソクラテス、プラトンを受け継いだアリストテレスはポリス哲学を位置づけた。

アリストテレスは、奴隷とは「ものをいう道具」であり、市民とは「ポリスの動物」

である、と称した。ポリス哲学とは奴隷制民主主義であったのである。このアリストテレスの「ポリスの動物」ということばは現在「社会的動物」とか「政治的動物」ということばになって利用されている。日本の経済的發展に対して、外国から「経済的動物」と日本人がいわれるのも、この類のものといえよう。その他、ギリシア文化はポリスを土台にしなが、いたるところで、わたしたちに教えてくれるものをもっている。



古代のアテネ市の中心部

1 (ギリシア文化) 次の〔 〕にあてはまる語句を記入し、あとの問いに答えよ。

ギリシア文学の展開は叙事詩からはじまった。トロヤ戦争をうたった〔① 〕の叙事詩と(a)ヘシオドスの世界がそれである。これはポリスの成立期のことで、平民が実力をもって貴族政治に挑戦しはじめると、ギリシアは(b)宗教的世界からますます解放され、文学では個人のめざめを反映する(c)抒情詩が展開し、学問も(d)万物の根源を追求する自然哲学が小アジアのミレトスなど〔② 〕地方を中心におこった。

ペルシア戦争に勝利したギリシアはアテネを中心に民主政治を完成すると、人間を題材にした文化が一斉に開花した。文学では演劇が栄え、国家的行事として上演された。悲劇では〔③ 〕・ソフォクレス・エウリピデスが活躍し、喜劇では〔④ 〕が時代を風刺した。哲学では弁論と修辞を教える〔⑤ 〕が登場し、中には(e)「人間は万物の尺度」として客観的真理を否定する者も現れた。これは民主政治の危機を示しているといえよう。美術でも〔⑥ 〕神殿に象徴される調和と均斉の美が表現された。歴史学では歴史の父といわれた(f)〔⑦ 〕に続いて、〔⑧ 〕が(g)事態を冷静に批判的に見つめて史料を科学的に操作し、近代西洋史学の発達に大きな影響を与えた。

ペロポネソス戦争を通してポリスが衰退しはじめると、哲学の課題はポリスの衰退をどう防止するか、ということになった。〔⑨ 〕は客観的真理を青年たちに説き、〔⑩ 〕は哲人政治による国家を説いた。その高弟のアリストテレスは、実証主義的立場をとり、古代の諸学問を体系化した。彼のその膨大な学問的体系はのちにヨーロッパ中世の哲学にとり入れられ、またイスラムの学問に多大な影響を与えた。彼は(h)市民の結束を説いて奴隷とのちがいを位置づけたが、所詮は観念の中での展開であって、現実のポリスの崩壊はどうにもならなかった。

- (1) 下線(a)について、ヘシオドスが神々の系譜を整理した作品は何か。〔 〕
また労働の大切さをうたった彼の作品は何か。〔 〕
- (2) 下線(b)について、ギリシアの神々(オリンポス12神)の主神は何か。〔 〕
- (3) 下線(c)について、女流詩人として活躍したのはだれか。〔 〕
- (4) 下線(d)について、次の人物は万物の根源を何に求めたか。
(イ)タレース〔 〕、(ロ)ヘラクレイトス〔 〕、(ハ)デモクリトス〔 〕
- (5) 下線(e)について、これはだれの言葉か。〔 〕
- (6) 下線(f)について、彼の作である「歴史」は何を物語風に描いたものか。〔 〕
- (7) 下線(g)について、そのような態度で描かれた彼の「歴史」は何を題材としているか。〔 〕
- (8) 下線(h)について、この部分を50字以内で具体的に説明せよ。

テーマ1 ヘレニズム世界の形成

テーマ2 ヘレニズム文化

アレクサンドロス大王の東征によってヘレニズム時代の幕が切って落とされた。ヘレニズム時代とはどういう時代であろうか。ここではその展開過程とその文化の特色およびその影響について考えてみよう。

ヘレニズム世界にはいる前に、ギリシア文化を復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (ギリシア文化) 次の問いに答えよ。

- (1) ギリシア人の信仰の対象であった神々とは何か。 []
- (2) 「イリアス」・「オデュッセイア」の叙事詩で名高い詩人はだれか。 []
- (3) 同じく叙事詩人で、「労働と日々」で労働の大切さをうたい、「神統記」でギリシア神話を整理したのはだれか。 []
- (4) 民主政治の完成期に活躍した三大悲劇詩人を書け。
[] [] []
- (5) また「女の平和」などで知られる喜劇作家はだれか。 []
- (6) 小アジアのミレトスを中心にはじまった、宇宙万物の根源を追求した哲学とは何か。
[]
- (7) その始祖はタレースといわれ、彼は万物の根源を水としたが、それでは宇宙の秩序を数に還元することを試みたのはだれか。 []
- (8) 青年市民の立身出世のために弁論と修辞の術を教えた職業教師を何というか。
[]
- (9) 客観的真理の存在と知徳合一を説いたが、逆に青年を惑わすとして訴えられ、処刑されたのはだれか。 []
- (10) プラトンの弟子で、古代の諸学問を集大成したのはだれか。 []
- (11) 物語風のペルシア戦争史である「歴史」を書いた歴史家はだれか。 []
- (12) ペロポネソス戦争を題材に「歴史」を批判的に書き、科学的歴史学の祖といわれる歴史家はだれか。 []
- (13) ギリシアの建築様式は柱の様式により、荘重なドーリア式、優雅なイオニア式、繊細なコリント式にわけられるが、パルテノン神殿の様式はどれに属するか。 []
- (14) 「アテナ女神像」で知られる彫刻家はだれか。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)オリンポス12神 (2)ホメロス (3)ヘシオドス (4)アイスキュロス, ソフォクレス, エウリピデス
(5)アリストファネス (6)自然哲学 (7)ピタゴラス (8)ソフィスト (9)ソクラテス (10)アリストテレス
(11)ヘロドトス (12)トゥキディデス (13)ドーリア式 (14)フェイディアス

まずヘレニズム世界の形成についてみてみよう。

テーマ1 ヘレニズム世界の形成

マケドニアの支配に屈したギリシアは、アレクサンドロス大王のもとにペルシア討伐にのりだした。ここに形成されたのがヘレニズム時代である（前334～前30）。ここではアレクサンドロス帝国の形成とその分裂によるヘレニズム3国の動きをみてみよう。

◆アレクサンドロス帝国の形成 フィリッポス（フィリップ）2世が暗殺されると息子のアレクサンドロス（アレクサンダー）大王が即位した。彼は父王の遺志をうけてマケドニア・ギリシア連合軍によるペルシア討伐にのりだした。この当時のペルシアは弱体化が著しく、宮廷内では政争があいつぎ、諸民族の離反も目立ち、そのうえ支配階級にはギリシア化が進んでいた。アレクサンドロスの東征はこのような状況下で行われ、前333年イツスの戦いで、ついで前331年アルベラ（ガウガメラ）の戦いでダレイオス（ダリウス）3世指揮下のペルシア軍を徹底的に破り、前330年ペルシア帝国を征服した。この間ペルシア海軍の根拠地フェニキアやエジプトなども奪い、当初の目的を達したが、大王には世界征服という大目標がめばえ、その東征は西北インドにまで及んだ。しかし長い遠征の疲れから軍に不穏な空気がおこったため、海陸を並行して帰路につき前324年スサに凱旋した。大王は大なる野望をもちつつ翌年熱病によって33歳の若さで急死した。10年におよぶ遠征を通して、大王は東西の融合に努めた。混血政策や各地におけるアレクサンドリア市の建設、コイネと呼ばれるギリシア語からつくられた共通語の使用、絶対君主概念の導入はそれを雄弁に物語っているといえよう。

◆帝国の分裂とヘレニズム3国 大帝国を形成しながらアレクサンドロスが若死にしまったので、帝国は後継者（ディアドコイ）の武将によって数十年の内乱に苦しむことになった。この結果アレクサンドロス帝国は、プトレマイオス朝エジプト、セレウコス朝シリア、アンティゴノス朝マケドニアの3国に分裂した。その他ベルガモン、ロードスなども力を持った。これらの諸国も、アレクサンドロスの政策を継承したのでここにギリシア文化とオリエント文化の融合が進んだ。アレクサンドロスの東征開始以後をヘレニズム¹⁾時代といい、この時代の文化をヘレニズム文化（ギリシア風文化）と称している。

エジプトを支配したプトレマイオス朝は地理的にもまとまっていたこともあって古代エジプトの伝統を受け継いで強大な王権を行使した。首都アレクサンドリアはヘレニズム世界の政治、経済、文化の中心として

おおいに繁栄した。

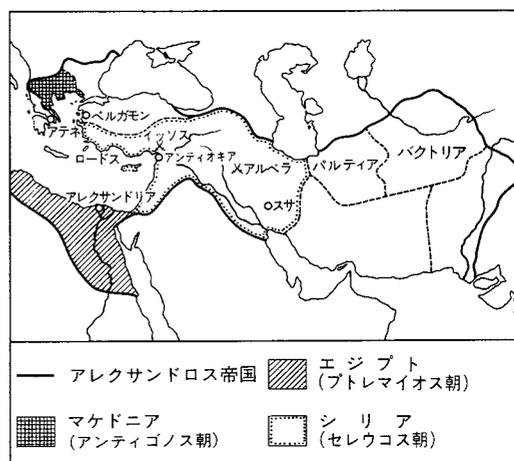
シリアを支配したセレウコス朝は領土が最も広大で多数の民族を内包したため、その政治はうまくいかず周辺民族の独立をうながし衰退していった。しかしアンティオキアは経済の中心地として繁栄し、ローマの支配を受けてからも重要な意味をもった。

マケドニアを支配したアンティゴノス朝は弱体で国力を維持するのが精一杯であった。これらヘレニズム諸国は西方に台頭してきたローマに対して団結を怠り、マケドニアは前2世紀半ばに、シリアは前63年に、エジプトは前30年にローマに滅ぼされた。

一方ギリシアは衰退の一途をたどり、多くの人口がヘレニズム世界に流出していった。ただアテネのアカデミア²⁾だけがギリシア文化の余韻を残すだけであった。

【補足1】ヘレニズム このことばは広義としてはギリシア精神を指すが、狭義としては前334～前30年の時代とこの時代の文化を指す。

【補足2】アカデミア プラトンが子弟を教育すべく開いた学園で、長い間ギリシアにおける学問の最高の殿堂であった。



ヘレニズム世界（前200年頃）

1 (ヘレニズム時代：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 父王フィリッポス2世の遺志をうけて〔①〕はマケドニア・ギリシア連合軍による〔②〕討伐の遠征にのりだし、前333年イッソスの戦いで、ついで前331年アルベラ(ガウガメラ)の戦いでペルシア帝国を破り、当初の目的を果たした。また遠征の途中で各地に〔③〕市を建設し、そこを拠点にギリシア文化を普及させ、またギリシア語を共通語(コイネ)として使用した。
- (2) 彼は若くして死んだため、彼の帝国は後継者(〔④〕)によって分割された。その結果成立したのが、マケドニアの〔⑤〕朝とシリアの〔⑥〕朝、それにエジプトの〔⑦〕朝であるが、このヘレニズム3国のほかにペルガモンとロードスが有力であった。
- (3) ヘレニズム時代は前334年から前30年までのほぼ300年間を指しており、エジプトの首都〔⑧〕はヘレニズム世界の政治・経済・文化の中心としておおいに繁栄した。シリア王国は領土が最も広大で多数の民族を内包したため、政治はうまくゆかず、周辺民族の独立をうながして衰退していったが、〔⑨〕は経済の中心地として繁栄し、ローマの支配を受けてからも重要な意味をもった。またマケドニア王国は弱体で国力を維持するのが精一杯であった。ギリシア世界は衰退の一途をたどり、多くの人々がヘレニズム世界に流出していった。

2 (年表で見るヘレニズム時代) 次の年表を見ながら次の問いに答えよ。

- (1) 〔 〕内に適語を入れよ。
- (2) アレクサンドロスの東方遠征とは具体的にどこを指しているか。
〔 〕
- (3) アレクサンドロスは10年に及ぶ遠征で、各地に何という都市を建設したか。
〔 〕
- (4) ヘレニズム世界で使用されたギリシア語の共通語を何というか。
〔 〕
- (5) 後継者のことを何というか。
〔 〕
- (6) マケドニアを支配した王朝を何というか。〔 〕
- (7) シリアを支配した王朝を何というか。またその中心都市はどこか。
〔 〕〔 〕
- (8) エジプトを支配した王朝を何というか。またその首都でヘレニズム世界の中心であった都市はどこか。〔 〕〔 〕
- (9) これらのヘレニズム諸国はどこに滅ぼされたか。〔 〕

前334~324	アレクサンドロスの東方遠征
333	〔①〕の戦い
331	アルベラ(ガウガメラ)の戦い
330	ペルシア帝国崩壊
324	〔②〕に凱旋
323	アレクサンドロスの死
323~280	後継者戦争
301	イッソスの戦いでヘレニズム3国の成立
306~146	マケドニア
312~63	シリア
304~30	エジプト

3 (ヘレニズム時代) [] にあてはまる語句を入れ、下線部の問いに答えよ。

ギリシアのポリスが衰えると、マケドニア王〔①〕はギリシアを支配するに至った。ついでその子〔②〕はイッソスの戦いと〔③〕の戦いを通してペルシア帝国を征服し、さらに西北インドにまで侵入した。(a)彼の10年に及ぶ遠征の結果、ここにヨーロッパ・アジア・アフリカにまたがる大帝国が成立した。彼は(b)ギリシア人の東方移住を奨励し、ギリシア文化と〔④〕文化の融合をはかったが、この融合文化は〔⑤〕文化と呼ばれる。

彼の死後、大帝国は後継者の争うところとなり、この結果エジプトを支配する〔⑥〕朝とシリアを支配する〔⑦〕朝、マケドニアを支配する〔⑧〕朝とに分裂した。これがいわゆるヘレニズム3国であるが、その他としては〔⑨〕やロードスが栄えた。この中で一番大きな力をもったのはエジプトで、その中心都市〔⑩〕は人口50万以上をもち、文字通りヘレニズム世界の中心都市であった。シリアは領内に多くの異民族をかかえ、それらの独立を許していったが、中心都市の〔⑪〕は東地中海の交通の要路にあったためおおいに繁栄した。マケドニアは国力が弱く前146年に滅んだ。これらのヘレニズム諸国は西方に台頭した〔⑫〕に対して団結を怠ったため次々にそれに征服されていった。一方ギリシアは衰退の一途をたどり、アテネの〔⑬〕のみが学問の中心地として光彩を放つのみであった。

- (1) 下線(a)について、彼の遠征がはじまったのは何年のことか。また彼が遠征ののち凱旋した都市はどこか。 [] 年, []
- (2) 下線(b)について、共通語となったギリシア語を何というか。 []

-----ひとくちメモ-----

アリストテレスとアレクサンドロス大王

フィリッポス2世は息子アレクサンドロスの天分を早く見抜き、帝王学を授けるべく当代一の大学者アリストテレスを家庭教師に招いた。アリストテレスはポリス哲学を含むギリシアの諸学問の集大成を行っていたので、この知識欲旺盛な若者に基本的なことはすべて伝授したと思われる。このことをアレクサンドロスの東方遠征とのかかわりの中で考えてみよう。アレクサンドロスは遠征軍に多くの学者を従軍させた。そして遠征先の動植物や地理を記録させ、ナイル川の定期的氾濫はんらんを実際に確認させたりした。すなわち彼の遠征は一大探検旅行の性格も有していたことになる。アリストテレスは従来のギリシア一般の哲学とちがって経験的事実を大切にし、それにもとづいて学問を体系づけた人であった。ヘレニズム時代は天文学、地理学などの自然科学がたいへん発達したが、これにはアリストテレスの影響を受けたアレクサンドロス大王がその繋ぎつなの役割をしていたと推測できるのである。

また、遠征に先立ってアリストテレスは大王に「ペルシア人は動植物の如く扱うように」と勧告したといわれるが、彼のポリス哲学からすればごくあたり



アレクサンドロス(左)と師アリストテレス(右)

まえである。しかし大王がスサに凱旋したとき、将兵とペルシア人女性との集団結婚を行ったことを考えると、この点では必ずしも師の忠実な弟子ではなかったといえるかもしれない。ここでは観念の中でポリスの衰退を防止しようとした人と新しい時代を創造しようとした人とのちがいを指摘するにとどめよう。

アレクサンドロス大王の東征以後、東西文化が融合したことを頭に入れて、次に進もう。

テーマ2 ヘレニズム文化

ポリスの規制のなくなったヘレニズム時代の文化は、ポリスを母胎とするギリシア文化と対照的な発展を示すことになった。ここでは両者のちがいを念頭におきながらヘレニズム文化の特色をそれぞれの分野についてみることにしよう。

◆ヘレニズム文化の特色 ヘレニズム時代には、ポリスはますます衰退し、その諸問題の解決のためにギリシア人の東方への集団移住がなされた。その結果東方が政治・経済・文化の中心となると同時に、この地域にひろまったギリシア文化もオリエント文化と接触して変質していった。今まではポリスを通してすべてのことを思考したが、ポリスの解体したこの時代は個人レベルの発想が一般的になり、人間すべて同胞だとする**世界市民主義**（コスモポリタニズム）もひろまった。

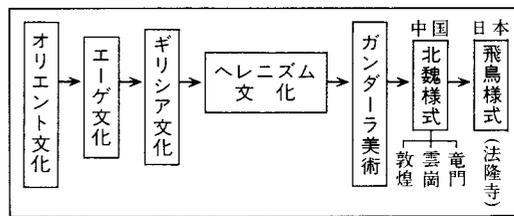
◆宗教 この時代の宗教は2つに分極化した。ひとつは王権を背景とする君主崇拜であり、それは政治と結合する形式宗教であった。もうひとつは搾取されることはあっても政治の恩恵に浴さない貧しい民衆が心の平安を求めた**神秘宗教**であった。イシス、ミトラ、セラピスなどの東方的神々がその代表で、人々は禁欲生活をおくりながら神秘的な儀式によって魂の救済にあずかろうとした。このように神秘宗教が流行したことは、現実的快楽を追求することを至上としたギリシア・ローマの世界観とは全く異なる世界が展開することを意味し、のちのローマ帝国の中でのキリスト教発展に結びついていったのである。

◆哲学 この時代の哲学はポリスの没落を反映して個人主義と世界市民主義が指導的風潮であった。エピクロスのはじめた**エピクロス派**は、快楽派とも呼ばれるが、利根的な快楽ではなくて精神的な快楽を追求した。このため、この派は社会の片隅で心おだやかに生きをすすめた。また、ゼノンのおこした**ストア派**は、禁欲派と呼ばれ、この派の主張するところは「人間は理性に従って感情や快楽にうちかち、自己の内面的独立を保つことによって幸福となりうる」とし、また「人間は本来平等である」とする**世界市民主義**をとった。この派はローマにも大きな影響を与えた。

◆自然哲学 ヘレニズム時代は古代において自然科学の最も発展した時代である。世界観や人生観を離れた自然科学が諸君主の保護を受け、奨励された結果といえよう。自然科学の中心地はエジプトのアレクサン

ドリアであり、諸施設を完備した**ムセイオン**（王立研究所）がそれを象徴する。**エウクレイデス**（ユークリッド）は平面幾何学を大成し、**アリストアルコス**は太陽中心説と地動説を唱えた。**エラトステネス**は地球の周囲をほぼ正確に計算し（4万キロメートル）、最初の体系的地球学者として大きな功績を残した。また**アルキメデス**はヘレニズム世界きっての大自然科学者で、入浴中に「**アルキメデスの原理**（比重の原理）」を発見したという逸話が残るほか、てこの原理を発見したり、凹面鏡を発明したりした。しかし、これらの自然科学の知識は、奴隷制社会であったために民衆世界に普及しなかった。

◆美術 均斉と調和を追求したギリシア美術に対して、ヘレニズムの作風はそれから解放されて自由になり、もっぱら人間の感情を大胆に表現するようになった。代表作品は「**ミロのヴィーナス**」・「**サモトラケのニケ**」・「**ラオコーン群像**」・「**瀕死のガリア人**」などである。このヘレニズム美術は、インドに伝わって**ガンダーラ仏教美術**を生みだした。



ヘレニズム文化の伝播

哲学	ゼノン	ストア派（禁欲派）の開祖
	エピクロス	エピクロス派（快楽派）の開祖
自然科学	エウクレイデス	平面幾何学
	アリストアルコス	太陽中心説，地動説
	エラトステネス	地球の周囲測定，天文学
	アルキメデス	物理学，数学
美術	「ミロのヴィーナス」	
	「サモトラケのニケ」	
	「ラオコーン群像」	
	「瀕死のガリア人」	

ヘレニズム文化

4 (ヘレニズム文化：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ヘレニズム文化はギリシア文化とオリエント文化が融合したものである。この時代の一般的風潮は、個人主義と人間はすべて同胞だとする〔①〕であった。またこの時代には貧しい民衆の間に神秘宗教が流行した。
- (2) この時代の哲学は、精神的快楽を追求し社会の片隅でひっそりと生きることをすすめた〔②〕派と、〔③〕のはじめた〔④〕派がある。後者は禁欲派とも呼ばれ、「人間は本来平等である」とする世界市民主義の立場をとり、のちにローマにも影響を与えた。
- (3) ヘレニズム文化を代表するのは自然科学の発達である。とくにプトレマイオス朝の支配するエジプトでは君主が積極的にこれを保護した。それゆえ首都アレクサンドリアは諸設備の完備もあって自然科学の宝庫であった。その象徴が〔⑤〕と呼ばれる王立研究所である。〔⑥〕は平面幾何学を集大成し、〔⑦〕は太陽中心説と地動説を唱えた。〔⑧〕は地球の周囲をほぼ正確に計算した天文学者である。〔⑨〕はその有名な比重の原理の他に、てこの原理を発見したり、凹面鏡を発明したりした。しかしこれらの知識は奴隷制社会だったので、一般民衆に普及しなかった。
- (4) ヘレニズム芸術は、均斉と調和を追求したギリシア美術とちがって、人間の感情を大胆に表現した。女性の官能美をとらえた〔⑩〕や、ギリシア神話でアテナ女神に殺されるトロヤの神官を主題とした「ラオコーン群像」、「瀕死のガリア人」などの彫刻が有名である。このヘレニズム美術は、インドに伝わってガンダーラ仏教美術を生みだし、さらに中国・日本にも影響を与えた。

5 (表で見るヘレニズム文化) 次の表を見ながら問いに答えよ。

- (1) 表の①, ②にあてはまる語を書け。

〔①〕〔②〕

- (2) 禁欲の立場をとり、人間は平等であると主張した哲学の一派はどれか。

〔 〕

- (3) エピクロスの追求した快楽はどんなものか。

〔 〕

- (4) 平面幾何学を集大成したのはだれか。

〔 〕

- (5) 太陽中心説と地動説を唱えたのはだれか。

〔 〕

- (6) 地球の周囲の長さをほぼ正確に計算したのはだれか。〔 〕

- (7) てこの原理などで知られる物理学者・数学者はだれか。〔 〕

- (8) 女性の官能美をとらえた女体美の極致とされる、代表的な彫刻は何か。〔 〕

宗教	〔①〕 宗教の流行 イシス・セラピス・ミトラなど
哲学	〔②〕 (前335頃～263頃) ストア派 エピクロス (前341頃～270頃) エピクロス派
自然哲学	エウクレイデス (前3世紀頃) アリストアルコス (前310頃～230頃) エラトステネス (前275頃～194頃) アルキメデス (前287頃～212)
美術	「ミロのヴィーナス」「サモトラケのニケ」 「ラオコーン群像」「瀕死のガリア人」

6 (ヘレニズム文化) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

ヘレニズム文化はギリシア文化に〔① 〕文化を融合したものである。この時代は、ポリスの解体によってポリスの制約をはなれ、個人主義と〔② 〕主義の傾向が強まった。

哲学では、〔③ 〕によっておこされた禁欲を説く〔④ 〕派と精神的快楽を追求する〔⑤ 〕派が発達した。前者の哲学は人間平等主義をとったため、のちにローマに大きな影響を与えた。

美術では感情が誇張され、技巧にはしる傾向がみられた。代表作品としては(a)「ミロのヴィーナス」・「ラオコーン群像」・「サモトラケのニケ」・「瀕死のガリア人」などがある。

イオニアの自然哲学にはじまる自然科学は、ヘレニズム時代の現実主義的風潮とあいまって発展した。その中心はエジプトの(b)アレクサンドリアであった。地球を球形とし子午線の長さをほぼ正確に測定した〔⑥ 〕や太陽中心説の天文学を説いた〔⑦ 〕

シラクサの人で数学・物理学に(c)すぐれた業績を残した〔⑧ 〕ら活躍した。

宗教では、君主崇拜と民衆の心のよりどころになった神秘宗教に分極化し、後者の禁欲精神はのちのキリスト教発展の母胎となった。

- (1) 下線(a)について、女性の官能美を追求したものはどれか。〔 〕
また、ヘレニズム芸術の影響を受けて栄えたインドの仏教美術は何か。〔 〕
- (2) 下線(b)について、自然科学研究の中心になった王立研究所を何というか。〔 〕
- (3) 下線(c)について、彼の発見した原理で、有名なものを2つあげよ。〔 〕〔 〕

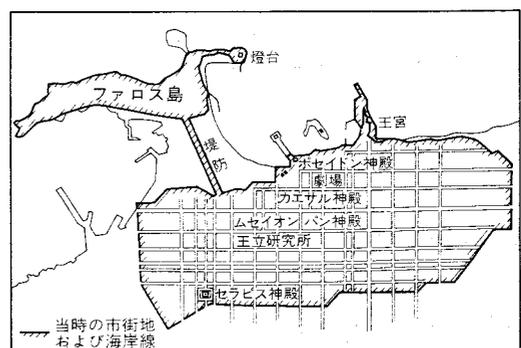
-----ひとくちメモ-----

アレクサンドリア

アレクサンドロスは東方遠征の過程で到る所に自分の名に因^{ちな}だアレクサンドリア市を建設したが、エジプトのアレクサンドリアが最も有名でヘレニズム時代の政治・経済・文化の中心になった。この都市は人口50万以上を擁し、整然たる街路、王宮区、ユダヤ人区などの区制をそなえていた。しかし当時の偉容を物語る遺跡は全然残されておらず、不明な点が多い。

しかしアレクサンドリアの歴史上の地位はヘレニズム文化の中心であったこと、とりわけ自然科学研究のメッカであったことである。自然科学はプトレマイオス王家の格別の保護奨励を受け、その研究機関として「ムセイオン」が建設され、当時名をなした学者は何らかの形でここの関係をもった。それに付属した大図書館や天文台、解剖学研究所、動物園も設けられ、ムセイオンはさながら自然科学の楽園であった。「幾何学

に王道なし」ということばは、ここで活躍したエウクレイデスがプトレマイオス1世に述べたものといわれている。これは王と自然科学の結びつきを示すエピソードであるが、反面、この時代は人間社会にかかわる学問が不振を極めていたのであった。



古代のアレクサンドリアの復元図

1 (ヘレニズム時代) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

前〔① 〕年(a)アレクサンドロス大王はマケドニア・ギリシア連合軍をひきいてペルシア討伐の遠征を開始した。すでにペルシアは老大国としてさまざまな矛盾を有しており、大王は順調に征服活動を展開していった。大王の征服は当初の目的であったペルシアだけでなく、西北〔② 〕にも及び、この結果大帝国が形成された。大王は征服の過程で各地に〔③ 〕市を建設し、そこを通して(b)東西文化の融合をこころみた。しかし、大王が若くして死んだために(c)後継者戦争がおこり、大帝国は(d)マケドニア・シリア・エジプトの3国に分割された。シリアの〔④ 〕とエジプトのアレクサンドリアはヘレニズム世界の中心として繁栄した。とくに(e)アレクサンドリアでは国王の保護もあって自然科学がおおいに発展した。しかし人文系の学問は軽視され、(f)その発展は衰退するギリシアのアテネで見られた。しかしヘレニズム諸国は団結を怠り、(g)西方のローマに次々に征服された。そしてヘレニズム文化はローマに継承されていった。

(1) 下線(a)について、アレクサンドロス大王の家庭教師として、彼に帝王学を授けたのはだれか。

〔 〕

(2) 下線(b)について、帝国内で共通語として使用されたギリシア語を何というか。

〔 〕

(3) 下線(c)について、この後継者を何というか。

〔 〕

(4) 下線(d)について、それぞれの国を支配した王朝を指摘せよ。

① マケドニア ② シリア ③ エジプト

①〔 〕 ②〔 〕

③〔 〕

(5) 下線(e)について、自然科学研究の中心となった研究施設は何か。

〔 〕

また、次の業績はだれによってなされたものか。

① 平面幾何学 ② 太陽中心説 ③ 地球の周囲の計算 ④ 凹面鏡の発明

①〔 〕 ②〔 〕

③〔 〕 ④〔 〕

(6) 下線(f)について、ヘレニズム時代の哲学について答えよ。

① ゼノンのはじめた哲学で、人間は本来平等であるとした一派は何か。

〔 〕

② 精神的な快楽を追求し、社会の片隅で生きることをすすめた一派は何か。

〔 〕

(7) 下線(g)について、エジプトがローマに征服されたのはいつのことか。

〔 〕年

(8) ギリシアとヘレニズムの美術の特色を80字程度で説明せよ。

テーマ1 共和政ローマ

テーマ2 共和政ローマの発展と内乱

きょうからローマの学習にはいろう。ヨーロッパ世界において歴史上大きな比重を占めているローマはどのように成立し、またどのような政治体制を持ち、地中海を内海とする大帝国へと変貌していったかをたどってみよう。

はじめに、ヘレニズム世界について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (ヘレニズム世界) 次の問いに答えよ。

- (1) ギリシアにおけるポリスの衰退期に台頭し、のちにギリシア世界を統一することになる王国は何か。 []
- (2) この王国が前338年、アテネ・テーベ連合軍を撃破した戦いを何と呼ぶか。 []
- (3) この戦いの指揮をしたマケドニア側の王はだれか。 []
- (4) この王の子で、のちに父の業績を基礎に東方への大遠征を行った人物はだれか。 []
- (5) この東方遠征によって滅亡したオリエント世界の大帝國とは何か。 []
- (6) アレクサンドロス大王は遠征帰途に病没するが、その後のエジプトに成立した王朝は何か。 []
- (7) 同様にイラン・シリア方面に成立した王朝は何か。 []
- (8) アレクサンドロス大王の文化推進策の一環としてエジプトのナイル河口につくられた都市を何と呼ぶか。 []
- (9) この都市で活躍をした平面幾何学の大成者はだれか。 []
- (10) この都市で同様に活躍し、比重およびこの原理を発見した物理学者はだれか。 []
- (11) アレクサンドロス大王の東征以後、西南アジア・地中海東部地域に成立し、オリエント文化とギリシア文化が融合した文化の総称を何と呼ぶか。 []
- (12) ヘレニズムの時代、禁欲主義を唱えた哲学の一派は何か。 []
- (13) この時代の作品で、ミロ島で発見された愛と美の女神の像は何か。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)マケドニア (2)カイロネイアの戦い (3)フィリッポス2世 (4)アレクサンドロス大王 (5)アケメネス朝ペルシア (6)プトレマイオス朝 (7)セレウコス朝 (8)アレクサンドリア (9)エウクレイデス(ユークリッド) (10)アルキメデス (11)ヘレニズム文化 (12)ストア派 (13)ミロのヴィーナス

まず、共和政ローマとはどのようなものだろうか。

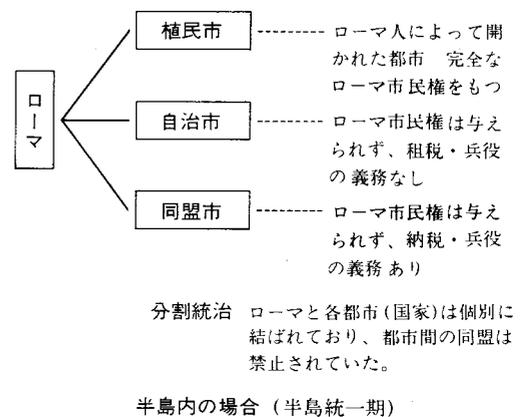
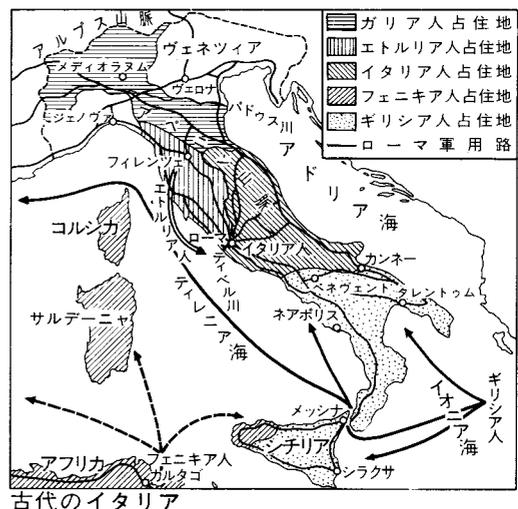
テーマ1 共和政ローマ

ローマは、イタリア人の中でとくに現在のローマ市周辺に住んでいたラテン人の都市国家からはじまった。ここではこのラテン人のおいたちと共和政ローマの発展に焦点をあて、経過を追ってみることにしよう。

◆ラテン人の侵入とローマの成立 古代イタリアではアルプス山脈以南の北イタリアにガリア人、ティレニア海沿岸の北部、中部イタリアにエトルリア人、中部イタリアにラテン人などのイタリア人、南イタリアにはギリシア人の都市国家が形成されていた。(地図を参照すること。)ローマはこの中で、前12世紀ごろにイタリア半島に南下したイタリア人の一派ラテン人が、ティベル河畔に建設した都市国家からおこった。当初、先進的な文化を持つ、小アジアから移住してきたといわれるエトルリア人の支配下にあつて、彼らから、政治制度、宗教、建築技術その他多くのことを学んだ。しかし、前6世紀末になって、ローマの貴族はエトルリア人の王を追放し、王政を廃止して、共和政を実現すると同時に、異民族支配からも脱却することになった。

◆共和政ローマの発展 このころローマには社会の上層を占める貴族(パトリキ)と大部分は中小の自作農であった平民(プレブス)の2つの身分があり、通婚の禁止規定もあつて、身分による格差は歴然とし、政治権力は貴族の手中にあつた。すなわち、最高政務官である2名の執政官(コンスル)は貴族から選ばれ、貴族の長老を終身議員とする元老院(セナトゥス)があり、非常時には独裁官(ディクタトル)を選ぶなど、立法機関として最高の権限をもつていた。これに対し平民は参政権を求めて貴族と争うようになった。前5世紀初め、平民はローマ近郊の聖山にたてこもつて貴族と対抗し、執政官の命令に対し拒否権を行使できる権限を持つ護民官が設置されるに至り、さらに前5世紀半ばには、ローマ最古の成文法であり、従来の慣習法の適用を平民にも認めた十二表法が制定され、貴族の専横がある程度防止された。身分闘争はこれにとどまらず、前367年には執政官のうち1名は平民出身者にして、1人当たりの最高土地所有面積を500ユゲラ(約125ha)に制限するリキニウス=セクスティウス法が制定され、前287年には平民会の決議がそのまま元老院の承認を経ずして国法となることを決めたホルテンシウス法の制定にいたつて身分闘争は終結し、貴族と平民の法的格差は解消して、共和政が完成するにいたつた。

この共和政の発展と並行して、前4～3世紀には軍隊の主力となった、平民からなる重装歩兵が活躍をして、ローマはイタリア半島内の他民族を次々と征服していった。前272年までにはイタリア半島全域をその支配下においたローマは被征服地を同盟市・植民市・自治市に分割・差別して、征服された民族の団結・反抗を防ぐために、巧妙な分割統治政策をすすめた。



ローマの支配形態

1 (共和政ローマ：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 前12世紀ごろにイタリア半島に侵入して、ティベル河畔に都市国家を建設したのは〔①〕人であるが、この都市国家からおこったのが〔②〕である。
- (2) 前6世紀末、ローマの貴族によって〔③〕人の王が追放され、王政が廃止されて〔④〕がはじまった。このころのローマは、社会の上層を占め政治権力を独占する〔⑤〕と中小の自作農であった〔⑥〕の2つの身分があり、格差が歴然としていた。ローマの貴族は立法機関として長老たちを終身議員とする〔⑦〕を設けていた。このような貴族指導下の共和政期においては最高政務官である2名の〔⑧〕をはじめ、あらゆる官職を貴族が独占していた。
- (3) 前5世紀初め、平民たちは貴族に対して参政権を求め、その結果、執政官の命令に対し拒否権を持つ〔⑨〕が設置され、前5世紀半ばにはローマ最古の成文法であり、従来の慣習法を平民にも認めた〔⑩〕が制定された。前367年には執政官のうち1名は平民出身者にするのと、土地の所有面積を制限した。〔⑪〕が制定された。さらに前287年には、平民会の決議が元老院の承認なくして、そのまま国の法律になることが決められた〔⑫〕が制定された。前4～3世紀ごろ、ローマ軍の主力は平民(自作農)からなる〔⑬〕であった。

2 (年表で見るローマの発展) 次の年表を見ながら、問いに答えよ。

- ① 現在のローマ市を流れるティベル河畔に侵入したこのイタリア人の一派を何と呼ぶか。〔 〕
- ② 小アジア方面より海路イタリアに移住したといわれる先進民族を何と呼ぶか。〔 〕
- ③ 異民族支配から離脱したローマは貴族を中心とした新しい政治体制をつくり出した。この政治体制を何と呼ぶか。〔 〕
- ④ 前5世紀初めの聖山事件により設置された役職は何か。〔 〕
- ⑤ 前5世紀半ば制定されたローマ最古の成文法は何か。〔 〕
- ⑥ 前4世紀制定された、執政官2名のうち1名は必ず平民出身者にするのを決めた法を何と呼ぶか。〔 〕
- ⑦ 前3世紀、平民会の決議がそのまま国法になることを決めた法を何と呼ぶか。〔 〕

年代	事項
前12世紀	イタリア人が南下・定着 その一派の〔①〕はティベル河畔に侵入
前1000 900	〔②〕小アジア(?)方面より移住
前 753	伝承によるローマ建国 王政はじまる
前 509	エトルリア人王を追放、 〔③〕に移行
前 494頃	聖山事件、〔④〕の設置
前 471	平民会承認
前 450頃	〔⑤〕制定
前 367	〔⑥〕制定
前4～3世紀	重装歩兵がローマ軍の主力となる
前 287	〔⑦〕制定 共和政の完成
前 272	イタリア半島統一

3 (共和政のしくみ) 次の図を見ながら、問いに答えよ。

(1) 図の①～③にあてはまる名称を書け。

① { }

② { }

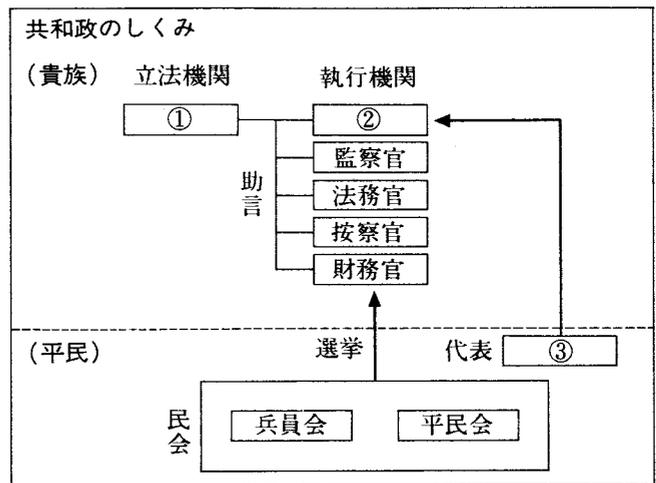
③ { }

(2) 図の中の③は②に対してどのような権限をもつか。漢字3文字で答えよ。

{ }

(3) 貴族と平民の法的格差を解消し共和政を完成させたのは前3世紀の何という法令によるか。

{ }



4 (共和政ローマ) 次の { } にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

ローマ社会における平民は、職業としては〔①〕として、軍事的には〔②〕として、重要な位置を占めていたが、参政権は認められていなかった。政治の実権は前6世紀後半〔③〕人の王を追放して、(a)共和政を樹立した貴族の手中にあった。平民がこの矛盾解決のために行動を起こしたのは前〔④〕世紀初めの聖山事件からであった。この事件以降(b)平民は徐々に身分格差を解消し、(c)前3世紀前半には法的平等化を達成した。この権利闘争と並行して進められたのが、イタリア半島の統一であり、その中心的役割を果たしたのが平民であり、彼らの存在なくして、ローマの発展はあり得なかった。

(1) 下線(a)について、この共和政の組織のうち、2名の貴族から成る執行機関は何か。また、貴族の長老から成る立法機関は何か。 { } { }

(2) 下線(b)について、この過程で成立した、土地所有を制限し、執政官のうち1名は平民出身者にすることを決めたのは何か。 { } 法

(3) 下線(c)について、法的平等化を達成したとされる法律は何か。 { } 法

-----ひとくちメモ-----

ローマの建国神話

トロヤ戦争の勇士アエネイスの子孫である王女レア=シルヴィアと軍神マルスとの間に双子の兄弟が生まれたが、その後まもなく川に捨てられてしまった。ところが、運よく河岸に流れついて泣いている所を、牝狼が寄ってきて、乳を与えてくれ生きのびた。そして、狼に育てられ、成人となった。この兄弟がロムルスとレムスであり、ローマの象徴である狼はここに由来する。その後兄弟はティベル河畔に移住した。その場所で、兄弟は争いを起こし、兄のロムルスが勝ち、その名をとって“ローマ”と呼ぶようになったのである。

このようにローマ建国の歴史は、兄弟殺し、親子殺しなど、非常に血なまぐさい事件におおわれている。ローマの発展と頽廃の原因はすでに建国段階にあったというべきかもしれない。



狼に育てられるロムルスとレムス

それでは次に共和政ローマがどのように変わっていったかをみてみよう。

テーマ2 共和政ローマの発展と内乱

ローマの存亡をかけたポエニ戦争の経過をたどると同時に、この100年以上にもわたった戦争によってローマ社会はどのように変動していったのかを、また、「内乱の百年」を経て、ローマは三頭政治から帝政へと進んでいくが、この項ではこの動乱時代を学習していこう。

◆地中海世界の統一 イタリア半島を統一したローマは、当時地中海最大の勢力であったカルタゴとの間に一大衝突をひきおこし、3回にわたるポエニ戦争(前264～前146)を戦った。カルタゴは北アフリカにフェニキア人が建てた植民市で、前6世紀より交易で繁栄、前4世紀にアレクサンドロス大王の遠征により本国が衰えてからは強力な海軍を武器に西地中海一帯(イベリア半島、サルデーニャ、コルシカ、シチリア島、北アフリカ)を支配し、「地中海の女王」とまで呼ばれていた。ポエニとは、フェニキア人のラテン語の呼び名である。

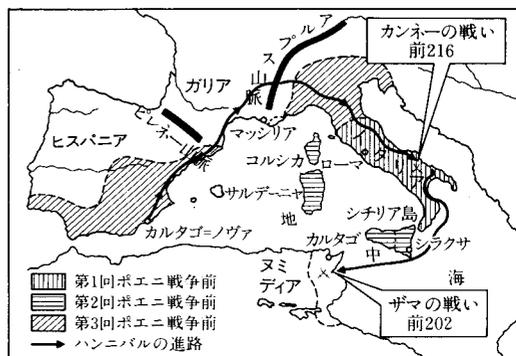
第1回ポエニ戦争(前264～前241)は、当時最大の穀物生産地であったシチリア島の争奪をめぐる争われたが、劣勢のローマ海軍は奇策をもってよくカルタゴを破り、シチリア島を獲得して初の属州とした。敗れたカルタゴはヒスパニアで準備を整え、名将ハンニバルのもと第2回ポエニ戦争(前218～前201)にのぞんだ。ハンニバルはアルプス越えという困難な経路でイタリアに侵入し、各地を転戦してローマ軍を撃破した。とくに前216年のカンネーの戦いではローマ軍の主力を潰滅させ、これによりローマは危機に陥った。この苦境を何とか耐えたローマは、カルタゴ本土に逆上陸する作戦をとり、急ぎ帰国したハンニバルを将軍スキピオが前202年ザマの戦いに打ち破り、翌年の講和でローマの中部地中海制覇が決定した。しかし、その後もカルタゴは商業・貿易においてローマの手強い敵であり、その存在をおそれたローマは、なかば強引に第3回ポエニ戦争(前149～前146)をひきおこし、カルタゴを完全に破壊した

この戦争によってローマはカルタゴが所有していた西地中海の植民地をすべて支配下におさめ、これと並行しておすすめた征服事業によりマケドニア・ギリシアを属州とし、ここに地中海世界の統一をほぼ完了したのである。

◆自作農の没落とラティフンディウム 100年以上にもわたったポエニ戦争は、ローマの社会に深刻な危機をもたらした。それは共和政を政治的・軍事的・経

済的に支えてきた中小自作農民の没落であった。長年にわたる従軍の結果、彼らの田畑は荒廃し、有力者による土地の買い占めが行われて大土地所有制が進行し、ここに征服地から流入してきた奴隷を労働力として使用する大土地農業経営(ラティフンディウム)が普及するに至った。さらに征服地を属州として、その搾取を通じて安価な穀物がイタリアに流れ込んできたため、自作農の経営基盤が崩壊した。彼らは「パンと見世物」を要求する無産市民になり果てたのであった。

この平民=自作農=重装歩兵の没落をくい止めようと護民官として改革を行ったのが、ティベリウス、ガイウスのグラックス兄弟であった。この兄弟は、前133年より有力者の土地を取りあげて無産市民に分配することで自作農の再建をはかったが、反対派のため失敗に終わった。そして、兄は暗殺され、弟は自殺に追い込まれたのであった。



ポエニ戦争(ローマ領の拡大)

年代	政体	事項
前 753	王政	ローマ建国(伝説)
509 ころ	共和政	共和政成立
494 ころ		護民官設置
451		十二表法成立
367		リキニウス=セクスティウス法成立
287		ホルテンシウス法成立
272		半島統一完成
264		ポエニ戦争開始(～前146)
		ザマの戦い(前202)
133		グラックス兄弟の改革(～前121)
60		第1回三頭政治(～前53)
46	カエサルの特裁政治(～前44)	
43	第2回三頭政治(～前36)	
31	アクティウムの海戦	
30	オクタヴィアヌスのエジプト征服	

ローマの盛衰

※内乱の百年　　グラックス兄弟の改革が失敗したあと、ローマはスラを中心として元老院を背景とする保守派の閥族派と、マリウスを中心として民会を基盤とする平民派に分かれて権力抗争を始めた。これからアウグストゥスの帝政までの内乱時代を「内乱の百年」と呼ぶ。

平民の没落は共和政の基盤を崩しただけでなく、軍事的にも重装歩兵制から有力者の私物化された軍隊としての傭兵制が進み、またラティフンディウムの進行に伴う奴隷の増加、酷使のため、奴隷の反乱も多発した。とくに、前73～71年のスバルタクスの乱は最大のものであった。ローマの混乱の度合いは深刻さを増していったが、前60年になって平民派のカエサル、閥族派のポンペイウス、大富豪のクラッススの3人によ

て、第1回三頭政治が開始され、混乱は一時おさまった。しかし、ガリア遠征の成功によって人気の上だったカエサルをねたんだポンペイウスは、元老院と手を結んでカエサルを打倒しようとしたが、逆に敗北した。この後カエサルはローマの事実上の独裁権を手に入れるが、ブルートゥスら共和主義者によって暗殺、前43年より、カエサルの養子オクタヴィアヌス、カエサルの部下のアントニウスとレピドゥスの3人による第2回三頭政治が行われた。エジプトのクレオパトラと結んだアントニウスが、前31年アクティウムの海戦で敗れるとオクタヴィアヌスの独裁権が確立し、ようやく「内乱の百年」に終止符が打たれた。また、オクタヴィアヌスは前30年にはプトレマイオス朝エジプトを滅ぼし、地中海は文字通りローマの内海となった。

-----ひとくちメモ-----

クレオパトラの実像

プルタルコス（プルターク）によるとクレオパトラは次のような実像をもっていたという。

「クレオパトラの美もそれだけでは一向比較を絶するものではなく、見る人を驚かさす程のものでもなかったが、交際振に相手を逃さない魅力があり、その容姿が会話の説得力と一座の人にいつの間にか浸み渡る性格とを兼ね備え、針のように心を打った。」
（「プルターク英雄伝(II)」 河野與一訳 岩波文庫）

彼女はこのような才能で強大国ローマの実力者カエサルやアントニウスに取り入ったのだが、彼女の行動の背景には衰退しつつあるプトレマイオス朝の存在があった。クレオパトラは、わが身を呈してもエジプトを守ろうとした使命感に満ちた女性だったともいえる。



クレオパトラ

トレーニング

解答は145ページ

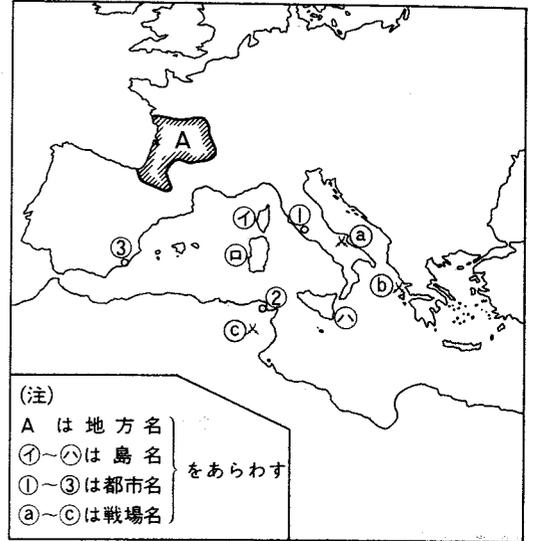
5 (ローマの拡大と共和政の変容：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ローマが地中海域に進出しようとした際に衝突したのは、フェニキア人の植民市〔①〕であった。そこで前264年から前146年までの100年以上にわたる〔②〕戦争が起こり、これに勝利したローマは地中海の統一をほぼ成しとげた。この戦争中にローマ軍を16年間にわたって苦しめたのが、名将〔③〕であった。
- (2) この戦争により、ローマでは自作農が没落し、奴隷を使った大農場経営〔④〕が普及していったが、この自作農＝平民を救済しようとしたのが〔⑤〕兄弟であった。しかし彼らの改革は失敗に終わった。
- (3) 被征服民の奴隷化とその酷使は、大規模な奴隷反乱を頻発させた。その中でもっとも大きな反乱が前73年から前71年の〔⑥〕の乱であった。
ポンペイウス、クラッススとともに三頭政治をはじめた〔⑦〕は、ポンペイウスを破って、事実上の独裁権を掌握したが、前44年、共和主義者のブルートゥスらに暗殺された。このあと、彼の養子〔⑧〕は、エジプトのクレオパトラと連合した〔⑨〕を破り、百年にわたったローマの内乱を平定した。

6 (地図, 年表で見る共和政ローマの発展) 次の地図, 年表を見ながら, 問いに答えよ。

(1) 次の文の説明に対応する地点を地図の中から選び答えよ。

- ① カエサルの遠征によってローマの支配下に編入され, 学問的にも歴史的にも高い評価を受けている彼の著作の記述対象となったのはどこか。 []
- ② ポエニ戦争はローマとカルタゴとの戦争であった。カルタゴはどこか。 []
- ③ ポエニ戦争中, ハンニバル軍がローマ軍を打ち破ったカンネーの戦いの場所はどこか。 []
- ④ オクタヴィアヌスがクレオパトラ, アントニウス連合軍を破ったアクティウムの戦いの場所はどこか。 []
- ⑤ 第1回ポエニ戦争の際, ローマとカルタゴの争奪の対象となった島はどこか。 []



(2) 次の年表を見ながら, 問いに答えよ。

① 年表の①~⑦までの [] の中に適切な数字や語句を入れよ。

- ① []
 - ② []
 - ③ []
 - ④ []
 - ⑤ []
 - ⑥ []
 - ⑦ []
- ⑧ “ポエニ戦争”中, ローマ軍を16年にわたり苦しめたカルタゴの将軍はだれか。 []
- ⑨ “第1回 (⑤) 政治”のメンバーを答えよ。 []
- ⑩ “第2回 (⑤) 政治”のメンバーを答えよ。 []
- ⑪ “(⑦) 朝”はマケドニア出身で東方遠征をなしとげたが, その帰途病死した人物の後継者争いの結果成立した王朝である。このマケドニア出身の人物とはだれか。 []
- ⑫ “ヘレニズム”文化とは何文明と何文明が融合したのか。 []

前 〔①〕 ~〔②〕	⑧ <u>ポエニ戦争</u> 地中海世界の統一
前 133	〔③〕 兄弟の改革
前 73~71	〔④〕 の乱
前 60	⑨ <u>第1回 (⑤) 政治</u>
前 46~44	カエサルの独裁政治
前 43	⑩ <u>第2回 (⑤) 政治</u>
前 〔⑥〕	アクティウムの海戦
前 30	⑪ <u>〔⑦〕 朝の滅亡</u>
	⑫ <u>ヘレニズム時代の終わり</u>

- 7 (共和政の変質) 次の史料は「プルターク (プルタルコス) 英雄伝」から引用したものである。下線について問いに答えよ。

しかし、そうはうまくゆかなかった。というのは、(1)ティベリウスの弁舌たるや、邪悪な事柄でさえ美しく飾りたてられる程にすばらしいものであったのに、まして正しい立派な基本理念のためにその弁舌で戦っていたからである。民衆がそのまわりに押し寄せている演壇に登って、ティベリウスが貧民のために論ずる時には、いつもその弁舌は際立っていて敵するものがなかったほどである。彼はいった。イタリアの野に草を食む野獣でさえ、洞穴を持ち、それぞれ自分の寝ぐらとし、また隠処としているのに、(2)イタリアのために戦い、そして(3)斃れる人達には空気と光のほかに何も与えられず、彼らは家もなく(4)落着く先もなく妻や子供を連れてさまよっている。(一部表記を改めた)

(「世界古典文学全集(23)——プルタルコス」 長谷川博隆訳 筑摩書房)

- (1) ① 兄の“ティベリウス”と弟のガイウス両者の姓は何か。 [] 兄弟
 ② この兄弟があいついで選出された役職は何か。 []
 ③ “正しい理念”の戦いとは、どのような人々を救済するためか。 []
 (2) “イタリアのために戦い”とは前264～前146年までの大規模な戦争のことを指していると考えられるが、この戦争とは何か。 [] 戦争
 (3) “斃れる人達”の土地を買い占めた有力者が、奴隷を使ってはじめた大農場経営を何というか。 []
 (4) “妻や子供を連れてさまよっている”人々は政府に何を求めてさまよったか。 [] と []

- 8 (共和政の変質) 次の文を読んで、問いに答えよ。

ローマは前3世紀後半(a)諸族を制圧してイタリア半島を統一し、分割統治を行った。イタリア征服の進行につれて、ローマの経済活動も拡大し、アフリカ北岸のフェニキア人の植民市(b)カルタゴと衝突した。カルタゴは地中海貿易を支配して強大な富を築いていたが、このローマとの戦いに敗れ、滅ぼされた。その後ローマは次々にヘレニズム諸国を征服し、(c)エジプトを破って大帝国を築いていった。この大帝国の版図には、ほぼ現在のフランスにあたる(d)ガリアも含まれていた。

- (1) 下線(a)について、半島統一にあたって、ローマと相争った民族のうち最大のものは南部に植民していた人々であった。これは何人か。 []
 (2) 下線(b)について、① 第2次戦役でローマが勝利を収めた戦いは何か。 []
 ② その時のローマ側の将軍はだれか。 []
 ③ カルタゴ軍の総司令官はだれか。 []
 ④ その決戦は何世紀に行われたか。 []
 (3) 下線(c)について、① ローマがエジプトを破った海戦は何か。 []
 ② エジプトのクレオパトラと連合したローマの将軍はだれか。 []
 ③ エジプトを破ったローマの将軍はだれか。 []
 ④ この決戦は何世紀に行われたか。 []
 (4) 下線(d)について、ガリアを平定したローマの将軍はだれか。 []

1 (共和政の変遷とローマの拡大) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

前6世紀後半〔① 〕人の王を追放して、ローマは(ア)貴族を中心とする共和政体に移行した。その後、前287年の〔② 〕法制定までの200年以上にわたって、(イ)平民と貴族との間に横たわる身分格差解消のための闘争が展開された。また、これと並行してローマはイタリア半島の征服を進め、前3世紀までに(ウ)その統一を完成した。次いで西地中海の覇権を有する〔③ 〕を相手に前〔④ 〕～前〔⑤ 〕年にかけて(エ)3度にわたる〔⑥ 〕戦争を行い、勝利を取めた。同時に(オ)東方のヘレニズム諸国とも戦い、前2世紀ごろまでに地中海沿岸の大部分をローマの支配下に取めた。しかし、このローマの拡大は政治、経済などの各方面にわたって重大な変化をローマにもたらさざるを得なかった。

(1) 下線(ア)について、次の問いに答えよ。

- (a) この共和政体の中で、貴族により構成された最高の立法機関は何か。〔 〕
 (b) このころ、貴族が独占していた任期1年定員2名の最高政務官は何か。〔 〕

(2) 下線(イ)について、この身分闘争に関連する次の問いに答えよ。

- (a) 平民が貴族に対抗して聖山事件を起こしたあと、前494年ごろに平民の権利の保護を目的に設置されたのは何か。〔 〕
 (b) 前450年ごろ、法律の貴族独占に対し平民が抵抗し、旧来の慣習法を成文化したものは何か。〔 〕
 (c) 執政官のうち1名を平民出身者にすることを決め、前367年に制定された法律は何か。〔 〕
 (d) 平民会の決議が元老院の承認を経ずにそのまま国法となることを決めた法律は何か。〔 〕

(3) 下線(ウ)について、イタリア半島を統一した後、その支配の方法はどのようなものであったか。次の中から正しいものを1つ選べ。〔 〕

- (a) ローマと対等な権利を各地域の住民に与え、融和政策をとった。
 (b) 激しい恐怖政治を採用し、反抗する勢力には徹底した武力弾圧を行った。
 (c) 自治市、同盟市、植民市と各地域を分断し、巧妙な分割統治を行った。
 (d) ローマ以外の地を属州として、中央から派遣した官吏によってその地域を統治させた。

(4) 下線(エ)について、3度にわたるこの戦争の中で、とくに第2回目でローマ軍を苦しめた敵側の将軍はだれか。〔 〕

(5) 下線(オ)について、このころのローマに併合された国を次の中から2つ選べ。〔 〕〔 〕
 〈語群〉 (a)マケドニア (b)ダキア (c)ギリシア (d)アルメニア (e)エジプト

(6) 次の用語を使って、100字程度の文を作れ。(使った用語には必ず下線を引くこと。)

ポエニ戦争 自作農 ラティフンディウム 内乱の百年 三頭政治 帝政

テーマ1 帝政期のローマ
 テーマ2 ローマ帝国の解体

地中海を内海とする大帝国を完成し、「ローマの平和」を享受したのち、ローマ帝国はしだいに動揺し、衰退期にはいった。きょうはこのローマ帝国の全盛期から解体までの経過をみていこう。

はじめに共和政期のローマについて復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (共和政ローマ) 次の問いに答えよ。

- (1) エトルリア人の王を追放して、ローマはどのような政治体制をとるようになったか。 []
- (2) 貴族と平民の間で行われた身分闘争の中で、前451年に制定されたローマ最古の成文法とは何か。 []
- (3) 前367年、コンスルのうち1名を平民出身者にすることなどを定めた法律とは何か。 []
- (4) 前287年、平民会の決議がそのまま国法となることを決めた法律は何か。 []
- (5) 自作農(平民)より構成され、共和政期のローマ軍の主戦力になったのは何か。 []
- (6) カルタゴとの間で前264年から前146年まで戦われた戦争とは何か。 []
- (7) 第2回ポエニ戦争でローマ軍を苦しめたカルタゴの将軍はだれか。 []
- (8) ポエニ戦争におけるシチリア島獲得以降、占領地を直轄地として、容赦ない搾取の対象となった地域を何と呼ぶか。 []
- (9) 自作農救済のために前133年より改革を行った兄弟とはだれのことか。 []
- (10) 前73～前71年にかけて剣奴を率いてローマを転戦した奴隷反乱の指導者はだれか。 []
- (11) 第1回三頭政治を構成したのはカエサル、クラッススとあと1人はだれか。 []
- (12) オクタヴィアヌスがアクティウムの海戦で破ったのはだれとだれか。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)共和政 (2)十二表法 (3)リキニウス=セクスティウス法 (4)ホルテンシウス法 (5)重装歩兵
 (6)ポエニ戦争 (7)ハンニバル (8)属州 (9)グラックス兄弟 (10)スパルタクス (11)ポンペイウス
 (12)アントニウスとクレオパトラ

まず帝政期のローマの様子をみてみよう。

テーマ1 帝政期のローマ

オクタヴィアヌスが元首政をはじめたときから五賢帝時代までを「ローマの平和」といい、全盛時代であった。しかし、3世紀にはいと軍隊が皇帝を左右する軍人皇帝時代となり、ローマは動揺期をむかえた。このテーマではこの期間を対象とする。

◆元首政のはじまり オクタヴィアヌスがアントニウスを破ったことにより、西地中海とヘレニズム世界が統合され、内乱の百年も終結した。彼は前27年元老院からアウグストゥス（尊厳なる者）という称号を得て、自らプリンケプス（市民の第1人者）と名をのって政治・軍事を一手に担う独裁を開始した。しかし養父カエサルが暗殺されたこともあり、共和政の伝統が依然としてローマ内に強かったため、元老院を重んじ、共和政の形式を尊重する姿勢をみせた。このような政治を元首政（プリンキパトゥス）というが、実質的には帝政であるため、これ以後を帝政時代と呼ぶ。

アウグストゥスは皇帝の権力を強化するため皇帝直属の軍隊・官僚制度を整備し、それを維持するために、エジプトなどの地域を直轄地とし、皇帝のふところにおさめた。以後、カリグラ、ネロといった「狂気」の皇帝がでるが、皇帝がたとえ狂人であっても、ローマ帝国はそれを支える軍隊、官僚制度によって微動だにしない。

◆五賢帝時代 アウグストゥスから約200年のあいだを「ローマの平和」といい、とくにネルヴァ、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス=ピウス、マルクス=アウレリウス=アントニヌスの「五賢帝時代」（96～180）は帝国の最盛期であった。トラヤヌスの時、ローマ帝国は最大領域となり、マルクス=アウレリウス=アントニヌスはストア派の哲学者として著名であり、「自省録」を残している。経済活動も活発になった。季節風の発見によりインドのサータヴァーハナ朝（アーンドラ朝）との通商も行われ、多数のローマ貨幣がインドから出土していることも、「大秦王安敦」（マルクス=アウレリウス=アントニヌスのこと）の使者と称する商人が海路をたどって後漢時代の中国に現れたこともそれを証拠づけるものであろう。

この繁栄期はまたローマ帝国全土のローマ化がすすめられた時期であった。212年カラカラ帝が兵源・財源のためとはいいいながら全属州の自由民にローマ市民権を付与したことは、イタリア人と全属州民との差別をなくし、帝国内の住民すべてに公民意識をうえつけた。精神的にも地中海世界は統一されたといつてよいだろう。



アウグストゥス



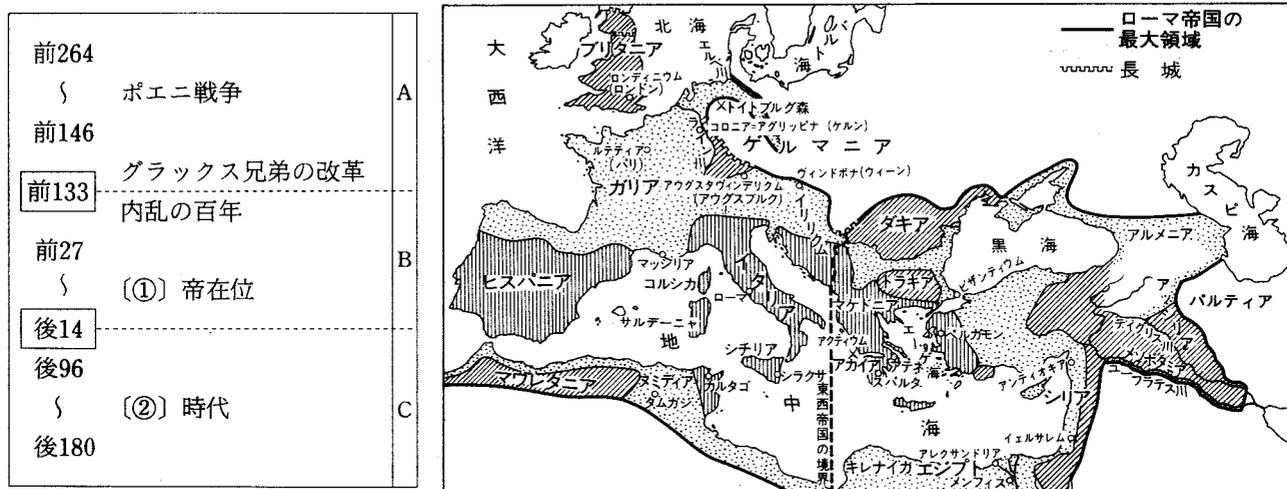
ローマ帝国の発展

◆軍人皇帝時代 2世紀末ごろからローマ帝国はゆきづまりの徴候をみせはじめ、3世紀になると政治的・軍事的混乱時代にはいった。対外侵略戦争の停止によって安価な奴隷の供給が大幅に減少し、そのためラティフンディウムは衰退した。北方のゲルマン民族は帝国にしばしば侵入し、パルティアを破っておこった東方のササン朝ペルシアは260年シャープール1世のもとでローマ軍を破り、皇帝ヴァレリアヌスを捕虜にすることさえた。この内外の危機に際して、ローマは適切な手を打つことなく、逆に軍隊がよりよい給料や特権をもとめて、皇帝を自由にあやつる混乱時代にはいった。この時代（約50年間）に26人の皇帝が廃位され、そのうち自然死はたった1名という有様であった。この時代を「軍人皇帝時代」（235～284）という。

1 (帝政期のローマ：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) アントニウスとクレオパトラを破ったオクタヴィアヌスは元老院から〔① 〕(尊厳なる者)の称号をもらった。また彼は共和政の形式を重んじるべく、自ら市民の第1人者という意味の称号〔② 〕を使った。しかし共和政の形式を重んじたのは名目上であり、実際には皇帝の独裁であるような政体をとった。これを〔③ 〕(プリンキパトゥス)という。
- (2) 96~180年にかけて5人の優れた皇帝が輩出し、ローマ帝国の最盛期だった時代を〔④ 〕時代といい、ローマ帝国が最大領域に達したのは〔⑤ 〕帝のときである。また、ストア派の哲学者として「自省録」という著作を残した皇帝は〔⑥ 〕帝である。ローマの市民権も属州に拡大され、カラカラ帝の212年には帝国内の全属州の自由民に市民権が与えられた。3世紀にはいるとローマ帝国は動揺しはじめるが、その中でとくに軍人が皇帝を自由にあやつた235~284年までの約50年間に〔⑦ 〕時代という。

2 (地図・年表で見るローマ帝国) 次の地図・年表を見ながら、問いに答えなさい。



- (1) 年表の①は、前27年元老院から“尊厳なる者”という尊称を贈られた皇帝である。これはだれか。〔 〕
- (2) 年表の②は、ローマの最盛期であった。何時代と呼ばれているか。〔 〕時代
- (3) 上の地図はローマ帝国の領土拡大の様子をあらわしたものである。この地図の中の [] で示された地域は年表のA, B, Cの期間のうちどれに対応するか。〔 〕
- (4) 地図の中の [] で示された地域は年表のA, B, Cの期間のうちどれに対応するか。〔 〕
- (5) 地図の中の [] で示された地域は年表のA, B, Cの期間のうちどれに対応するか。〔 〕
- (6) 地図の中で示された太い実線はローマ帝国の最大領域をあらわしている。この帝国が最大領域になったのは年表のA, B, Cのうちどれにあてはまるか。〔 〕
- (7) 212年になってから、この帝国全域の自由民に市民権を付与した皇帝はだれか。〔 〕

3 (五賢帝時代の繁栄) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

帝政時代初期のアウレウス金貨はスカンディナビア・シベリア・(a)インド・セイロン・東南アフリカ、さらに(b)中国のような遠隔な地方においてまで出土し、この時期を通じて商業がいかに大規模に行われたかを雄弁に物語っている。

……重要なのは、(c)奴隷労働を使用し、資本主義的な線に沿って経営される輸出用ブドウ酒・オリーブ油の生産組織で、その生産物はとくにドナウ河に沿う国境の北部と西部にある諸州、すなわちゲルマニア、ガリア、スペイン、およびアフリカに送られた。これと並んで、カンパニアおよび南イタリアの精巧な技術をもつ繊維産業、カンパニアの青銅製品とガラス製品、またアレティウムの窯で大量生産される赤塗の陶器も重要な輸出品であった。

(ウォールバンク 「ローマ帝国衰亡史」 吉村忠典訳 岩波書店)

- (1) 下線(a)について、ローマ帝国と通商関係にあった南インドの王朝は何か。
[]
- (2) 下線(b)について、166年に中国南部に「大秦王安敦」の使者と称する商人が来たとの記録がある。この中国の史書に記録されている「大秦王安敦」とは五賢帝のうちだれのことか。
[] 帝
またその時の中国の王朝は何か。 []
- (3) 下線(c)に示した“生産組織”とは何か。 []

4 (帝政期のローマ) 次の [] にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

前31年〔①〕の海戦で〔②〕とクレオパトラの軍を破った〔③〕によって内乱の百年は終結し、ローマの統一が達成された。彼は元老院から〔④〕の(a)称号を得、(b)文武にわたる要職を一身に兼ねたが、共和主義者の勢力が根強く存在しているのを認めて、形式上、共和政を尊重した。この時から約〔⑤〕年間の帝国の最盛期を〔⑥〕(パックス=ローマ)といい、帝国の繁栄期だった。とくに(c)五賢帝時代はその極盛期であった。しかし(d)ローマ社会の変質、ゲルマン民族の侵入、〔⑦〕ペルシアの侵入など、3世紀にはいるとローマ帝国は(e)内外の危機に瀕し、動乱時代をむかえるにいたった。

- (1) 下線(a)について、元老院から与えられた称号以外に自ら名のつた“市民の第一人者”という意味の称号は何か。 []
- (2) 下線(b)について、この政体をとくに何というか。 []
- (3) ① 下線(c)について、五賢帝のなかでローマが最大領域になったのはどの皇帝の時か。
[] 帝
- ② 下線(c)について、五賢帝のなかでストア派の哲学者として著名な皇帝はだれか。
[] 帝
- (4) 下線(d)について、この時期、奴隷労働を使用する大規模農園経営方式が衰退していくが、この生産組織を何というか。 []
- (5) 下線(e)について、この動乱時代を通称何と呼んでいるか。 [] 時代

歴代皇帝の狂気性

(1)アウグストゥス 彼自身は謹厳実直、自己の義務に厳しい人であったが、家庭にめぐまれなかった。3度結婚したが、優秀な息子は死に、ローマ史に名を残す淫蕩な女ユリアは彼の娘であった。自分の情事をふれまわり、あたりかまわず男をひきいれ、結婚してからも乱行をやめなかった。

(2)カリグラ この皇帝は、カプリ島にこもって狂気にはしっていた第2代目皇帝ティベリウスに代わって帝位についた。最初は適任者にみえたが、すぐ変身した。実の妹を妻とし、自分がはげ頭になるとはげ頭の者を見つけしだい競技場の猛獣の中へ投げこんだりしたという。

(3)ネロ キリスト教徒迫害で知られるこの皇帝は、その実母からして狂人であった。すなわち、母のアグリピナは皇帝の妻となると、前夫の実子ネロを皇帝位につけるため夫を毒殺した。ネロはその結果皇帝になれるのだが、結婚した妻との相性が悪かったので離

婚話をもっていくと、母から猛烈に反対された。この母はのちに実子ネロに毒殺される。この母にしてこの子あり、ネロの狂気は生来のものであった。

このようにローマの歴代の皇帝は何らかの狂気をもっており、わずかな例外がアウグストゥスと五賢帝だったのである。



頹廢のローマ社会

それでは次に、ローマ帝国の解体についてみてみよう。

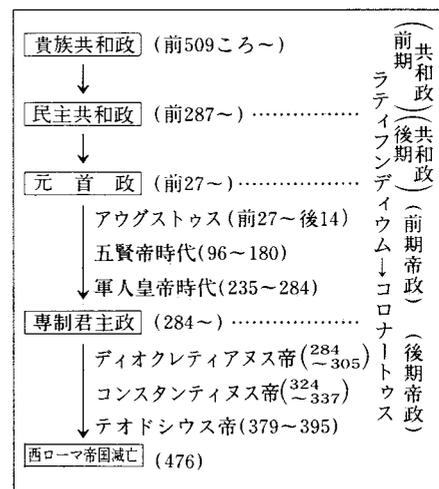
テーマ2 ローマ帝国の解体

東方的専制国家体制の導入によるローマ帝国再建の試みは、一時的成功にとどまり、ローマ帝国は内部的にも分裂し、異民族の激しい侵入によって4世紀後半ついに東西に分裂した。本テーマではローマ帝国の解体を主題に、古代の終末の様子を概観していく。

◆専制君主政の時代 3世紀末登場したディオクレティアヌスは内乱を統一して帝位についたが、帝国再編のため様々な策を講じた。まず彼はササン朝ペルシアの政治体制を模倣して皇帝を神格化し専制皇帝（ドミヌス）として君臨、大規模な官僚制度を確立した。ここに専制君主政（ドミナートゥス）が開始され、市民の自由は完全に消滅した。また広大な帝国の防衛をより効率的にするため帝国を4分割し、自ら東の正帝として、帝国の維持にあたった。さらに厳しい価格統制を行って、物価の安定をはかり、皇帝崇拝を拒否するキリスト教徒には大迫害をもってのぞんだ。

次のコンスタンティヌス帝も、ディオクレティアヌス同様専制君主政維持に精力を注ぎこみ、市民の職業選択の自由を制限したり、小作農民の土地への緊縛を行ったり、官僚・軍隊制度を整備したりした。また軍事的・経済的要地であるビザンティウムに遷都し（330年）、コンスタンティノブルと名づけた。さらにコン

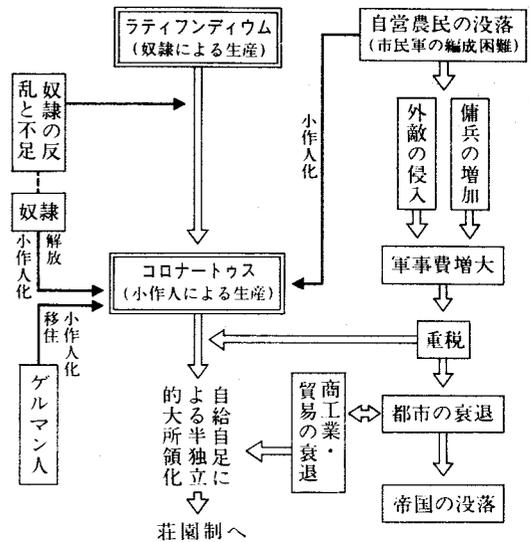
スタンティヌスは、先帝の大迫害にもめげずさらにその信徒を増大させているキリスト教徒に着目し、その勢力を帝国再編策の一つとして利用するため、313年ミラノ勅令を発して、キリスト教を公認した。



◆ローマ帝国の解体　ディオクレティアヌス・コンスタンティヌス両皇帝の改革も一時的再興にとどまり、ローマ帝国の生産力も軍事力ももりかえすことはできなかった（ただし滅亡を20年遅らすことはできたといわれる）。時に375年、ゲルマン民族の一派西ゴート族が大挙して帝国に侵入し、これが端緒となってヨーロッパ・地中海世界・北アフリカはゲルマン民族の移動の大嵐にまきこまれることになった。そして395年、テオドシウスが死去すると、全帝国は2人の子が分割して相続することになり、ローマ帝国は東西に分裂し、解体するにいたった。西ローマ帝国は476年、ゲルマン人傭兵隊長オドアケルの手によって滅亡したが、東ローマ帝国（ビザンツ帝国）はコンスタンティノープルが難攻不落の要塞であったこともあり、千年以上にもわたって存続し、1453年になってオスマン＝トルコに滅ぼされた。コンスタンティヌスには先見の明があったのである。

◆滅亡の原因　ローマ帝国のこの解体はいかなる原因によるものであろうか。直接的には375年からのゲルマン民族の大移動を取りあげるべきだろう。しかしこれはよく考えてみれば、すでに軍事的にも社会的にもゲルマン化しつつあった帝国に急激な変動をもたらしたにすぎない。帝国はあらゆる面で欠陥があらわれ、崩壊の道を歩んでいたのである。征服戦争停止による奴隷供給の激減は大土地所有者をして、新しい労働力の必要性を感じさせた。

そこで、土地を分割して没落自由農民や解放奴隷・ゲルマン人などを移動の自由のない隷属的な小作人（これをコロヌスという）として使用する生産組織（これをコロナートゥスという）を生みだすにいたった。その結果、有力者は国家権力の衰退に乗じて独立し、ローマ帝国は地方分権的な傾向を生みだすにいたった。またコンスタンティヌスによる身分・職業の固定化も重なって、自由な経済活動が停滞し、都市は衰えて、財政収入が激減した。ローマ帝国の末期には、貨幣商品経済にかわって、自給自足の経済が一般化していったのである。



ローマ帝国没落の原因と経過

トレーニング

解答は146ページ

5 (ローマ帝国の解体：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 3世紀末登場した〔①〕は内乱を統一し、ササン朝ペルシアの影響をうけて、専制君主政（ドミナートゥス）をはじめ、帝国の再建をはかった。また4世紀初頭の〔②〕は専制君主政を継承し、キリスト教を公認し、330年にビザンティウムに遷都して〔③〕と名づけた。そして395年、〔④〕が死去すると、ローマ帝国はローマを都とする〔⑤〕と、コンスタンティノープルを都とする〔⑥〕（ビザンツ帝国）に分裂した。
- (2) 征服戦争の停止は奴隷供給を激減させラティフンディウム（大土地農業経営）を衰退させた。そのあと解放奴隷やゲルマン人・没落自由農民を労働力とする新しい生産組織が成立した。この移動・職業選択の自由を奪われた隷属的小作人を〔⑦〕といい、彼らを労働力とする生産組織を〔⑧〕という。その普及は帝国の分裂を助長し、有力者たちが地方に割拠し独立したため、地方分権的傾向があらわれて自給自足体制が一般化した。そのため貨幣経済は衰退し、財政収入が激減して、ローマは崩壊の道を歩んだ。

6 (年表と地図で見るローマ帝国の解体) 次の問いに答えよ。

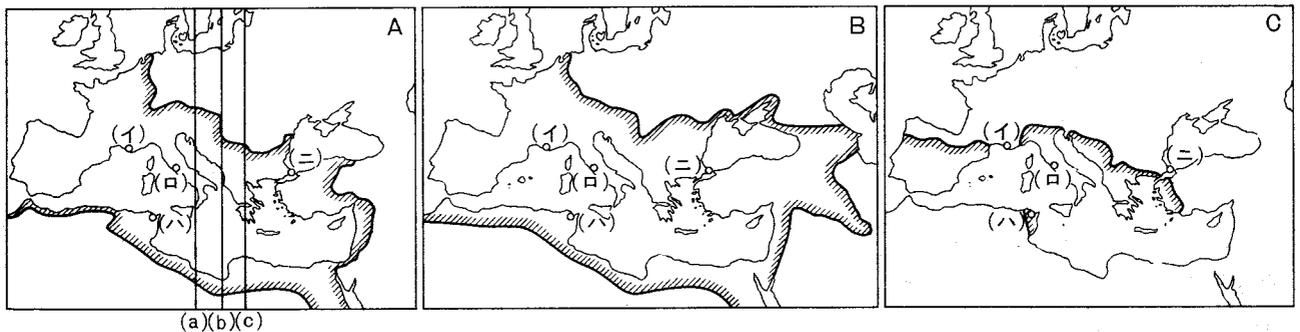
(A) 年表を見ながら次の問いに答えよ。

- (1) ①は、キリスト教徒の大迫害を行い、帝国の4分統治を行った皇帝である。これはだれか。
[]
- (2) ②は、はじめてキリスト教を公認し、ローマ帝国の都を東方に移した皇帝である。これはだれか。
[]
- (3) 330年、ローマ帝国の中心がローマから黒海入口のビザンティウムに移されて、この都市名を③に変えた。改名後は何と呼ばれたか。
[]
- (4) ④は、西ゴート族がドナウ川を越えて、ローマ帝国内に移動を開始した年である。何年のことか。
[]年

284	〔①〕 帝在位
305	
306	〔②〕 帝在位
337	
313	ミラノ勅令
325	ニケーアの公会議
330	ローマから〔③〕へ遷都
〔④〕	ゲルマン民族大移動開始
〔⑤〕	ローマ帝国の東西分裂
476	〔⑥〕 帝国滅亡
486	フランク王国成立
493	東ゴート王国成立

- (5) テオドシウス帝が死に際して、帝国を東西に分けて2子に与えた⑤の年は何年のことか。
[]年
- (6) ゲルマン人の傭兵隊長オドアケルに滅ぼされた⑥の帝国は何か。 [] 帝国

(B) 地図を見ながら問いに答えよ。



- (1) 地図A・B・Cのうち、ディオクレティアヌス帝のころの領域を示すのはどれか。 []
- (2) 395年、テオドシウス帝の死にあたり、帝国は2人の子どもに分割され、兄は東部のヘレニズム世界、弟は西部のラテン世界を支配することになったが、さてAの中にある縦線(a)・(b)・(c)のうち、そのときの東西分裂境界線を示しているのはどれか。 []
- (3) (イ)は当時マッシリアと呼ばれていたが、それは現在のフランスの何という都市か。
[]
- (4) (ロ)は何という都市か。 []
- (5) (ハ)は古くからフェニキア人の植民市として知られ、ポエニ戦争ではローマと戦った。その都市の名を書け。 []
- (6) (ニ)は330年にローマから遷都された地で、現在イスタンブールと呼ばれている。その都市の名を書け。 []

7 (ローマ帝国の解体) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

〔① 〕世紀後半に登場した〔② 〕帝は異民族の侵入や、(a)ローマ帝国内に進行する生産組織上の大変動にともなう混乱をたてなおすために、(b)帝国を4分割したり、(c)オリエント風の専制支配を導入したりした。その後内乱を統一して即位した〔③ 〕帝は官僚・軍隊制度を整備し、皇帝権の強化をはかった。彼は都を東のビザンティウムに移し、彼の名をとって〔④ 〕と名づけた。また〔⑤ 〕年のミラノ勅令ではじめて〔⑥ 〕を公認し、その勢力を帝国内部に取りこんだ。2人の皇帝による努力も帝国の再建とまではいかず、375年からのゲルマン民族の大移動もあって、〔⑦ 〕年、〔⑧ 〕帝が死去すると、ローマ帝国は東西に分裂し、(d)西ローマ帝国は〔⑨ 〕年、(e)東ローマ帝国(のちビザンツ帝国)は〔⑩ 〕年に滅亡した。

- (1) 下線(a)について、この“大変動”とは従来の奴隷制農業から、土地付の小作人を使用した生産への移行を意味しているが、この小作制度を何というか。〔 〕
- (2) 下線(b)について、“帝国の4分割”の際、彼は次のどれになったか。記号で答えよ。〔 〕
〈語群〉 ①東の正帝 ②東の副帝 ③西の正帝 ④西の副帝
- (3) 下線(c)について、“オリエント風の専制支配”をアウグストゥス以降の元首政に対して何と呼んでいるか。またこの体制の模範となり、3世紀前半勃興したペルシアの王朝は何か。
〔 〕〔 〕朝ペルシア
- (4) 下線(d)について、西ローマ帝国を滅ぼしたのはだれか。〔 〕
- (5) 下線(e)について、東ローマ帝国を滅ぼした国を書け。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

コンスタンティヌスの信仰

コンスタンティヌス1世(または大帝)は、歴史上はじめてキリスト教を公認した皇帝として有名である。教会史家エウセビオスによれば、彼はローマに進軍する前、真昼に空光につつまれた十字架と「これに勝て」という文字を全軍とともに見たが、さらにその夜同じ夢をみた。それゆえギリシア文字でキリストを意味する“✝”を旗印として使って、マクセンティウスをティベル河畔で破ったことになっている。つまりコンスタンティヌスはキリスト教徒であり、従って神の加護によって勝利したことになっている。

しかし、真実は異なっていた。コンスタンティヌスはこのとき(312年10月)まだ太陽神を信仰しており、キリスト教徒ではなかった。戦いに勝利したのは、彼の軍事的才能と彼の率いた軍隊がゲルマン民族との厳しい戦いを通じて、優秀な軍隊に変身していたからであった。それではいつキリスト教徒になったのか。それは、政敵リキニウスを破った325年以後のことである。

この年以降、彼は明確な自覚に立って国家の護持を神にたのみ、325年のニケーアの公会議(宗教会議)など、キリスト教内の分派活動を調整したのであった。



コンスタンティヌス帝(左下)とコンスタンティヌス凱旋門の浮彫りの一部

1 (ローマ帝国の変遷) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

内乱の百年といわれるローマ共和政末期の混乱は〔① 〕によって收拾された。彼は前31年〔② 〕の海戦で、第2回三頭政治のもう一方の雄であった(a)〔③ 〕を破り、統一を達成した。前27年に元老院より〔④ 〕の称号を得て独裁者になった彼であったが、養父〔⑤ 〕の例があったので、(b)形式上は共和政体を尊重した。これ以後ローマは帝政時代にはいり、以後約〔⑥ 〕年間にわたって平和が続いたので〔⑦ 〕(パックス=ローマ)と呼びならわすようになった。(c)〔⑧ 〕時代はその最盛期にあたる。しかし、2世紀末ごろからローマ帝国は動揺をはじめ、政治的にも混乱時代に突入した。とくに235年から284年までの約50年間に26人ももの皇帝が乱立した期間を〔⑨ 〕時代という。〔⑩ 〕世紀末になって登場した〔⑪ 〕は帝国の再編に着手し、(d)東方の専制国家体制を導入して皇帝崇拜を強要し、帝国を4分割したりして帝国の再興をはかった。続く(e)〔⑫ 〕もその体制を継承し、帝国内の人民の職業を固定化したり、軍隊・官僚制度の整備をはかった。〔⑬ 〕年には首都を東方のビザンティウムに移し、彼の名をとって〔⑭ 〕と名づけた。しかし両皇帝の努力も一時的再興にとどまり、ローマ帝国は(f)〔⑮ 〕年、ついに東西分裂をとげ解体するにいたった。

(1) 下線(a)について、この人物と手を組んで自国をまもろうとした女王はだれか。

〔 〕

また彼女がまもろうとしたエジプトの王朝とは何か。

〔 〕朝

(2) 下線(b)について、実質的には独裁であっても形式上は共和政を尊重した帝政の形態を何というか。

〔 〕

(3) 下線(c)について、ローマ帝国が最大領域になったときの皇帝はだれか。

〔 〕

またこの時代最後の皇帝でストア派の哲学者として有名な人物はだれか。

〔 〕

(4) 下線(d)について、モデルとなった専制国家とはどこのことか。

〔 〕

そしてこの帝政形態を通常何と呼んでいるか。

〔 〕

(5) 下線(e)について、この皇帝はローマ帝国ではじめてキリスト教を公認した。何年の何という勅令によってか。

〔 〕年 〔 〕勅令

(6) 下線(f)について、東西分裂したのは何皇帝の死後のことか。

〔 〕

(7) この時代のローマ帝国の変遷の大きな要因となった生産組織上の大変動について100字程度で書け。

テーマ1 ローマ文化

主 題1 オリエント世界と地中海世界

きょうは政治・軍事分野では優れていたにもかかわらず、文化の分野では実用的な面を除き、ヘレニズム文化の模倣が中心になっていたローマ文化について学習し、また主題学習では、辺境変革論を中心に地中海世界の統一過程を追ってみることにしよう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (帝政ローマ) 次の問いに答えよ。

- (1) アントニウスを破り内乱の百年を終結させたのはだれか。 []
- (2) 前27年、彼が元老院から与えられた「尊厳なる者」という意味の称号は何か。 []
- (3) 形式上共和政を尊重したが、実質的には皇帝の独裁政治である体制を何というか。 []
- (4) オクタヴィアヌスの即位から約200年間のローマの繁栄期を通称何と呼んでいるか。 []
- (5) 96～180年までのローマの最盛期を何時代というか。 [] 時代
- (6) わずか50年の間に26人の皇帝が交代し、内外にわたるローマの危機時代(235～284年)を通称何時代というか。 [] 時代
- (7) 3世紀末に登場したディオクレティアヌスによってはじめられたオリエント風の専制政治を、元首政に対して何と呼んでいるか。 []
- (8) 313年のミラノ勅令でキリスト教を公認し、ディオクレティアヌスの業績を受けついでローマ帝国の再建をはかった皇帝はだれか。 []
- (9) この皇帝は、330年ビサンティウムに遷都したが、この都は改称して何と呼ばれたか。 []
- (10) 395年、ローマ帝国が東西に分裂したのは何という皇帝の死後のことか。 []
- (11) ローマ帝国の衰退期に北方から侵入して、476年に西ローマ帝国を滅ぼしたのは何民族か。 []
- (12) ラティフンディウムにかわってローマ帝国内に普及した、隷属的な小作農(コロヌス)を労働力とする農業経営を何というか。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)オクタヴィアヌス (2)アウグストゥス (3)元首政(プリンキパトゥス) (4)ローマの平和(パックス=ローマーナ) (5)五賢帝 (6)軍人皇帝 (7)専制君主政(ドミナートゥス) (8)コンスタンティヌス (9)コンスタンティノープル (10)テオドシウス (11)ゲルマン民族 (12)コロナートゥス

テーマ1 ローマ文化

ローマは共和政期、ヘレニズム文化の流入によってギリシア文化の模倣が主であった。地中海世界を統一した帝政期以降、実用面—例えば法律・土木・建築等—において独自の発達をとげるようになった。このローマ文化の特色を念頭において各分野を概観してみよう。

※ローマ文化の特色 先進文化をもたらしたエトルリア人やギリシア人の影響をうけて、共和政期までのローマ文化は模倣の段階にあった。しかしアウグストゥス以降の帝政期にはいと、ギリシア文化の多大な影響がみられる中で、ローマは独自の文化をもつようになった。文芸的にはラテン文学の黄金時代が現出し、また哲学・自然科学・歴史・地誌の分野で偉人が輩出し、とくに後世に誇れる業績として、土木・建築・法律といった実用的分野にローマ人の才能が発揮された。

※文学 模範的なラテン散文家として知られ「義務について」を残したキケロ、「アエネイス」においてローマ建国の神話をギリシアの神々とのつながりにおいて描いたローマ最大の詩人ヴェルギリウス（ヴァージル）、さらにオヴィディウス、ホラティウスといった詩人がラテン文学黄金時代をつくりだした。

※哲学 禁欲的傾向の強いストア哲学がローマの哲学界の主流であった。ローマ人らしくヘレニズム時代のストア哲学とちがって、人生訓・処世訓・道徳の基準として使われ、実践的・実用的解釈が行われた。ネロの師として、またのちにネロへの反逆の疑いで自殺を強要されたセネカ、ギリシア人奴隷で、「語録」を残したエピクテトス、五賢帝の一人で、「自省録」を著したマルクス=アウレリウス=アントニヌスなどがストア派の哲学者として著名である。またヘレニズム時代のもう一つの学派であるエピクロス派の学者としては唯

物論的世界観にもとづき「物の本質について」を残し、詩人でもあったルクレティウスが名高い。

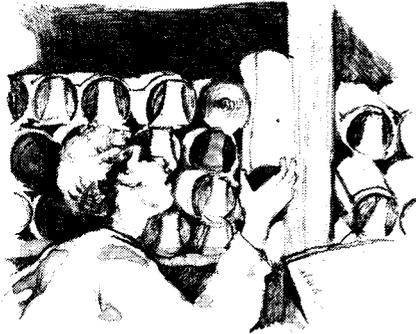
※自然科学 ローマ時代の自然科学は独創性に欠けていた。しかしギリシア以来の業績が大成された点は注目してよい。全37巻にわたる膨大な理科全書で、項目数が2万あるという「博物誌」を残したプリニウス、コペルニクス以前の宇宙観、すなわち天動説を創始し、「大集成」という著作を残したアレクサンドリアの天文学者プトレマイオス（トレミー）などが名高い。またカエサルがエジプトの太陽暦を改良して作ったユリウス暦は、16世紀グレゴリウス13世によるグレゴリウス暦までヨーロッパ世界で長く使われた。

※歴史・地誌 ローマ時代の歴史家は総じて厳密な批判精神をもたず、実用的歴史書を書くことが多かった。ポエニ戦争の勝利原因について論じた、「ローマ史」の著者ポリビオス、ガリア遠征の際の記録文学で古ゲルマン研究の貴重な史料となった「ガリア戦記」のカエサル、建国から前9年までのローマの歴史を描く「ローマ建国史」の著者リウィウス、「ゲルマニア」「年代記」などを著してローマの頹廃を憂え、質実剛健の精神を再興しようとしたタキトゥス、ギリシア・ローマの英雄の評論・伝記を描く「対比列伝」（「英雄伝」）の著者プルタルコス（プルターク）などが名高い。

一方地誌では小アジア出身のストラボンが、史実から伝記までの史料的地誌である「地理誌」を著した。

	政治体制	文学	哲学	自然科学	歴史・地誌	法律	宗教
前2世紀以前	共和政	106 キケロ	ルクレティウス 99		201 ポリビオス	前451十二表法	ギリシアの多神教
前1世紀	三頭政治	70 ヴェルギリウス 65 ホラティウス 43	マルクス=アウレリウス=アントニヌス 50	ユリウス暦 23 プリニウス 79	120 カエサル 59 リウィウス 17	慣習法の明文化 市民法	↓ 東方宗教 (エジプトミトラ教)
1世紀	元首政	19 ヴェルギリウス 17 オヴィディウス	セネカ 5 エピクテトス 65		44 カエサル 45 ストラボン 21	↓ 万民法 (ローマ市民・外人)	
2世紀			120 タキトゥス 180	2世紀頃 プトレマイオス	117 タキトゥス 120 プルタルコス	↓ 自然法	↓ 皇帝崇拜
3世紀以後	専制君主政		354-430 アウグスティヌス			6世紀 ローマ法大全	↓ キリスト教

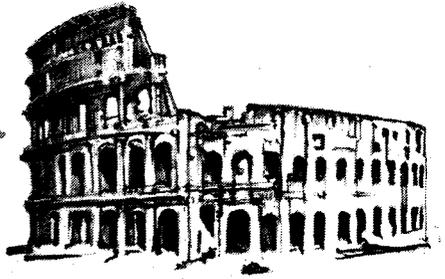
ローマ文化一覽表



パピルス本を買うローマ人



アッピア街道(ローマ)



ローマのコロッセウム

※法律　ローマでは共和政初期の前5世紀半ばに十二表法が制定されて、それまで貴族が独占していた法知識が平民にも公開されるにいたり、のちのローマ法の基礎となった。前287年のホルテンシウス法の制定によって、貴族と平民の法的格差は解消するが、それとともにローマ市民に適用される完備した国内法が成立した。これが市民法といわれるものである。ところがポエニ戦争以降ローマは拡大を続け、前30年にはエジプトのプトレマイオス朝を滅ぼして全地中海を制覇し、世界国家へと発展した。ローマ市民と被征服者である属州民との間の格差を解消するためになされたのが、212年のカラカラ帝による全属州に対するローマ市民権付与であった。こうして全ローマ内の国民はすべて正義と公正にもとづく唯一の法律によって裁かれなければならないとする考えが普及した。これは万民法といわれ、市民法に対して、様々な民族・習慣・生活様式を含むため法律の普遍性が高い。さらにこの万民法の考えの中には、ストア哲学の影響を受けて2世紀ごろから発達した、自然法思想が含まれている。

6世紀になると、東ローマ皇帝ユスティニアヌスは法学者のトリボニアヌスに命じて、十二表法から万民法までのローマ法を集大成させて、「ローマ法大全」を

完成した。

※宗教　ローマではもともと自然崇拝的多神教が信仰されていたが、ギリシアの影響を受けると、その神神がオリンポス12神と同一視されるようになった。その後ローマの拡大とともに、エジプトからはイシス神、ペルシアからはミトラ教など東方の宗教がローマ内に普及するにいたり、ディオクレティアヌス時代に、この東方宗教の影響により皇帝崇拝が強要された。

コンスタンティヌスの時代には、313年のミラノ勅令によってキリスト教が公認され、テオドシウスの時代の392年にはローマ帝国の国教とされて、キリスト教以外の宗教は禁じられた。

※建築・絵画・彫刻　絵画や彫刻の分野では、エトルリアやギリシアの影響下であってとくにみるべきものはない。しかし建築のように実用的な面ではすぐれた業績を残した。円形闘技場(コロッセウム)・公共浴場(とくにカラカラ帝のものが有名。当時の娯楽の中心であった)・凱旋門・水道橋(フランスのガール橋が有名)・軍用道路(アッピア街道がとくに著名)など、雄大な土木建築がローマ帝国内各地につくられた。

トレーニング

解答は146ページ

1 (ローマの文化：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ローマ文化は全体としてエトルリア・ギリシア文化の影響を受けて独創性に欠けたが、土木・建築・法律といった実用的分野にローマ人の才能が発揮された。文学の分野では、模範的なラテン散文家である〔① 〕といった人物がいるが、最大の人物は何といってもローマ建国神話を対象とした、ローマ国民の叙事詩である「アエネイス」をかいた〔② 〕である。
- (2) 哲学の分野では、ヘレニズム時代に生まれた〔③ 〕哲学が主流となった。代表的な人物に、五賢帝の一人で「自省録」を残した〔④ 〕がいる。

- (3) 全37巻にわたる膨大な理科学書である「博物誌」を著したのが〔⑤〕である。またアレクサンドリアのギリシア人天文学者〔⑥〕は、地球が宇宙の中心であるとする天動説を唱え、カエサルはエジプトの太陽暦を改良して〔⑦〕をつくった。
- (4) カエサルが現在のフランス地方を平定した際の記録文学であり、古ゲルマン研究の貴重な史料となったのが〔⑧〕である。またローマ建国から前9年までの歴史を対象とした「ローマ建国史」は、〔⑨〕によって著された。ローマの頹廃を憂え質実剛健の精神を再興しようとして、当時のゲルマン人の生活を記録した「ゲルマニア」、14～66年までのローマの政治史を記述した大著「年代記」の作者が〔⑩〕であり、〔⑪〕が記述した「対比列伝」は、ギリシア・ローマの英雄50人を対象とした伝記・評論であり、貴重なギリシア・ローマの史料となっている。一方、地誌では小アジア出身の地理学者〔⑫〕が「地理誌」を著した。
- (5) ローマ最初の成文法は前5世紀半ばに制定された十二表法で、のちにローマ市民を対象とする〔⑬〕、さらにローマ帝国内の全員を対象とする〔⑭〕というふうにローマ法は発展し、6世紀になり東ローマ皇帝〔⑮〕によって、〔⑯〕として集大成された。法律とともに実用的な分野として建築があるが、〔⑰〕と呼ばれる円形闘技場が有名である。

2 (表で見るローマ文化) 次の表を見ながらあとの問いに答えよ。

- (1) カエサルの著した記録文学で、古ゲルマンの貴重な史料とされているのは何か。〔 〕
- (2) ローマ最大の詩人ヴェルギリウスのローマ建国を描いた詩は何か。〔 〕
- (3) プリニウスによる、全37巻にわたる理科学書は何か。〔 〕
- (4) ギリシアとローマの英雄たちの評論・伝記を描いたプルタルコス作品は何か。〔 〕
- (5) 五賢帝の1人で、ストア派の哲学者でもあったマルクス=アウレリウス=アントニヌスの著した作品は何か。〔 〕

前106～前43	キケロ「義務について」
前100～前44	カエサル
前70～前19	ヴェルギリウス
前64～後21	ストラボン「地理誌」
前59～後17	リヴィウス「ローマ建国史」
後23～79	プリニウス
45～120	プルタルコス
55～117	タキトゥス「ゲルマニア」
121～180	マルクス=アウレリウス=アントニヌス

3 (「自省録」) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

先ず彼等に言いきかせて見よ。しかし正義の原則がかく命ずるときには、たとえ彼らの意志に反しても行動するがよい。もし力づくで君の道を邪魔しようとする者があれば、満足と平静の力を借り、この障害物を他の徳を発揮する機会として利用せよ。

(「自省録」 「哲学叢書(35)」 神谷美恵子訳 創元社)

- (1) この著者はだれか。〔 〕
- (2) この史料は自己の反省のことばを書きつらねたものである。全体に著者の禁欲的な姿勢がうかがわれるが、この著者は何派の哲学者といえるか。〔 〕

4 (ローマ文化) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

ローマ文化の特色としては、(a)文学などに独創性がみられないが、〔① 〕〔② 〕などの実用的・応用的分野ではすぐれていたことがあげられる。哲学ではヘレニズム哲学の流れをくみ、(b)ストア派が主流であったが、ルクレティウスのように〔③ 〕派として著名なものもある。文学では共和政末期よりラテン文学が勃興し、雄弁家・名文家として名高い〔④ 〕、アウグストゥス時代にはローマ建国伝説の叙事詩「アエネイス」を著した詩人〔⑤ 〕などがある。

また、歴史では(c)「ローマ史」の〔⑥ 〕、「ローマ建国史」の〔⑦ 〕、「ガリア戦記」の〔⑧ 〕、「ゲルマニア」の〔⑨ 〕が出た。

共和政期に、貴族が独占していた法知識が市民にも公開されるようになって(d)市民法が完成し、帝国の拡大につれ、〔⑩ 〕が発達した。6世紀に、東ローマ皇帝〔⑪ 〕の命によってローマ法が集大成されて(e)「ローマ法大全」が作られた。

- (1) 下線(a)について、文学などで特に影響の強かったのは何文化か。〔 〕
- (2) 下線(b)について、ストア派の学者を2名あげよ。
〔 〕
- (3) 下線(c)について、この「ローマ史」はある戦争の勝因について論じたものであるが、この戦争は何と呼ばれるか。〔 〕
- (4) 下線(d)について、前5世紀半ばに制定されたローマ最初の成文法は何か。
〔 〕
- (5) 下線(e)について、これを編集するにあたり、中心的な役割を果たした法学者はだれか。
〔 〕

-----ひとくちメモ-----

ローマ時代の結婚

ローマ時代の結婚のしかたは、父親の同意を得た女性が相手の男性と一年間同棲したあと法的に認められる「同棲婚」、金銭を出して女性を買い、妻とする「売買婚」、神の前で宗教的儀式を行って認められる「神前婚」の3種類があった。結納に多大な費用がかかる現在の姿を考えると意外と似ていることに気づくだろう。

こうして夫婦になった男女には相互の思いやりが必要とされた。「対比列伝」で著名なプルタルコスが「倫理論集」の中で述べているのだが、主婦たるものは夫のことばを尊重し、夫が言い出したことにはいやといわず、自分からいい出さないことが礼儀正しいとされている。女性が自分からものをいうのは横柄だということになっていて、スパルタの新婚の女性にある人が、主人に話してはどうかともちかけると、その女性は「まあ、あちらからですわ」とつつましく答えたということもっている。

一般にローマ時代は生活の乱れが強調されているがやはり当時も現在と同じように、家庭は平穏であることが求められたのである。



婚礼の儀式(1世紀)

次にオリエント世界からローマまでの学習を地中海という観点からふりかえてみよう。

主題1 オリエント世界と地中海世界

ローマが地中海世界を統合するまでには東地中海を中心とした文明の興亡があった。この主題では辺境変革論（文明の発達した地域の周辺つまり辺境が時代を変革する力をもつという理論）を念頭において、オリエント世界からローマの地中海統一までをみてみよう。

◆地中海の歴史的位置 地中海は、アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大陸にかこまれた内海であり、特にアジアの部分にあたる東地中海世界は世界史の中でもっとも古い文明を生みだした。地中海の歴史はこの東部の文明に対する受容と攻撃のくり返しであったといつてよい。

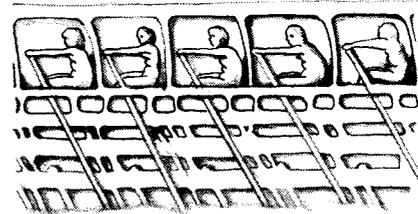
気候としては夏は雨が少なく乾燥し、冬は降水があつて季節風が吹くが、四季を通じて全般に温暖であることを特徴とする。従つて海上路を通じての軍事・経済・文化の交流は容易にまた頻繁に行われた。

◆オリエント世界から東地中海世界へ ティグリス・ユーフラテス川流域に発達したメソポタミア文明、ナイル川流域に発達したエジプト文明の両者をまとめてオリエント文明と呼ぶ。東地中海地域はオリエント文明の西に位置し、鉄をはじめもたらしたヒッタイト、地中海貿易に活躍したフェニキア人、カナーンの地にヘブライ王国をつくつたユダヤ人、既習のとおり高度な文明を誇つたエジプトなどがオリエント史の中から思いだされよう。

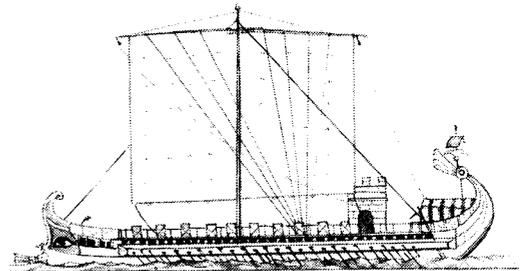
このオリエント文明が西へ伝播して栄えたのがエーゲ海周辺のエーゲ文明であつた。前期のクレタ文明（ミノス文明）は明るい海洋文明であつたが、後期のミケーネ・トロヤ文明期にはいるとその性格は失われ、ギリシア文明の直接的源流となつた。ポリスを中心としてオリエント世界の攻撃（ペルシア戦争）を撃退した東地中海世界のギリシア文明は、高度な文化水準を奴隷制社会をもとにしてつくりだした。しかしポリス間の抗争（ペロポネソス戦争）によって衰退したあと北方のマケドニアが台頭し、フィリッポス2世によってギリシアが征服され、その子のアレクサンドロスによって、オリエント世界をも東地中海世界のマケドニアが統一するにいたつた。これがヘレニズム時代であり、ここでギリシア文明とオリエント文明が統合され、東地中海世界の支配権が確立した。

◆地中海世界の成立 この間西地中海世界のローマは東地中海世界のカルタゴ、ギリシア、エトルリア人の影響をうけて徐々にその文化水準を向上させていつたが、ここで重要になるのがポエニ戦争である。

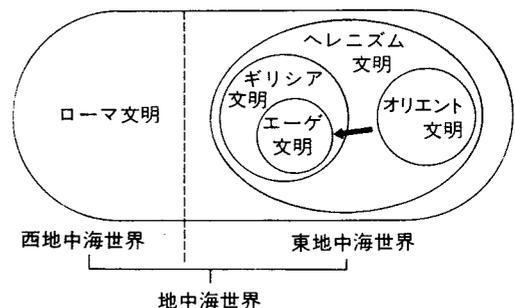
ポエニ戦争の勝利によって西地中海世界が台頭し、東地中海世界を圧倒していく。そして前30年にはヘレニズム時代最後の生き残りであつたエジプトのプトレマイオス朝を滅ぼして、ローマが地中海全域の統一を完成するにいたるのである。このローマの支配下で、政治的・経済的・法律的（ローマ法）・文化的（ヘレニズム）・宗教的（キリスト教＝ヘブライズム）統一体となり、地中海世界が成立した。



権をこぐ奴隷たち



ローマの軍船

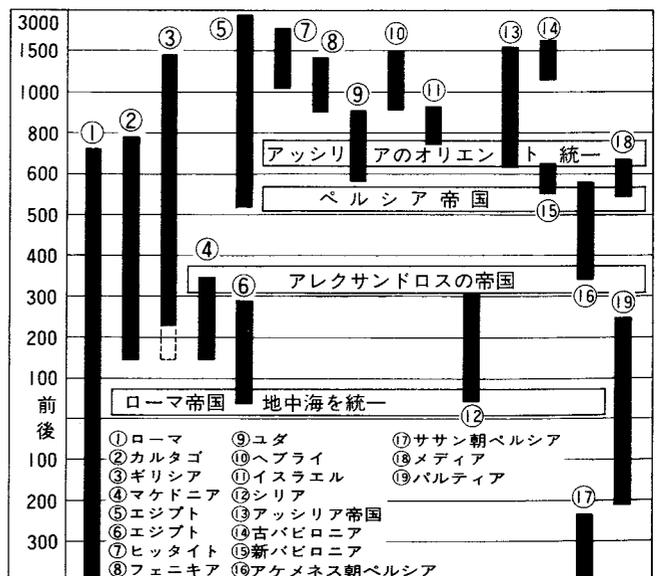


5 (オリエント世界と地中海世界：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) オリエント文明圏に属する東地中海域で活躍した民族・国家には世界ではじめて鉄器を使用した〔① 〕, 地中海貿易に従事し, シドン・ティルスを拠点にカルタゴなどの植民都市をつくった〔② 〕, 世界最古の鑄造貨幣を使用したリディア, カナーン(パレスティナ)の地にヘブライ王国を建国した〔③ 〕民族, ナイル川流域に古王国・中王国・新王国と続く高度な古代文明を建設した〔④ 〕などがある。
- (2) オリエント文明の影響をうけてエーゲ海周辺に〔⑤ 〕文明が栄えた。これは初期の〔⑥ 〕島を中心とするクレタ文明(ミノス文明)と後期のギリシア本土における〔⑦ 〕文明と小アジアの〔⑧ 〕文明の総称である。
- (3) 〔⑨ 〕という都市国家を単位とするギリシア文明は〔⑩ 〕の攻撃を撃退するなかで古代民主政治を完成させ, 文化的にも高度な水準を達成した。しかしポリス間の抗争(ペロポネソス戦争など)の中で衰退した。
- (4) ギリシア文明の衰退のあと台頭した〔⑪ 〕のフィリッポス2世は全ギリシアを統一し, その子の〔⑫ 〕はアケメネス朝ペルシアを倒してギリシアとオリエント世界を統一する快挙をなしとげた。すなわち〔⑬ 〕時代のはじまりである。東地中海世界はこのアレクサンドロスによって統一されたのである。
- (5) ギリシア人や小アジアから移住してきたといわれる〔⑭ 〕人等の先進文化を受容しつつ発展したローマにとって最大の転期はカルタゴとの100年以上にもわたる〔⑮ 〕戦争であった。この結果ローマは西地中海を支配し, 東地中海征服の端緒をつけた。そして前31年アクティウムの海戦でオクタヴィアヌスが勝利した後, 前30年ヘレニズム時代最後の生き残りであったエジプトの〔⑯ 〕朝が滅ぶにいたり, 地中海はローマの内海となって地中海世界が, 政治的・経済的・社会的・法律的(ローマ法)・文化的(ヘレニズム)・宗教的(キリスト教)統一体となった。

6 (年表で見るオリエント世界と地中海世界) 次の問いに年表中の記号で答えよ。

- (1) はじめて鉄をもたらし, 前16世紀にバビロン第1王朝を滅ぼした国はどこか。〔 〕
- (2) 周辺民族を征服し, 前7世紀前半にはじめて全オリエントを統一した国はどこか。〔 〕
- (3) 前492年～前479年にかけて, ギリシアと戦って敗れたオリエントの国はどこか。〔 〕
- (4) ギリシア, オリエント世界, 東地中海世界を征服したアレクサンドロス大王の国はどこか。〔 〕
- (5) ポエニ戦争でローマに敗れた国はどこか。〔 〕



7 (オリエント世界と地中海世界) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

東地中海では前3000年紀の初めから、〔① 〕人がナイル河口から季節風を利用してシリア・クレタ島・キプロス島などを往復していた。前2000年紀にはいると〔② 〕文明が栄え、その後、〔③ 〕海を中心にミケーネ文化が栄え、次のギリシア文化に影響を与えた。(a)前8世紀ごろになるとギリシア人は多数のポリスを形成し、地中海沿岸の植民と貿易を行った。一方東地中海では、前6世紀に〔④ 〕帝国(アケメネス朝ペルシア)が、イラン、メソポタミア、シリア、エジプトなどを征服し全オリエントを統一した。その後約3世紀間、オリエント(ペルシア、フェニキア)とヨーロッパ(ギリシア、ローマ)の間に地中海支配をめぐる3つの戦いがあった。つまり前5世紀の(b)ペルシア戦争、前4世紀の〔⑤ 〕大王のペルシア遠征、前3～前2世紀の(c)ポエニ戦争であった。そして前30年には、最後のヘレニズム国家である〔⑥ 〕を併合することによって、ローマ帝国が全地中海を統一したのであった。

このローマ帝国の支配は、地中海諸国を政治的、経済的、(d)法律的、文化的、(e)宗教的に統一したことにより、ついに地中海世界を確立したのであった。

- (1) 下線(a)について、このころ現在のレバノン海岸に定着し、地中海貿易を支配していたのは何と
呼ばれる人々か。〔 〕
- (2) 下線(b)について、この戦争の時活躍したギリシアの代表的ポリスはどこか。〔 〕
- (3) 下線(c)について、この戦争でローマに敗れたフェニキア人の植民市は何と呼ばれるか。
〔 〕
- (4) 下線(d)について、ローマ領と市民権の拡大につれて、外国人を含む全住民に適用された法律は、
それまでの市民法に対して何と呼ばれているか。〔 〕
- (5) 下線(e)について、ここでいう宗教は何を指しているか。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

古代地中海の燈台

地中海は大西洋やインド洋とは異なり、おだやかな入江、たくさんの島々、数々の港町をもっており、しかも年中好天に恵まれることが多いため、古くから「ターンテーブル(転車台)」と呼ばれならわされて、政治・軍事・文化・社会等々の文化圏の相互交流が行われた。

ところで地中海を航行するとき、とくに天候不良時や夜間航行の際の航法ミスをさけるため必要だったのが燈台であった。古代地中海世界の燈台は現在の燈台とちがって、交通量が少ないため、ほとんどが必要な時だけしか点灯しなかった。しかし、主要港ではちがっていた。とくにアレクサンドリアのファロス燈台は

世界七大不思議の一つと数えられ、昼夜をとわず、あかあかと炎が燃えあがっていた。



古代地中海で常時点火していた燈台のあった場所
〔シュライバー「航海の世界史」より作図〕

キリスト教の成立と発展

テーマ1 キリスト教の成立

テーマ2 キリスト教の発展

きょうはヨーロッパ世界の代表的な宗教として映画・書物・音楽などでおなじみのキリスト教をテーマとする。ここでは、アジアで生まれたキリスト教がどのようにしてヨーロッパ世界へと広がっていったかをあとづけてみよう。

はじめにローマ文化について復習しておこう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (ローマ文化) 次の問いに答えよ。

- (1) ローマ人の才能が発揮されたのはどのような分野か。 []
- (2) 模範的なラテン散文家として知られた人物はだれか。 []
- (3) ローマ最大の詩人ヴェルギリウスが書いたローマ建国を題材とする叙事詩は何か。 []
- (4) ローマ時代を通じて哲学界の主流となった学派は何か。 []
- (5) 五賢帝の1人で、「自省録」を残したストア派の哲学者はだれか。 []
- (6) 全37巻にわたる理科全書である「博物誌」を著したのはだれか。 []
- (7) アレクサンドリアのギリシア人天文学者で、天動説を唱えたのはだれか。 []
- (8) ギリシア人で「ローマ史」を著して政体循環論を唱えた歴史家はだれか。 []
- (9) 建国から前9年までの歴史を描いた「ローマ建国史」の著者はだれか。 []
- (10) カエサルが現在のフランス方面に遠征したときに著した記録文学は何か。 []
- (11) 「ゲルマニア」「年代記」などを著しローマ人の頹廃をなげいたのはだれか。 []
- (12) プルタルコスが残した著作のなかで、「英雄伝」とも呼ばれるギリシア・ローマの英雄の評論・評伝集は何か。 []
- (13) 慣習法を成文化した十二表法に始まるローマ法は、ローマ帝国の発展に伴い、ローマ市民だけに適用された市民法から、帝国内のすべての民族に適用される法に変わった。これを何というか。 []
- (14) 6世紀前半、ユスティニアヌス帝が法学者トリボニアヌスらに命じて編集させたものは何か。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)実用的分野 (2)キケロ (3)アエネイス (4)ストア派 (5)マルクス=アウレリウス=アントニヌス
 (6)プリニウス (7)プロトマイオス (8)ポリビオス (9)リヴィウス (10)ガリア戦記 (11)タキトゥス
 (12)対比列伝 (13)万民法 (14)ローマ法大全

まず、キリスト教がどのようにして生まれたかをみてみよう。

テーマ1 キリスト教の成立

キリスト教はイスラム教・仏教とならんで世界宗教の一つとして評価されている高度な倫理性をもつ宗教である。このキリスト教が、いつごろ、どこで生まれ、どのように育っていったかをこのテーマでは学習していこう。

◆キリスト教の成立 ユダヤ教の聖典である旧約聖書の中には、神によって選ばれた救世主（メシア）によって救済されるという思想が、一貫して語られており、ローマに属州化されて搾取に苦しんでいた当時のパレスティナのユダヤ人の間では、救世主（メシア）待望の機運は高まっていた。

そこに登場したのがイエスであった。当時のユダヤ社会ではユダヤ民族のみが救済されて世界の支配者となるといった選民思想や、律法の徹底的実行にのみ意義を見いだす形式主義が横行しており、イエスはこれらを批判し、民族・階級・身分を越えた愛の教えを説いた。イエスの教えは貧者・弱者の立場に立って、形式よりも精神内容を重視していて、時の民衆の支持をうけた。例えばイエスの奇跡は身体障害者や病人といった弱者に対して行われているし、石を投げつけられている姦淫した女性を救うときに周囲の群衆にむかって「あなたがたの中で、自分に罪がないと思う者だけがこの女に石を投げなさい」といって、女を救済している。また富者には厳しく、「金持ちが天国にはいるのは、ラクダが針の穴を通るよりむずかしい」という。イエスは終末が近づいていることを強調しており、父なる神（ヤハウェ）の福音を信ずるよう強く訴える。「神の国は近づいた。悔い改めよ」ということばが、彼の教えの中心である。（換言すれば、イエスの教えはユダヤ教の枠内にとどまっていた、キリスト教が世界宗教化するのにはパウロ以後である。）

◆伝道と迫害 その後、イエスは律法主義者らに憎まれ、ローマに訴えられて、ゴルゴダの丘において処刑された。しかし、イエスの使徒たち（ペテロやパウロ）は、このイエスが復活し、キリスト（メシアのギリシア語訳）であったと主張して、ローマ帝国で伝道を開始した。初期のうちは現実の救済の望みがないローマ帝国内の奴隷や貧民に支持をうけ、急速にその信者をふやした。とくにローマ市民権をもっていたパウロの活躍はめざましく、ギリシア哲学の素養もあって新約聖書の後半部分はほとんど彼の作による。

信者がふえるに従って、キリスト教に対する反発も増大し、ローマの伝統的多神教や皇帝崇拜を拒否したために、ネロ・ディオクレティアヌスといった皇帝に

激しい迫害をうけた。しかしキリスト教徒はひるまず、カタコンベ（地下墓所）などで礼拝・集会を開くなどして信仰を維持し、逆に上流階級にもその信者を得るにいたって、ローマ帝国内の一大勢力になった。

前586	ユダ王国滅亡		
前6世紀	ユダヤ教成立	選民思想 形式主義	にもとづく
後29ころ	イエスの布教	↑	
		神・隣人への愛	否定
32ころ	イエスの処刑		
	キリスト教の成立		
45～	ローマへの布教開始 (パウロ、ペテロらによる)		原始キリスト教
	民族宗教→世界宗教		
64	ネロ帝の迫害 ペテロ、パウロ殉教		
303	ディオクレティアヌス帝の迫害 皇帝崇拜を強制		カトリック教会の成立
313	ミラノ勅令でキリスト教公認 (コンスタンティヌス帝による)		
325	ニケーア公会議(宗教会議)		
392	ローマの国教化		

キリスト教史年表

ひとくちメモ

イエスの山上の垂訓

こころの貧しい人たちは、さいわいである。

天国は彼らのものである。

悲しんでいる人たちは、さいわいである。

彼らは慰められるであろう。

柔和な人たちは、さいわいである。

彼らは地を受けつぐであろう。

(『新約聖書』「マタイによる福音書」)

1 (キリスト教の成立：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) 〔① 〕の聖典は旧約聖書であり、この書物の一貫したテーマは神によって選ばれた〔② 〕によって救済されるという思想である。しかし、〔③ 〕は極端な選民思想による民族主義や、律法尊重を第一義とする形式主義に堕していた当時のこのユダヤ教を痛烈に批判し、民族・階級などを越えた〔④ 〕の教えを説いた。〔③〕の死後、彼は復活したとし、また〔⑤ 〕(油を注がれた者という意味)であると主張する人々によってキリスト教が〔⑥ 〕から分離し、成立した。
- (2) イエスをキリストとする人々はローマ帝国内に伝道を開始したが、その中で著名なのが、最初のローマ教皇とされる〔⑦ 〕と、ローマ市民権をもって伝道に大活躍した〔⑧ 〕である。しかしこのように信者をふやしてきたキリスト教徒は、ギリシア・ローマの多神教を認めなかったり、皇帝崇拜を拒否したりしたため、ネロや〔⑨ 〕といったローマ皇帝によって激しく迫害された。たびたびの迫害にもめげず、キリスト教徒たちは〔⑩ 〕(地下墓所)といった秘密の場所で礼拝・集会を催し、信仰を維持し広めていった。

2 (年表で見るキリスト教の成立) 次の年表を見ながら問いに答えよ。

- (1) ①は選民思想、戒律を重んじるなどの特徴を持つヘブライ人の宗教で、キリスト教の母胎となった宗教である。これは何か。〔 〕
- (2) ②は前4年ごろ、ベツレヘムに生まれた人で、ユダヤ教の排他主義を克服した。これはだれか。〔 〕
- (3) ③はイエスの復活を信じ、彼を救世主とする信仰から生まれた宗教であるが、これは何と呼ばれるか。〔 〕
- (4) ④は、使徒の1人で、キリスト教をユダヤの民族宗教から世界宗教へと発展させた人物である。これはだれか。〔 〕
- (5) ⑤は、キリスト教徒をローマ大火の放火犯に仕立てて迫害した皇帝である。またこの迫害でペテロ、パウロは殉教した。この皇帝とはだれか。〔 〕
- (6) ⑥は、皇帝崇拜を強制してキリスト教徒を迫害した皇帝であるが、これはだれか。〔 〕

前586	ユダ王国滅亡
前6世紀頃	〔①〕教成立
後29頃	〔②〕の布教
32頃	〔②〕の処刑
	〔③〕の成立
45～	〔④〕らローマへの布教
64	〔⑤〕帝の迫害
249	デキウス帝の迫害
303	〔⑥〕帝の大迫害

3 (キリスト教の迫害) 次の史料はタキトゥスの「年代記」の一部である。この史料を読んであとの問いに答えよ。

噂を消すべく〔①〕は身代りの犯人をたてた。一般民衆がクリスト者と呼びその隠密な罪悪のゆえに憎まれていた人びとに、もっともすばらしい刑罰を加えた。その名のよってきたる〔②〕は、ティベリウス支配のときにポンテ=ピラトによって死刑に処せられた。この有害な迷信は一時阻止されたが、ふたたび起こり、その害悪の発生地ユダヤのみならず、またあ

らゆる種類の物凄いことや不潔なものが四方より集まってきて流行している首府（ローマ）にさえ及んだのである。そこでまず若干のものが審問せられ（放火）罪を告白せしめられ、彼らの申立てにもとづいておびたしい民衆が、放火罪もさることながら、彼らの人類社会に対する憎悪のゆえに罪に定められた。彼らは獣の皮をかぶらされ犬に食い裂かれて死んだ。あるいは十字架に釘つけられ、夜を照らす明りとせらるべく、彼らは燃やされたのである。

彼らが亡ぼされたのは公衆の福祉のためではなく、一個人〔①〕の残虐性を満足させるためであったと思われた。
(秀村欣二訳「西洋史料集成」平凡社)

(1) 文章中の〔①〕と〔②〕に入る適切な人名をあげよ。

①〔 〕, ②〔 〕

(2) このキリスト教徒迫害で死んだ使徒を2名あげよ。〔 〕〔 〕

(3) この迫害は個人的理由によるものといわれるが、3世紀末に即位した皇帝のときは、専制君主政（ドミナトゥス）下の皇帝崇拜を拒否したことから大迫害がはじまった。その皇帝とはだれか。〔 〕

4（キリスト教の成立） 次の文の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部について問いに答えよ。

アウグストゥスの治世のころ生まれたといわれる〔① 〕が(a)ユダヤ教を激しく攻撃し、民族・階級・身分を越えた愛の教を説いたことから、キリスト教が生まれるにいたった。彼は、旧約世界から一貫した〔② 〕待望論に裏付けられて、処刑されたにもかかわらず復活したという信仰を生み、〔③ 〕（油を注がれた人＝メシアのギリシア語訳で救世主と同じ）とあがめられた。(b)彼の使徒たちはローマ帝国内に伝道を開始し、(c)何人かの皇帝によって(d)激しい迫害にあったにもかかわらず、(e)着実に信者の数を増し、ローマ帝国内の一大勢力にのしあがった。

(1) 下線(a)について、①の人物が攻撃したことで、ユダヤ人だけが救われるとした考えは、何思想と呼ばれるか。〔 〕

(2) 下線(b)について、代表的使徒を1人あげよ。〔 〕

(3) 下線(c)について、皇帝崇拜を拒否したキリスト教徒を迫害した皇帝はだれか。〔 〕

(4) 下線(d)について、激しい迫害にあうなかで、信仰を維持するために、集会・礼拝が行われた地下墓所を何というか。〔 〕

(5) 下線(e)について、初期のキリスト教支持層はどのような階級であったか。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

パウロの回心と殉教

使徒パウロは回心する前、パリサイ派(律法尊重派)のエリートで、キリスト教迫害者であった。ところが、ダマスコス城外で突然天上から光の洪水に襲われ「サウロ(パウロの別名)、なぜわたしを迫害するのか」と

いう声が伝わってきた。パウロは驚き「主よ」と呼びかけたが、この瞬間劇的回心をとげたのであった。その後伝道旅行をし、ローマでペテロとともに、ネロ帝の迫害にあい、殉教した。

次にキリスト教が公認され、国教化していく様をみてみよう。

テーマ2 キリスト教の発展

このテーマでは長い迫害時代のあと、コンスタンティヌス帝によって公認され、教義を整備しながら、ローマ帝国の支配イデオロギーとして、国教化という形をとって体制化し、原始キリスト教とは異なったキリスト教へと発展していく過程をみていこう。

◆キリスト教の公認 たび重なる迫害にもめげず、信者数を増大させたキリスト教徒を敵にしては、帝国の統一と平和の維持は不可能と判断したコンスタンティヌス帝は、313年、ミラノ勅令を発して、キリスト教を公認した。そして、当時キリスト教内部における教義の混乱・紛争の調停にのりだした。すなわち、旧約世界における父なる神＝ヤハウェ、福音書の中の子なる神＝イエス、使徒行伝の中の聖霊なる神の三者は等質で不可分とする三位一体説を主張するアタナシウス派とイエスの神性を否定するアリウス派との激しい対立を、325年にニケーアの公会議（宗教会議）を開き、討論させた。その結果、アタナシウス派が正統とされ、アリウス派は異端とされて国内の布教が不可能になったため、北方のゲルマン人に布教した。さらに、5世紀（431年）になってからはエフェソスの公会議（宗教会議）で、イエスの神性を否定したネストリウス派が異端とされた。ネストリウス派はその後ササン朝ペルシアを経て中国まで伝播し、中国では景教と呼ばれ、唐代に流行した。

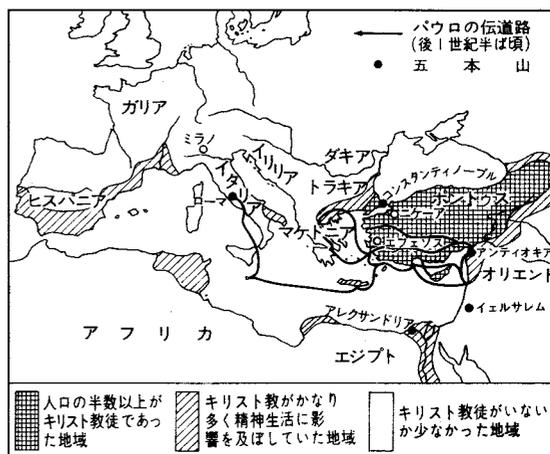
また、迫害中にも組織されていた教会が整備され、僧俗がはっきり区別されて、僧職内部に司教－司祭－補祭者といった階級制度がつくられた。その頂点に立ったのがローマ教皇であり、ここにローマ＝カトリック教会がペテロを初代教皇として成立するにいたった。

◆キリスト教の国教化 コンスタンティヌスの公認後、一時期ユリアヌスのような反キリスト教政策をとる皇帝もあらわれたが、テオドシウス帝時代の380年にキリスト教の信奉が命ぜられ、さらに392年には他宗教が厳禁されるにいたって、キリスト教はローマ帝国の完全な国教となった。キリスト教内部にも変化があらわれ、「新約聖書」ローマ人への手紙第1中13章1節～2節にある部分が強調されるようになった。

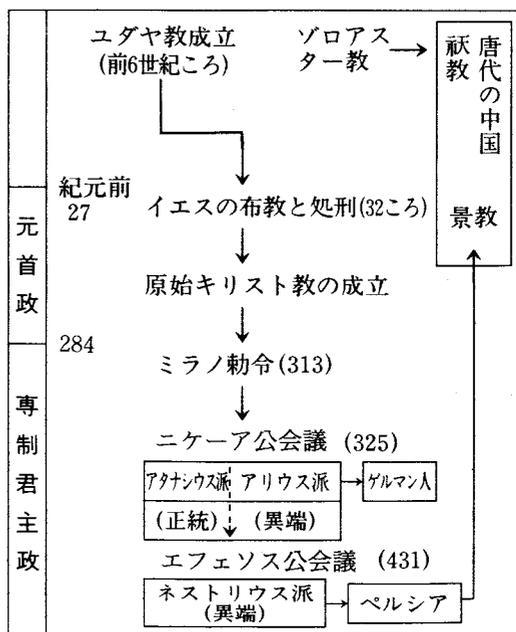
“すべての人、上にある権威に服すべし。そは神によらぬ権威なく、あらゆる権威は神によって立てらる。この故に権威にさからふ者は神の定めと悖るなり、悖る者は自からの審判を招かん。”

すなわち、体制内宗教として、権威に対する服従が要求されたのである。貧者・弱者のための宗教であったはずのキリスト教が変化したのであった。

この体制化されつつある過程で正統な教義を確立するために教父といわれる学者があらわれた。アウグスティヌスはその代表的教父であり、「神の国」・「告白録」を著し、中世神学の基礎をつくった。しかし、このような教会・教義の整備・体制内編入と並行して、教会内部に腐敗が発生し、ヨーロッパ封建社会における一大事件である粛清運動の必然性が生みだされつつあったことも、忘れてはならない。



初期のキリスト教の発展



キリスト教の発展と伝播

5 (キリスト教の発展：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

(1) ディオクレティアヌス帝の大迫害にもめげず、信者数を増やしたキリスト教徒の勢力を体制内に組みこもうとして〔① 〕帝は、313年、〔② 〕勅令を発して、はじめてキリスト教を公認した。

当時のキリスト教内部では、深刻な教義論争がおきていた。コンスタンティヌス帝はこれを調停にかかった。すなわち、325年、小アジアの〔③ 〕で公会議を開催し、父なる神＝子なる神＝聖霊なる神の三者を等質のものとする〔④ 〕説をとる〔⑤ 〕派を正統とし、イエスの神性を否定する〔⑥ 〕派を異端とした。さらに5世紀になっても教義の混乱は続き、431年、〔⑦ 〕の公会議でやはりイエスの神性を否定する〔⑧ 〕派が異端とされた。この異端とされた派は、その後東方に伝道を行い、ササン朝ペルシアを経て中国にまで達し、そこでは〔⑨ 〕と呼ばれて、唐代におおいに流行した。

(2) キリスト教公認後、一時期ユリアヌスのような反キリスト教政策をとる皇帝もいたが、〔⑩ 〕帝治世の380年にキリスト教の信奉が命ぜられ、392年には他宗教が厳禁されて、キリスト教の国教化が完成した。またこのような教会・教義の整備につれて、正統な教義を確立しようと努める〔⑪ 〕といわれる学者が登場した。〔⑫ 〕はその代表的人物であり、著作としては「〔⑬ 〕」「告白録」を残し、中世神学の基礎をつくった。

6 (年表で見るキリスト教の発展) 次の年表を見ながら問いに答えよ。

(1) ①のキリスト教を公認した勅令は何か。

〔 〕

(2) ②のアタナシウス派を正統とし、アリウス派を異端とした公会議は何か。

〔 〕

(3) ③の皇帝はだれか。

〔 〕

(4) ④の「告白録」「神の国」を著した教父はだれか。

〔 〕

(5) ⑤のネストリウス派を異端とした公会議は何か。

〔 〕

313	コンスタンティヌス帝による〔①〕
325	〔②〕公会議
392	〔③〕帝によりローマの国教化
354～430	〔④〕(教父)
431	〔⑤〕公会議

7 (キリスト教の発展) 次の史料を読んで、あとの問いに答えよ。

われらは幸いにもミラノに相会せるとき……就中次のことを定むべきであると考えた。われらはクリスト者に対しても万人に対しても、各人が欲した宗教に従う自由な権能を与える。それは実に、天の神格がわれら万人に対して、友好的かつ恩恵的でありえんがためである。それ故貴官は次のことを承知せられたい。すなわちクリスト者の名に関し貴官にあてられた書簡によって規定せられたすべての命令は全部撤廃せられ、かつまったく非好意的であると思われた諸法令は除去せられ、クリスト者の宗教を遵守せんとする意志あるものは、無条件にその遵守に努めうることを。……貴官は彼らの宗教ならびに礼典の、等しく公然かつ自由なる権能が認められることを承知せられたい。(弓削達訳「西洋史料集成」平凡社)

- (1) この史料はある皇帝がミラノより発した勅令である。この皇帝とはだれのことか。
 { }]
- (2) この勅令が出されたのは何年か。 { }]
- (3) この勅令の主旨は何か。 { }]
- (4) この勅令を出した皇帝の前の皇帝で最後のキリスト教大迫害を行ったのはだれか。
 { }]

8 (キリスト教の発展) 次の { } にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

たび重なる迫害にもめげず、その勢力を拡大したキリスト教徒に対して、〔①
 〕帝は(a)〔② 〕勅令を発して、はじめてキリスト教を公認した。帝はさらにキリスト教内部における教義の混乱を解決するために〔③ 〕年、小アジアの〔④
 〕にて公会義を開催し、(b)〔⑤ 〕派を正統とし、(c)〔⑥
 〕派を異端とした。しかし教義の混乱はこれで終わらず、431年になって、〔⑦
 〕の公会議が開かれ、イエスの神性を否定した(d)〔⑧ 〕
 派が異端とされた。

ローマ帝国内のキリスト教は一時期ユリアヌス帝のような反キリスト教政策をとる皇帝によって抑圧されることはあったが、〔⑨ 〕帝の時にあって、〔⑩ 〕年他宗教が厳禁されるにおよんで国教化が完成した。この体制内宗教への転換と並行して、正統な教義をうちたてようとする(e)〔⑪ 〕といわれる学者が輩出し中世神学の基礎がつけられた。

- (1) 下線(a)について、この勅令が出されたのは何年か。 { }]
- (2) 下線(b)について、この派の主張した父なる神・子なる神・聖霊なる神が等質の三者であるとする考えを何説というか。 { }]
- (3) 下線(c)について、この派はその後、どのような民族に伝道され、信者を獲得したか。民族名をあげよ。 { }]
- (4) 下線(d)について、この派は中国では何と呼ばれたか。また、これはおもに中国の何時代に流行したか。 { }] { }]
- (5) 下線(e)について、⑪といわれる学者の中で代表的人物を1人あげよ。
 { }]

-----ひとくちメモ-----

アウグスティヌスの青年時代

キリスト教教父哲学の代表的人物で、中世神学の元祖という歴史上の評価を受けたアウグスティヌスなら、青年時代はさぞかし、真面目なエリートだったろうと想像されることと思う。しかし現実には正反対であった。彼は放蕩者だったのである。父の死後、彼は16歳でカルタゴに遊学した際、「情事の大鍋」といわれる環境の中で、考えうるあらゆる遊びをしてまわった。彼が立ちなおるのは31歳になってからであり、それまでは試

行錯誤の連続であった。この彼の人生から、青年時代大切なことは迷うことであり、それを「こやし」として成長することが肝要だということが証明できる。



アウグスティヌスの入学

1 (ローマ文化とキリスト教) 次の文を読み、最も関連深い書物名を語群より選び、記号で答えよ。
また下線部について問いに答えよ。

- (1) リヴィウスが著した、ローマ建国から前9年までをあつかった歴史書。 []
- (2) マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝自身の反省記録であり、きわめて(a)禁欲主義的な立場が貫かれている。 []
- (3) タキトゥスの著書で、ローマ人の享樂的生活・頹廢に対して厳しい批判をするため、(b)周辺民族の生活を紹介した。 []
- (4) 現在のフランス方面に遠征した時の記録文学で、そこでカエサルは政治家とは思えない簡潔な文体を駆使している。 []
- (5) (c)ローマ帝国の没落期に、アウグスティヌスがキリスト教会と信仰の最終的勝利を主張した(d)神学の書。 []
- (6) 法学者トリボニアヌスを中心に編集された(e)法律全書。 []
- (7) 創世紀からはじまり、イエス登場以前まで記録したユダヤ教の聖典である。 []
- (8) プルタルコスが著した、ギリシア・ローマの英雄的人物に関する評伝。 []
- (9) ローマ建国神話をトロヤの英雄の流浪・冒険から歌った、ヴェルギリウスの大叙事詩。 []
- (10) ストラボンが著した、全17巻にわたる、史実から伝説まで記されている地誌。 []
- (11) プリニウスが著した、全37巻にわたる理科学全書。 []
- (12) イエス以後の記録であり、4福音書、(f)使徒行伝、書簡から成る(g)キリスト教の聖典。 []

〈語群〉 ①新約聖書 ②自省録 ③ローマ法大全 ④ガリア戦記 ⑤ローマ建国史
⑥アエネイス ⑦博物誌 ⑧ゲルマニア ⑨旧約聖書 ⑩対比列伝
⑪神の国 ⑫地理誌

- ① 下線(a)について、禁欲主義的立場の哲学を何というか。 [] 哲学
- ② 下線(b)について、記述対象となった周辺民族とは何か。 [] 民族
- ③ 下線(c)について、ローマ帝国でキリスト教を公認したのはだれで、それは何年の何という勅令によるか。 [] , [] 年, [] 勅令
- ④ 下線(d)について、中世神学の基礎となったこの“神学”を確立しようとした学者を何というか。 []
- ⑤ 下線(e)について、この法律全書の基礎となったローマ最古の法律は何か。 []
- ⑥ 下線(f)について、ローマで殉教し、初代ローマ教皇となった使徒はだれか。 []
- ⑦ 下線(g)の教理統一を目的として開催された、ニケーアの公会議での正統・異端とエフェソスの公会議で異端とされた宗派をあげて、その後の異端とされた宗派の動向を述べよ。(100字程度)

テーマ1 パルティアとササン朝

テーマ2 イラン文化とその伝播

アレクサンドロス大王の死後、ヘレニズム3国時代を経てイラン系のパルティア、ササン朝が生まれ、ローマと対立、影響しあいながらしだいにイラン民族国家体制を確立し、国際的文化を発展させた。今回は、その過程を学習していこう。

はじめにアレクサンドロス大王の遠征とその帝国分裂について復習しよう。

復習トレーニング

解答はこのページ

1 (アレクサンドロス帝国の分裂) 次の問いに答えよ。

- (1) 前334年より全ギリシア連合軍を率いて東方遠征に出発したマケドニア王はだれか。 []
- (2) その結果滅亡したオリент世界の統一国家は何か。 []
- (3) この遠征によって生まれたギリシア文化とオリент文化が融合してできた文化を何というか。 []
- (4) この文化の中心地となった、大王の名にちなんで名づけられたエジプトの都市は何か。 []
- (5) 大王の死後、前323年より後継者(ディアドコイ)争いがおきて大帝国は3つに分裂した。このうち、マケドニアに成立した王朝は何か。 []
- (6) 同じくエジプトに成立した王朝は何か。 []
- (7) 同じくシリア、イラン方面に成立した王朝は何か。 []
- (8) この3国は、前2世紀半ばにマケドニアが、前64年にシリア方面がローマによって征服された。最後に残ったエジプト王朝はだれによって滅ぼされたか。 []
- (9) またそれは何年のことか。 [] 年
- (10) エジプトの王朝の滅亡を決定づけた前31年に行われた海戦は何というか。 []
- (11) エジプトの王朝の最後の王となった女王はだれか。 []
- (12) ポリスが崩壊したのちのヘレニズム期の一般思潮で、思考と行動の基盤をポリス的発想ではなく、人類的な立場においたものは何か。 []

◇復習トレーニングの解答◇

- 1 (1)アレクサンドロス大王 (2)アケメネス朝ペルシア (3)ヘレニズム文化 (4)アレクサンドリア
 (5)アンティゴノス朝 (6)プトレマイオス朝 (7)セレウコス朝 (8)オクタヴィアヌス (9)前30
 (10)アクティウムの海戦 (11)クレオパトラ (12)世界市民主義(コスモポリタニズム)

まず、ヘレニズム時代、パルティア、ササン朝とつづく歴史を概観してみよう。

テーマ1 パルティアとササン朝

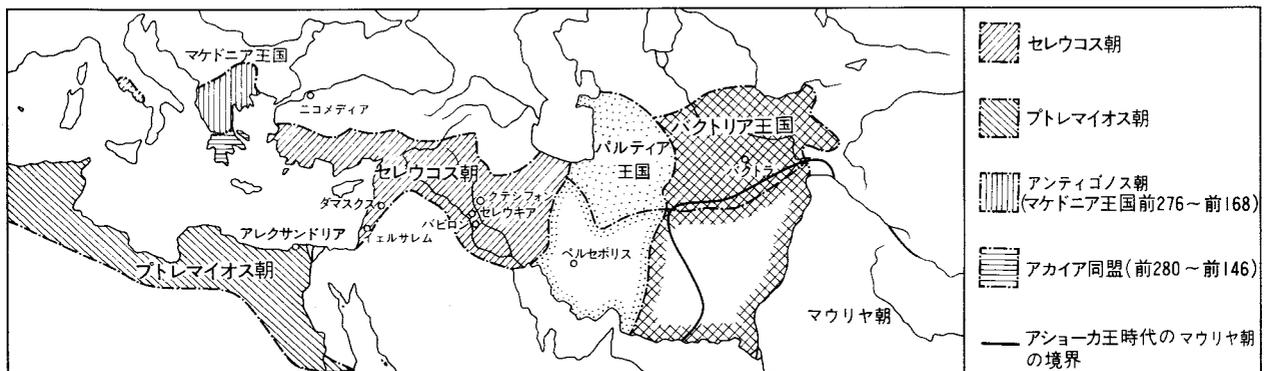
アレクサンドロス大王の死後、西アジアにはセレウコス朝、ついでバクトリアとパルティア、またササン朝ペルシアというように、諸国家の興亡が続いた。このような対立・抗争やギリシア文化の影響のもとに、イラン古代文明が形成されていく様子を見ていこう。

◆ヘレニズム時代の西アジア アレクサンドロス大王が遠征の帰途病没すると、有力な武将たちによって後継者（ディアドコイ）戦争が起こった。その結果前4世紀末マケドニアにはアンティゴノス朝、エジプトにはプトレマイオス朝、シリア・イラン・中央アジア方面の西アジアにセレウコス朝シリア王国が成立した。これをヘレニズム3国という。セレウコス朝はギリシア系国家だったのでギリシア人が数多く移住してその文化が伝えられ、すでに学習したようにコイネといわれるギリシア語が共通語として用いられた。しかし広大な領土の支配は長続きせず、前3世紀中ごろ、中央アジアにギリシア系のバクトリア王国、カスピ海南東からはイラン系のパルティア王国（アルサケス朝）がおこって、セレウコス朝の領土はシリア方面に限定された。セレウコス朝は、その後西方から発展してきたローマの武将ポンペイウスによって前63年滅ぼされ、ローマの支配下にはいった。

◆パルティア 前3世紀中ごろ、カスピ海東南部のイラン系遊牧民が族長アルサケスに率いられて独立し、パルティア王国を建国した。この国は、前2世紀中ごろのミトラダテス1世の時代に強大化し、セレウコス朝の領土を奪ってティグリス川中流にのちの国都となるクテシフォンを建設した。その領土は、東はインダス川流域から西はユーフラテス川にいたる広大なもので、セレウコス朝滅亡後は激しくローマと抗争した。

パルティアは、当時の東西貿易の重要なルートである「絹の道」（シルク＝ロード）を支配して、その利益を独占した。その繁栄は、早くから中国（漢）でも知られており、建国者アルサケスの漢音訳がそのまま国名となって、中国の歴史書「史記」では、「安息」と呼ばれている。

◆ササン朝 パルティアがローマとの長期の抗争によって衰えると、同じイラン系のササン朝ペルシアが台頭した。ササン朝の始祖アルデシール1世は、226年にパルティアを滅ぼすと、クテシフォンに都をおき、「諸王の王」と称してゾロアスター教を国教とした。第2代のシャープール1世は、西方のローマ軍を次々と撃退して皇帝ヴァレリアヌスを捕虜とし、東方ではインドのクシャーナ朝を圧迫して領土を拡大した。5世紀後半になると中央アジアから遊牧民族エフタルが侵入し、一時危機に陥ったが、6世紀にホスロー1世がでると、トルコ系遊牧民族突厥と結んでエフタルを滅ぼし、西方では黒海沿岸まで進出してビザンツ帝国（東ローマ帝国）のユスティニアヌスと対抗するなど、ササン朝の最盛期を築いた。ここにパルティア以来徐々に形成されつつあったイラン民族国家が確立されたが、7世紀になると内部的混乱が激しくなり、アラビア半島より急速に台頭してきたイスラム勢力によって、642年のニハーヴァンドの戦いに敗れ、まもなく滅亡した（651年）。



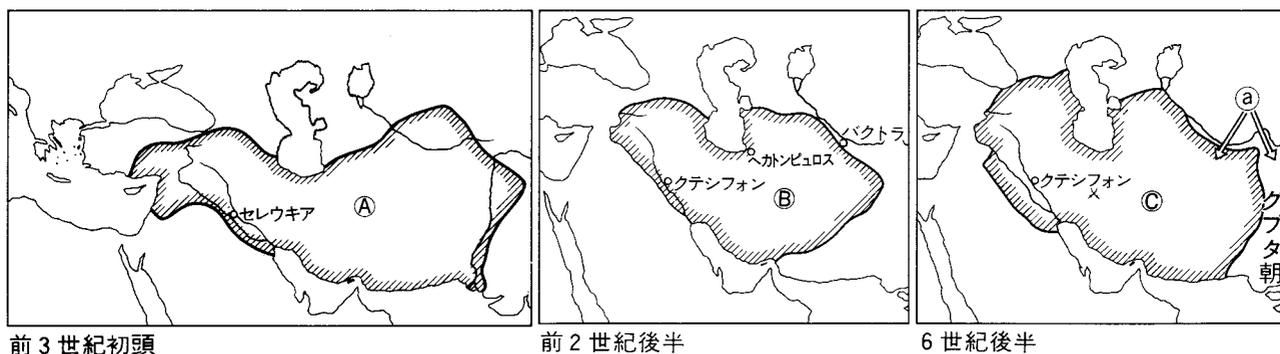
アレクサンドロス大王領の分裂（紀元前200年ごろ）

ではトレーニングに進もう。

1 (パルティアとササン朝：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を記入せよ。

- (1) アレクサンドロス大王の死後、後継者争いがおきて、マケドニアには〔①〕朝、エジプトには〔②〕朝、シリア・イラン方面には〔③〕朝が成立した。この3国をヘレニズム3国という。
- (2) セレウコス朝は広大な領土を支配したが長続きせず、前3世紀中ごろ、中央アジアにギリシア系の〔④〕王国、カスピ海南東からはイラン系の〔⑤〕王国がおこってシリア地方に領土が限定された。
- (3) パルティアは、前2世紀以降強大となり、〔⑥〕のとき最盛期をむかえた。この国は〔⑦〕を支配して東西貿易の利益を独占し、中国の漢にもその存在が知られており、始祖アルサケスにちなんで〔⑧〕国と呼ばれていた。
- (4) 3世紀初頭パルティアを倒して建国した〔⑨〕は、西方ではローマと戦い、第2代の〔⑩〕はローマのヴァレリアヌス帝を捕虜とした。5世紀になると中央アジアから侵入してきた〔⑪〕によって一時危機に陥ったが、6世紀に再興し、〔⑫〕の時最盛期をむかえた。しかし、7世紀にはイスラム勢力が台頭し、642年、ニハーヴァンドの戦いに敗れ、651年に滅亡した。

2 (地図で見るパルティアとササン朝) 地図を見ながら問いに答えよ。



- (1) ①, ②, ③の国名をそれぞれあげよ。 ①〔 〕
 ②〔 〕 ③〔 〕
- (2) ①と同時期にエジプトに成立した国家は何か。〔 〕
- (3) ②はどのような民族が建てた国か。〔 〕
- (4) 地図中のバクトラを中心に栄えたギリシア系国家は何か。〔 〕王国
- (5) ②は中国では何と呼ばれたか、漢字2字で答えよ。〔 〕
- (6) ③の王でローマのヴァレリアヌス帝を破って捕虜としたのはだれか。〔 〕
- (7) 地図中の④は5世紀後半イラン・インド方面に侵入した遊牧民族である。この民族は何か。〔 〕
- (8) ③は6世紀最盛期をむかえるが、そのときの王はだれか。〔 〕
- (9) ⑤は642年に起こったある戦いを示している。それは何か。〔 〕の戦い

③ (パルティアとササン朝) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部について問いに答えよ。

西方世界との対立抗争のなかで、民族意識に目覚めたイラン人は民族国家の形成にのりだした。カスピ海東南地域からおこった(a)〔① 〕がその最初であった。この国は(b)東西貿易の利権を独占し、(c)中央アジアのギリシア系国家を圧倒し、さらにシリア方面に領土を限定されていた〔② 〕朝シリアが(d)ローマに滅ぼされると、直接ローマと戦闘状態にはいった。この過程でイラン民族文化が形成されはじめることになるのだが、3世紀初頭と同じイラン系の(e)〔③ 〕朝ペルシアに滅ぼされた。西方文化、インド、メソポタミア地域の文化をとり入れた国際的イラン民族文化や民族国家体制は〔③〕朝の時代になって完成する。

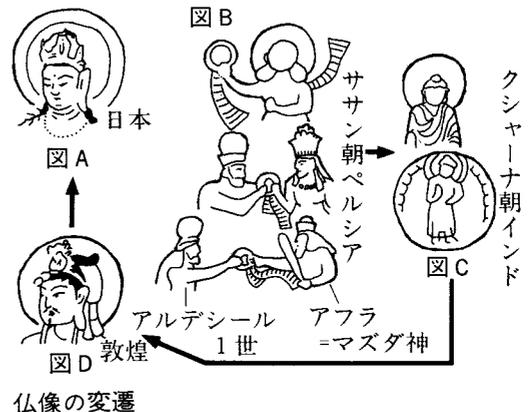
- (a)① この国の最盛期は前2世紀ごろだが、その時の王はだれか。〔 〕
 ㊦ この国は中国で何と呼ばれていたか。〔 〕
 ㊧ またその中国名が記されている司馬遷の著した歴史書は何か。〔 〕
 (b) 東西貿易の重要ルートで、(a)が支配していたものは何か。〔 〕
 (c) バクトラを都としたこの国を何というか。〔 〕王国
 (d) このときのローマの将軍はだれか。〔 〕
 (e)① この王朝が成立したのは何年か。〔 〕年
 ㊦ この王朝の第2代の王でローマ皇帝ヴァレリアヌスを破って捕虜としたのはだれか。〔 〕
 ㊧ 5世紀後半この王朝は、遊牧民族の侵入で滅亡の危機をむかえる。その遊牧民族とは何か。〔 〕
 ㊨ 6世紀この王朝の最盛期をもたらした王はだれか。〔 〕
 ㊩ またこの最盛期の王と戦ったビザンツ(東ローマ)皇帝はだれか。〔 〕

-----ひとくちメモ-----

光 背 の ル ー ツ

仏像が背負っている円環を光背という(図A)。この仏像につきものの光背はササン朝ペルシアにおける日食時の写実によるという。219年、突然パルティア人にとって光明のシンボルであった太陽が暗黒につつまれた。民衆はこれを怖れ、パルティアの治世に神が怒ったと考えた。そこでササン朝の始祖アルデシール1世はこれを絶好の機会と考え、220年兵をおこし、224年スシアナの戦いでパルティアを破り、226年新国家形成に成功した。この際、王位篡奪の正当化と民衆の教化のためにこの日食を利用して、王権神授の叙任式を大々的に行った(図B)。こうしてササン朝では円環が大切に使われた。またこの円環がクシャーナ朝のインドに伝えられ、ガンダーラ地方ではじめて成立した仏像に円環、即ち光背がつけられたという(図C)。これ

がシルク=ロードを通して(図D)、日本の仏像の光背につながったのである。



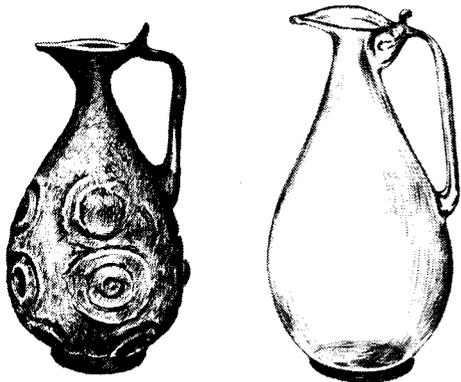
テーマ2 イラン文化とその伝播

イラン民族独自の文化はササン朝の時代に完成し、西方、東方世界にも大きな影響を与えた。また宗教ではゾロアスター教が国教化されたが、他宗教もさかんに信仰され、マニ教などの各種の融合宗教が成立した。このようなササン朝期の文化・宗教をここではとりあげよう。

※イラン文化の特色 パルティア時代の文化はギリシア文化の影響が強かった。例えば公用語はギリシア語であり、ミトラダテス1世は「アケメネス朝及びアレクサンドロス大王の後継者」と自称し、またその後の諸王もギリシア崇拜者と呼ばれ、ゾロアスター教はかえりみられなかった。しかし、長年にわたるローマとの抗争のなかでしだいに民族的な自覚を高め、ギリシア文化からの離脱がはかられた。1世紀後半、ギリシア語とともにアラム文字を用いた文書が公式に用いられるようになったのも、アケメネス朝ペルシアの伝統文化が復興されたのも、その具体例である。この流れを受け継いだのが、ササン朝ペルシアであった。ササン朝では寛容な文化政策をとったためギリシア・ローマの文化だけでなく、メソポタミア・インドの文化も流入し、ここにこれらの諸文化が融合したイラン独自の民族文化が形成されるにいたった。とくに美術工芸の分野ですばらしい作品が多く、西はビザンツ帝国、東は「絹の道」を通して隋・唐の時代の中国、さらに飛鳥・奈良時代の日本にまで影響を及ぼした。下のイラストにある正倉院宝物の水 瓶が、ササン朝の作品に

酷似していることを確認してほしい。

※ササン朝の宗教 ササン朝ではゾロアスター教が国教とされ、経典「アヴェスター」が編纂された。しかし、他宗教には寛容な政策をとったので、ササン朝の西部ではネストリウス派キリスト教（アタナシウス派はローマとの対抗上禁止された。）やユダヤ教、東部地域では仏教と、さまざまな宗教が信仰された。とくにメソポタミア地方ではその宗教的混乱がひどかったため、各種宗教の融合がはかられた。3世紀中ごろでたマニによってはじめられたマニ教はその一例であり、ゾロアスター教、キリスト教、仏教、古バビロニアの信仰を混合し、徹底した善悪二神による二元論の立場をとって禁欲的生活を信者に強要した。このマニ教は一時期ササン朝に尊ばれたが、のちに弾圧され、マニは刑死した。しかし、その教えは西方では北アフリカ、南フランスに伝播し、東方では中央アジアを経て唐代の中国で流行した。なお、ゾロアスター教は「祆教」「拜火教」と呼ばれ、ネストリウス派キリスト教は「景教」と呼ばれて、ともに唐代の中国で流行した。



ササン朝(左)と正倉院(右)のガラスの水 瓶

ゾロアスター教(拜火教)	<ul style="list-style-type: none"> ●発生地 ペルシア前7世紀頃 ●創始者 ゾロアスター ●神 善(アフラ=マズダ) 悪(アーリマン)の二神で善神のみ信仰された。 ●経典 「アヴェスター」 中国に伝わり(祆教)、ユダヤ教にも影響を与えた。現在インド西海岸に残っている。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ●金属器・ガラス・染色技法が発達 多様で独特な形・題材の騎馬狩猟図・聖樹・鳥獣・唐草などがある。 ●東西へ伝播 中国(南北朝・隋・唐時代) 日本(飛鳥・奈良時代) ビザンツ帝国

トレーニング

解答は148ページ

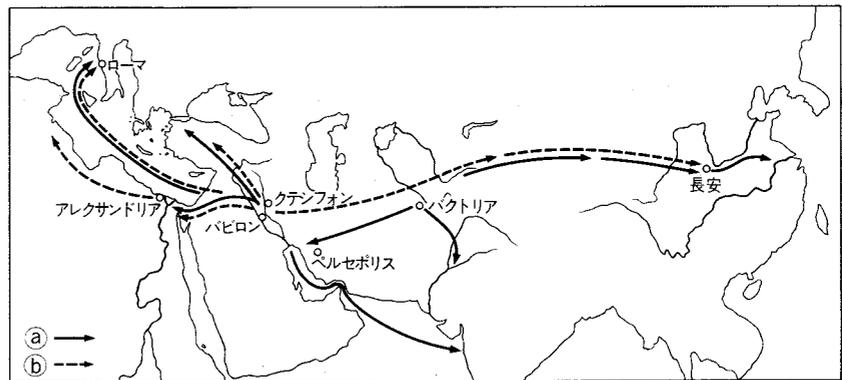
4 (イラン文化とその伝播：概要) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れよ。

- (1) ササン朝の始祖アルデシール1世によって国教化された宗教は〔① 〕
 教で、経典〔② 〕がササン朝の時代に編纂された。

- (2) ギリシア、ローマ、インド、メソポタミアの諸文化を融合したイラン民族文化がササン朝時代に形成された。そのなかで〔③〕の分野にすぐれた作品が多く、西はビザンツ帝国、東は〔④〕を、中国、日本にも影響を及ぼした。
- (3) ササン朝は宗教に対して寛容な態度をとったので、西部では、ローマ帝国で異端とされた〔⑤〕派キリスト教、ユダヤ教、東部では〔⑥〕教とさまざまな宗教が信仰された。
- (4) 宗教的混乱のひどかったメソポタミア地方では、〔⑦〕世紀中ごろ、ゾロアスター教、キリスト教、仏教、古バビロニアの信仰を混合した〔⑧〕教が生まれた。
- (5) ササン朝の宗教は各地に伝わり、唐代の中国ではゾロアスター教は〔⑨〕教と呼ばれて流行した。

5 (イラン宗教の伝播) 次の地図を見ながら問いに答えよ。

- (1) 地図中の①, ②はイランで成立した宗教の伝播経路をあらわしている。それぞれ何という宗教か。



- ①〔 〕教
②〔 〕教
- (2) 成立が古いのは①, ②どちらか。〔 〕
- (3) ②の宗教の始祖はだれか。〔 〕
- (4) ①の宗教は中国に伝播したとき何と呼ばれたか。漢字2字で答えよ。〔 〕
- (5) 2つの宗教が中国に伝播した際のルートは通称何と呼ばれるか。〔 〕

6 (イラン文化) 次の史料を読んで問いに答えよ。

この火の労役民としてわれらは、まず第一に御身を、とりまこう。マズダー・アフラよ、御身を御身の最勝のスプンタ・マンユを通してです——その御身は、御みずから人に禍害たらんと思召すなら、その人の禍害となり給うかたです。

火たる御身はマズダー・アフラに助力するものです。最勝のスプンタ・マンユとして御身は彼(アフラ)に助力するものです。〔御身の〕もろもろの名のうちで御身に最も喜ばれるものをもって、マズダー・アフラ〔子なる〕火よ、われらは御身をとりまこう。

(伊藤義教訳「世界古典文学全集」筑摩書房)

- (1) この史料はある宗教の経典である。アフラ=マズダを善神とするこの宗教は何か。〔 〕
- (2) この経典は何と呼ばれるか。〔 〕
- (3) この経典はどの王朝のとき編纂されたものであるか。〔 〕
- (4) 史料中にみられるようにこの宗教では「火」が重要な役割を果たしている。中国ではこの「火」を礼拝することからある呼び名がつけられた。何というか。〔 〕

7 (イラン文化とその伝播) 次の〔 〕にあてはまる語句を入れ、下線部について問いに答えよ。

パルティア時代は公用語に〔①〕語が用いられたようにギリシア文化の影響が強かった。しかし、〔②〕との抗争を通じてイラン民族としての自覚が高まり、しだいに(1)ギリシア文化から離脱していった。3世紀初頭成立した〔③〕ペルシアは、(2)ゾロアスター教を国教としたにもかかわらず(3)諸地域の宗教・文化に寛大であったため、帝国内でそれらの文化・宗教が融合し(4)イラン独自の民族文化が成立するにいたった。宗教では、アケメネス朝以来の宗教以外にメソポタミア地方で、(5)諸宗教を融合した〔④〕教が生まれ、東は(6)中国、西は南フランス、北アフリカにまで伝播した。

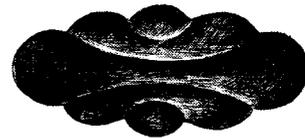
- (1) ギリシア文化からの離脱の例として1世紀後半、公式文書にある文字を使用するようになったが、その文字は何か。〔 〕文字
- (2) この宗教の経典は何か。〔 〕
また、この宗教は唐代の中国に流行して何と呼ばれたか。2つあげよ。
〔 〕〔 〕
- (3) ササン朝時代にこの国で信仰された諸地域の宗教にはどのようなものがあったか。3つあげよ。
〔 〕〔 〕〔 〕
- (4) イラン独自の文化のうち、とくにすばらしい作品が多いのは何の分野においてであったか。
〔 〕
- (5) この宗教の成立に影響を与えた宗教を3つあげよ。
〔 〕〔 〕〔 〕
- (6) 中国で④の宗教が流行したのは何王朝の時代か。〔 〕
また、これと同じ時代に中国で流行したネストリウス派のキリスト教は何と呼ばれたか。
〔 〕

-----ひとくちメモ-----

正倉院宝物の作者

飛鳥・奈良時代の宝物を集めた正倉院宝物がササン朝文化の影響をうけていることはいまや常識となっている。すでにとりあげた水瓶、右にある八曲長杯、白琉璃碗、獅子符文錦など例をあげればきりが無い。しかし、これらの美術工芸品の作者がだれであるかというとはっきりしない。一部には、ササン朝で作られ、ラクダの背に乗せられて絹の道を通り、はるばる日本まで運ばれた作品もあるといわれ、また7世紀のササン朝の滅亡によって大勢のペルシア人が長安に亡命して、中国の材料を使って完成させた美術工芸品が遣唐使を中継ぎにして、日本に運び込まれたともいわれる。松本清張は「ペルセポリスから飛鳥へ」という本の中で、飛鳥時代の日本にペルシア人が来ていて、彼らの宗教を伝え、作品を残していったという壮大な仮説を

唱えている。いずれにせよ、飛鳥・奈良時代の文化はササン朝の影響があり、絹の道の東の終着駅としての正倉院宝物の意義は変わらない。



テヘラン



正倉院
八曲長杯

1 (イラン古代文明) 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

イランでは〔① 〕大王病没後、その部下による〔② 〕朝の領土になっていたが、前3世紀半ばカスピ海東南域よりイラン系の(1)〔③ 〕王国が台頭し、(2)ギリシア勢力を東西に分裂させた。その後③の王国はローマと激しく戦い、その結果国力が衰え、同じイラン系の〔④ 〕朝によって〔⑤ 〕世紀の前半滅ぼされた。④の王朝は(3)ローマと抗争しつつ発展をとげ、(4)ゾロアスター教を国教としながらイラン民族国家体制の確立をはかった。その後、〔⑥ 〕世紀後半、中央アジアから侵入した(5)遊牧民族〔⑦ 〕によって一時期危機に陥るが、6世紀になって復興し、(6)〔⑧ 〕の時に全盛期をむかえた。また、文化的にはギリシア、インドなどの地域文化を取り入れたイラン独自の文化が発展をとげ、とくに(7)〔⑨ 〕の分野ですぐれた作品が多く残された。宗教の方面では、一つの宗教が国教化されたが、(8)その他の宗教も寛大にあつかわれたため、諸宗教が融合し、メソポタミア地方で(9)マニ教が成立した。

- (1)(a) この国の経済的基盤は何か。〔 〕
 (b) この国は中国で何と呼ばれたか。漢字2字で答えよ。〔 〕
 (c) この国の時代にさかんに使われた中央アジア経由の東西交易路は何か。〔 〕
- (2) これによって中央アジア方面に成立した王国は何か。〔 〕王国
- (3) ローマの軍人皇帝ヴァレリアヌスを破った第2代の王はだれか。〔 〕
- (4)(a) この宗教の経典は何か。〔 〕
 (b) また唐代の中国に伝播し、何と呼ばれたか、漢字2字で答えよ。〔 〕
- (5) この遊牧民族はその後④の王朝と中央アジアの遊牧民族のはさみうちにあつて滅びる。④の王朝と結んだこのトルコ系遊牧民族とは何か、漢字2字で答えよ。〔 〕
- (6)(a) この王が西方に進出しようとして戦った国はどこか。〔 〕
 (b) またこの王と戦った西方の国の皇帝はだれか。〔 〕
- (7)(a) これらの作品は東西の国に伝播し、遠く日本まで影響を及ぼした。何時代の日本の文化に影響を与えたのか。〔 〕時代
 (b) また次の中からこの影響をうけていないものを1つ選べ。〔 〕
 <語群> ㉞法隆寺の獅子狩文錦 ㉟正倉院の水瓶 ㊱平等院の鳳凰堂
 ㊲正倉院の白璃瑠碗 ㊳正倉院の八曲長杯
- (8) この結果④の王朝の西部地域で多くの信者を集めたキリスト教の一派を何というか。〔 〕派
- (9) マニ教について、100字程度で説明せよ。

しっかり答え合わせをしてから、次に進もう。

きょうは先史の世界からイランの古代文明までの確認テストを行う。まず重要用語のチェックから。
できなかったところに□などの印をつけて覚えるまでくりかえすこと。(解答は149ページ)

————— 重要用語チェック —————

1 (先史, オリент・地中海世界) 次の問いに答えよ。

※先史の世界

- (1) 現在最古の人類とされている猿人を何というか。〔 〕
 (2) 約70～40万年前に登場した直立猿人や北京原人等の総称は何か。〔 〕
 (3) 約20万年前に登場したネアンデルタール人等の総称は何か。〔 〕

※古代オリент

- (4) メソポタミア地方に最も早く文明を開いたのは何民族か。〔 〕
 (5) 小アジアにあって、世界で初めて鉄器を使用した民族は何か。〔 〕
 (6) ピラミッドが建設されたのはエジプトの何時代の事か。〔 〕
 (7) 地中海貿易に従事し、表音文字を使用した民族は何か。〔 〕
 (8) 前7世紀ごろ、初めてオリент世界を統一した国はどこか。〔 〕
 (9) 前6世紀半ばイランからおこりオリентを統一した国は何か。〔 〕

※ギリシア・ヘレニズム

- (10) クレタ文明とミケーネ・トロヤ文明の総称を何というか。〔 〕
 (11) ギリシア文明の基礎的な単位となった都市国家を何というか。〔 〕
 (12) アテネの民主政治全盛期の指導者はだれか。〔 〕
 (13) ギリシア文明を衰退させたスパルタとアテネの戦争は何か。〔 〕
 (14) 東方遠征によってギリシアとオリентを統一したのはだれか。〔 〕

※ローマ帝国と地中海世界

- (15) 地中海世界へ進出することになったカルタゴとの戦争は何か。〔 〕
 (16) 奴隷の労働力を使って大農園を経営する生産組織を何というか。〔 〕
 (17) 内乱の100年を終結させ、元首政を始めた人物はだれか。〔 〕
 (18) 自由のない小作人を使って大所領を経営する生産組織は何か。〔 〕
 (19) 帝国を再編し、専制君主政を始めた皇帝はだれか。〔 〕

※キリスト教の成立と発展

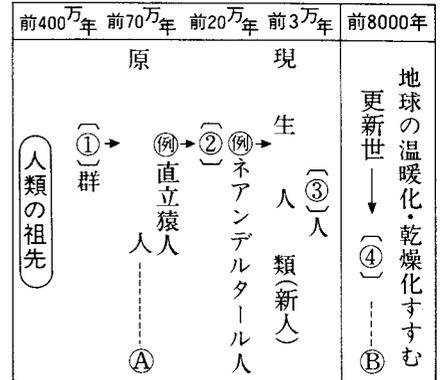
- (20) 形式主義を批判し愛の教えを説いたキリスト教の始祖はだれか。〔 〕
 (21) ミラノ勅令により、初めてキリスト教を公認した皇帝はだれか。〔 〕
 (22) 392年、他宗教を禁じキリスト教を国教とした皇帝はだれか。〔 〕

※イランの古代文明

- (23) カスピ海南東からおこり、前3世紀成立したイラン系国家は何か。〔 〕
 (24) 3世紀に成立し、イラン民族国家体制を確立した国家は何か。〔 〕
 (25) 「アヴェスター」を經典とするイランの二元論宗教は何か。〔 〕

3 (人類の祖先) 次の年表を見ながら、問いに答えよ。

- (1) ①は最古の人類とされているが、これは何か。 []
- (2) ②に適する語は何か。 []
- (3) ③の最古の現生人類は何か。 []
- (4) ④に適する語は何か。 []
- (5) ⑤に示した原人の中で北京近郊の周口店で骨が発見されたのは何か。 []
- (6) ⑥の環境変化は人類の生活にきわめて大きな変革をもたらすことになった。この時期にどのようなことが始まったか。 []



4 (古代オリエント) 次の () にあてはまる語句を書き入れよ。

年代	紀元前3000	2500	2000	1500	1000	500	
イラン		エラム王国				メディア	⑩ ()
アナトリア				③ ()		④ ()	
シリア				⑤ ()		⑧ ()	⑨ ()
メソポタミア	① ()		ウル第3王朝	⑥ ()	アラム		
パルティア			アッカド		ヘブライ	イスラエル	
エジプト		② ()	ヒクソス	中王国	⑦ ()	ユダ	サイス朝
							一 朝ペルシア

5 (ギリシア・ローマ・イラン) 次の問いに答えよ。

- (1) 前5世紀前半のギリシア・アケメネス朝間の戦争は何か。 []
- (2) 前431～前404年のアテネ・スパルタ間の戦争は何か。 []
- (3) ローマ最初の成文法、十二表法が制定されたのは何世紀か。 []
- (4) ポエニ戦争は何年から何年まで行われたか。 []
- (5) グラックス兄弟の改革が始まったのは何年からか。 []
- (6) 第1回三頭政治が始まったのは何年か。 []
- (7) 五賢帝時代とは何世紀の後半から何世紀の後半までか。 []
- (8) キリスト教を公認するミラノ勅令が出されたのは何年か。 []
- (9) アタナシウス派が正統とされたニケーアの公会議は何年に開催されたか。 []
- (10) 他宗教を禁止してキリスト教が国教化されたのは何年か。 []
- (11) ローマ帝国が東西に分裂したのは何年か。 []
- (12) ササン朝ペルシアがパルティアを破って成立したのは何年か。 []

ではテストを始めよう。わからないところは前の学習でもう一度復習してみよう。

1 次の(A)と(B)の文を読み、〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、あとの問いに答えよ。

(A) 人類はきわめて長い時間をかけて徐々に進化してきた。現在最古の人類と認められているのはアフリカで骨が発見されている〔① 〕群で、直立二足歩行し、簡単な石器を使う段階にあった。このあと更新世（洪積世）中期＝約70～40万年前になると(a)ピテカントロプス＝エレクトゥスや北京原人に代表される〔② 〕が登場してきた。彼らはすでに言語を使用していたと考えられている。さらに約20万年前になると、より進んだ石器を使ったり、屈葬の習慣をもつ〔③ 〕人に代表される旧人があらわれ、約4～1万年前になって、現在の人類と種を同じくする(b)クロマニオン人などの〔④ 〕が登場した。

(1) 下線(a)について、これが発見されたのはどこか。〔 〕

(2) 下線(b)について、下の問いに答えよ。

(イ) クロマニオン人が残したといわれる洞穴絵画のあるスペインの遺跡をあげよ。

〔 〕

(ロ) クロマニオン人についての記述で誤っているものを1つあげよ。〔 〕

- ㉞ 骨角器をすでに使用していて、槍・もり・釣針による狩猟・漁撈が行われていた。
- ㉟ 自然界に対する生産の呪術的作品として乳房・腰を強調する女性裸像が作られた。
- ㊱ 彩文土器や簡単な金属器を使用していた。

(B) 地質年代でいう更新世から〔⑤ 〕にかわるころ（前8000年ごろ）地球は温暖化・乾燥化の方向にむかい、それにともなって、西アジアで人類にとって最初の生産革命である(a)〔⑥ 〕・〔⑦ 〕が始まり(b)人類の生活は大きく変化した。

(1) 下線(a)について、使用した石器の種類の観点からみて、これが始まった時代を何と呼んでいるか。〔 〕

(2) 人類の生活はどのように変わったか、次の中から誤っている文を2つ選べ。

〔 〕・〔 〕

- ㉞ 麦などの穀物が栽培されるようになり、人類は定住生活の道歩んだ。
- ㉟ 山羊・羊・牛・豚などが飼育されるようになり、狩猟の必要性が大きく後退した。
- ㊱ 打製石器にかわって磨製石器が使われるようになった。
- ㊲ 青銅器による生活用具・武器が作られて、都市国家が形成された。
- ㊳ 簡単な土器や織物が作られるようになった。
- ㊴ 人類の移動が活発になって、アジア系人種がアメリカ大陸に移動した。
- ㊵ 身近にある材料を使って家屋が作られ、村落を形成するようになった。

(各1点、計13点)

2 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

大河の流域に発達した四大文明の中で、最も早く都市国家を形成したのはティグリス・ユーフラテス川流域の〔① 〕地方であった。前3500年ごろ、〔② 〕人がウルに代表される都市国家をつくり、(ア)青銅器・楔形文字・神殿などの文化遺産を残した。その後、(イ)アッカド人・アムル人・カッシート人・ヒッタイト人・フルリ人・アラム人・フェニキア人・ヘブライ人・アッシリア人・リディア人・メディア人・ペルシア人などによってこの両河流域地方及び周辺地域で諸国家が盛衰をくり返した。一方、〔③ 〕語族によって、ナイル川流域にはエジプト文明がやや遅れて成立し、(ウ)古王国・中王国・新王国と時代を変遷させていった。

このオリエント文明の影響を受け、エーゲ海の(エ)〔④ 〕文明が前2000年ごろから栄え、のちにギリシア本土の〔⑤ 〕などに先ギリシア文明を構成した。前10世紀ごろ、〔⑥ 〕という都市国家が成立し、これを単位に独自の文明がつくられた。アテネでは(オ)紆余曲折を経て民主政治が発展し、前5世紀前半にはペルシアの遠征軍を破る快挙をなした。しかし、前5世紀後半には混乱時代にはいり、(カ)都市国家相互の抗争が続いて衰退し、北方のマケドニアのフィリッポス2世によって征服された。その子〔⑦ 〕大王は東方遠征を行い、(キ)ペルシアを滅ぼして大帝国をつくり、ギリシア文化とオリエント文化を融合した(ク)ヘレニズム文化を生みだした。

- (1) 下線(ア)について、この地方の文化遺産でないものを下の語群より選べ。〔 〕
 〈語群〉 (a)多神教 (b)神聖文字 (c)ジググラト (d)六十進法 (e)太陰暦
- (2) 下線(イ)について、
- ㉠ これらの民族の中で明確にインド=ヨーロッパ語族とわかっているものを3つあげよ。
 〔 〕〔 〕〔 〕
 - ㉡ ヘブライ人の建国した国家が前928年2つに分裂するが、新バビロニア王国に滅亡させられ、「バビロン捕囚」させられた王国は何か。〔 〕
 - ㉢ シドン・ティルスを拠点に地中海貿易に進出して栄えた民族はどれか。〔 〕
 - ㉣ 世界で最初に鉄器を使用した民族はどれか。〔 〕
 - ㉤ 世界で最古の鑄造貨幣を使用した民族はどれか。〔 〕
 - ㉥ 前7世紀前半はじめて全オリエントを統一した民族はどれか。〔 〕
- (3) 下線(ウ)について、このうちヒクソスの侵入によって滅びたのはどれか。〔 〕
- (4) 下線(エ)について、ミノス王の宮殿の残るこの文明の中心地はどこか。〔 〕
- (5) 下線(オ)について、ギリシアにおける民主政治の発展の中で、選挙区を再編し、陶片追放制を実施した改革者はだれか。〔 〕
- (6) 下線(カ)について、この都市国家間の抗争の中で最大規模だったのが、前431～前404年のアテネ・スパルタの戦争であった。これは何か。〔 〕
- (7) 下線(キ)について、アケメネス朝ペルシアの最後の王はだれか。〔 〕
- (8) 下線(ク)について、
- ㉦ ヘレニズム文化の中心となったエジプトの都市は何か。〔 〕
 - ㉧ 下にあげた人名のうち、ヘレニズム時代には活躍しなかった人を2名あげよ。
 〔 〕〔 〕
- 〈語群〉 (a)アルキメデス (b)エラトステネス (c)ヘロドトス (d)アリストアルコス
 (e)ゼノン (f)エピクロス (g)ペイシストラトス (h)エウクレイデス
- (各1点、計24点)

3 下の説明文にもっとも関連の深い人名を〈語群A〉より、また書名を〈語群B〉より1つずつ選択せよ。

- (1) 労働の大切さを歌った詩集や天地創造以来のギリシアの神々の系譜を整理し、とくにゼウス神をたたえた著作を残した。
- (2) 善=光明神アフラ=マズダと悪=暗黒神アーリマンの対立を基調とする二元論の立場に立って、信者はアフラ=マズダ神の勝利のために尽くすことによるのみ救済への道が開かれるとした。火を聖なるものとする点にも特徴がある。
- (3) ポエニ戦争のころのローマの歴史を描きながら、政体循環論を唱えたギリシア人。
- (4) 五賢帝最後の皇帝であり、ストア派の立場に立って、自己の反省を書きつらねた著作を残した。
- (5) トロヤ戦争を題材にしたギリシア最古の大叙事詩を残し、のちにドイツ人シュリーマンによってトロヤ文明発見の礎となった。
- (6) ペロポネソス戦争の反戦劇を著したアテネの大喜劇作家。
- (7) 客観的・批判的立場に立って、ペロポネソス戦争を描いた。現代史記述の模範であり、科学的記述の祖として評価が高い。
- (8) アイデアが真の実在であり、現実はその影にすぎないとする理論を展開し、少数の哲人による政治形態を讃美し、民主政治を批判した。
- (9) パリサイ派の律法主義・形式主義を批判し、民族・階級・身分をこえた愛の教えを説いた。
- (10) 青年時代はマニ教徒であったが後に回心し、カトリック信仰の理論確立のために努力した。

〈語群A〉 (ア)アリストファネス (イ)ソクラテス (ウ)ゾロアスター (エ)アリストテレス
 (オ)アイスキュロス (カ)トゥキディデス (キ)リヴィウス (ク)プラトン
 (ケ)イエス (コ)アウグスティヌス (カ)マルクス=アウレリウス=アントニヌス
 (シ)ホメロス (ス)ヘシオドス (セ)タレース (ソ)ヘロドトス (タ)ポリビオス

〈語群B〉 (a)「ローマ史」 (b)「神の国」 (c)「ローマ建国史」 (d)「歴史」
 (e)「アヴェスター」 (f)「アガメムノン」 (g)「イリアス」 (h)「女の平和」
 (i)「語録」 (j)「自省録」 (k)「国家論」 (l)「ゲルマニア」
 (m)「幸福論」 (n)「新約聖書」 (o)「アエネイス」 (p)「対比列伝」
 (q)「博物誌」 (r)「労働と日々」

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
人名	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }
書名	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }

(各1点, 計20点)

4 次の史料を読んで問いに答えよ。

[ハンムラビ法典]

第195条 子はその父を打ったときは、その手を切られる。

第196条 他人の目をつぶした者は、その目をつぶされる。

第197条 他人の骨を折った者は、その骨を折られる。

第199条 他人の奴隸の目をつぶしたり骨を折ったりした者は、その奴隸の価の半分を支払えばそれでよい。

第205条 奴隸が自由人の頬をなぐれば、耳を切りとられる。

(原田慶吉訳「楔形文字法の研究」弘文堂)

〔十二表法〕

第8表第2条 もし(他人の)身体を傷害し、妥協が成立しないときは、同害報復刑を適用せよ。

第8表第3条 もし手または棍棒で骨を折ったとき、(被害者が)自由人の場合は300アス、奴隸の場合は150アス罰金を支払うものとせよ。

(佐藤進訳「資料世界史」東京法令)

- (1) 上記法典の中でアムル人がつくったのはどれか。 []
- (2) ①ローマ法は十二表法以後、貴族と平民の格差が解消され市民法が発達したが、その後の領土拡大による多民族包含の中でどのように変質をとげたか。50字以内で記述せよ。

②6世紀にはいり、十二表法以来のローマ法が大成される。(a)何という皇帝のときで、(b)実際に中心となって編集した法学者はだれで、(c)大成された法典の名称は何か。

(a) []

(b) []

(c) []

- (3) [ハンムラビ法典]の第195条から推測される家族関係について説明せよ。
- (4) [ハンムラビ法典]の第196条・第197条や〔十二表法〕の第8表第2条の共通点は何か説明せよ。
- (5) [ハンムラビ法典]の第199条・第205条や〔十二表法〕第8表第3条の共通点は何か説明せよ。
- (6) (3)における家族関係や(5)における社会身分関係によって構成され、古代オリエント社会の特色である国家体制を何というか。次の中から選び記号で答えよ。 []
- 〈語群〉 (a)民主国家 (b)軍国主義国家 (c)専制国家 (d)絶対主義国家 (e)全体主義国家
- ((1)1点, (2)①3点, ②各1点, (3)(4)(5)各3点, (6)1点, 計17点)

5 次の〔 〕にあてはまる語句を書き入れ、下線部の問いに答えよ。

紀元前12世紀ごろイタリア半島に南下してきたイタリア人の一派〔① 〕人がティベル河畔につくった都市国家がローマのルーツであり、前6世紀後半、先進支配民族の〔② 〕人の王を追放して独立し、貴族を中心とする共和政が始まった。その後、平民による身分格差解消闘争が行われ、前5世紀半ばに十二表法が、前4世紀前半に〔③ 〕法、前3世紀前半にホルテンシウス法が制定されて、貴族と平民の法的格差は解消された。その後、前〔④ 〕世紀前半から(1)カルタゴとの大戦争に突入し、その結果、ローマ社会は政治・社会・経済の多方面にわたる大変動がおきた。政治の分野ではこの変動は(2)三頭政治を経て、前1世紀後半の〔⑤ 〕の独裁で終結した。彼は(3)形式上共和政を尊重したが、実質的に独裁政であった。このあとしばらく平和な時代が続くが、3世紀にはいと(4)各地の軍隊が勝手に皇帝を廃立する時代にはいり、国政は乱れた。3世紀末に登場した。〔⑥ 〕帝は専制君主政をとって帝国を4分割して帝国の再興をはかった。また次の〔⑦ 〕帝は帝都を(5)遷都し、(6)秩序回復のための新しい政策も推進したが、(7)4世紀末ローマ帝国は東西に分裂し、(8)解体することになった。

- (1) カルタゴとの大戦争とは何か。〔 〕戦争
- (2) 第1回三頭政治のメンバーで、独裁者の地位に就いたが、のちに暗殺された「ガリア戦記」の著者はだれか。〔 〕
- (3) この政治形態を何と呼ぶか。〔 〕
- (4) (イ)この時代を何と呼ぶか。〔 〕時代
(ロ)またこの時代に、東方より侵入し、ローマを苦戦させた国家は何か。
〔 〕
- (5) 遷都した都市は皇帝の名にちなんで何という名称がつけられたか。
〔 〕
- (6) この意図をもって採用された皇帝の宗教政策について、下記の語句を使用して、90字程度で記述せよ。
〈語群〉 ニケーアの公会議 ミラノ勅令 313年 アタナシウス派
- (7) 東西分裂がおこしたのは何皇帝死去のあとか。〔 〕帝
- (8) ローマ帝国解体の原因について、コロナトゥスを中心に200字程度で説明せよ。

(①～⑦各1点、(1)～(5)各1点、(6)4点、(7)1点、(8)8点、計26点)

第1巻では、先史・古代オリエントと地中海世界について学習した。

付録の入試問題コーナーでは、実際の入試問題のうち、第1巻の学習範囲のものを集めた。確認テストの終わったあとで、または、ひとまとまりの学習が終わるごとに、入試問題にも挑戦してみよう。
(解答は151ページ)

1 (人類の進化と文明の発展) 次の文の①～⑮の空欄に入れるのに最も適当な語句を下記の語群の中から選び、その記号を記入せよ。

[駒沢 (法)]

地質学年代の〔①〕中期(約50万年前)になると脳容積が1000cc以上の〔②〕と呼ばれる人類が出現したが、直立猿人などがこれに属する。やがて氷河期が終わり、地質学年代の〔③〕に入ると、温暖になり〔④〕などの大型獣は消滅し、小型獣や魚介類が繁殖し食用に採集された。このころユーラシア北部では〔⑤〕と呼ばれる石器をつくるようになり、それを組み合わせて利用し、またそれを鏃にして弓矢を用いた。南部の草原地帯でも移動的な狩猟生活が営まれ、この時代を考古学的に〔⑥〕時代と呼ぶこともある。人類は採集経済から生産経済に移行し、食料生産としての〔⑦〕が始まったが、このことが文明の基礎となったのである。西アジアから東地中海地域では前7000年以前頃に他に先がけて〔⑧〕

の栽培が開始された。磨製石器とともに土器や織物も作り、イラク東北部の〔⑨〕遺跡などが新石器時代最古の遺跡として有名である。ヨーロッパの古代文明は前3000年代頃から西アジア文明の影響を受けて地中海東部に開始されたが、このエーゲ文明の遺跡は、19世紀なかば以降ドイツの〔⑩〕やイギリスの〔⑪〕などの考古学者の発掘によって明らかにされた。この文明の最初の中心地は〔⑫〕島であったが、ギリシア人の一部(アカイア人)は、前15～13世紀頃を最盛期とするティリンス遺跡などの〔⑬〕文明を出現させた。小アジアの〔⑭〕遺跡は先の〔⑩〕が発掘し、ホメロスの詩にあらわされた戦争の存在を証明した。先の〔⑬〕文明の滅亡後、前8世紀頃都市国家としての〔⑮〕が成立し、ギリシア文明はおおいに発展したが、一つの国家として統一されることはなかった。

<語群>

あ. 握斧 い. 野猪 う. 稲 え. エヴァンズ
お. 猿人 か. 完新世 き. キプロス く. 旧人
け. 旧石器 こ. クレタ さ. 原人 し. 更新世

す. 細石器 せ. 狩猟・遊牧 そ. 新人 た. 新生代
ち. 新石器 つ. ジャルモ て. シャンポリオン
と. シュリーマン な. 第三紀 に. 中石器
ぬ. ドーリア ね. トロヤ の. 農耕・牧畜
は. ポリス ひ. 磨製石斧 ふ. マンモス
へ. ミケーネ ほ. 麦 ま. ラコニア み. 礫器

2 (先史時代の人類) つぎの文章の空欄のなかに適切な語を入れよ。なお空欄中の同一番号は同じ語である。

[成城 (経)]

地球上の人類が〔①〕・原人・〔②〕
〕・新人の順に変化したことは疑いないことであるが、このような事実を証明する資料がそろうまで実に100年以上の年月がついやされた。現在知られているもっとも原始的な人類は、1924年R・ダートが東・南アフリカでその化石を発見した〔③〕
〕類で、彼らは〔④〕
〕を使用することで、類人猿より進化しており、〔①〕と呼ばれる。次に現われた原人類は、中国の〔⑥〕
〕やインドネシアの〔⑦〕
〕など、主として中期洪積世に出現した原始人類の総称である。〔⑥〕は猿人よりはるかに進んだいわゆるチョッパーに属する石器を造っただけでなく、最初に〔⑧〕
〕を作ることを知った人類と考えられている。ドイツのデュッセル河のほとりで発見された〔⑨〕

〕人は、原人と新人の中間型に属す〔②〕
〕である。洪積世最後の氷期から後氷期になると新人が出現したが、フランスで発見された〔⑩〕
〕人や、中国の周口店で発見された〔⑪〕
〕などの化石骨によると現代の人類とほとんど変わらない。彼らはほとんど全地球上の各地に分布し、採集や狩猟・漁撈のため、精巧な打製石器や、槍・鉞・釣針などの〔⑫〕
〕を使用していた。考古学ではこの時代を〔⑬〕
〕時代とよんでいる。生産の高まりにより、彼らは各種の装身具を造っただけでなく、中には、洞窟内の壁に動物画などを描く芸術活動を行ったものもあった。スペインの〔⑭〕

), フランスの〔15〕

〕などは特に有名である。

【ヒント】

①, ②は人類の進化の基本。③は類人猿と根本的にちがう点を考えてみよう。⑧は人間が他の動物と決定的にちがった点でとくに重要な発見。⑨はドイツのデュッセルドルフ近郊で発見されている。⑭, ⑮は原始芸術の創始期。

3 (古代オリエント文明の興亡) 次の文を読み, 文中の空欄①~⑩に対しては, 下の語群より適当な語句または, 数字をえらんでその記号を, また空欄(a)~(c)に対しては正しいと思われる語句を, それぞれ記入せよ。

[早大(社会)]

メソポタミア地方に最古の文明を築いたのは, ウル・〔①〕などの都市国家を建設したシュメル人であった。その後, 〔②〕語系の〔③〕人が勢力を得, サルゴン1世は最初の統一王朝をひらいた。前18世紀になると, バビロン第1王朝6代目の王ハンムラビが出現し, 統一支配を強化して最盛期をむかえた。その名を冠した法典は〔④〕を成文化したこと, 貴族・平民・奴隷の三身分を厳密に区分していることなどを特色としている。小アジアにおいては, 前18世紀頃〔④〕人が建国する。〔⑤〕語族が歴史の舞台にはじめて登場したのである。また彼等は〔⑥〕を最初に使用した民族として知られている。彼等はメソポタミアに侵入してバビロン第1王朝を滅ぼし, その後, シリア・エジプトにまで支配の手をのびして一時勢いを振った。

また, 長いあいだバビロンの支配下にあったアッシリアは, ティグラトピレセル1世によってバビロニアに打撃を与えた。その後しばらくアラム人の侵入によって不振であったが, すぐれた軍勢力によって四方を征討し, ティグラトピレセル3世から〔⑥〕にかけての時代, オリエント・エジプトを統一して最大の軍事国家を形成した。しかし被征服民の反抗によって, 前〔⑦〕年に滅亡し, その版図は, 〔⑧〕・新バビロニア・リディア・エジプトの4国に分裂した。メソポタミア地方は新バビロニアの支配に帰した。その王ネブカドネザルはユダ王国を征服し, その人民を強制移住させた。いわゆるバビロンの捕囚がそれである。前6世紀, 彼等を解放し, 故国への帰還を許したのは大帝国の建設者〔⑨〕2世であった。

一方, エクバタナを中心として次第に勢力を強めてきた〔⑨〕は, アッシリアの衰亡に乗じてニネヴェを収め, メソポタミア地方において, 新バビロニアと肩をならべ, 強勢を誇った。しかし, これらの国を滅ぼし, エーゲ海から〔⑩〕川におよぶ広大な地域を領有して, 古代世界空前の大帝国を建設したのは,

イラン高原からおこった〔⑩〕朝ペルシアであった。

〈語群〉

- (a)ギルガメシュ (b)ラメス (c)メディア
(d)ヒクソス (e)アッカド (f)ヤムナー
(g)ウルク (h)アラム (i)712
(j)アッシュル=バニパル (k)インド=ヨーロッパ
(l)カッシート (m)インダス (n)ササン
(o)アケメネス (p)612 (q)カルデア
(r)トラキア (s)セム (t)ハム
(u)アナトリア (v)ヒッタイト (w)512
(x)スサ (y)バクトリア (z)ガンジス

【ヒント】

②は言語系統の中で大別されているものである。⑤は古代オリエント世界には異なる語族である点に注意。⑧の4国分裂は当時の国際関係をみていくうえで重要な事項, ⑨も⑧と同じ国について聞いている。④は当時の考え「目には目を」が反映されている。⑥は青銅器文明にとって代わるべきもの。

4 (古代エジプト王朝の展開) 次の文を読み空欄①~⑩に最も適当な語または数字を記入せよ。また下線部(a)~(c)について下の問1~3に答えよ。

[西南学院(文)]

エジプトに(a)統一王国が生まれたのは紀元前3000年ごろである。エジプトは多神教の国で, 神々の数は2000もあったといわれる。その中で最も優位にあったのは〔①〕神ラーであり, 古王国のころから国王は〔①〕の子とよばれ, 神の子として君臨した。紀元前2700年ごろの第3王朝時代から第6王朝時代にかけて〔②〕が造られたが, これはもともと王の〔③〕の住居としての陵墓であり, 神殿であった。また, エジプト人は〔③〕の生命を信じ, 死体を〔④〕にして保存した。

今日, われわれが用いているアルファベットはもともとエジプトの絵文字から起こったらしい。シナイ半島南西に, 初期王朝時代にさかのぼる(b)エジプト王開発の鉱山があり, そこから発見された。〔⑤〕

〕文字が最も古いアルファベットといわれている。この文字がもとになって, 紀元前13世紀ごろ, 〔⑥〕人が22の子音文字からなるアルファベットを発明した。この文字はやがて西方に伝えられ, ギリシア人により, ギリシア・アルファベットが作られ, さらに発展して今日のラテン(ローマ)文字が生まれた。アルファベットはまた〔⑦〕

〕によって東方に伝えられた。

紀元前〔⑧〕世紀に, (c)アメンオフィス(アメンホテプ)4世が〔①〕神アトンを国家神とするという一神教改革を断行し, みずから〔⑨〕

〕と改名し、首都をテーベから〔⑩〕へ移した。あまりに極端な彼の改革は長続きせず、彼1代で終わった。

問1 下線部(a)の統一王国の最初の王はだれか。

〔 〕

問2 下線部(b)について古代エジプト王は一般に何とよばれているか。〔 〕

問3 下線部(c)の甥にあたる王の墓が1922年、テーベで発見された。この王はだれか。

〔 〕

【ヒント】

③は、用語の選択にまようかもしれないが、古代エジプト人の死生観、「死者の書」などを考えてみるとよい。④はエジプトの考古学的発掘でよく出土している。⑤はアルファベットの原型で、エジプトの象形文字から発達した表音文字。問3はあまりにも有名な考古学的発見である。

5 (アッシリア帝国の興亡史) 次の文を読み、文中の下線を引いた箇所について下の問いに答え、記号を記入せよ。

〔関西学院 (商)〕

(1)アッシリアは、(2)前2000年ごろ北メソポタミアにおこり、はじめ商業国家として栄えた。(3)その後アッシリアは一時ミタンニ王国に服属したが、やがて独立を回復し、(4)前12世紀ごろから、武力をたくわえて周囲を征服しはじめ、(5)メソポタミアからエジプトに及ぶオリエント世界全体を支配する大国家を建設するにいたった。しかしこの最初の世界帝国は、その苛酷な圧政のために服属民族の反抗をまねき、(6)新バビロニアと(7)メディアとの連合軍に滅ぼされ、オリエントはこれら二国に(8)エジプトと(9)リディアを加えた四国対立の時代にはいった。

(1) a この国をおこした民族は、次の①～③のうちどの語族に属するか。〔 〕

- ①インド=ヨーロッパ語族 ②セム語族
③ハム語族 ④系統不明

b この民族と同じ語族に属する民族を次の①～③のうちから選べ。〔 〕

- ①ヒッタイト人 ②ペルシア人
③アフガン人 ④ヘブライ人

(2) この時代に最も近いとおもわれるものを次の①～③のうちから選べ。〔 〕

- ①このころエジプトでは中王国時代にはいった。
②このころバビロニアでハムラビ法典が制定された。
③このころアッカド王サルゴン1世が地中海にいたる大帝國を築いた。
④このころヒクソスがエジプトに侵入し、征服王朝を開いた。

(3) これは何世紀のことか。〔 〕

- ①前16世紀 ②前15世紀 ③前14世紀
④前13世紀

(4) このころに関連する正しい文を次の①～③のうちから選べ。〔 〕

- ①このころからフェニキア人の貿易と植民活動は全地中海に及ぶようになった。
②このころエジプトはイクナートンの宗教改革により、いわゆるアマルナ時代を迎えた。
③このころヒッタイト人が小アジアに建国してバビロニアを滅ぼし、シリアに進出してエジプトと争った。
④このころヘブライ人がパレスティナに侵入を開始し、その一部はエジプトに移住した。

(5) これは何世紀のことか。〔 〕

- ①前9世紀 ②前8世紀 ③前7世紀
④前6世紀

(6) この王国に関連する出来事を次の①～③のうちから選べ。〔 〕

- ①ソロモンの栄華 ②バビロンの捕囚
③鉄器時代の開始 ④鑄造貨幣の発明

(7) この王国の首都がおかれたのはどこか。〔 〕

- ①エクバタナ ②バビロン ③サルデス
④ニネヴェ

(8) この王国はのちにペルシアに征服されたが、それはどのペルシア王のときか。〔 〕

- ①ダリウス1世 ②カンビセス2世
③キュロス2世 ④ダリウス3世

(9) この王国が建てられたところはどこか。〔 〕

- ①メソポタミア南部 ②メソポタミア北部
③イラン高原 ④小アジア

【ヒント】

(1)はアッシリアが言語系統でどれに属するかをみていく。非インド=ヨーロッパ語族。(2)ハンムラビ王の治世は前18世紀。(4)ヘブライ人がパレスティナに移動した時期は前16世紀ごろ。(7)はイラン高原に建国している点を考えてみよう。

6 (古代ギリシアの社会) 次の文章を読み、下記の設問に答えよ。

〔明治学院 (経)〕

紀元前1200年頃〔(1) 〕半島を南下して、先住アカイア人の〔(2) 〕文明を破壊した〔(3) 〕人は、約3世紀間の「暗黒時代」を経て紀元前9—8世紀頃に各地に都市国家を建設した。これらの都市国家は〔(4) 〕とも呼ばれ、建設期には多くの場合〔(5) 〕と呼ばれる丘に神殿が築かれ、①この周辺に多数の人々が農村から移り住んだ。

初期の都市国家においては、貴族が政治権力を握っていたが、やがて平民層が台頭して参政権を獲得し、民主政を実現していった。〔(6) 〕人の都市

国家アテネでは、紀元前6世紀にまず〔(7)

〕、次いで〔(8)

〕が政治改革者として登場して民主政実現に貢献し、さらに紀元前5世紀の政治家〔(9)

〕の指導のもとで民主政が絶頂期を迎えた。民主政の担い手としての平民の多くは、②平時には経済活動に従事し、③戦時には自弁で武装して都市国家の防衛に大きな役割を果たした。このような平民の武装能力およびそれを支える④経済的な富の所有が、市民共同体としての都市国家の民主政の基礎をなしていた。しかし、都市国家における政治的、経済的平等は市民のみに限られ、市民権をもたない多数の自由民および⑤不自由民が都市国家に従属していた。

問1 上の空欄に適切な語句をカタカナで記入せよ。

問2 下線を施した部分について、下記の設問に答えよ。

① (a) 農村からの移動は一般に何といわれるか。

〔 〕

(b) 農村から移り住んだ人々は、主にいかなる身分の人々であったか。〔 〕

② 平民の経済活動は、主に何であったか。

〔 〕

③ 武装した平民は、一般に何といわれるか。

〔 〕

④ 平民が所有していた財産のうちで、最も重要なものはいかなる名称で呼ばれるか。

〔 〕

⑤ 都市国家スパルタにおける不自由身分の名称を、カタカナで記せ。〔 〕

【ヒント】

(1)はギリシアの半島としては最大のものである。(2)はシュリーマンの発掘ということから考えてみよう。(5)とともにアゴラ(広場)も都市国家を構成している要素。(7)はアテネにおける政治改革者として有名な人物。問2①の(a)は、集住ともいっている。⑤はスパルタにおける被征服先住民。

7 (ギリシアにおける戦争) 次の文章を読んで下記の設問に答えよ。

〔上智(文)〕

525 B. C. にオリエントを統一したペルシアは、ついでギリシアに遠征して来た。数次にわたるペルシア軍の遠征は①②、サラミスの海戦③④によるギリシア軍の勝利によって、失敗に終わった。戦後対ペルシア海

事同盟⑤を結んで、その盟主となったアテネは、最盛期を迎えた⑥⑦。しかしアテネの同盟都市に対する支配が横暴になったために、これに不満を持つ市も多くなり、431 B. C. にギリシアを二分する戦争⑧⑨が起こった。戦争は27年間続き、スパルタ⑩の勝利に終わった。

〈設問〉 ①～⑩の間に、下記の語群から適当なものを答として選び記号を記入せよ。

① この戦争を何と呼ぶか。〈A群〉 〔 〕

② この戦争の歴史を書いた古代ギリシアの歴史家はだれか。〈B群〉 〔 〕

③ この海戦の際、アテネの指揮者として活躍した人はだれか。〈B群〉 〔 〕

④ この時遠征してきたペルシア王はだれか。〈B群〉 〔 〕

⑤ この同盟を何と呼ぶか。〈C群〉 〔 〕

⑥ アテネの最盛期で最も有名な政治家はだれか。〈B群〉 〔 〕

⑦ この時代のアテネの政体はどのようなものであったか。〈D群〉 〔 〕

⑧ この戦争を何と呼ぶか。〈A群〉 〔 〕

⑨ この戦争の歴史を書いた古代ギリシアの歴史家はだれか。〈B群〉 〔 〕

⑩ スパルタを盟主とした同盟を何と呼ぶか。〈C群〉 〔 〕

〈A群〉

- (a)コリント戦争 (b)メッセニア戦争
(c)ペロポネソス戦争 (d)ペルシア戦争
(e)ポエニ戦争

〈B群〉

- (a)ヘロドトス (b)ペリクレス
(c)テミстокレス (d)ツキジデス
(e)クセルクセス

〈C群〉

- (a)アカイア同盟 (b)アイオリス同盟
(c)デロス同盟 (d)コリント同盟
(e)ペロポネソス同盟

〈D群〉

- (a)元老院政治 (b)寡頭政治 (c)貴族政治
(d)民主政治 (e)僭主政治

【ヒント】

②は「歴史の父」と呼ばれている人物。③はアテネの外港ピレウスをつくり、海軍も創設している。④はダレイオス(ダリウス)1世の子で、サラミスの海戦で敗れている。⑥はデロス同盟の資金を流用してパルテノン神殿を飾っている。⑩は陸軍を中心としたもので、反アテネのペルシアの支援をうけた。

8 (古代ギリシアの歴史) 次の設問に答えよ。

[立命(文) 改題]

(1) 次の短文のうちソロンの改革に該当するのはどれか。記号で答えよ。 []

㉠ 身体を抵当にとって金を貸すことを禁じ、土地再配分を断行した。

㉡ 血縁的な4部族制を廃止し、アテネを10行政区にわけた。

㉢ 刑罰をきわめて厳しいものにした。

㉣ 財産所有高によって市民の軍役負担と参政権の程度をさだめた。

㉤ 貴族と平民の通婚を禁止した。

(2) クレステネスの改革のうち独裁的支配者の出現を阻止しようとしてつくられた制度をなんというか。 []

(3) サラムスの海戦におけるアテネの指導者はだれか。 []

(4) ギリシア最大の叙事詩人ホメロスがトロヤ戦争を主題としてうたった詩の名称をあげよ。 []

(5) 次の人名のうちから抒情詩人を二人選び、記号で答えよ。

㉠ソフォクレス ㉡ホラティウス ㉢ペンダロス
㉣エウリピデス ㉤サッフォー [] []

(6) 次の言葉のうちソクラテスの教えを最もよく示すものを一つ選び、記号で答えよ。 []

㉠汝の欲するところをなせ。

㉡万物は流転する。

㉢万物の根源にはアイデアがある。

㉣汝自らを知れ。

㉤人生最高の徳は、精神の平静・快樂にある。

(7) スパルタの被征服民で国有奴隷のことをなんというか。 []

(8) 前338年アテネ・テーベ連合軍はマケドニア王に屈服した。このときの戦いはなんというか。 []

【ヒント】

(1)は中小農民の救済が主たる目的。(2)はやがて悪用され、政敵を追放する手段として使われた。(6)は無知の知ということもいっている。(8)この戦いの勝利でマケドニアはギリシアに覇権を確立している。

9 (ギリシア世界の展開) 次の文章を読んで下線部の問いに答えよ。

[共通一次]

ギリシア世界を二分した戦争が終結して約半世紀の後、北方のマケドニアでは、フィリッポス2世の勢力が増大していた。彼は若年のころに学んだ新しい戦術をもとに軍隊を強化し、(1)東と南に向けて勢力を伸張したが、征服の力点はギリシアに置かれていた。このフィリッポスの動きに対して、(2)反マケドニア運動が起こり、親・反マケドニア両派は激しく対立した。最終的には(3)ギリシア側の連合軍は敗退し、フィリッポスは全ギリシアを支配下に置いた。次いで、彼はペルシア遠征を企てたが、その実現を見ないうちに暗殺された。後継いだアレクサンドロスは、ペルシア王の軍隊を前331年に最終的に破った。翌年、ペルシア王は暗殺され、帝国は滅亡した。アレクサンドロス以後ギリシア世界は、いわゆる(4)ヘレニズム時代を迎えた。

問1 下線部(1)について、当時マケドニアの東に隣接していたのは、次の①～④のうちのどれか。

①イリリア ②トラキア []

③テッサリア ④エトルリア

問2 下線部(2)について、この運動の指導的人物を、次の①～④のうちから一人選べ。 []

①デモクリトス ②アリストファネス

③デモステネス ④アイスキュロス

問3 下線部(3)について、連合軍とはどのポリスの連合軍か。次の①～⑤のうちから一つ選べ。 []

①アテネとスパルタ ②スパルタとコリント

③アテネとコリント ④アテネとテーベ

⑤スパルタとテーベ

問4 下線部(4)について、この時代に関する次の①～④のうち、正しくないものを一つ選べ。 []

①アルキメデスなどによる自然科学的な研究が盛んであった。

②ポリスの制約を離れて、個人主義と同時に世界市民主義の傾向が強くなった。

③経済・文化の面では、最大の繁栄を誇ったのは、エジプトのアレキサンドリアであった。

④このヘレニズム時代は、約200年間続いた。

【ヒント】

問1は現在のブルガリア方面ギリシアの北方ということを考えてみよう。問2は前384～前322のアテネの政治家。彼の主導によって問3の連合軍が結成されたが、前338年のカイロネアの戦いでマケドニアに敗れた。問4の④ヘレニズム時代は、アレクサンドロスの東征(前344)からプトレマイオス朝の滅亡(前30)までをさす。

10 (共和政期ローマの歴史) 次の文の①～⑩に入れるのに最も適当な語句を下記語群の中から選び、その記号を記入せよ。

〔関西(法)〕

紀元前〔①〕世紀の中頃、ラテン人がティベル川のほとりにたてた都市国家がローマである。ローマははじめ〔②〕を布いていたが、紀元前〔③〕世紀末ごろから〔④〕人の支配者を追放して共和政を樹立した。しかしこの共和政は貴族的な共和政であり、最高権は、貴族出身の二人の〔⑤〕がにぎり、非常の場合には、その中の一人が〔⑥〕となって全権をにぎることとなっていた。また貴族出身者が構成する元老院が強い権力を持っていた。このような貴族的共和政を不満とした平民は抵抗して、〔⑦〕制や平民会の組織に成功し、さらに成文法を要求して〔⑧〕法の制定をかちとり、つづいて、〔⑨〕法によって、〔⑤〕の中の一人は必ず平民から選ばれること、また〔⑩〕法によって、平民会の議決は、元老院の承認がなくても法として有効であることが認められるようになった。

<語群>

- (ア)貴族政 (イ)プリンケプス (ウ)ギリシア
 (エ)コンスル (オ)オストラシズム (カ)5 (キ)6
 (ク)7 (ケ)8 (コ)9 (ク)インペラトール
 (シ)エトルリア (ス)王政 (セ)サムニウム
 (ソ)ホルテンシウス (タ)護民官 (チ)ディクタートル
 (ツ)十二表 (テ)立法官 (ト)ドラコン
 (ナ)ティベリウス (ニ)リキニウス=セクスティウス
 (ヌ)セルヴィウス (ネ)リュクルゴス (ノ)民主政

【ヒント】

③はアテネでクレステネスの改革が実施されている時期、初期の王政を廃止している。⑧ローマ共和政の歴史は平民の貴族に対する権利獲得の歴史、ローマ法の出発点。⑨も一連の成文法の展開のなかでみていこう。⑩は平民の地位向上が目的となっている。

11 (ローマ古代史) 次のA～Iの文章は、いずれも古代ローマの歴史に関するものである。それらを読んであとの問いに答えよ。

〔国学院(文)〕

- A 前6世紀ごろローマ人は、先住民である〔(1)〕人の王を追放して共和政を樹立した。
 B 平民は戦争で功績をあげ、〔(2)〕に従事して富裕化すると、参政権を要求して貴族と争った。
 C 前287年には〔(3)〕法が制定され、平民の法的平等化は達成された。
 D 半島を征服したローマ人は、交易で栄えた〔(4)〕と地中海の覇権をめぐる争った。
 E 閥族や〔(5)〕階級は、大量に供給された奴隷を使って〔(6)〕を発展させた。
 F 自由農民は〔(6)〕の発展と〔(7)〕からの安価な穀物の輸入に対抗できずに没落した。
 G 前1世紀に半島内の〔(8)〕は、結束して反乱をおこした。
 H ローマ領内の混乱收拾を名目に、共和政を無視した〔(9)〕が初めて出現した。
 I プトレマイオス王朝のエジプトは滅ぼされ、〔(10)〕世界はローマによって統一された。
 問1 空欄(1)～(10)に当てはまる適切な語を、次の(ア)～(ト)の中から1つずつ選べ。

<語群>

- (ア)属州 (イ)カルタゴ (ウ)サムニウム人
 (エ)ヘレニズム (オ)エトルリア (カ)パルティア
 (キ)ラティフンディウム (ク)商工業 (ケ)土木事業
 (コ)騎士 (ク)三頭政治 (シ)独裁政治 (ス)ギリシア
 (セ)ホルテンシウス (ソ)リキニウス
 (タ)マケドニア (チ)コロヌス (ツ)植民市
 (テ)同盟市 (ト)自治市

問2 次の(1)～(5)の人名に最も関係深い文章を、上のA～Iの文章の中から1つずつ選べ。

- (1)ハンニバル〔 〕 (2)オクタヴィアヌス〔 〕
 (3)グラックス兄弟〔 〕 (4)スラ〔 〕
 (5)カエサル〔 〕

問3 上の文章(G)について、反乱をおこした側から要求されたものを7字以内で答えよ。

〔 〕

【ヒント】

問2(1)のハンニバルはカルタゴの将軍。(2)のオクタヴィアヌスは、ローマ帝国の初代皇帝。在位前27～後14まで。(3)と第1回三頭政治の指導者クラッスと混同しない様に、グラックス兄弟は、大土地所有の制限等内政面の改革を実施している。(4)スラは閥族派の巨頭で同盟市の反乱を鎮定した。

12 (共和政ローマの崩壊) ローマ共和政末期の三頭政治について、次の質問に答えよ。

[慶応(文)]

- (1) 第1回三頭政治結成の年はいつか。 []
- (2) 第2回三頭政治のメンバー三人の名をあげよ。 [] [] []
- (3) 三頭政治と対立したローマ古来の最高立法府は何か答えよ。 []
- (4) ローマに対する単独支配権を確立させた紀元前31年の決戦の名は何か。 []
- (5) 第1回三頭政治のメンバー三人の名をあげよ。 [] [] []
- (6) 当時活躍したローマ最大の散文家・雄弁家の名をあげよ。 []
- (7) 第1回三頭政治時代に征服された西ヨーロッパの代表的住民の民族名をあげよ。 []
- (8) また、その征服の主要な対象となった地方名をあげよ。 []

【ヒント】

(1)~(8)までは「ガリア戦記」の著者でもある人物の動向を中心にみていこう。

13 (世界帝国ローマの変遷) 次の設問に答えよ。

[関西学院(神文) 改題]

- (1) アウグストゥス帝について、次の①~④の文のうち誤りを含んでいるものを選び。 []
① 彼は帝政を樹立したが、共和政の形式を尊重し、プリンケプスすなわち第一の市民として政治をおこなった。
② 彼は帝国内の治安良好な属州を元老院の管轄にゆだね、イタリアやエジプトのごとき重要な属州は自ら統治した。
③ 彼はトイトブルグ森の戦いのあと、帝国の国境を北部ではほぼライン・ドナウ両川とした。
- (2) 皇帝ネロの治世と関係の深い人物を次の①~④のうちから1名選べ。 []
①パウロ ②プルタルコス ③ストラボン
④タキトゥス
- (3) アウグストゥスの死後トラヤヌス帝のときまでに、新たにローマ属州となったところは次の①~④のうちどこか。 []
①ガリア ②ヒスパニア ③ブリタニア
④サルディニア(サルデーニャ)

- (4) トラヤヌス帝の治世前後にインドで栄えていた王朝は次の①~④のうちどれか。 []
①マウリヤ朝 ②サータヴァーハナ朝
③グプタ朝 ④ヴァルダナ朝
- (5) トラヤヌス帝の治世前期に帝国内に多数の都市が成立しているが、これに該当する都市を次の①~④のうちから選べ。 []
①マルセイユ ②ウィーン
③アレクサンドリア ④マドリッド
- (6) マルクス=アウレリウス=アントニヌスについて正しいものを①~④の中から選べ。 []
① ストア派の哲学者でもあり、セネカに師事し、「自省録」を著した。
② 後漢の桓帝のとき大秦王安敦の使節が入貢したと伝えられるが、これはこの皇帝を指している。
③ 帝国内のすべての自由民にローマ市民権を与え、イタリアと属州の地位を同等にした。
- (7) 3世紀後半、ローマ帝国が弱体化し対外的危機に直面していくのは次の①~④のうちどれか。 []
①パルティア王国の発展 ②フン族の西進
③ゲルマン民族の大移動開始
④ササン朝ペルシアの侵入
- (8) ディオクレティアヌス帝の治績について、次の①~④のうち誤りを含んでいるものを選び。 []
① 彼は帝国を四分して二人の正帝と二人の副帝で統治することとし、自らは正帝として西方の統治に当たった。
② 彼は東方的な専制君主政治にならって皇帝の絶対的政治を打ち立てた。
③ 彼は皇帝崇拜を強制し、帝国の伝統を守る立場からキリスト教徒を迫害した。
- (9) コンスタンティヌス帝の治績について、次の①~④のうち誤りを含んでいるものを選び。 []
① 彼は帝国維持のために東洋風の官僚制度を確立し、また人民の職業選択の自由を制限した。
② 彼は帝国統一の必要からニケーア宗教会議後、正統のキリスト教を国教とし、他の宗教を禁止した。
③ 彼は帝国内における東方の重要性を認めて、ビザンティウムに新しく首都を営んだ。
- (10) テオドシウス帝の死後、ローマ帝国は二分されたが、これは何年のことか。 []
①375年 ②380年 ③392年 ④395年

【ヒント】

五賢帝時代がローマ帝国の全盛期である。(6)の場合ストア哲学者だが、師事した人物を再度考えてみよう。(7)はローマ帝国滅亡という時期ではない。そのあたりを考えてみよう。(8)はローマ帝国の存続ということで政策が実施された。

教育社

TRAINING PAPER

DAILY PROGRAM

高校／世界史

発行人 加藤 譲

発行所 株式会社 キョーイクソフト
Printed in Japan